

290.38-1717
1200500732735

290.38
71
7



始



2374
2

290.38
I.71

現代世界解說地圖

文學博士 后橋五郎

朝日新聞社刊



例言

現在我が國には既に二三の世界解説地圖が発行せられてゐる。併しこれ等は皆英米書の翻譯で、その内容が英米本位であるため、我が國に關する描寫は極めて少く、また誤謬や僻見が多い。これに對し本書は編纂の中心を我が國に置き、我が國本位の世界地理を説いたもので、日本の世界解説地圖を目標としてゐる。

一 本書は世界の地理的事象を大觀的に會得せしむることを主眼とし、従つて地圖も多くは大勢圖となした。但し我が國に特別關係ある地域はやゝ精密に描寫した。解説は獨り現代の事象を闡明せるほか、根本的要素の示唆にも及んでゐる。

一 本解説地圖の構成は前後二部より成り、前半部は世界の地方誌であつて、各地域の特殊性を描くを主とし、後半部は世界の通説であつて、世界を一括して各事項の總説を試みたものである。

一 現代殊に最近數年間は、世界の事象が甚しく變轉しつゝあるもので、本書所載の諸事項は大體第二次歐洲戰爭開始直前の状態を本位とし、これにその後起つた諸種の變化を出来るだけ採録した。殊に東亞に關しては大東亞戰爭と共に形勢激變したので、これに順應する新事實を加へた。尤も我が國內に關する政治經濟の描寫は時局上の理由により最新の描寫は許されず、凡て大東亞戰爭以前の事實に據つた。これ等は東亞戰爭以後非常なる變化をなせしことは勿論である。

一 本書所用の統計は上述の理由により、地方誌に於ては新舊區々たるも、世界的記述に於ては大體一九三八年乃至一九四〇年の計數に據つた。我が國の統計は大體昭和十二三年度である。

一 地圖の生命は地名にあるのに、邦人の外國地名に對する關心が甚だ薄く、外國地名が誤讀せられたまふ、新聞紙上やラジオによつて傳へられてゐる。この誤讀は主として地名の文字による當讀みから來るので、この場合ローマ字風の讀方、普通名詞の發音法によることが禍をなしてゐる。例へばポルトモレスビーの如きニューヘブライズの如きがそれである。而して本書所載の外國地名は出来るだけ現地の正音に據つた。但し我が占領地の呼び方は概ね軍の用例に従ひ、既に改名せしものは公定假定の新名を併せ採用した。

一 本書の原稿は既に昭和十六年夏完成し、梓行に着手したのであるが、製版遅々として進まざりし中に大東亞戰爭の勃發となり、世界殊に東亞の狀態に大變化を來したので、原稿に大修正を加へ、圖版も出来るだけ改訂した。併し既に製版済のものあり、従つて各圖が必ずしも統一してゐないのを諒とせられたい。また最近の製版は資材の關係上、若干不明瞭のものあるのは、著者の甚だ遺憾とするところである。

目次

着色地圖 世界政治區劃圖(現大戰直前)
序 圖 大東亞戰爭地圖
123.....圖
(一三三)解版

- 一、世界諸國面積人口比較圖
- 1 世界諸國の面積と人口
- 二、世界列強資源比較圖
- 2 持てる國持たざる國
- 三、世界政治危地分布圖
- 3 世界の政治危地
- 四、世界諸國と我國との關係
- 4 世界諸國と我が國との關係
- 五、大日本帝國の發展
- 5 大日本帝國の發展
- 六、大日本帝國領土圖
- 6 我が國の領土
- 七、種族分布圖、内地道府縣別人口密度圖、臺灣州別人口密度圖、朝鮮地方道別人口密度圖
- 7 帝國の種族と人口
- 八、大日本帝國の軍備
- 8 帝國の軍備
- 九、帝國産業種別地圖
- 9 我が國産業の概觀
- 一〇、米産額分布圖、豆類、麥類、帝國地方別水産高、漁獲物、世界漁獲物數、主要畜産物頭數表、林産
- 10 我が國の原始産業
- 内地探掘礦區分布圖、帝國天然資源供給比較、内地工業の發達、内地工業(類別)、工業(内

地方別)、世界生絲産額、世界人絹・人織絲産額

- 11 我が國の鑛工業
- 一二、通信省命令航路圖、帝國船舶數、積量別船舶數
- 12 我が國の海運
- 一三、帝國定期航空略圖
- 13 我が國の航空路
- 一四、無線電信局及海底電線、列國電信發送數、列國電話機臺數
- 14 我が國の電信・電話
- 一五、對外貿易國別圖、貿易品類別百分比、帝國貿易額表、内地貿易額發展表
- 15 帝國の貿易
- 一六、東亞共榮圈內諸國圖、アジア洲南東部地形圖
- 16 大東亞共榮圈
- 一七、滿洲國政治地圖、滿洲國鐵道圖、滿洲主要鐵道延長比較
- 17 滿洲國の成立と政治、滿洲國の鐵道
- 一八、滿洲國人口密度圖、滿洲國に於ける集團開拓民分布圖、主要都市人口比較表
- 18 滿洲國の人口、滿洲の集團開拓民
- 一九、滿洲國物産圖、滿洲國の外國貿易(康德六年昭和十四年)滿洲國穀物産額
- 19 滿洲國の産業
- 二〇、支那政治區劃圖
- 20 支那の政治區劃
- 二一、新支那と皇軍占據區域、支那本部交通圖
- 21 皇軍占據地と新支那、支那の交通と鐵道

- 二二、支那本部人口密度圖、支那各部面積比較、支那人人口、支那言語分布圖、世界に於ける支那人(華僑)分布圖、在支邦人
- 22 支那の人口、華僑の分布、支那の言語
- 二三、支那の農業區(一)支那の農業區(二)支那米産地圖
- 23 支那の農業區
- 二四、支那鑛物分布圖、支那工業分布圖、鑛産額表、工業物輸出額
- 24 支那の鑛業、支那の工業
- 二五、山東省物産地圖、北支政治經濟略圖、上海市街、揚子江の水路
- 25 北支の重要性、中支・揚子江と上海
- 二六、廣東・香港・澳門附近地圖、香港市街、香港の位置、廣東市街、海南島
- 26 南支の重點
- 二七、佛領インド支那及タイ國政治圖、佛領インド支那及タイ國産業圖
- 27 佛領インド支那とタイ國
- 二八、マレー半島、皇軍マレー半島攻略圖、昭南港附近圖、昭南島、滇緬公路、ビルマ産業圖
- 28 舊英領マレーとビルマ
- 二九、マライ諸島區劃圖
- 29、マライ諸島の政治區劃
- 三〇、スマトラ・ボルネオ・セレベス物産地圖、ジャワ島主要農産地域圖
- 30 舊蘭領東インド(東インド諸島)
- 三一、フィリッピン群島、フィリッピン聯邦物産圖、マニラ附近、ダヴァオ附近、フィリッピンと合衆國、比島在住外人
- 31 フィリッピン群島
- 三二、東亞共榮圈諸國の貿易額比較
- 32 東亞共榮圈内の貿易

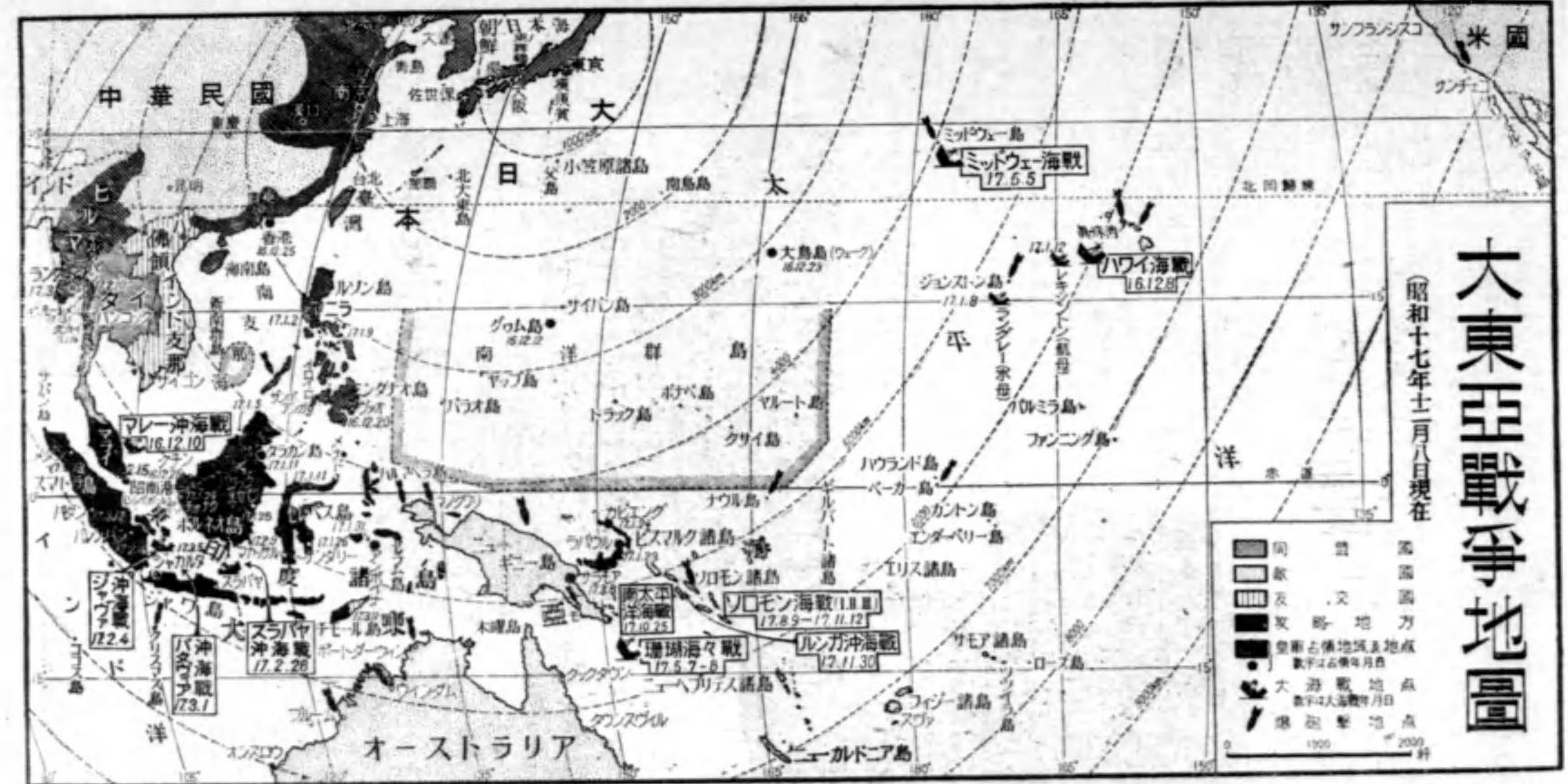
- 三三、ソヴェット共和國聯邦政治區劃圖
- 33 ソ聯邦と政治區劃
- 三四、シベリア産業交通地圖、南シベリア新工業地帯、シベリア東岸地方漁業圖、北樺太油田田圖
- 34 シベリアの産業
- 三五、インド政治地圖、インド鑛産地圖、インド農産地圖、インド宗教分布圖、主要輸出入品、インド對外貿易表、セイロン島
- 35 インドの民族・政治・産業
- 三六、南西アジアの政治上の位置、イラン地方地形圖、アフガニスタン・イラン・イラク産業地圖、イラク地方
- 36 西南アジアの政治と産業
- 三七、トルコ略圖、シリア諸國、アラビ半島地勢と政治
- 37 トルコ・シリア諸國・アラビア
- 三八、アジア諸國と列強の勢力、アジアに於ける白人の領土と人口、第9世紀におけるアラビア帝國の版圖、第13世紀末の蒙古帝國の版圖
- 38 アジア諸國と列強の勢力
- 三九、オセアニア洲區劃圖
- 39 オセアニア洲(大洋洲)の小史とその區劃
- 四〇、オーストラリア及ニュージラランド政治人口地圖、オーストラリア産業圖、オーストラリア開發地圖、オーストラリア主要輸出入品、オーストラリア國別貿易
- 40 オーストラリアの概觀
- 四一、太平洋交通地圖
- 41 太平洋の交通
- 四二、太平洋軍備地圖
- 42 太平洋の軍備
- 四三、我が南洋群島附近、南洋群島の土人と内鮮人

- との割合、南洋群島の生産、ビスマート諸島、ナウル島、オーストン島、タラワ島
- 43 我が南洋群島附近
- 44 南北アメリカ洲の政治態勢、南北アメリカ洲の言語分布
- 45 アメリカ合衆國領土圖、ハワイ諸島、ホノルル及バールハーバー、ツツイラ島とバゴバゴ港、ミッドウェー島、ウエーク島、グワム島
- 46 アラスカとアリューシャン、カナダ
- 47 アメリカ合衆國州別地圖、アメリカ合衆國人口密度圖、アメリカ合衆國內日本人の分布、アメリカ合衆國ネグロの分布、アメリカ合衆國人口構成
- 48 米國の州制と人口状態
- 49 米國の農産物地帯圖、合衆國炭田及鐵礦分布圖、合衆國の油田と送油管、合衆國工業地域圖
- 50 米國の産業分布と人文の地方的色彩
- 51 アメリカ合衆國貿易地圖
- 52 メキシコ及中央アメリカ諸國産業地圖
- 53 メキシコ及中米諸國の産業、パナマ運河
- 54 カリブ海地方政治地圖
- 55 カリブ海地方政治地圖
- 56 南米の人種分布及人口密度
- 57 南アメリカ洲區劃圖、南アメリカ洲自然地理

- 區、ブラジル産業圖、サンパウロ日本人分布圖、ブラジル貿易、ブラジル移民入國數、ベール地形圖
- 53 南米の區劃と自然、ブラジルとベール
- 54 アルゼンチン生業分圖、アルゼンチン主要輸出入品、アルゼンチン國別貿易表、チリ産業圖、チリ雨量圖
- 55 大西洲政治地圖
- 56 大西洋政治地圖
- 57 ヨーロッパ諸國種族分布圖
- 58 近代ヨーロッパ諸國國境變遷圖
- 59 近代歐洲諸國の國境變遷
- 60 ヨーロッパ諸國現勢圖(一九四二年一〇月現在)
- 61 歐洲現勢圖
- 62 イギリス軍備地圖、イギリス工業地圖、主要工業
- 63 英國の産業及軍備
- 64 イギリス海外領土圖、イギリス帝國の面積、人口、イギリス全帝國人口構成、イギリス貿易品表、イギリス國別貿易表
- 65 英國の領土と住民、英國の貿易
- 66 フランス産業圖、フランス海外領土圖、現大戰フランス國境戰地圖
- 67 フランスの産業、現歐洲大戰とフランス
- 68 ドイツ地形圖、ドイツ鐵產分布圖、ドイツの人口、ドイツ人の職業構成、獨逸領土產圖、ドイツ輕工業分布圖
- 69 ドイツの地形と産業、ドイツの人口とその構成
- 70 ドイツと世界諸國との關係

- 63 ドイツ人とその分布、ドイツ領土の變遷と世界的關係
- 64 スカンヂナヴィア半島主要農産地域圖、デンマーク略圖、現大戰ドイツ北歐攻略地圖、オランダ地形圖、ベルギーの工業
- 65 スカンヂナヴィア諸國・オランダ・ベルギー
- 66 ロシア領域變遷圖(フィンランドを含む)
- 67 ロシア領域の變遷と海への出口
- 68 ヨーロッパ諸國政治區劃圖、ロシアの鐵工業、ソ聯邦の構成、ソ聯邦貿易品表、ソ聯邦國別貿易表、獨逸戰線
- 69 ヨーロッパ諸國の政治區劃、ヨーロッパの産業、獨逸戰線
- 70 バルカン半島民族分布圖、バルカン現大戰前の國境、バルカン第一大戦前の國境、ルーマニアの領土縮小、舊ルーマニア産業圖
- 71 バルカン半島、ルーマニア
- 72 バルカン諸國、スイスとアルプスの交通、バルカン半島ドイツ攻略圖
- 73 地中海沿岸諸國、ダルダネルス・ボスポルスの海・空軍根據地
- 74 地中海沿岸諸國、ダルダネルス・ボスポルスの海・空軍根據地
- 75 地中海沿岸諸國、トルコ領土縮小圖、アレキサンダー大王時代(紀元前第四世紀)のギリシア領土
- 76 ギリシア・トルコ
- 77 イタリア略圖、イタリア産業圖、イタリア帝國、イタリア貿易品表、舊ローマ帝國版圖
- 78 イタリア(イタリア)

- 72、イベリア半島地形圖、イベリア半島物產地圖、ジブラルタル、ポルトガル領土地圖、スペイン領土地圖
- 73 イベリア半島
- 74 アフリカ洲政治區劃、アフリカ洲物產圖、アフリカ洲人種分布圖、第一世界大戰前のドイツ領土、アフリカ洲植物帶圖、アフリカ洲雨量圖
- 75 アフリカ洲總叙
- 76 スエズ運河附近、エチオピア及ソマリランド地方、リビア沙漠とオアシス、南アフリカ聯邦の産業、アトラス山脈地方、サハラ沙漠路、上ギニー地方
- 77 アフリカ洲の諸重點
- 78 世界人口密度圖、世界人口の分布と可容人口數
- 79 世界の人口密度と可容人口數
- 80 世界人種分布圖、アラビア族の分布、世界に於けるユダヤ族の分布
- 81 世界に於ける日本人
- 82 世界に於ける日本人
- 83 世界宗教分布圖、カトリック教分布圖、回教分布圖
- 84 世界の宗教
- 85 世界諸國國體圖
- 86 世界諸國の國體
- 87 世界の海洋と列強(大東亞戰爭直前)
- 88 世界の海洋と列強
- 89 崩壊せる國際聯盟
- 90 世界の米
- 91 世界の米



大東亞戦争地圖

昭和十七年八月八日現在

同 島 高 島
 敵 軍 隊 地 方
 友 軍 隊 地 方
 皇 軍 占 領 地 域 及 地 点
 大 東 亞 戦 争 地 点
 海 軍 占 領 地 域 及 地 点
 海 軍 占 領 地 域 及 地 点

昭和16年12月8日開戦翌朝我が海軍はハワイ真珠湾を急襲して米太平洋艦隊を全滅せしめまた上海に於て英艦を撃沈米艦を捕獲す。同日陸軍は香港の攻撃を始めマレー半島の北東岸に奇襲上陸す。10日海軍はマレー沖海戦に於て英東洋艦隊主力を撃滅し同日陸軍は比島ルソン島に敵前上陸をなす。12月中海軍はグム島ウェーク島を攻略し陸軍はマレー半島の北半を席卷ミンダオ島英領ボルネオを占領す。25日香港を陥る。

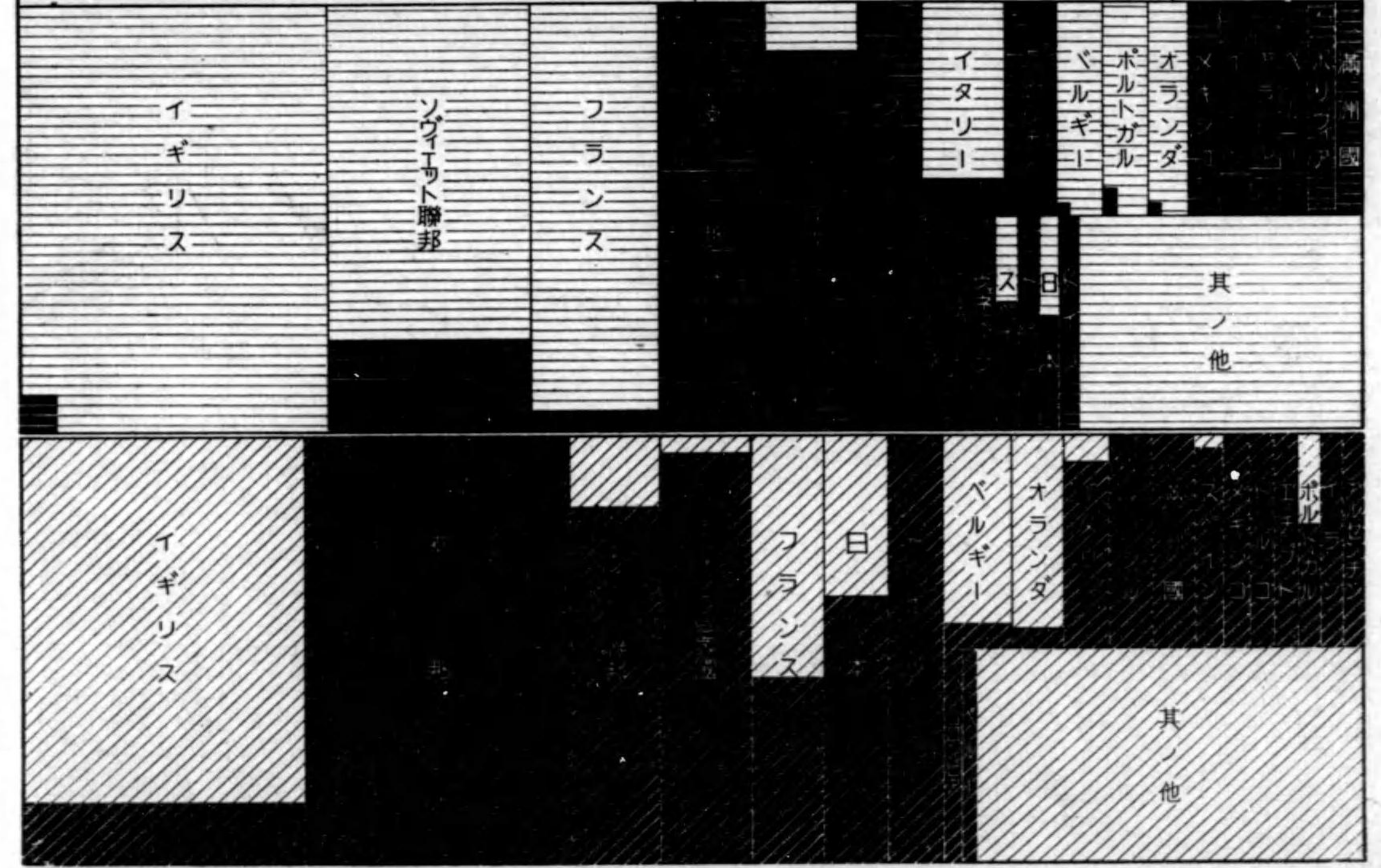
昭和17年1月2日皇軍は比島の首府マニラを占領す。1月中陸軍はマレー半島全部を攻略しビルマのモールメンを陥れ蘭領ボルネオを占領す。海軍は米航空母艦2隻を撃沈し落下傘部隊はセレベス島に降下し陸戦隊はビスマルク諸島に上陸す。2月海軍航空部隊はジャワ海に於て米英蘭聯合艦の主力を撃破し陸軍は落下傘部隊によりスマトラ島パレンバンを占領す。

15日シンガポールを陥れこれを昭南港と改稱した。その後陸海軍部隊はチモール島に上陸し海軍航空部隊は屢々濠洲のポートダーウィンを空襲す。2月末スラバヤ沖バタヴィア沖に於て米英海軍聯合艦隊を覆滅す。3月皇軍はジャワ島に上陸し5日バタヴィアを占領スマトラ島も續いて我が手に落つ。この間ビルマ派遣軍はラングーンに入城す。皇軍は更にニューギニー島東岸に上陸その後南岸ポートモーズビーを屢々空襲す。4月陸軍は比島バタン半島を5月同コレヒドール島を攻略し海軍は5月珊瑚海海戦6日ミッドウェー海戦を行ひまたアリューシャン列島のキスカ・アツツ二島を占領す。8月乃至11月に三次のソロモン海戦南太平洋海戦及びルンガ沖の夜戦に於て米國艦隊を潰滅せしめた。がソロモン方面の戦争は尙熾烈である。

- 八三、世界小麦産地、小麦及麥粉輸出、小麦及麥粉輸入
- 八四、世界の砂糖
- 八五、世界の棉花
- 八六、世界パルプ・ゴム供給關係圖、世界木材供給關係圖
- 八七、世界の羊毛
- 八八、世界の漁業
- 八九、世界金産出及保有分布圖
- 九〇、世界の鐵及鋼
- 九一、世界の石炭
- 九二、世界の石油
- 九三、世界の工業、世界の發電力
- 九四、世界海運地圖、世界主要航路圖
- 九五、太平洋航空路、歐亞間の航空路、太平洋航空路
- 九六、世界諸國外國貿易地圖、世界貿易の趨勢
- 九七、世界の貿易
- 九八、世界の工業、世界の發電力
- 九九、世界海運地圖、世界主要航路圖
- 一〇〇、世界の鐵及鋼
- 一〇一、世界の石炭
- 一〇二、世界の石油
- 一〇三、世界の工業、世界の發電力
- 一〇四、世界海運地圖、世界主要航路圖
- 一〇五、太平洋航空路、歐亞間の航空路、太平洋航空路
- 一〇六、世界諸國外國貿易地圖、世界貿易の趨勢
- 一〇七、世界の貿易

世界諸國面積人口比較圖

郭ノス 外ノス 共ノス 圖ハ世 兩内總 數ハ世 示ラ示
 全領土面積 全領土人口
 黒部ハ本國 黒部ハ本國

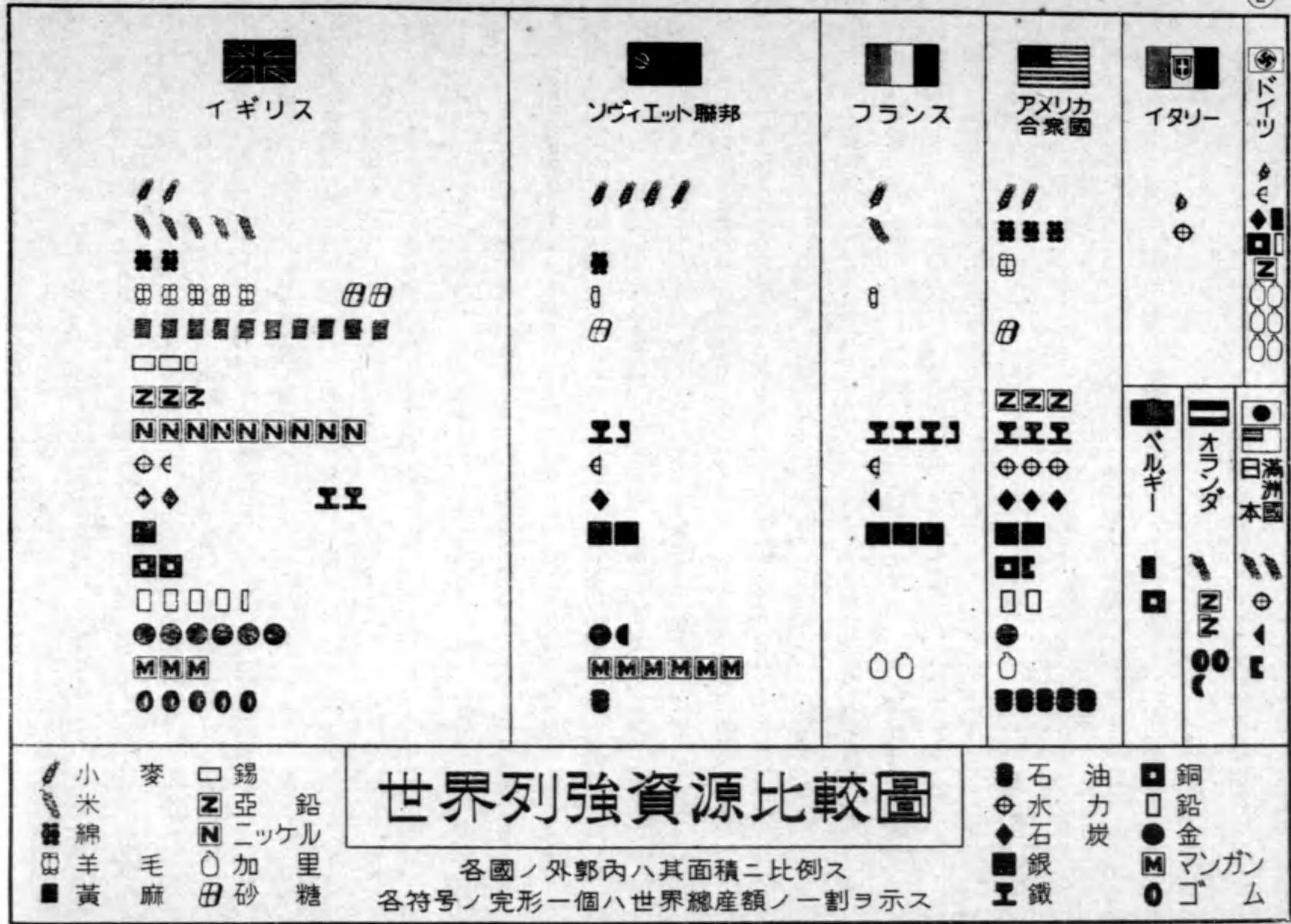


世界諸國の面積と人口

現世界大戰前、世界は六十六の國家とその領地とによりて分割されてゐた。この六十六國は面積人口共甚しき差があり、大はイギリス帝國の三千五百萬方秆、人口四億九千萬人より、小はグアチカン國の〇・四四方秆、人口一千人の小國に及んでゐた。今試みに世界諸國を面積により大・中・小の三種に分類すると、面積約一千万方秆以上を有するものを大國とすれば、イギリス・ソ聯邦・フランス・支那・アメリカ合衆國の五國であり、これ等諸國の面積を合すれば世界陸地(南極洲を除く)の六割餘を占めてゐた。次は百萬方秆以上の中國であつてその數十三、イタリー・ベルギー・ポルトガル・オランダの植民國や南米の主要國がこれである。殘餘の百萬方秆以下の小國は四十八の多きに達し、我が國やドイツもこれに屬し、小國中更に十萬方秆の極小國すら二十を數へてゐた。

これ等大小の國々が如何なる理由によりその獨立が許されてゐたかは暫く措き、現代の世界には少數の大國と多數の小國が對立し、中國の數の甚だ少きことは世界國家組織上の大缺陷であつて、恰も貧富の兩階級が隔絶し、中産階級の少き劣等國の様相に似てゐる。五大國が世界陸地の六割以上を占め、他の僅かに四割弱の面積内に六十餘國が群立してゐることは、何人と雖もその不合理を認める所であつて、殊にこれ等大國がその大をなしたのは、概ね奪取征服によるもので、これにより廣大なる領地の住民は搾取に苦しみ、他の群小の國民は貧困と不平に充されてゐるのである。故に世界の現狀は人道上よりいつても明かに不正といはねばならぬ。さりながら他方、自主自立の能力なき小國が、徒らに獨立の美名に憧れて多數分立し、一朝強國の銃火を浴びれば數日にして壊滅することもまた決して合理的といふことは出来ぬ。ここに於て將來作らるべき世界の新秩序は、これ等龐大なる國家が須らく或は適當に分割せられ、或は資源を分與し、小國家は何等かの形式により合同することであつて、現在我が國が提唱しつゝある大東亞共榮圈の確立なるものは、畢竟この理想の一部に合するものといへよう。

次に世界諸國を人口の上より觀察すると、一般に面積の大なる國に人口多きは當然であるが、一方には米國・ブラジル・アルゼンチンの如く比較的廣大な領域を有しながら人口少く、他方我が國・ドイツ・イタリーの如く多數の人口を擁して而かもこれを養ふ國土の狭小なることは、共に世界平和の障害である。これ等諸國は須らく互に相諒解し地と人と關係を調節せねばならぬ。然るに不幸にしてこれが實現せざるため、戰爭や葛藤が發生する。今次の世界大戰の原因は所謂「土地なき民」たるドイツ人が、生活空間を要求して起つたもので、同様の事情はまた大東亞戰爭勃發の原因の一部分をなすものである。



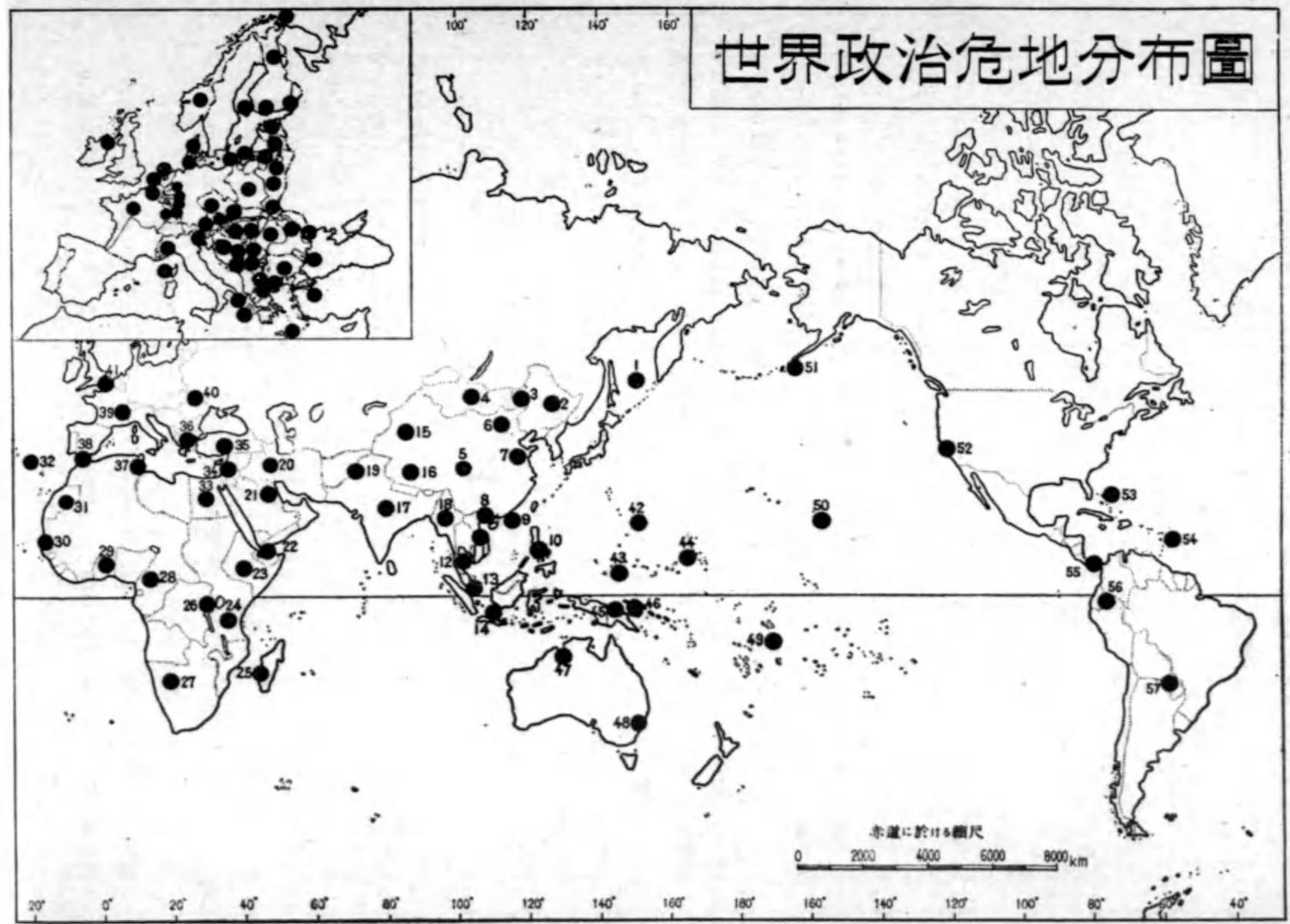
持てる國持たざる國

第二圖版は現大戦前に於ける世界列強の資源比較圖であつて、イギリスは世界重要資源二十種の總産額中約三分の一を有し、また世界主要原料品三十七種中三十二種までは英帝國內に産し、單に硫黄・大豆・オリヅ油・モリブデン・大麻を缺けるに過ぎなかつた。併し大東亞戰爭によりゴム・錫の全部を失つた。米國も英國に類似し世界重要資源量の約六分の一を占め、上記原料品中二十七種までは國內に産し、缺乏せるは錫・ニッケル・ゴム・生絲・胡麻・オリヅ油・黄麻・大麻・亞麻・椰子油のみであつた。ソヴェット聯邦及びフランスは領土の大なるに比し資源必ずしも大ではないが、これは未開發の部分が多いため、現在でも英・米を除く他の世界の列強に比すればその生産はまた大である。これ等は所謂持てる國として考へられてゐた。

これに反し、我が國やドイツの如きは領土に比し人口が稠密で、高度の文化を有する國でありながら生活資源や工業原料の貧弱なる國は、所謂持たざる國の典型的のものであつた。イタリアもその領土は稍廣きもその資源の貧弱なることは世界列強中第一位である。同じ列強でありながら、その國民の生活物資や所要原料の生産につきかくの如き遠庭のあることは、列強間の關係を不安定ならしむる最大原動力であつて、持てる國民が世界の資源を壟斷し榮耀榮華を盡してゐるのを見ては、同じ高度の文化を有し而かも窮乏に憫む國民が鬱憤を感ずるのは當然である。殊にイギリスの如き本國に百四十倍する領地を有しこれによつて世界の資源を専有するものは最も非難の對象となつたのである。

かくの如き世界に於ける富裕なる大國の存在は恰も一國に於ける大地主・富豪に比すべきものであつて、決して社會組織上合理的ではない。而かも個人としての富豪・大地主は常に何かの形式に於てその富を社會に分つてゐる。パウルゼンの倫理學には社會が大地主の存在を許す理由として、彼等が或は多額の寄附或は重税を負担することを擧げ、ローマ帝國時代にはこれ等の大地主に對しては失費多き名譽職を與へて社會に奉仕せしめたと説いてゐる。然るに國際間には全くかくの如き反對給付の行爲がなく、大國は常に利己的態度に出で毫も反省しない。現大戦に先立つこと數年、この國際資源不均衡の問題が國際聯盟に採り上げられ、一九二九年聯盟總會に於て、イタリア代表シャロヤ氏が原料資源の國際的分配の提議をなし、その後またドイツのシャハト博士は植民地要求の論文を發表した。一九三五年には聯盟總會に於て、イギリスのサミュエル・ホリア氏の同情的演説となつたが、その最も痛痒を感ずるイギリスの議會は恬として顧みず冷笑を以てこれを迎へた。これが今次の世界大戦の根本原因である。若し數年前イギリスその他の持てる國が反省し、適當の資源再分配法を講じてゐたならば、恐らくはこの大戦は起り得なかつたであらう。

世界政治危地分布圖



世界の政治危地

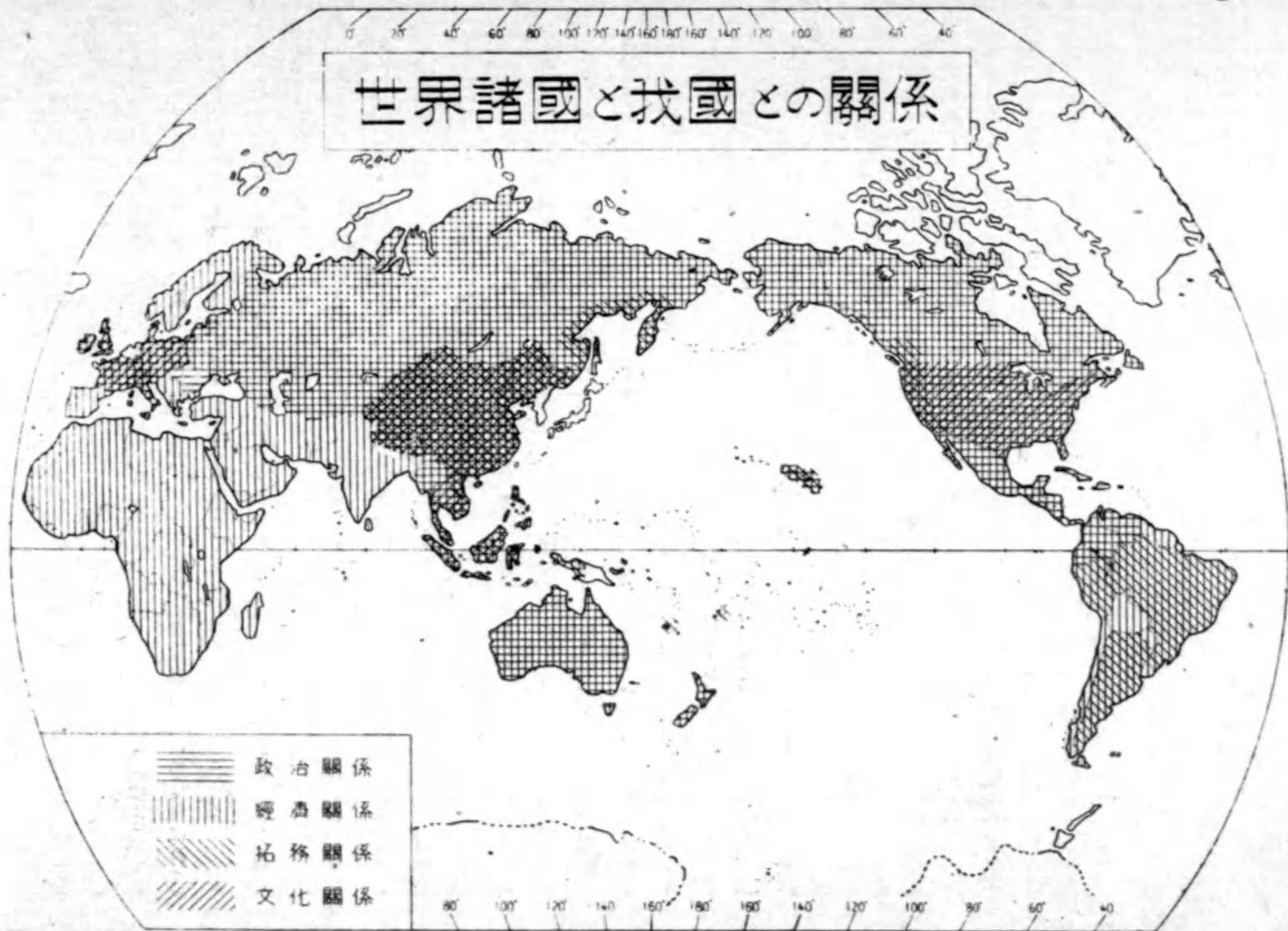
大國と小國、持てる國と持たざる國、これより生ずる經濟上政治上の不安、更に異宗教徒の反目、諸民族間の嫉視等々、今日の世界は不満と苦惱、焦躁と摩擦に充ちてゐるので、到る所に發火爆發の危険の迫れる政治危地がある。本圖は現大戰前後に於けるかゝる危地の主要なるものを大觀的に示したものであるが、西に東に大規模の戦争が行はれてゐる今日、これ等の危地は次第に發火して硝煙に覆はれつつある。

本圖に示した危地の説明は後述の各國誌に譲り、地域別に危地を達観するとヨーロッパが最も多く、これは、(一)歐洲が地形上大小幾多の國家の存立を許したこと、(二)各民族の分布移動が比較的近代に行はれその餘波が今なほ存すること、(三)高度の文化の發達により自然軍備も増大したること、(四)ヨーロッパには過去に於て世界的活動を試みたる國と取殘されたる國との間に生活の難易を生ぜしこと等が、主たる原因であると思ふ。要するに世界六十六獨立國の約半数が存立した歐洲に紛擾や確執を生じ易いのは當然である。歐洲に次ぎ危地の多きはアジアであつて、これは古き文化がありまた多数の人口を包容し、これ等の大部分は白人の支配下に立つので、従つてアジア各地には歴史的關係より生ずる相剋が行はれ、アジア人對白人の軋轉、豊富なる資源の爭奪等に起因して諸所に禍根を藏する。第三に危地の多きはアフリカ洲(アフリカ洲)であつて、これは歐洲に近くその植民地が錯綜し、而かもその植民の多くは近代にあるを以て、ともすれば安定を缺くのである。北米・南米二洲には比較的危地は少いが、これは北アメリカ洲の大部分がカナダ・合衆國・メキシコの三國に分割され、大體に於て住民は生活に恵まれてゐるからであり、南米も畧同様の理由より危地は少い。大洋洲は從來オーストラリア(濠洲)が他洲と隔絶せしため問題は起らなかつたが、大東亞戦争の必然の結果この地方にも戦禍は見舞ひつゝある。太平洋上の諸島嶼に至りては方に日・米爭奪の焦點である。

本圖に示せる危地(大東亞戦争前)は左の如くである。

- 1 オホーツク海 2 3 滿ソ國境 4 外蒙古 5 重慶 6 蒙疆 7 北支 8 雲南 9 香港
- 10 フィリッピン 11 佛領インド支那 12 クラ地峽 13 シンガポール 14 ジャワ 15 新疆
- 16 チベット 17 インド 18 ビルマ 19 アフガニスタン 20 イラン・イラク 21 アラビア
- 22 アデン 23 エチオピア 24 舊獨領タンガンイカ 25 マダガスカル 26 ロードシア 27 舊獨領南西アフリカ 28 舊獨領カメルン 29 黄金海岸 30 ダカール 31 リオデオロ 32 カナ
- リ諸島 33 エジプト 34 トランスジヨルダニア 35 トルコ 36 ギリシア 37 チュニス
- 38 ジブラルタル 39 ニース 40 ベッサラビア 41 ドーヴァ海峡 42 グラム島 43 カロリン
- 諸島 44 マーシャル諸島 45 ニューギニー島 46 ビルマルク及ソロモン諸島 47 ボートダ
- 1 ウィン 48 東南オーストラリア 49 サモア 50 ハワイ 51 グンチハーバー 52 サンフラ
- ンシスコ 53 パルマ諸島 54 マルチニク島 55 パナマ 56 エクワドル 57 グランシヤコ

世界諸國と我國との關係



世界諸國と我が國との關係

我が國の對外關係は神代に於ける根國・常世の國との交渉に窺るが、これは多く種族的關係に止つてゐたであらう。有史以後一時朝鮮と政治的關係が結ばれたが、奈良・平安二朝には朝鮮・支那との文化關係が主であつた。鎌倉時代以後、支那と經濟關係が發達し、足利時代の末期以來西歐諸國と文化關係が始つた。その後は僅かに支那及びオランダと小範圍の交渉が行はれ、日本の世界的地位は全く東アジアの一孤立的存在に過ぎなかつた。然るに七十餘年前の明治維新以後、我が國は世界の日本として急速な發展を遂げ、世界の各國と密接な連繫を持つやうになつた。

本圖は現在の我が國と世界諸國との關係を政治・經濟・拓務・文化について示したもので、先づアジアに於ては最も近接せる滿・支兩國とが凡ゆる種類の關係に於て濃密なることはいふまでもなく、我が國とこの二國との強固な結合が結局大東亞新秩序建設の推進力である。これに次いで位置の上より、佛領インド支那(佛印)・タイ國・舊蘭印領東インドフィリッピン(比島)等に對しては、夙に政治・經濟・拓務關係が存立してゐたが、今次の大東亞戰爭によりこれ等の地方に對して文化關係が發達しよう。これに對してインド以西トルコ方面までの西アジア地方は未だ經濟關係の樹立に止まるが、所謂大アジア主義の擴充は將來この地方まで政治・文化關係を進展せしむべきである。シベリアの地域は時代により親疎の差があつたが、今後はやはり位置の上からも政治・經濟上大東亞圈に包含さるべき必然性を有してゐる。

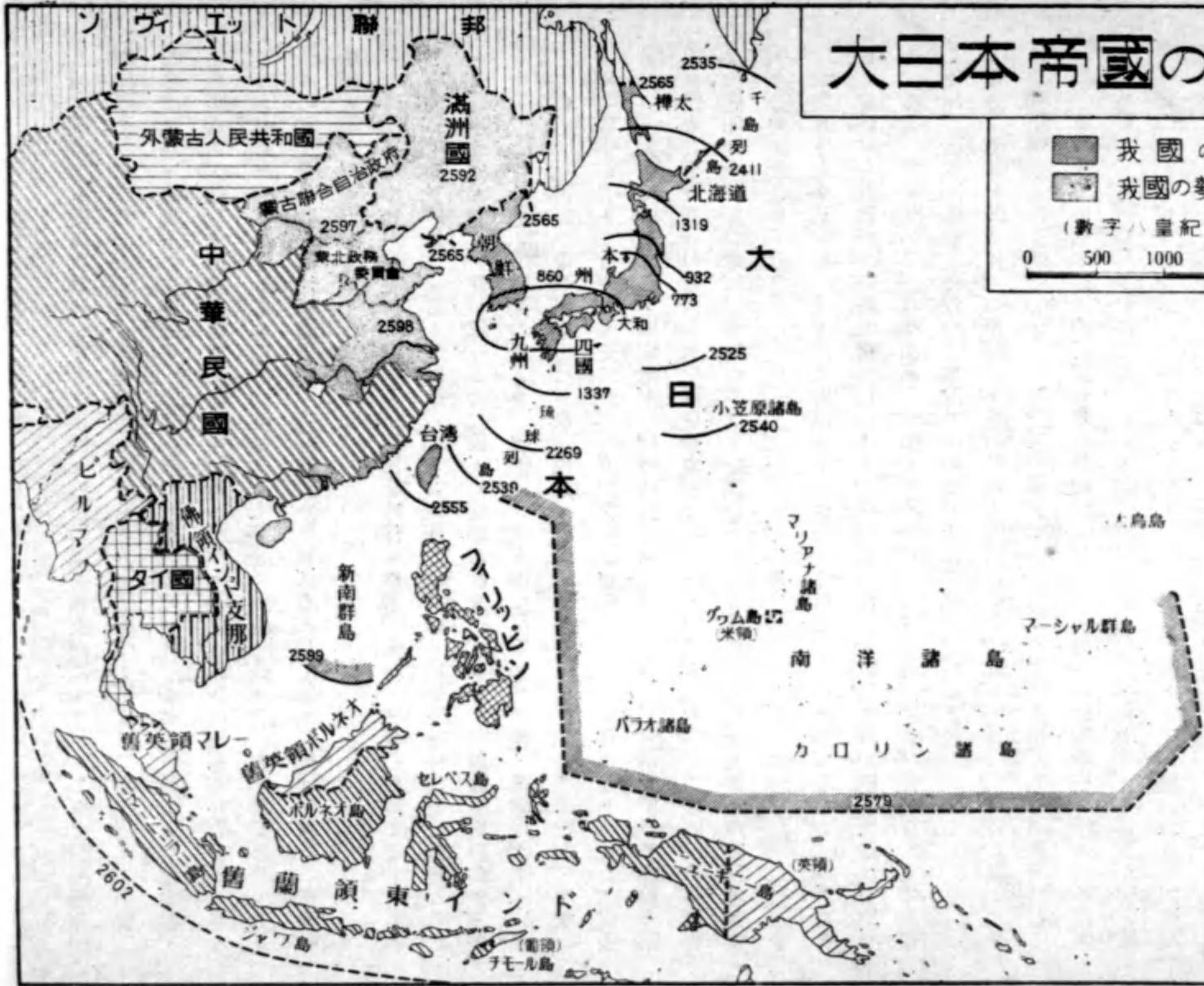
大洋洲方面を觀るに、太平洋西南諸島中には若干拓務關係の結ばれてゐたものもあるが、濠洲はなほ政治・經濟的關係に止まり、彼の白濠洲主義により我が國民の進出を阻止してゐた。その他ハワイは拓務關係が極めて密接で、住民の最大多数が我が日本人であることは、大東亞戰爭と相俟つて將來米國の領有下に恐らくは残るまい。

轉じて歐洲を觀るに、拓務關係を除いて凡て密接な關係に立ち、殊に近代我が國の文化は西歐諸國のそれを攝取消化した點で英・獨・佛・伊各國の文化要素と強い連關を有してゐた。更に今日の獨・伊との三國同盟の締結により、我が國とこれ等歐洲諸國とは政治關係が主要となる状態に置かれてゐる。北米にてはいふ迄もなく米國とカナダは我が國と密接な關係にあるが今は敵國となつてゐる。南米ではブラジル・ペルー等が過去は我が國と移民對象地として知られてゐたが、今は政治及び經濟關係が斷絶してゐる。アフリカは現在の所我が國と最も關係の薄い大陸で、現大戰前は經濟的關係の樹立に止まつてゐた。

要するに今日の日本は、アジア大陸の縁邊に偏在しながら、多くの意味に於て世界の中心でもある。神武天皇によりて下令せられた八紘爲宇の精神を今日我が國民が再び新たに宣言しても、決して不自然でなくまた不當でもあるまい。

大日本帝國の發展

■ 我國の領土
 ■ 我國の勢力範圍
 (數字ハ皇紀ヲ示ス)
 0 500 1000 1500 2000 里



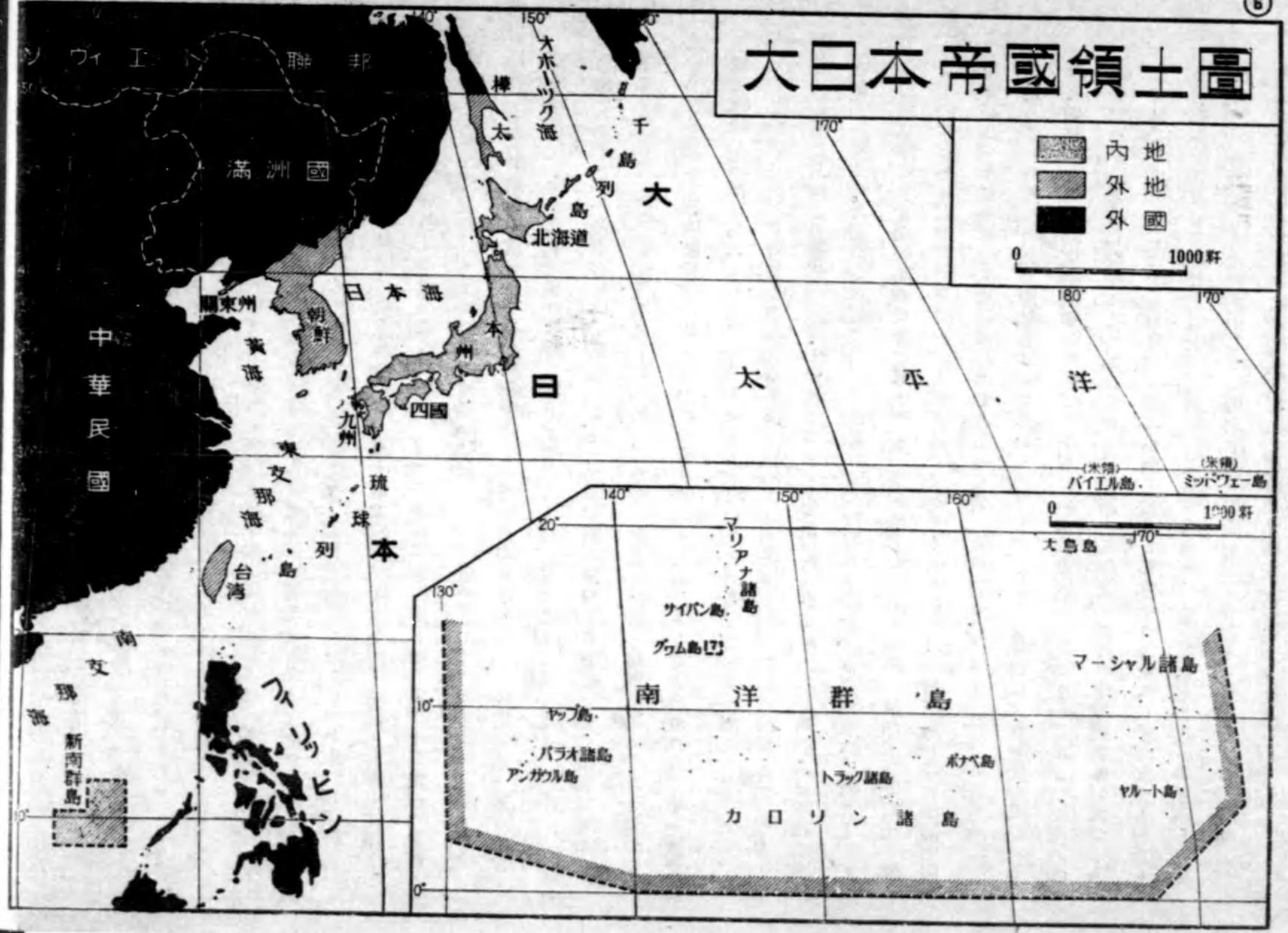
大日本帝國の發展

神武天皇が都を橿原に奠め給ひし時の我が大日本帝國の本據は、僅かに千四百方秆の大和平野とその周辺の山地とであつた。これはその後歴代の天皇が四隣を平定せられてもなほ久しくヤマトの國號が用ひられ、また漢字渡來以後も日本をヤマトと訓してゐたことを以て觀ても判る。皇紀第八世紀景行天皇の御子日本武尊が熊襲を征伐せられ、東夷を平らげられるに及んで我が領土は今日の本州・四國・九州の大部分に及んだ。第九世紀になると神功皇后は九州の熊襲及び韓土を攻略し、我が國は初めて海外に領土を獲得した。爾來三百餘年間我が國は韓土の一角を占有してゐたが、第十三世紀に至りこれを失つた。併し國內の統一と文物の發達は年と共に進み、第十四世紀に及んで本州・四國・九州を主體とする日本帝國は鞏固なる體制下に置かれ、以て一千餘年を経過した。第二十三世紀に豊臣秀吉の征韓の役あり、一時我が國威は海外に振つたが、徳川氏に至りては琉球を我が版圖に加へしほか銷國政策により長夜の夢を貪り、西洋諸國が海外領土の獲得に最も熱中した植民時代に、全く退嬰的現状維持に墮してゐたことは、甚だ遺憾であつた。

併しながら明治維新以後は、久しく養はれた我が國の潛勢力は勃然として顯現し來り、明治中期より大正上期に至る二十五年間に、臺灣・樺太・朝鮮・南洋群島等を我が治下に收めた。而して日清戰役前の我が領土の面積は約三十八萬二千方秆であつたが、第一次世界大戰後の面積は約六十八萬一千方秆となつて、これを指數に示せば一〇〇に對する一七八に當るのである。併しこの間に我が國土の總人口の指數も約二〇〇に増加してゐるから、面積と人口との關係は反つて窮屈となり、人口指數は更に増加の一路を辿つてゐる。かくて皇紀二五九二年(昭和七年)には我が國の指導の下に滿洲帝國が生れ、同九七年には支那事變による我が國の支那出兵となり、我が勢力はアジア大陸に及び、最近に至り佛領インド支那は我が實力を認め、大東亞戰爭以後タイ國と新生の中華民國とは我が國と同盟を結び、今や皇軍は大東亞共榮圏の各地を攻略し大東亞は悉く我が勢力下に歸した。

然らば我が國大發展の原動力は何か。いふまでもなく最大の基礎は、我が國が萬世一系の天皇を仰ぐ萬邦無比の國體を有し、「大君のへにこそ死なめかへりみはせじ」と誓ふ國民の忠君愛國の念に燃ゆることにあるが、我が國土の有する絶好の地理的關係が與つて力あつたことは否むことが出来ない。即ち島國であることは守るに便にして進むにも利ありまた氣候が極めて良好なることは國民に對して物心兩面に好影響を與へるからである。更にまた、我が國土は元來狹小なるに而かも古き歴史を有するから、必ずや人口が集積し海外發展を餘儀なくするといふ消極的理由も見道してはならない。

大日本帝國領土圖



我が國の領土

我が國は世界最大の大陸たるアジアの東端に位し、最大の大洋たる太平洋の西半を占める。その本幹をなす日本列島は北の千島列島、南の琉球列島と共に三條の花綵の如く相連なり、東アジアの門戸を飾りまたこれを防衛する如くである。面積は狭小であるが空間四至は甚だ大きく、北は北緯約五十一度、南は赤道を境とし、東は南洋群島のミレ島東經百七十二度に及び、西は新南群島の東經百十一度に達してゐる。この大なる擴がりには殆ど全歐洲に匹敵するのであるから、自然四周は多數の外國に接近し、樺太・朝鮮に於ては滿洲國・ソ聯邦と接壤し、千島の北端はソ聯領カムチャツカ及び米領アリューシャン諸島を望み、臺灣は支那・比島・佛領インド支那と指呼の間にあり、更に南洋群島に至つては太平洋の唯中に位して近傍には英・米の領土たる諸島嶼がある。日本の領土のかゝる位置が、以て直ちに複雑な國際政治との關聯を示すことは大東亞戰爭によりよく現はれてゐる。

我が國の領土は大東亞戰爭前總面積僅かに六十八萬方軒であつて、世界全土に比し僅かにその五厘に當るに過ぎない。然るに人口は一億を超え、世界總人口の五分を占めるのであるから、人口は稠密となりこゝに必然的に海外發展の問題を生じ、周圍の外國との間に事件を惹起することゝなつたのである。

而して我が國の領土に就き地政學上の一大特色は、その領土が凡て本幹たる内地を繞つて近傍に存することである。蓋し英・佛・白・蘭等の西歐列國の領土は何れも遠く海外に互り、政治上・經濟上長鞭馬腹に及ばず、非常に不利であつたのに對し我が國は本土外の領地も悉く内地と近通し一團をなしてゐる。これが軍事上・政治上また經濟上の大なる強みであつて、また全領土を通じ一億一心の政治を布き得た所以でもある。

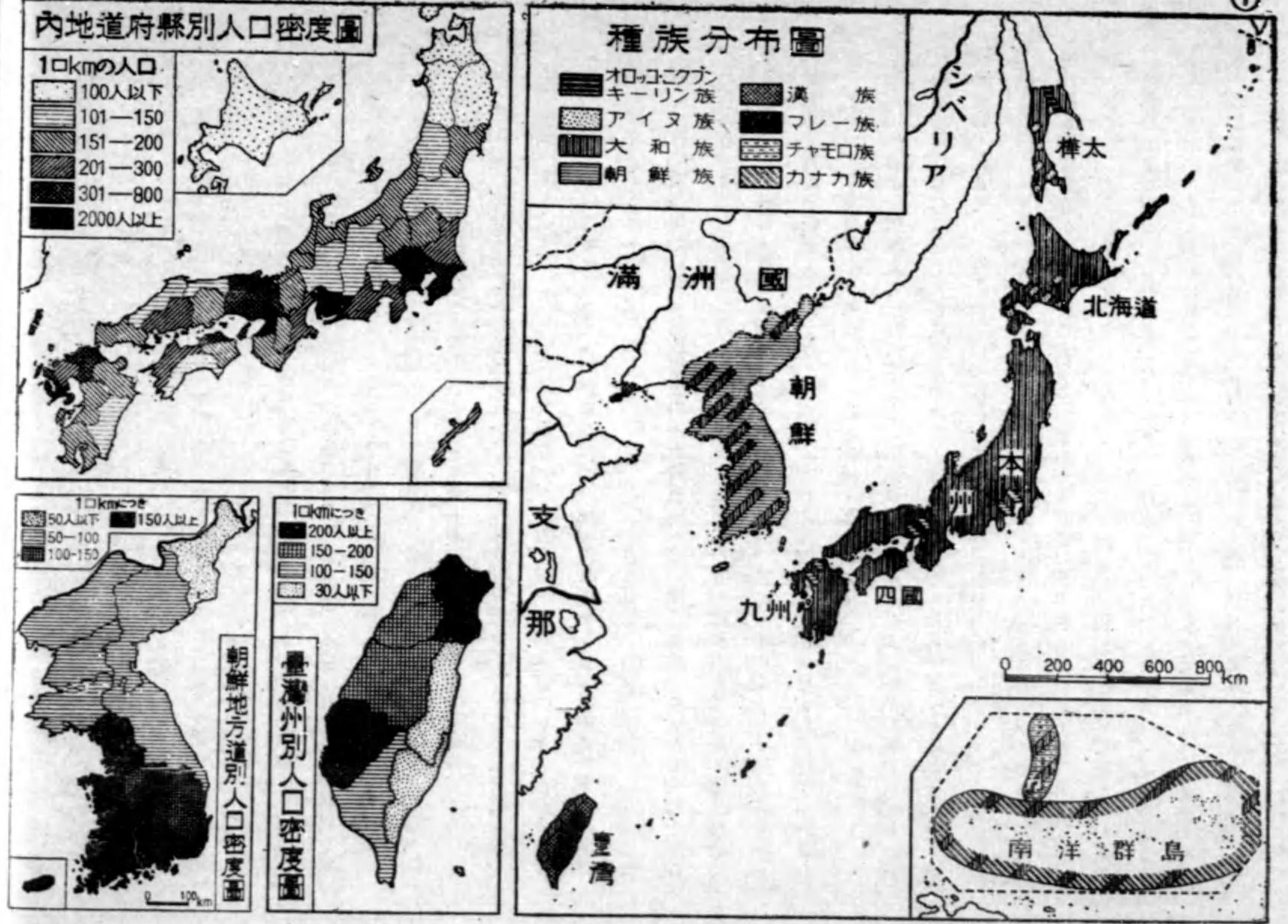
次に我が國土を氣候上から觀察すると、内地は溫帶の中部にあり、氣候極めて適順、國民の精神は健全に發達し物産は豊富である。殊に外地を加へた我が國土は所謂模式的な非同溫線であるため、物産の變化に富み、國民の生活は自給自給をなし得るのである。唯工業原料に至つては我が工業の驚くべき進歩により、これに追隨し得ざる憾はある。更に氣候の多様性は我が國の文化に大なる影響を與へ、世界獨得のものたらしめてゐる。即ち我が國に於ける四季の變化は甚だ明確であつて、これに伴ふ國土・山川の姿の更改は民族の藝術心を刺激する。世界で我が日本民族程自然を愛し、自然を題材とする藝術を發展せしめたものはない。彩霞に依倚せる光琳の畫風、「季」が構成の要素となつた俳句の如きは、我が國土が生んだ文化ならざるはない。今や我が國は大東亞戰爭に於て連戰連勝し、領土は必然的に増大するのであるが、本國のこの特色は永久に残るものと信ずる。

我が帝國の國民は七千二百萬の大和族を本幹とし、二千二百萬の朝鮮族、五百萬の臺灣漢族、百萬の關東州滿・漢族、臺灣マライ族（高砂・平埔）の十五萬、南洋マライ族（カナカ・チャモロ）の五萬、北海道・樺太のアイヌ・オロツコ族等の一萬八千人から成立つてゐる。國土の大きさに比して比較的多くの種族を包容してゐるが、本幹の大和族と雖も決して單一の種族ではない。人類學者は我が遺蹟より發掘された人骨より推定して、我が太古の住民には少くとも四種の異種族があつたといつてゐる。有史時代に至りては朝鮮・支那よりの移住者が多く、上代既に神別・皇別・蕃別等の區別があり、その他有姓の良民や無姓の賤民等を加ふれば我が種族は非常に多種に上つてゐたのであらう。今日と雖も我が内地人を體格・容貌・皮膚色等により仔細に類別すれば、その種族は驚くべき數に上るのであらう。これに比すれば英・獨・佛等の西歐諸國は、本國人の種族が遙かに單純なるを看取するのである。

かく種族上より觀れば、多數異種族の集合たる我が内地人も、精神的には全く融合統一し、等しく所謂大和魂の持主となれることは、一には歴史の古きことにも因るも、その最大原因は、我が國の古來よりの國是として、假令異種族と雖も一視同仁これを抱擁して残さなかつたためにある。この八紘爲宇の大精神は、今日一層顯著であつて、臺灣・朝鮮・南洋等新附の民には温情を以て接し、寛容を以て遇し、また内地人との齟齬を出来るだけ撤去せんと努めてゐるから、我が國には他國家に見るが如き少數民族の不平もなく争闘もなく、和氣藹々の中に所謂一億一心の大國民を形成してゐるのである。

かくの如くにして帝國一億の住民は種族をこそ異にすれ、精神的には全く一致して國力の發展に盡してゐるが、如何せんその國土の面積が小であるため各地方とも人口稠密で一方軒の平均密度内地は百九十人、臺灣は百五十人、朝鮮は百三人であつて、全帝國を通じて百五十人に及び、世界列強中第一の密度を有するのである。この事は一面には我が國民のアジア大陸及び南洋・南北米等への拓殖・發展を不可避たらしめると共に、一面には世界的國家として益々發達する有利な條件を提供するものといへよう。而してこの人口密度を地方別に觀察するに、内地では中部、朝鮮では南部、臺灣では北部及び中部に稠密なる地區がある。これは内地に於ては主として工業の進歩により、朝鮮にては農業、臺灣にては農林工業の發達に職由するものである。併しながら、朝鮮にては近時北部に電氣事業・鑛工業・交通等の勃興するあり、従つて今後は北鮮の稠密性が加はるであらう。

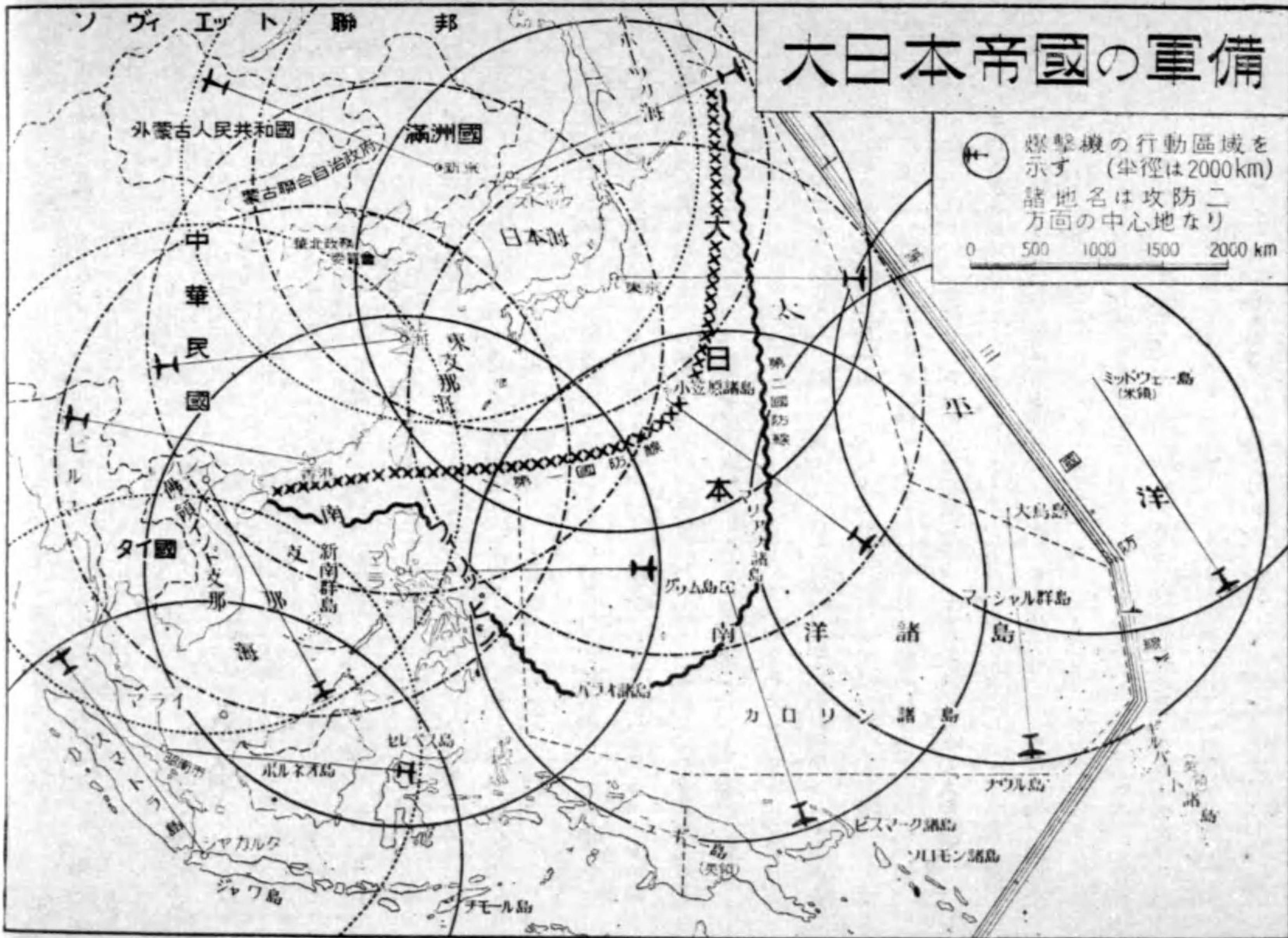
帝國の種族と人口



大日本帝國の軍備

爆撃機の行動區域を示す (半徑は2000km)
 諸地名は攻防二方面の中心地なり

0 500 1000 1500 2000 km



帝國の軍備

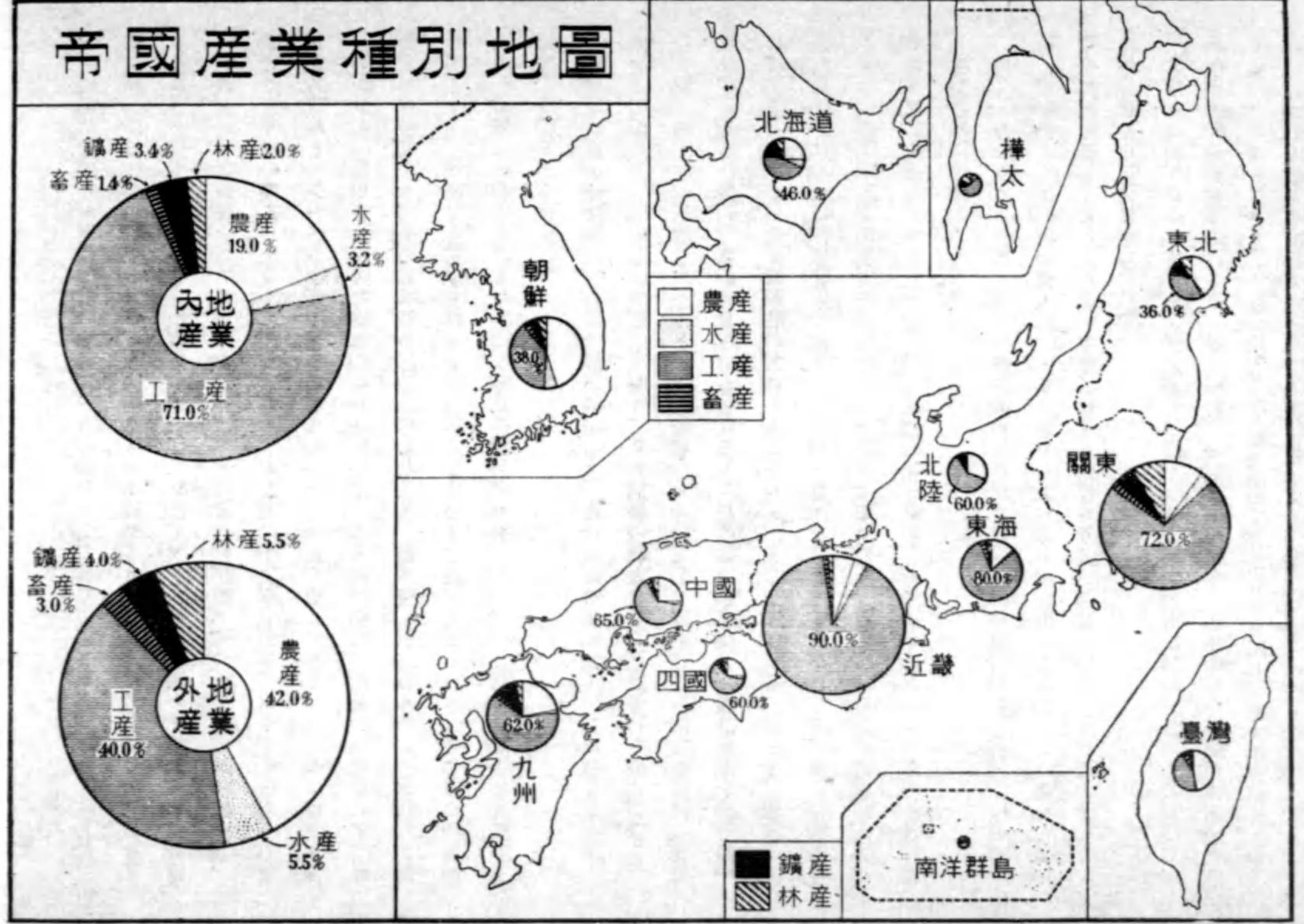
我が國は大部分が東亞大陸の縁邊に一大列島をなしてゐて、軍事上必要あれば直ちに大陸を制し得る態勢にあると共に、又大陸より若干隔離することによつて直接その脅威を蒙らぬ特質を持つてゐる。今日距離僅かに三十二軒に過ぎざる英佛海峡ですらなほ勇猛獨軍の鋭鋒をある程度阻止してゐる事を思へば、その數倍の距離を隔つ我が國が御稜威の下、歴史的に外敵の侵入を全く不可能ならしめて來た理由が明瞭である。「西洋の没落」の著者オスワルド・シュベングレーはその著書の中で次の如く論じてゐる。「日本は西歐列強の力が少しも通用せぬ廣大な地域の支配者である。日本は列島なるが故に海正面に於ては殆ど不可侵であり、その島嶼間の海峡は水雷敷設帯、潜水艦・航空機等を以て確實に遮斷し得るから、如何なる艦隊と雖も支那海へ入る事は不可能である。日本はその民族の精神力さへ確實に保存せられるならば、無比の國防的地勢と相保つて如何なる聯合の強敵にも對抗し得るであらう」と。

今日我が國の國防線は、北は日滿ソ國境より、南は南洋群島に亘り、東は遠く太平洋に擴がり、西はアジア大陸に直面してをり、その態勢の壯大なること世界にその比が少い。今日歐洲の天地に活躍してゐるドイツが純粹の大陸國として陸軍のみを國防の基礎に充當すれば足るのに對し、我が日本を中心とする大東亞の防衛には強力な陸海兩軍を併せ備へねばならない。これ我が國國防の特色であると共に、また重大なる所以である。陸軍は國民皆兵の下に本土に四軍管區を置き、又朝鮮・臺灣を夫々一軍管區に分ち、更に滿洲防衛のために關東軍、支那事變完遂のために支那派遣軍を置き、南方には南方派遣軍がある。海軍も世界最強の充實せる兵備を以て鐵壁の陣を張り、今や太平洋とインド洋の全域に亘り我が艦隊は活躍してゐる。

併し一方より考ふれば、現在の航空機の駁々たる進歩は、空間的距離を著しく短縮し、殊に爆撃機の行動範圍の擴大は、有時に於ける我が國の國防的地位を必ずしも完全なる不可侵状態に置いてゐないから、空襲に對する完備せる國土防衛は極めて大切であるので、我が空軍も非常に發達してゐる。

要するに我が軍備は陸・海・空三軍が完備し、その間に緊密な態勢が整つてゐたので、現今の大東亞戰爭開かれるや、忽ちにして米國太平洋艦隊を全滅せしめ英國東洋艦隊を撃破し、マライ・フィリッピン・英領ボルネオ・蘭印・香港等を攻略し、西太平洋は陸・海・空共凡て我が國の制壓下におかれたのである。

帝國産業種別地圖



我が國産業の概観

古來豐饒原瑞穂國と稱せらるゝ我が國は、肇國以來農を以て國の大本となし、今日と雖もその精神に於て變りはなく、また國民の中堅として剛健なる農民の存在を必要とする。併し近年一方には我が國の世界的發展と、他方狭小なる國土による物資の不足とは、原料を輸入する大工業の發達を促すこととなり、今日我が國の産業は工業をその本幹とするに至つた。嘗て米國の女流地理學者センプルは、日本を東洋の英國とする世評に對し、日本の如く山岳重疊して平地が少く陸上交通の不便な國は、到底英國の如き工業國とはなり得ざるべしと論じたが、今日の我が國は正に大工業國の域に達し、内地生産物價格の約七割以上が工業製品である。然れども元來天恵多き我が國は、農林・畜産・水産及び鑛産も夫々特異の發達をなし、國民の職業分野から觀れば農林・畜産に従事するものは内地有職業者の四割七分を占め、水産業者は一分九厘、鑛業者は一分六厘、で工業者は二割、商業者は一割六分である。これは昭和五年の國勢調査の結果であるから、今日若干の變化はあらうが大勢は類似してゐよう。

更に産業を地方別に觀察するに、その第一特色とするところは、我が各種の産業は諸地方に夫々發達して一地方に偏しないことである。これは國民生活の均等性を意味し、健全なる社會状態といへよう。併し各地方には夫々廣狹・風土・文化の差があり、その生産額に大小を來すことは勿論であつて、支那事變直前の統計によりて判すれば、生産の最も大なるは近畿であつて總額六十億圓に達し、その九割が工業であるから、また全國第一の工業地方である。次は關東の五十一億圓であつて、工業は七割二分を占める。他の二割八分が天産物であることは關東平野の農林業がなほ重要なを示すものである。次は中部地方であるが、全産額約三十二億圓に達し、産業の種類は東海・北陸の二方面に於てや、異なつてゐる。九州は二十八億圓の生産をなし、工業は盛であるが農・鑛産の割合も大きい。その他諸地方の生産を加へて我が國の總生産額は百六十億圓以上に及んでゐた。但しこれ等の計数は支那事變前の統計であつて、最近生産が急激に飛躍したことは勿論である。工業產品の如きは戦前と今日とは殆ど數倍加したといへよう。

以上は主として内地産業に就ての記述であるが、外地の總生産額は約四十億圓に餘り、農業と工業とは殆ど相等しく約八割餘を占め、他は水・林・鑛・畜産に屬する。而して最近に於ける朝鮮の水力電氣の發達は益々工業を盛ならしむべく、臺灣もまたその地理的關係上、南方共榮圈より原料の輸入により、工業は益々進歩するであらう。樺太は氣候の關係上農産は振はず、林産最も盛にしてこれを原料とするパルプの生産は全國の王産を占めるも、今後は封鎖炭田の開發により石炭の産出も増加するであらう。

水産に至りては我が國は實に世界の王座を占め、その産額は昭和十四年の漁獲高六億圓である。我が國の水産が盛なる所以はいふまでもなく四面環海、且つ寒・暖流が近海を洗ふためであつて、漁業は我が國の到る所に行はれ、我が漁船は遠くオホシツク海や南極圏にも活躍してゐる。而して沿海の魚族だけでも現在及び將來に互り無盡藏であるから、假令今次の大東亞戦争が幾年續いても、恐らく魚類の甚しき缺乏はあるまい。

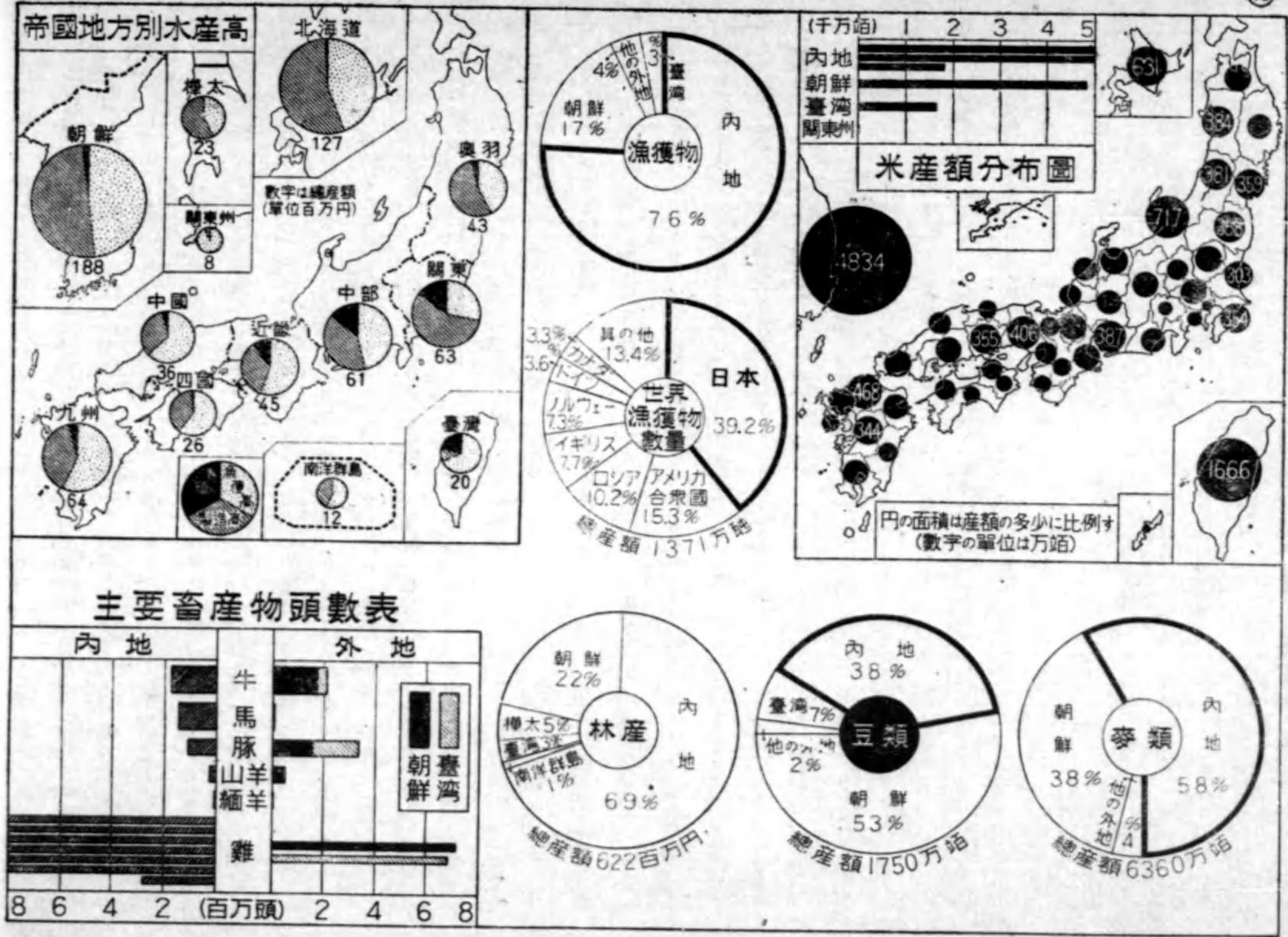
畜産は我が國産業中最も後れてゐる部門で、これは古より家畜を生活資料として仰がざりし情性であつて、今後大いに發展を圖らねばならぬ。牛・馬の數も歐・米列強に比し遠く及ばないが、殊に内外地を通じ羊類の少きことは非常の缺陷であつて、假令氣候上の不利ありとしても必ずこれに打克ち、これを増殖しなければならぬと信ずる。

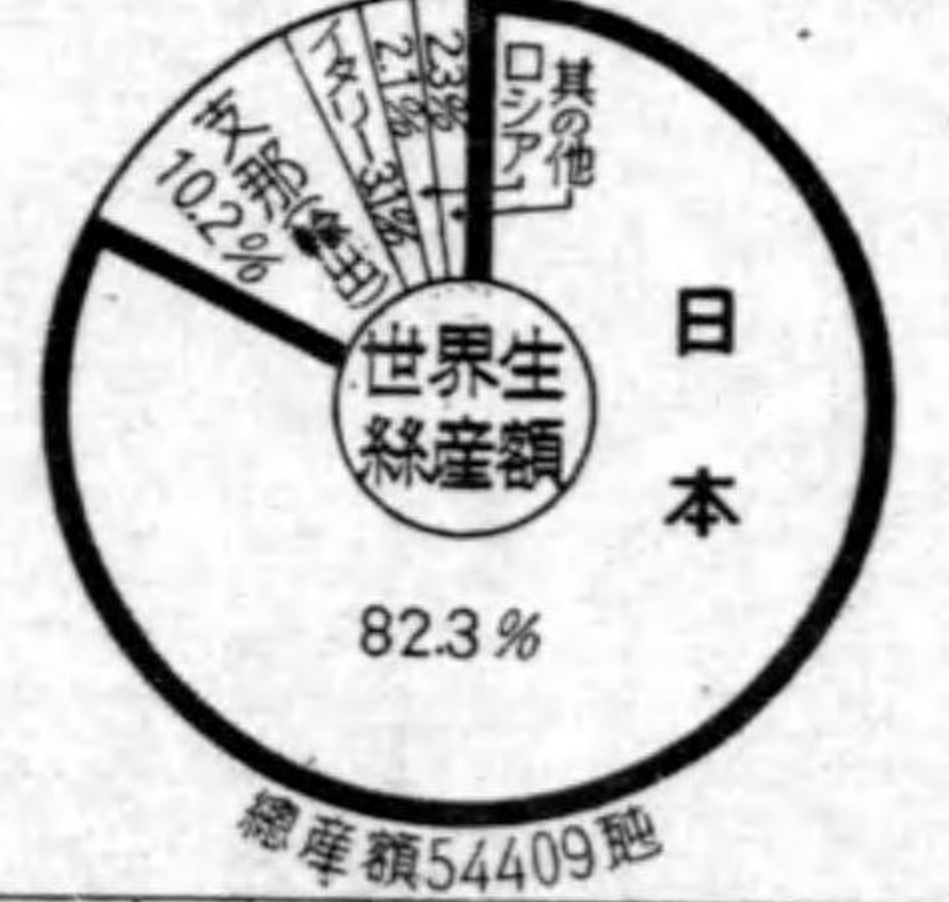
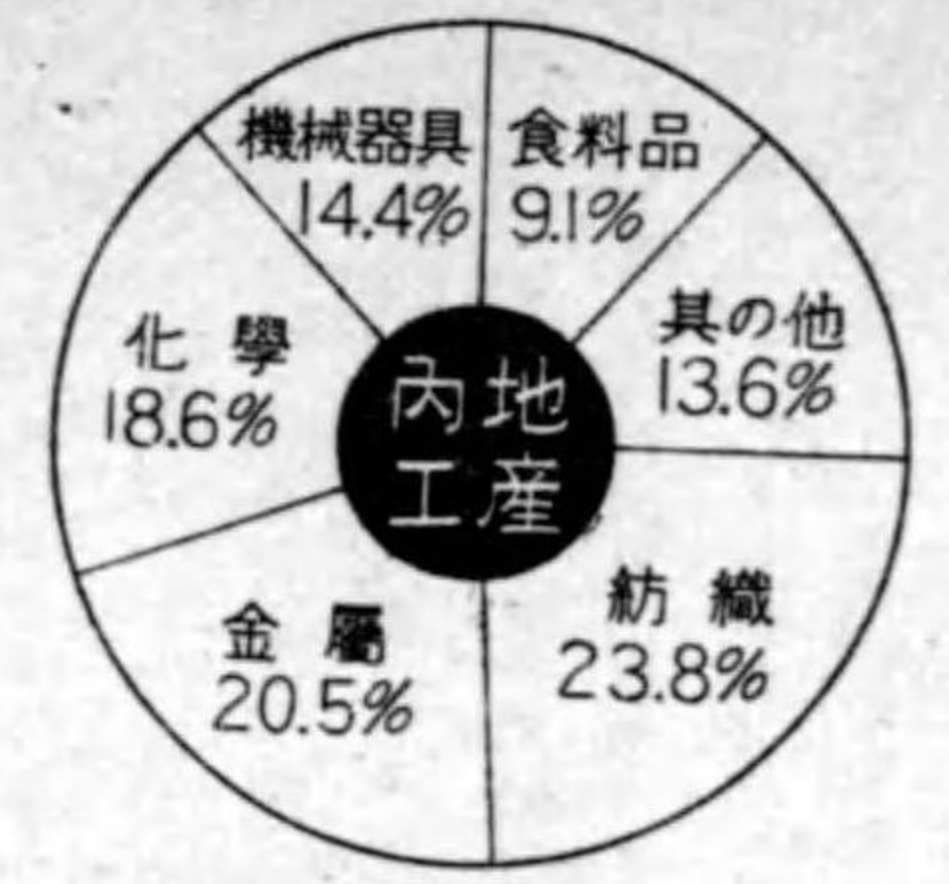
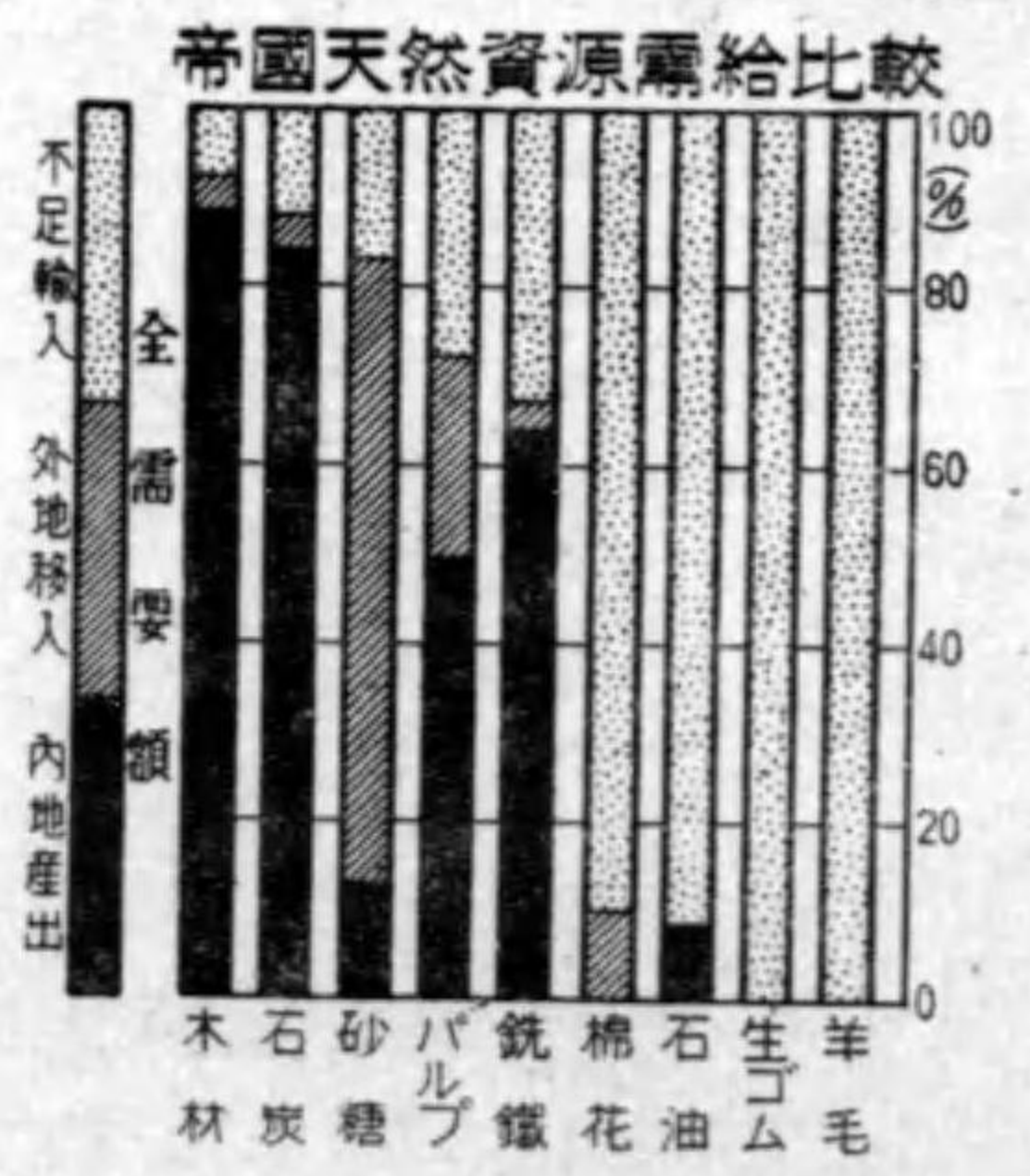
次に林産を觀るに、列強中我が國程各地に森林の分布する國はないが、地形が急峻なるため國土保安の必要上伐採率少き憾みがある。用材・薪炭材は今日殆ど自給自足の域に達してゐるが、一方製紙の需要増大するにつれ、國內の木材のみにては到底所要パルプの原料を充たすに足らず、パルプ用材は他の代用品や外地・滿洲の資材に仰がねばならぬ。

外地とも餘り大なる進境はない。

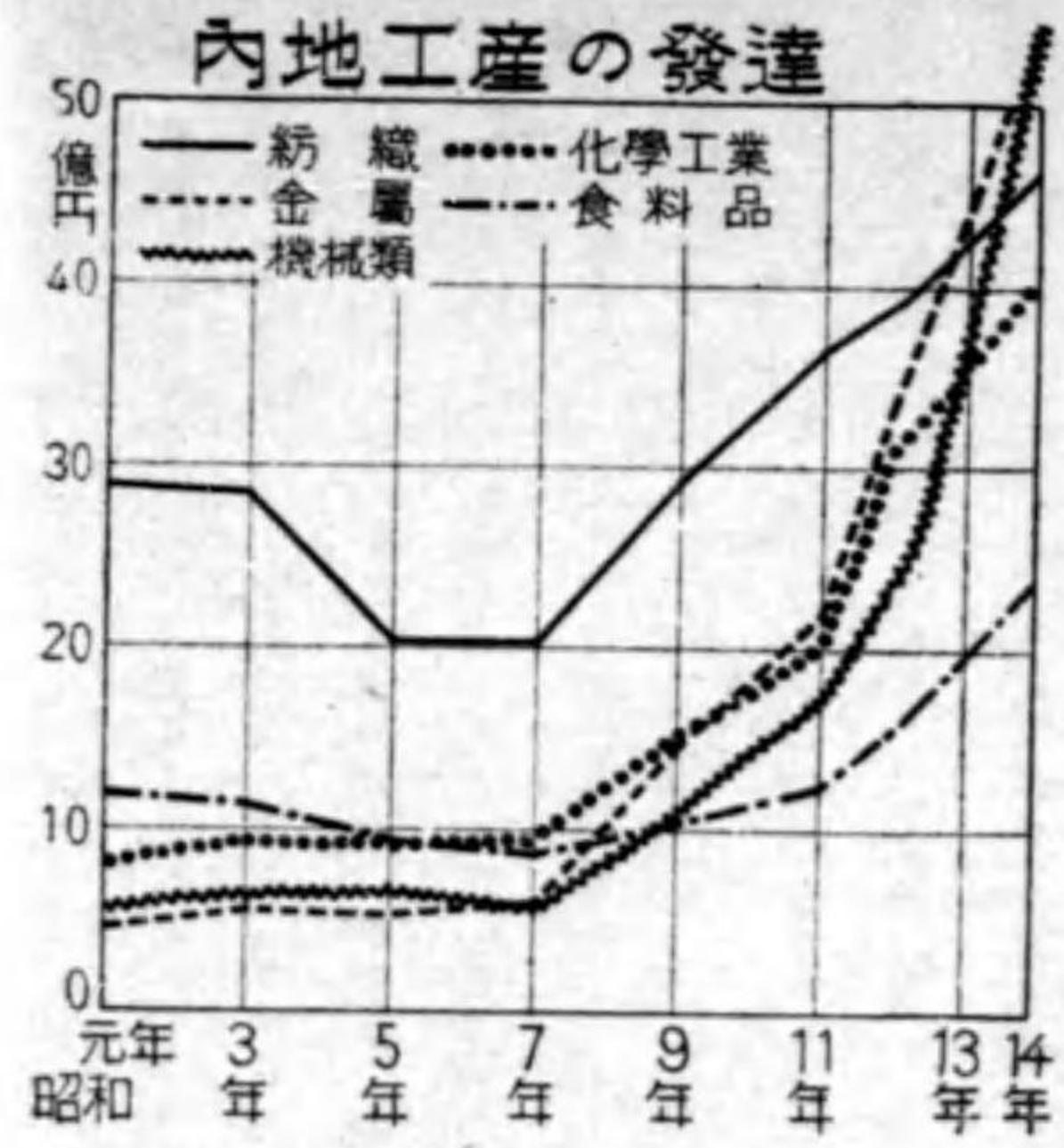
農業は古來我が國の基本産業であつて、國民勤勉の美風もこの農業によつて培はれたというても過言ではない。農業の中樞をなす米作は、米が元來インドを原産とする熱帶植物であるにも拘らず、今日全國到る所に産し遂に北海道にまで及んだことは、假令米の氣候馴化性の強きにもよるが、主として我が農民の勤勉努力の結果である。近年我が内地米作の收穫率が増し、明治二十八年と昭和十四年を比較すると反當り一石四斗五升(二・六斗)より二石二斗(三・九六斗)に増加し、これを指數にすると一〇〇に對する一五一に進んでゐるのも、また農民の勤勉と農法改良によるものである。併しながら内地は今や擴張すべき耕地少く、過去四十五年間に米田は僅かに一割二分を擴張したるに過ぎない。これに對し、人口は四割二分の増加であるから、假令今後農法の進歩により若干收穫の程度を加へ得るとしても、耕地増加率と人口増加率との不均衡は到底補ふべくもない。こゝに於て今後は内地の増産を圖ると共に朝鮮・臺灣及び滿洲や南方諸地域に俟つことが大きい。唯内地に於て近年小麥が非常の増産をなしつゝあることは人意を強うするに足る。豆類は内地とも餘り大なる進境はない。

我が國の原始産業





| | 0 | 2 | 4 | 6 | 8 | 10 |
|---------|--|---|---|---|---|----|
| 日本 | [Bar chart showing Japan's production] | | | | | |
| ドイツ | [Bar chart showing Germany's production] | | | | | |
| アメリカ合衆国 | [Bar chart showing USA's production] | | | | | |
| イタリー | [Bar chart showing Italy's production] | | | | | |
| イギリス | [Bar chart showing UK's production] | | | | | |
| フランス | [Bar chart showing France's production] | | | | | |



我が國の鐵工業

我が國は地質の變化に富み且つ所々に火山帯が通じ、地下鑛物の进出を容易にするため古來鑛物は各地に産し、殊に金の産出は豊富であつて、これがマルコポーロによりて歐洲に喧傳せられ、遂にコロンブスの世界探検となつたといはれてゐる。今日は世界の他の地方に大産金地方が出現し、産金國として我が國の地位は低下したが、銅の産出に於ては世界第六位にあり、その他石炭・鐵・亜鉛・硫化鐵・石油等諸種の鑛物を出してゐる。併しながら我が國の地質は地史上屢々變動を受けたため、鑛床が斷絶し大鑛脈の發見せらるゝことが稀である。殊に近代文化國民生活に最も必要な鐵及び石油はその産出が少く、石炭は稍多量であるが品質は優良でない。要するに鑛物資源の量は遺憾ながら貧弱であつた。然るに近時幸にも朝鮮に有望なる金鑛が續々開發せられ、滿洲には鐵・石炭が頗る豊富であつて、これに我が國の勢力下にある北支及び南方攻略地方の諸鑛物を加ふれば、近き將來に於て我が國は重要鑛物の自給をなし得ると信ずる。また石油に至りては大東亞戰爭の勝利に伴ひ錫と共にその供給が甚だ潤澤となつた。

次に工業を大觀するに、我が工業は最近まで紡織工業を主とする輕工業が行はれ従つて工業品は専ら婦女子の手に成りしが、近時金属・機械器具・化學工業等の躍進が目覺まし、これ等を合して昭和十四年の内地工業産額は實に二百四十億圓の多きに及んでゐる。併し他方その工業原料を顧みると、常に大なる不安を感ずるのであつて、羊毛・ゴムは殆ど全部を外國に仰ぎ、棉花も帝國内の産出は甚だ乏しく、銑鐵・バルブ・砂糖も輸入に俟つ部分が多くなかつた。大東亞戰爭によりゴム・砂糖の供給は豊富とならうが、他の原料はまだ十分でなく今後の努力に俟つべきである。

我が國の工業につき吾人の意を強うするものは、我が工業技術が卓越し勞務者賃銀の低廉と相俟つて、今や世界の何れの國と競争しても決して負けないといふことである。紡織工業に於て我が國が斷然秀でてゐることは周知の事實であつて、世界の生絲市場は殆んど我が國が獨占し、綿製品はその發祥地であるイギリスにまで輸出せられてゐた。人絹工業に至つては現大戰前、先進國たる歐米諸國を凌いで世界第一位の生産を示してゐた。殊に注意すべきは、我が國人絹業の異常なる發達が、藥品利用法の優秀に因ることであつて、この事實は我が國化學工業進歩の將來を示唆するものである。

更に機械器具の製作を觀るに、我が國の造船及び航空機製作の技術が卓越しゐる事は、自他共に許すところであつて、大東亞戰爭を完勝するに當り大に意を強うするところである。

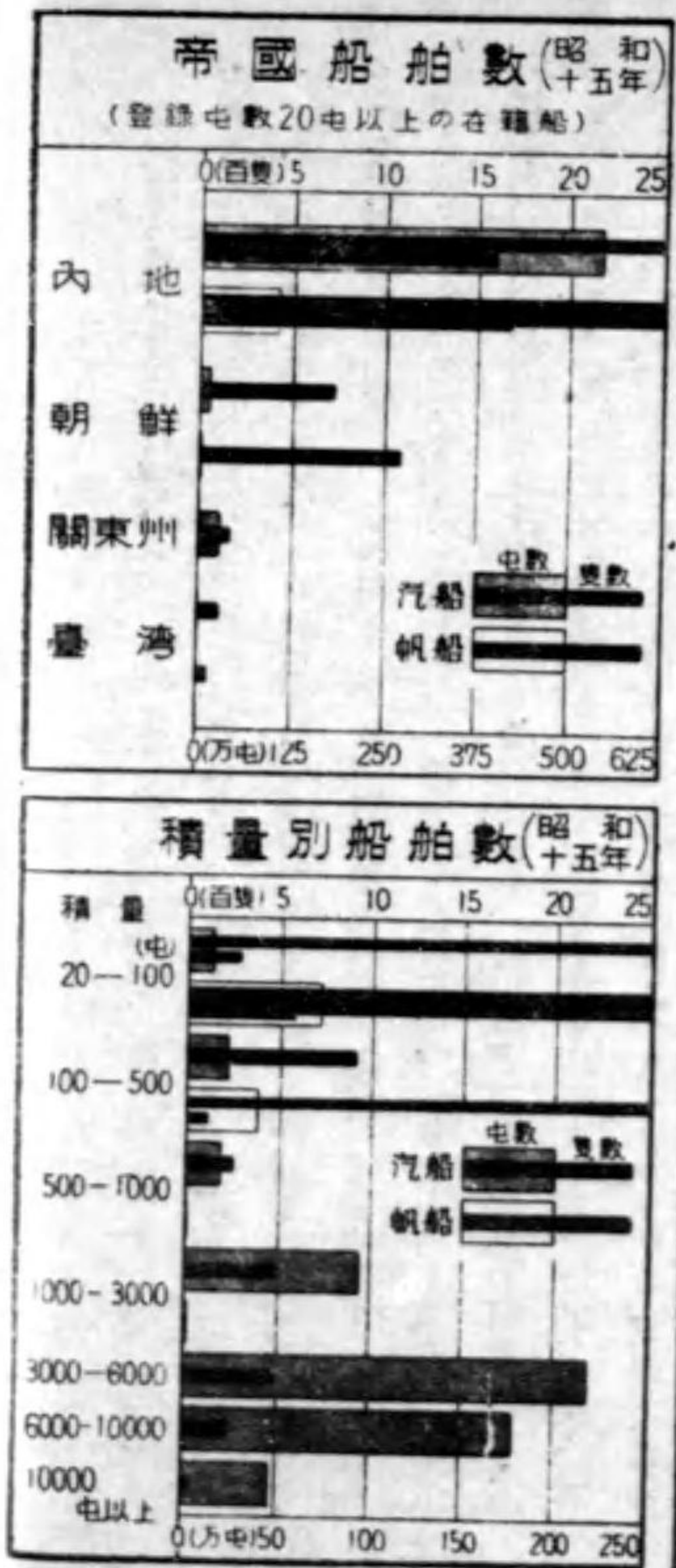
地球表面の四分の三は海洋の占むる所であり、世界貿易の四分の三もまた船舶によつて行はれるのである。而かも海洋は陸上に比し遙かに容易且つ低廉な交通路で、経済學者リストのいふ如く「地球の公道」に属する。我が國は海洋帝國たる地理的關係と國民が海洋的民族たることと相俟つて、海運の發展には他に類を見ざる程有利な環境を與へられてゐる。されば夙に戰國時代から八幡船があり、その後御朱印船等によつて活躍したのであつたが、これは徳川時代以降鎖國の禍を受けて一時停止の已むなきに至つた。併し明治の開國と共に再び急激に發展して明治三年末に於ては二十噸以上の内地在籍汽船總數は僅に三十五隻・二萬五千噸に過ぎなかつたものが明治二十六年末には早くも四百隻・十七萬噸となり、當時のロイドレジスターによれば既に世界第十一位の世界海運國となつてゐたのである。その後は一戰役を経る毎に國力の膨脹に伴つて海運は夫々一つの飛躍的段階に達してゐる。即ち日露戰爭後の明治三十八年末には千四百隻・九十三萬噸となり、世界第六位に跳躍し、第一次世界大戰後の大正九年には三千隻・三百萬噸に達し英・米に次ぎ世界海運國の第三位となり、大東亞戰爭前五千二百隻・約六百萬噸の多きに及んでゐる。僅か半世紀間にかゝる躍進を爲した國家は世界海運史上稀に見る所といはねばならぬ。

我が國の造船は近年政府の助成金交付等の奨励により大に發達しその技術も世界の水準を抜く優秀さがあり、最近造られた新田丸が太平洋横斷最短時間のレコードを作りし如きその一つの現れに外ならぬ。唯我が船舶(客船)はその航路が大西洋の如き股賑水域に少いので、歐米諸國に見るが如き七・八萬噸の巨船の無いのは物足らぬ心地はするが、これは寧ろ建造の必要なきことの結果である。

これ等の汽船は通常社船(日本郵船及び大阪商船)と社外船(以上二社以外のもの)とに分けられその割合は三對七であつて、現大戰前社船には政府の命令航路に従事し定期船を營むものが多く、これに反し社外船は概ね不定期貨物船として廣く世界の海洋へ活動してゐた。而してこの遠洋航路の擴充は外貨獲得上からも重大であつて、これ等の海運による收入は近年三億圓以上に及び國際收支の上に偉大なる貢獻をなしてゐた。

我が汽船の長足の進歩と共に帆船の多いことは我が國の一大特色であつて、我が帆船はその隻數に於てもその噸數に於ても世界第一である。これは我が國が四面環海で交通上小帆船の必要なほか沿岸漁業の盛なことが漁船數を非常に多からしめてゐるからである。唯我が國の帆船は歐米諸國に比し小型であるので、遠洋に於ける交通には適せず、運輸上の量的價値は多くないといへよう。

我が國の海運



大空を飛翔せんとする人類の憧れは何れの國にも古くより存在し、歐洲にては第十五世紀の末レオナルド・ダ・ヴィンチが先づ考案したが、我が國でも徳川時代既にその着想はあり、明治二十七年に至りかの二宮忠八が甲蟲型の飛行機を發明した。その後歐米に於ける飛行機の發明により、その技術を學んだ徳川好敏・日野懋藏の兩大尉がフランスから歸つて明治四十三年初めて歴史的の飛行に成功し、翌四十四年には奈良原三次氏が最初の日本製飛行機によつて六十米の飛行に成功してゐる。その後第一次歐洲大戰によつて歐米の航空界は異常な刺激を受け、一九一八年定期航空路が開けたが、我が國の航空界はさまで著しい發展を示さず、大正十年朝日新聞社が率先して東京・大阪間に定期空路を開いたが、當時はなほ郵便物の輸送に止まつてゐた。然るに列強の急速な航空事業の進展に促されて、昭和三年日本航空輸送株式會社が政府の援助の下に設立され、滿洲事變以來一層國內外に亙る定期航空路の擴充を必要とし、今や該會社は大日本航空會社と改稱せられ、内外空路を一元的に經營して國力進展の第一線に立つてゐる。

抑々航空なるものは現代の世界に於て何れの國にも交通上必須のものであるが、我が國には殊にその必要を認むる。即ち航空は立體交通であるため他の水・陸運の如く、陸地には垂直・水平兩地形の如何によりて影響せられることなく、隨意の二地點間を直線的に結び得るから、山岳重疊し岬灣の出入の多き我が國にては、これにより紆餘曲折を餘儀なくする陸・海運の困難を、航空によつてのみ避け得られるのである。

現大戰前國內の航空網を觀るに、北は北海道より南は臺灣・南洋群島に及び、國外に對しては滿洲・支那にまで擴充せられそこに於て夫々邦人の運營する滿洲航空・中華航空と聯絡を保つてゐた。更に近時我が國力の發展は西南方の佛印・タイ國に至る空路をも開くに至り、南進國策の先鋒となつてゐた。またバラオから葡領チモール島に至る空路も既に開拓せられた。大東亞戰爭開始以後この地方と我が國の航空交通が盛となつたことは當然である。

最後に注意すべきは我が國の航空業と氣象との關係である。我が國は周知の如く氣象の變化に富み、冬は西北風が吹き荒み、夏秋は屢々颱風に襲はれる。平時に於ても地形の關係上、エア・ポケットは隨所に存在し、悪氣流の點では世界的に著名な國であり、雨量の多いことも屢々航空に障害を與へる。併しこれ等の困難は航空技術の進歩によりて十分に克服せらるゝと信ずる。況んやこの自然的惡條件と常に戰つてゐる我が航空戰士は、自然に獨得の技術を會得する利益がある。而かもこれ等の氣象上の缺點は時ありて國防上にも役立つことなしとも限らず、暴風は必ずしも元寇の役のみの神助ではあるまい。

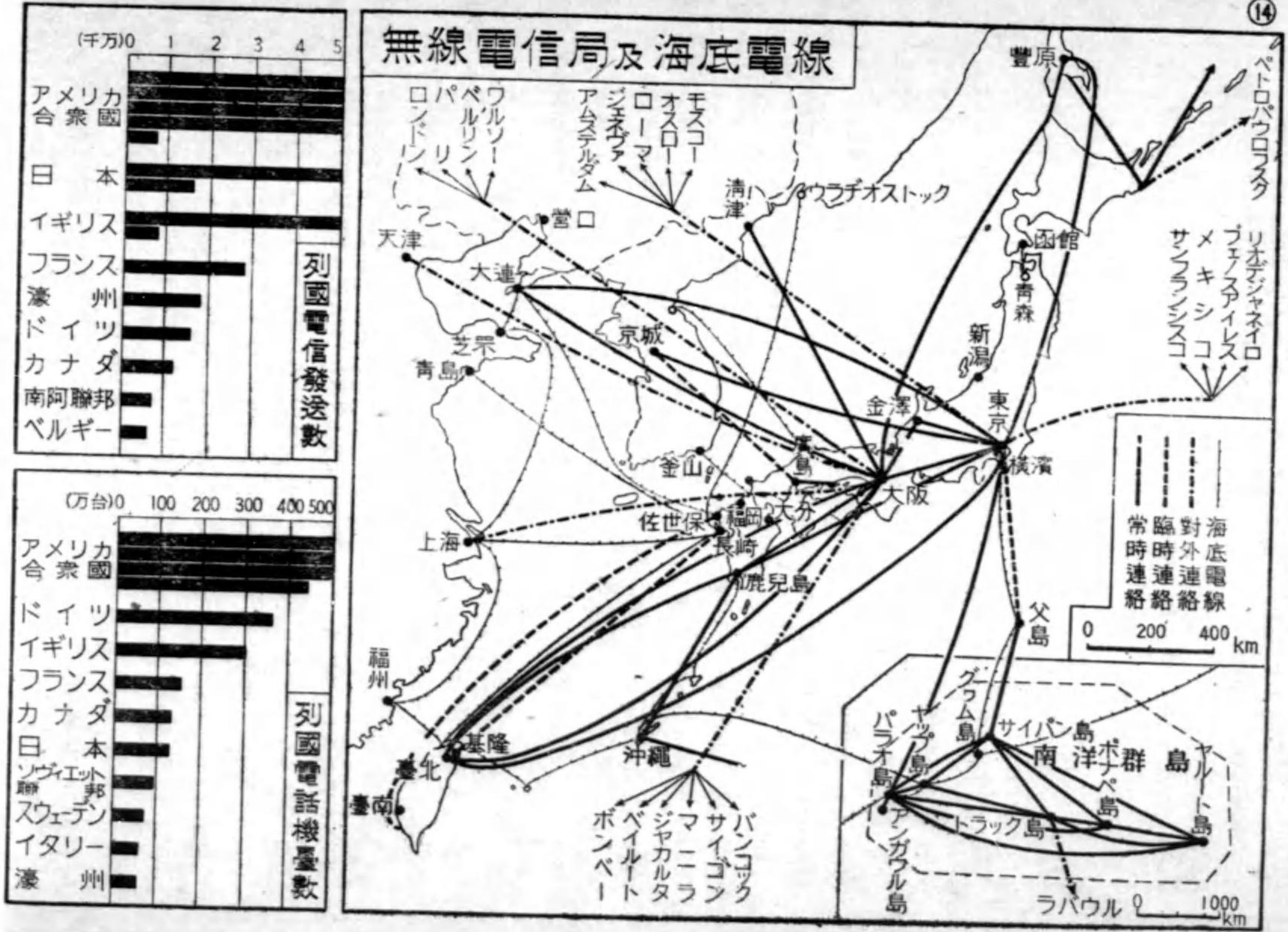
電氣の世界は日本と全世界とを瞬時に結び付けしめる。従つて海底電線が一八四八年ドイツのウエルネル・シーメンスによつて發明せらるるや、直ちに各國の利用する所となつた。我が國に於てもその地形上、内地の陸上線・海底線は早くから利用されたが、對外通信は明治初年我が國力の不十分な時代に長崎に根據を得たデンマークの大北電信會社の支配する所となり、上海及びウラジオストックに海電を通じ、これは更に英國その他の會社線に伸張せられる状態であつた。この事は通信の機密保持の上からも問題となるのみならず、多額の電報料が外國會社の手に歸する結果となるので、これが自主權回復は我が國多年の希望であつた。昭和十五年に至り遂に大北電信が永年の權利を返上する事となつたのは、國力發展に伴ふ當然の結果とはいへ、慶賀すべきことであつた。併しなほ太平洋方面並に南方諸地域への海電は英・米・蘭諸國の布設したものであつたが、現大戰の結果我が手中に歸した。

海底電信は全體的に觀れば、今日無線電信の發達によつて、昔日の價値を失はんとしてゐる。無線電信は一八九五年イタリーのマルコニが發明したものであるが、電波が他によつて傍受せらるゝ危険に注意さへすれば、凡ゆる有線電信に勝るから、各國は競つて大無電局の建設に努力し、ラジオの發達と相俟つて今日の如き無線萬能時代を現出するに至つた。實にそれは電波一閃すれば忽ちにして世界の輿論をも動かす得る強力な總力戰の武器であるのみならず、船舶・航空機等の運輸を安全ならしむる一大支柱となるからである。

無電局には移動業務に従ふものと、固定業務に従ふものとがあり、前者は船舶及び航空機内の無電局及びそれと通信する海岸無電局・航空無電局等が屬し、我が國の海岸局は落石・銚子・長崎等が著名である。後者は一般に國際的通信に従事し、我が國では東京（送信所小山、受信所上福岡）、大阪（送信所依佐美、受信所小野）の二大無電局がある。更に一言すべきは近年に於ける國際無線電話の發達である。これは一國內の有線電話系統を海洋乃至大陸を隔てる他國の有線電話系統に無線を以て接続せしめるものであるが、一九二七年ロンドン・ニューヨーク間の通話に成功してより、急激に世界の文明國間に擴充せられ、一層地球をして狭小ならしめた。今日我が國に於ても、居ながらにして東亞共榮圈内は勿論、歐米各國の主要都市とも通話し得られる状態にあるのである。

なほ一般電信電話の進歩に於て我が國は、人口數に比すれば必ずしも歐米諸列強に優つてはゐない。殊に電話機數はその絶對數に於ても國民數に對比しても、まだ甚だ遜色あるは遺憾である。

我が國の電信・電話



明治以後の我國勢の急激な進展は貿易の上にも如實に反映してゐる。今内地の貿易について觀察すると、明治元年の貿易額は輸出入合計二千六百餘萬圓に過ぎなかつたが、日清戦争以後急速に増大し、日露戦争後には十億圓を越え、第一次世界大戦によつて更に拍車をかけられ、大正の後期には四十億圓以上上つた。その後昭和四年來の世界恐慌に際しては一時衰へたが、昭和六年以後再び金輸出再禁止による爲替の下落に伴ひ、我が商品の販路は世界各地に擴張せられ、最近は更に大東亞經濟ブロックの形成と外貨獲得のための政府の統制により、昭和十四年度では實に六十五億圓といふ巨額を示すに至つた。

輸出入の均衡は大體に於て永らく入超を續けて來たが、昭和六年以後やゝ均衡を得、昭和十四年度では六億六千萬圓の出超となつた。併しこれは所謂圓ブロック向輸出の激増によるのであつて、第三國向けの貿易では四億圓の入超となつてゐた。大東亞戦争開始後これ等の貿易に大變化を來せしは勿論である。

次に貿易品目について觀ると、明治初年には生絲・蠶卵紙・茶等の原始的半製品を輸出し全製品を輸入してゐたが、國內産業の發展に伴つて次第に變化し來り、近年では全製品の輸出は全體の六割弱、原料用製品を合すれば八割以上となり、また輸入ではその半が原料品であつて、工業國としての性格を如實に現はしてゐた。而して輸出品の中では生絲・綿織物・人絹織物等の輕工業製品が未だ優位を占めるが、近年の重工業の躍進に伴ひ機械器具の割合も次第に増大し、化學製品もまた著しく發展せんとしてゐた。輸入品は棉花を初め石油・鐵・羊毛等の我が國不足資源がその大部分を占めてゐたのは明かである。

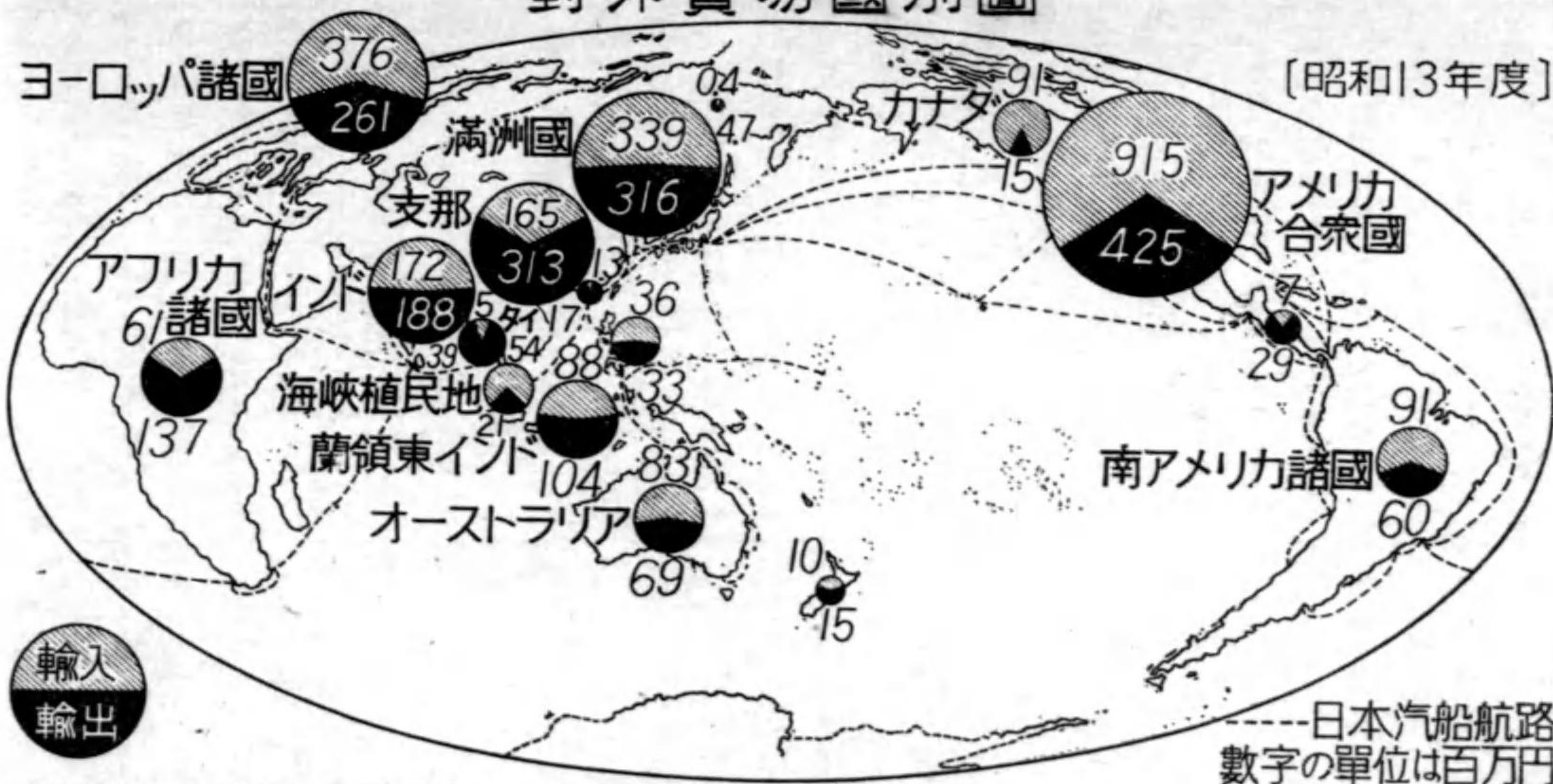
更に貿易の相手國を考ふるに、貿易開始以來七十年の間には相手國にも種々な變遷があつた。即ち明治初期では開國當初の關係等からヨーロッパを第一とし、アメリカ洲これに次ぎ、却つて近隣のアジア諸國とは殆ど見るべき貿易がなかつた。その後前述の如く輸出入品の性質が轉換したゝめ輸出ではアジア・中南米・アフリカに新市場を開拓し、輸入に於ても英佛等の工業國を離れて米國・インド・濠洲等の原料國を主とするに至つた。この傾向は滿洲事變・支那事變を経て益々顯著となり、昭和十四年に於ては圓ブロック向けの輸出は第三國向け輸出と殆ど匹敵する數字を示してゐた。併しこれらも大東亞戦争の完遂によりその相貌は一變されよう。

以上は主として内地の貿易に關する叙述であるが、外地たる朝鮮・臺灣等にも外國との直接貿易はあり、外地貿易の全額は約五億七千萬圓（昭和十四年）で、その額は少いが何れも皆輸出超過をなしてゐたのは心強いことである。

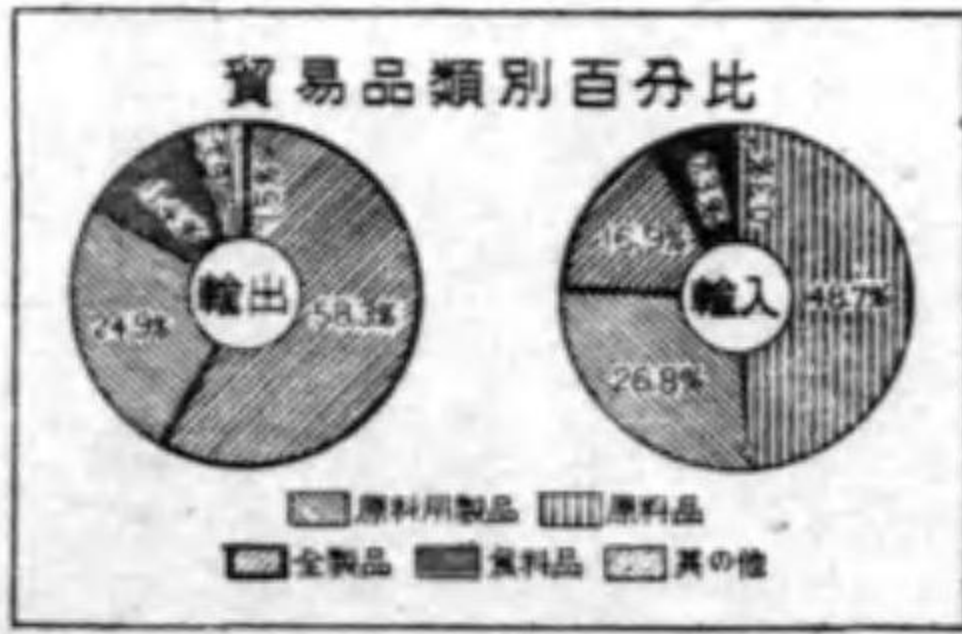
帝國の貿易

對外貿易國別圖

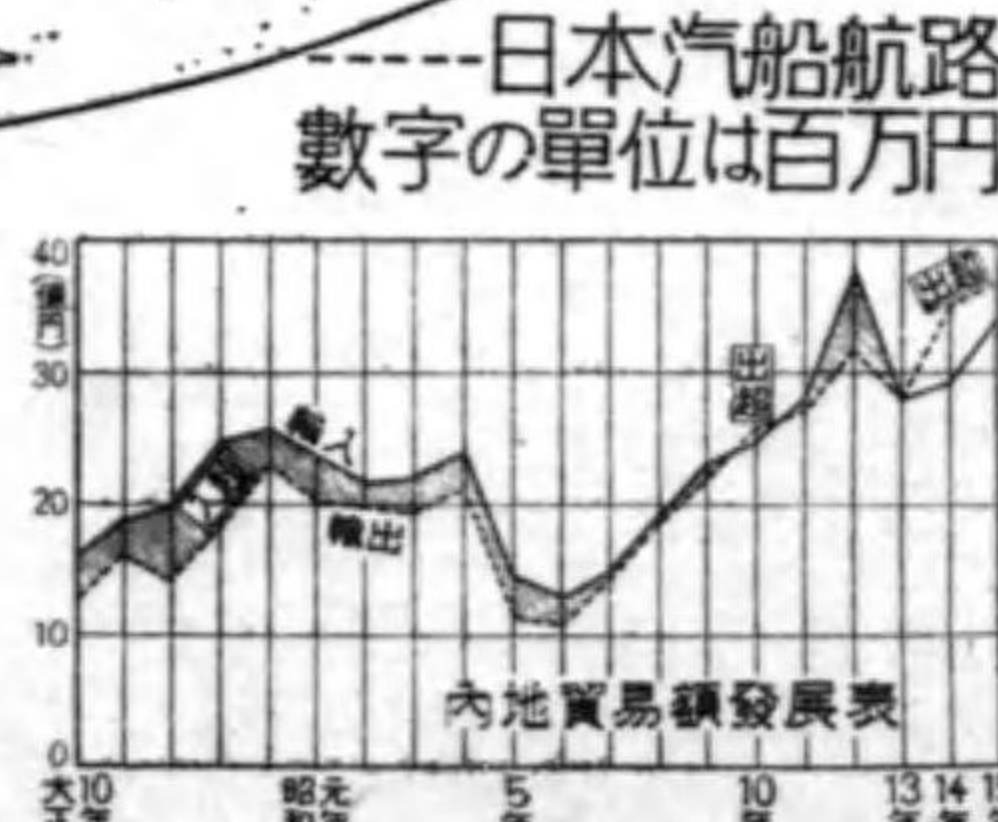
[昭和13年度]



輸入
輸出



| 年 | 内地 | 外地 |
|-------|------|-----|
| 昭和10年 | 2.0 | 1.0 |
| 昭和11年 | 4.0 | 2.0 |
| 昭和12年 | 6.0 | 3.0 |
| 昭和13年 | 8.0 | 4.0 |
| 昭和14年 | 10.0 | 5.0 |



東亞共榮圈内諸國圖



大東亞共榮圈



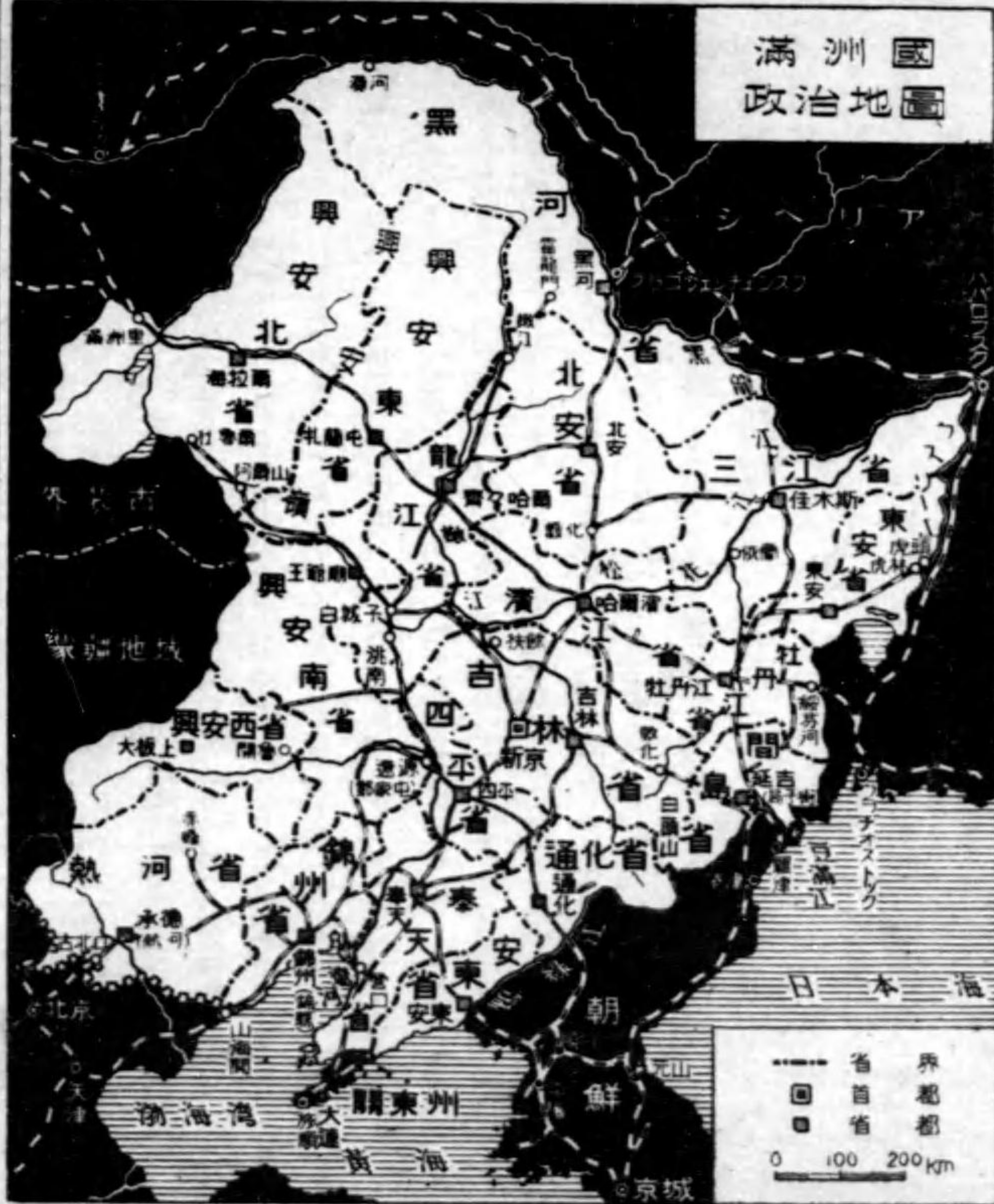
所謂大東亞共榮圈は日本を中心として、北は滿洲國より支那本部を経て南は佛領インド支那・タイ國・ビルマ・マライ半島・フィリッピン及び舊蘭領東インドの島嶼を包攝する地域であつて、東西の經度・南北の緯度共に約六十度に亙つて擴がつてゐる。この地域は地理學上より觀れば、大陸部は崑崙山系と天山山系との末端とそれより更に延びるインド支那山系の地域であつて、その南方にスマトラ・ジャワ・ボルネオ等の諸島嶼を現出してゐる。即ち共榮圈地方はアジア洲の東部を占め、比較的新しい地質時代に生成したもので地殼もまた脆弱である。殊にマライ・舊蘭印・フィリッピンを経て日本列島・カムチャッカに亙る大東亞の周邊地域は、環太平洋火山帶の一部として地質上の弱線の通過する所であり、多數の火山は到る所に噴出し、時々激烈な地震は各地方を襲ふ。これ等の災害は古代からこの地域に住む人々が共同に感得し來つた現象であるから、今日の東亞共榮圈は即ち東亞共榮圈に外ならないのである。故に大東亞の住民は自然的にも類似の運命を共にすべき状態の下に置かれてゐるといへよう。

更にこれを歴史上から觀ると、今日東亞共榮圈に屬する各地方は非常に古くから住民の交渉が行はれ、支那人は漢代から東海及び海南諸國としてこれを知り、元・明以後は政治上・經濟上の關係が濃厚となり、今日の所謂華僑もこの頃よりこれ等地方に移住した。我が國は滿・支との關係はいはずもがな、南方諸地方へは足利の末期以來交渉が始まり、呂宋・暹羅には我が國人の來住するものあり、徳川時代に入りては彼の朱印船の制により通商が行はれ、暹羅には山田長政等の活躍があり、またオランダとの通商に伴ひ邦人は遠く爪哇に移住するに至つた。爾來二百餘年我が國と南方諸國とはオランダを仲介として貿易上の連繫が絶えなかつた。近年に至りこれ等諸地方には歐米諸國の勢力が浸潤し、却つて我が國との交渉を妨ぐる方針を採るに至つたことは遺憾であつた。

次に政治・經濟上よりこの共榮圈を觀察すると、政治上では大東亞戰爭前五つの獨立國・半獨立國と五つの植民地とより成立つてゐたが、これ等の植民地は何れも本國との距離が遠く、今までの如く本國がこの地方の制海權を握つてゐる間は安全であるが、一旦制海權を失へば到底これを維持し得ざることとは明かであつた。これは今次の戰爭により如實に證明せられた。

他方經濟上より觀るに、これ等の地方は所謂一廣域經濟をなし、而かも各地方が非等温線的であるため物産の種類を異にし互に有無相通する必要があるから、大東亞に屬する民族は經濟上互に密接に結合することにより、人類生活の理想たるべき共存共榮を來すのである。東亞圈内の七億の民衆はかくして幸福を味ふことが出來よう。

滿洲國 政治地圖



滿洲主要鐵道延長比較

| 鐵道名 | 延長 (km) |
|-----|---------|
| 京奉線 | ~1000 |
| 平漢線 | ~800 |
| 津浦線 | ~700 |
| 石太線 | ~600 |
| 石長線 | ~500 |
| 石濟線 | ~400 |
| 石張線 | ~300 |
| 石唐線 | ~200 |
| 石德線 | ~150 |
| 石滄線 | ~100 |
| 石邢線 | ~50 |
| 石衡線 | ~50 |
| 石開線 | ~50 |
| 石邯線 | ~50 |
| 石衛線 | ~50 |
| 石安線 | ~50 |
| 石邯線 | ~50 |
| 石衛線 | ~50 |
| 石安線 | ~50 |

滿洲國の成立と政治

今日の滿洲國の地域には古來ツングース族を主とする多様の種族が住み、漢族の住する支那とは全く異つた存在であつたが、漢族は秦の始皇帝以來これ等の東胡に對し、萬里の長城を築いてその侵入を阻止してゐた。近世に至り滿洲族が支那の明朝を滅ぼし清朝を樹て滿洲は支那と同一統治下に入つたが、滿洲には明・清時代を通じなほ邊疆を作り封禁政策により漢・滿兩族の分離を圖つた。かく滿洲の民族と漢族とは互に相排擠する歴史を有してゐた。今日滿洲が支那と分離して獨立國となりしことは決して不自然ではない。

清朝統治下にあつた滿洲は東三省と稱せられ特殊の政治が布かれたが、清朝の衰勢に乗ずるロシアのために漸次蠶食せられ、ロシアは遂に我が國をも脅かすに至つたので日露戰爭となり、滿洲は一時我が國の勢力下に置かれた。併しその後東三省の統治者は漸次排日侮日をなせしめたため茲に昭和六年滿洲事變が勃發し、七年新國家滿洲國が生れ清朝の末帝が迎へられて執政となり、昭和九年に皇帝に推戴せられた。これ等最近の政治上の變動は我が帝國の滿洲への進出となり、今日我が國と滿洲國は政治上の同盟は勿論經濟上の連繫が甚だ密であつて、兩國は警備輔車の關係に立つてゐる。世界に於ける滿洲國の地位は漸次向上し、今日では既に十三ヶ國の承認する所となつた。

現今の滿洲帝國は面積百三十萬方呎の大國であるが、東北西の三方はソ聯邦・支那領土によりて圍まれ、而かもその境界は要害となる地物なく國防上には常に内線作戰をなす必要があり、この意味に於ても我が國は滿洲國の防衛に多大の努力を要する。現在國內が十九省に分れてゐる。

滿洲國の鐵道

滿洲に於ける鐵道は日露戰役前はロシアの東清鐵道、イギリスの北寧線（山海關・奉天間）合せて約二千八百軒に過ぎなかつた。日露戰役後東清鐵道の南部は我が國の有となり北寧線は國有に移されたが、線路の擴張は餘り大ではなかつた。然るに滿洲國建國以來は非常なる飛躍をなし、滿鐵線並びに滿鐵が滿洲國に於て建設せし國鐵線、及びロシアより滿洲國が昭和十年買収せし北滿鐵道（元の東支鐵道の一部）を併せて今日では優に一萬軒以上に達した。これ等の鐵道は産業開發と國土防衛を目的としたものであつて、滿鐵の犧牲的努力は頗る大なるものがあつた。滿洲の鐵道は現今四方の國境に對して多くの線路を延ばしてゐるが、殊に注意すべきは北支那との關係である。支那事變前までは滿洲と北支との交通は唯一つの奉天線（前の北寧線）によりてなされてゐたが、最近熱河・古北口線の開通により、滿洲國は直ちに北支の中樞たる北京・內蒙古と結び付くことが出来、これにより政治上軍事上滿洲國及び我が國は隣接外國に對し非常に有利の態勢となつた。

我が内地の人口の稠密に比し滿洲國の稀少なることは我が國民の滿洲への移住を促進し、他方これによりて滿洲産業の開発國土の防衛の任務を盡すので一石三鳥の利益がある。

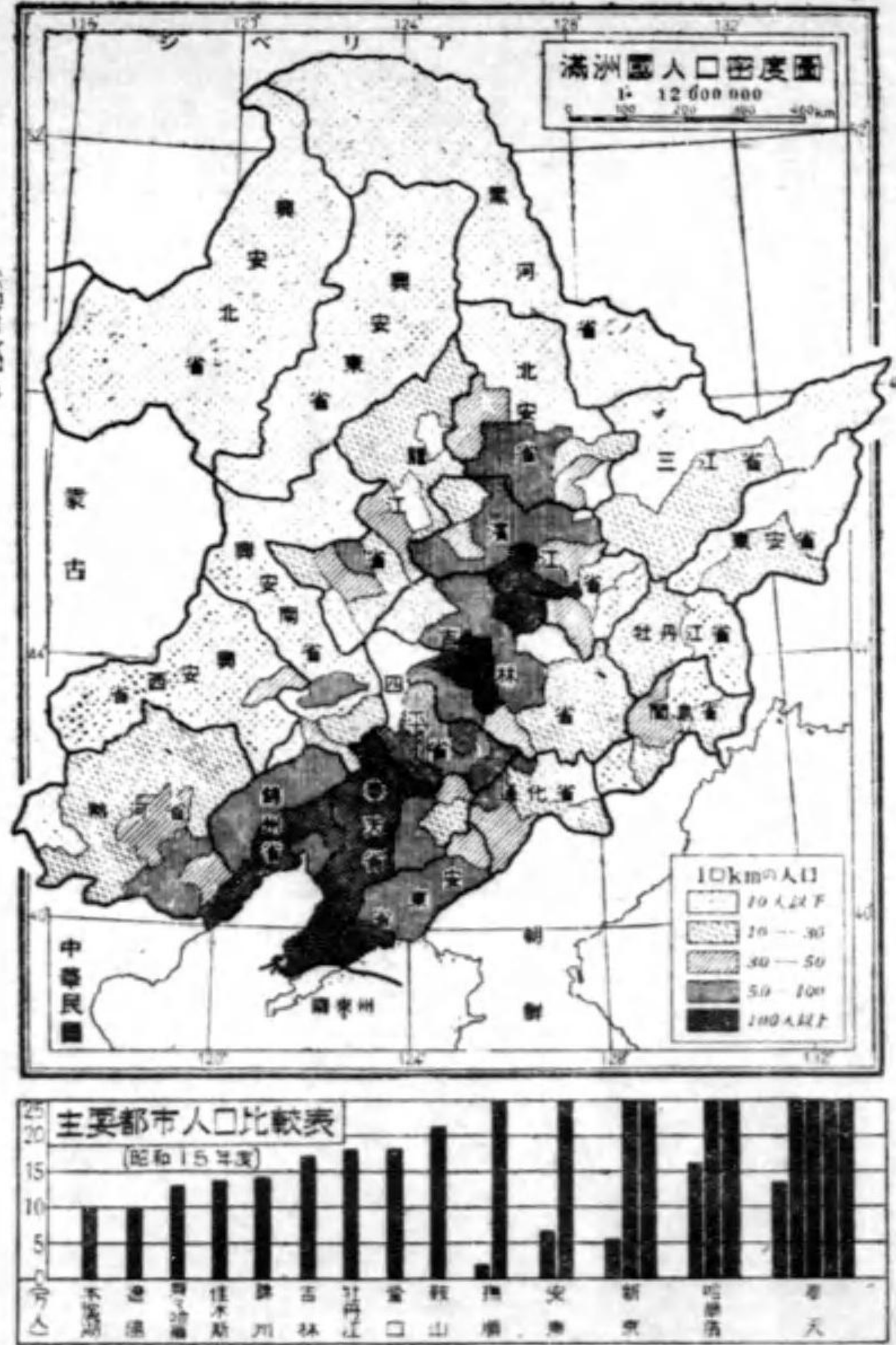
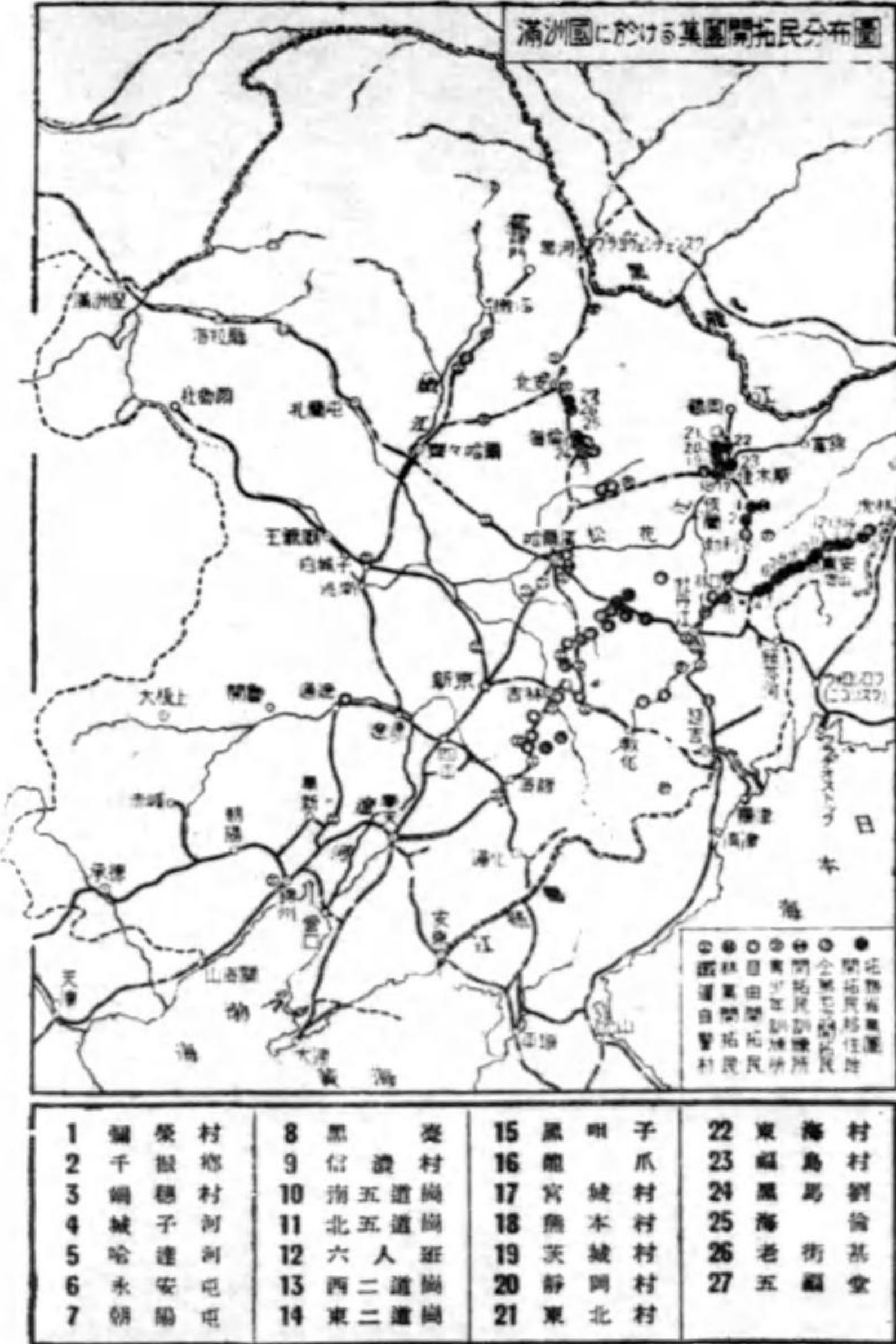
我が國民の滿洲に於ける移住は勿論久しい以前から行はれてゐたが、集團をなした計畫的な滿洲開拓民の初めは滿洲事變直後の昭和七年であつた。その後昭和十一年日滿兩國政府の協定により、同十二年以降所謂二十ヶ年百萬戸大移民案の實施を見るに至つた。これは即ち二十ヶ年後に於ける滿洲國の人口を五千萬と推定し、その一割即ち五百萬人（百萬戸）を我が開拓民によつて充當せしめんとするものである。

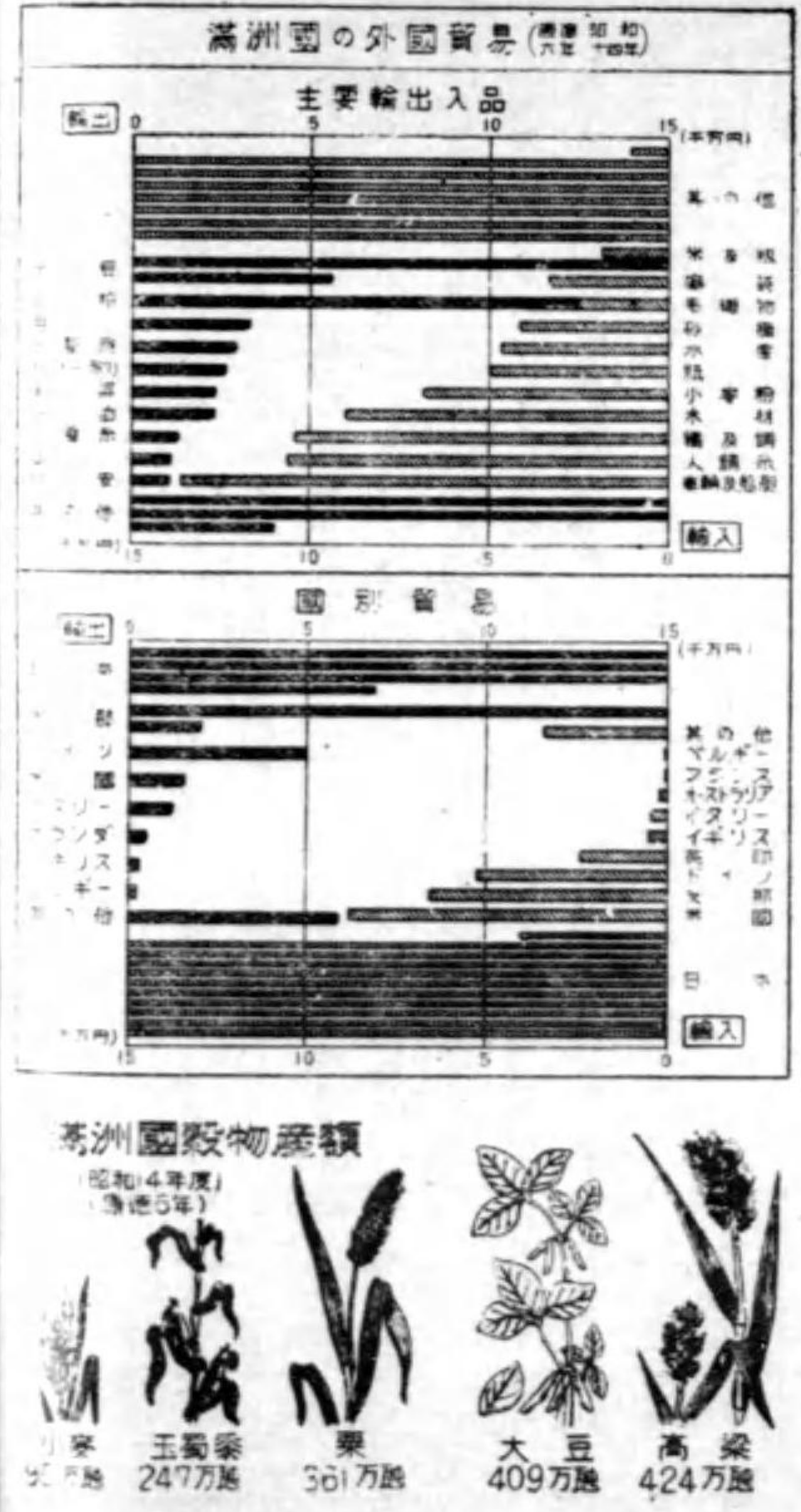
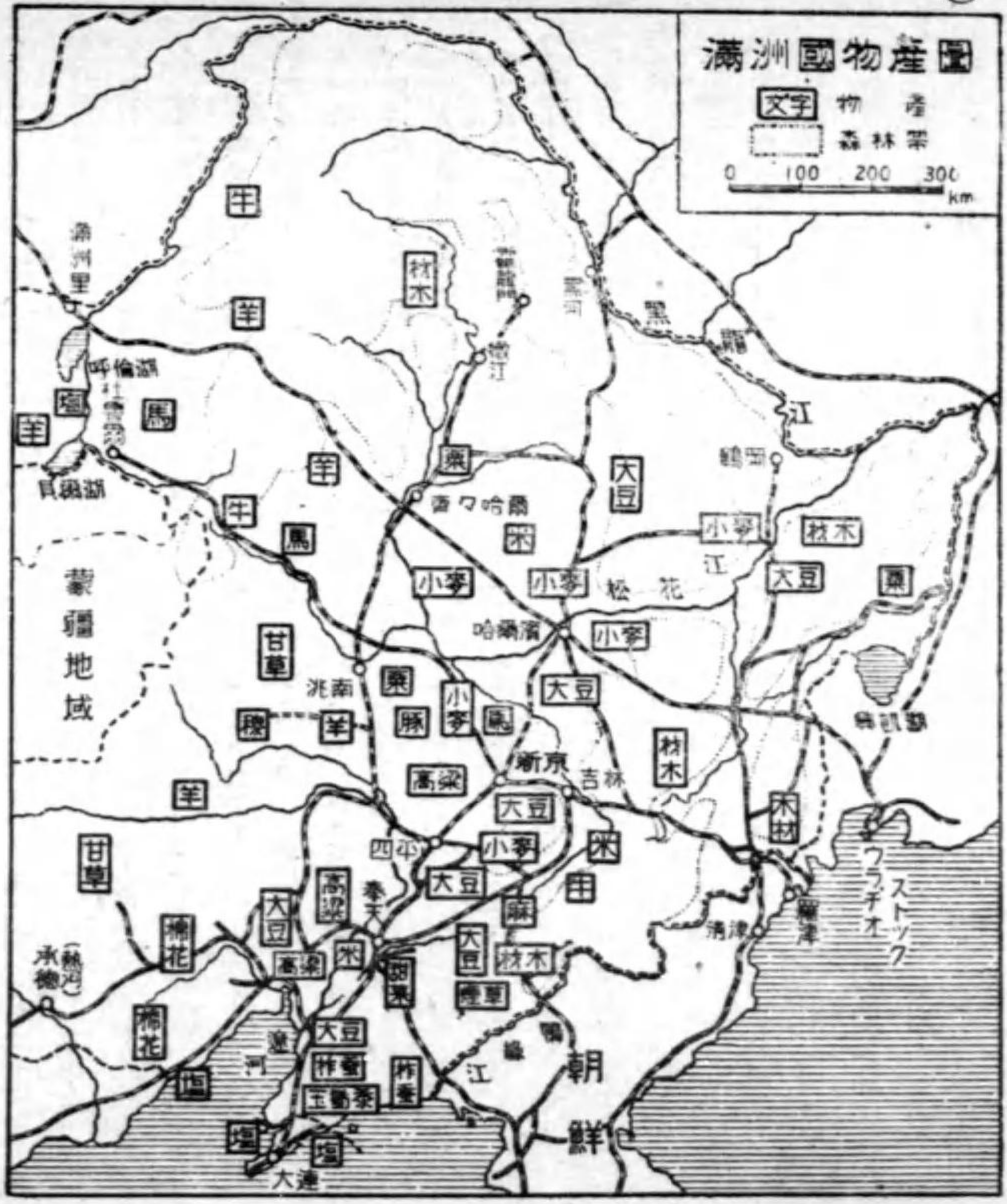
これ等開拓民には種々の區分がある。第一は「集團開拓民」であつて、これは原則として二百乃至三百戸を以て一團を構成し、生活・生産の各部門に十分な機構を備へるものである。集團開拓民の先驅をなせしものは彌榮村であつて、爾來二十數次に互り多くの開拓民が送られた。またこれ等の發展に伴ひ、内地の分村計畫が近年急に増加して來た。分村計畫といふのは、内地の諸村からその人口の幾分を割いて滿洲國に新たに分村するのである。次は「集合開拓民」であつて、從來の自由開拓民・鐵道自警村開拓民・林業開拓民等を含むものである。尤もこれ等の組織も近時變革しつつある。而してこれ等諸開拓民の移住地は目下比較的人口稀薄なりし東滿・北滿に集中してゐるのは當然であらう。なほ以上開拓民の後繼者として「滿蒙開拓青少年義勇軍」が昭和十三年から編成され、毎年三萬人を送り出して各地の訓練所に入所せしめ、將來の開拓者としての素地を體得せしめてゐるが、その効果は極めて期待すべきものがある。

滿洲の集團開拓民

滿洲國の面積は我が内地の約三倍餘であるのに對し、人口は建國當時の約三千萬から今日には四千三百萬を數へるに至つてもなほ内地人口の約六割に過ぎないから、人口の密度は未だ比較的小さい。即ち一方軒に付き三十三人で内地密度の約六分の一に當つてゐる。今國內に於ける人口疎密の状態を観察するに、最も稠密なるは南滿地方であつて、これはこの地方が南滿の平野を有し産物が多く人類の居住に適し早くから開發せられたためである。殊に近年我が南滿鐵道その他の鐵道敷設により人口は益々この地方に集積してゐる。次は北滿の中部であつて、これは主としてロシアの舊北滿鐵道と松花江の交通に負ふところが大である。近時東滿地方が鐵道の開通と國防的關係から、人口の集中を來しつつあるのは注目に値する。これに反して北西部は興安嶺の地形と氣候的關係により、人口密度は甚だ小であることは已むを得ない。近時滿洲國に於ては國土開發の程度から滿洲を「内滿」「外滿」に區別してゐるが、この二者の境界は大體密度圖によつて理解せらるゝのである。

滿洲國の人口





滿洲國の産業

滿洲國の産業は我が國から観れば大東亞共榮圈内に於ける最大の期待である。これは我が國と滿洲國とが地理的・政治的に密接の關係に立つことのほか、産業そのものに大なる發展性があるからである。今主要な産業について一瞥を試みよう。

先づ農業を観るに、廣大な滿洲平野をもつこの國は氣候は稍寒冷であるが夏季は農作物の生育に適し、今日まで既に千五百萬陌の耕地を有するほか、千七百萬陌の未墾可耕地を除してある。國民の四分の三は農民であつて、輸出の七割は農産を以て占める。

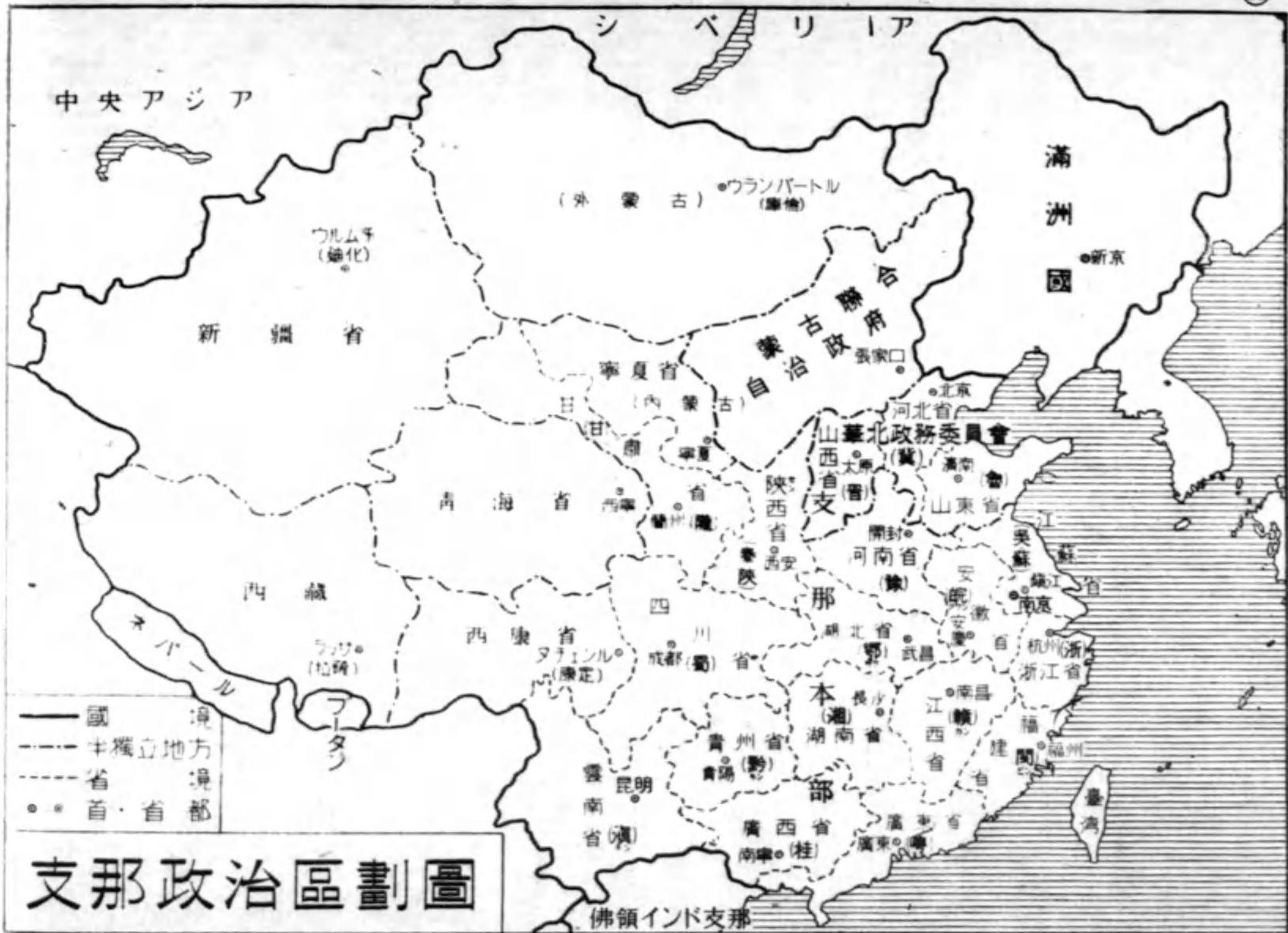
最大の生産價值を有する農産は大豆であつて、殆ど全滿に亘つて栽培せられ、産額は世界全體の六割を占め、その大部分は歐洲にまで仕向けられる。大豆作の豊凶は直ちに全滿の經濟に影響を與へる程である。殊に大豆は工業原料として貴重であり、その工業は最近まで滿洲工業の王座を占めてゐた。その他高粱・玉蜀黍は主として南滿に産し食料・飼料・工業原料となり、小麦は北滿を主産地とするも、その産額は大でなく、住民の食料としては寧ろ全滿に産する粟の方が重要である。我が開拓民にとりて最も關係ある米作は近年の發達にかゝり、水稻は我が移民の大量進出と共に北滿・東滿に栽培せられ、北緯五十五度邊までも生育可能である。産額は今日既に陸米を加へて殆ど小麦の額と同じである。將來土地が全部開發された暁には一千万石の收穫も無理ではないと稱せられてゐる。

次に牧畜は農業地帯に有畜農業が行はれるために馬・驢・豚の飼養が盛であり、雨量比較的少なき國土の西部地域には羊・山羊・牛が多く飼養される。羊毛の質は未だ十分ではないが、量・質共に改良せられた暁には大東亞圈内に於ける有数の供給地となり得よう。

林業は東部の山地や北部・西部の小興安、大興安嶺地方に行はれ、南滿地方は濫伐の結果、現在は多く秃山であるが、科學的經營を行へば林相は必ず舊の如くなり、かくして滿洲國は大東亞に於ける寒帶性樹木資源の供給地として貴重な價値を發揮するであらう。

鑛業は近時に於ける滿洲開發の雄なるものであつて、殊に石炭は最大の鑛産物で、從來の撫順・本溪湖のほかに近時阜新・鶴崗・札賚諾爾・密山・東邊道等の有望な新炭田が相次いで發見され、總埋藏量二百億噸以上と稱せられてゐる。鐵これに次ぐが古くから知られた鞍山や本溪湖の鐵鑛は大體貧鑛に屬するも、近時發見せられた東邊道の大栗子溝及び弓張嶺の鐵鑛は鐵分六割以上を有する。全滿の鐵の埋藏量は今日までの調査にては約三十億噸といはれてゐる。このほか北滿各地の金、撫順その他の油母頁岩、南滿のマグネサイト・鉛・亜鉛等種々貴重なものを出し、これ等を原料とする工業も最近長足の進歩をなし滿洲産業の相貌を一變せしめんとしてゐる。

これ等産業の情態は貿易の上に反映し、滿洲國の貿易は天産物の輸出と工産物の輸入とより成り何れも我が國との關係が壓倒的である。



支那の政治區劃

興亡四千餘年その間王朝を替へること二十六、現在の中華民國はその悠久なる歴史的發展の總果である。黄河の沿岸に興つた漢族は北方の異民族と戦ひつゝ、南方にその勢力を擴張し、夙く既に今日の支那本部を統一して支那帝國の本據となした。國內の政治區劃は時代により大小多少の差があり、上古は九州に過ぎなかつた區劃は、その後或は種々の國に分裂し、或は郡・道・府等の名稱により區分せられた。今日の支那本部の省制は元時代より行はれ清朝に至り、初めは十四省であつたが後に十八省となつた。これ等の十八省はまた何れも過去に存せし州・郡や諸國等の名に因みて夫々その略稱を持つてゐる。

現在支那本部はその東半部が皇軍によつて占據せられ、汪兆銘を主班とする國民政府がそれ等の地域に政治を布き、重慶政權に支配せられてゐた地方に清郷工作を施してゐる。皇軍占據地の北部は行政上華北政務委員會に屬し、國民政府の下に別個の行政をなすつゝ、ある。支那本部の西半は敗殘の重慶政權の手にあり大局を解せざる蒋介石によりて無用の抵抗を續けてゐる。重慶政權下には目下國民黨と中國共產黨とが共同抗日戦線を張つてゐるが、この兩黨は元來その主義上氷炭相容れず今日は唯便宜上苟合してゐるに過ぎない。國民黨軍は重慶政權下の中央地方及び西南地方を地盤とし、中國共產黨軍は陝西・甘肅を根據とし延安に赤色首都を置いて、山西・河南・山東等に蠢動してゐる。

支那本部の四境には從來異民族が住み所謂邊疆地方と稱せられるものである。滿洲・蒙古・新疆・青海・西藏等がこれである。これ等諸邊疆は政治上では從來支那の藩屬地方であつたが、近時皆獨立若しくは半獨立をなした。即ち滿洲の東三省は熱河地方を加へて滿洲國となり、蒙古は内外の二部に分れ、外蒙古は近年ソ聯邦の勢力が浸潤し外蒙古共和國を樹て、實質的には支那から分離してゐる。内蒙古は一部が滿洲國に入り一部は今日所謂蒙疆地方といはれ、蒙古聯合自治政府の管下にある。こゝは嘗て清朝が蒙古人の懐柔のため特別區を置き、民國に至り綏遠・察哈爾・寧夏省の三省としたが、今は綏遠・察哈爾二省が蒙疆地方に入り、寧夏省のみが本部に附隨してゐる。新疆は支那本部に最も遠く、住民は漢・滿・蒙の諸族のほか回族(トルコ族)・西藏族が雜居し歐洲人も少くなく、殊にソ聯邦が政治上甚だ優勢である。青海は蒙・藏二族の住地でもたソ聯邦の手が及ばんとし、喇嘛教主が政教兩權を握つてゐる。イギリスの勢力が強い。西藏の隣にある西康省は主として藏族の住地であるが、英國の侵略を防がんとし清朝の末川邊特別區がこゝに作られ、民國に至り一省となつた。最近四川省の重慶が我が爆撃により潰滅に瀕してゐるので、蔣政權の落ち行く先はこの西康省の康定ならんとすらいはれてゐる。



皇軍占據地と新支那

征戰二、五年皇軍の向ふ所敵なく、現在皇軍によりて占據せられてゐる支那の地域は蒙疆地區のほか支那本部に於て、その面積の約三分の一、人口の約半ばに及んでゐる。城内の諸鐵道と重要都市とは我が陸軍によりて確保せられ、海岸は我が海軍のために封鎖せられてゐるから、蔣政權は殆ど窒息状態に陥り非常に困苦してゐる。それにも拘らずなほ抗戰を繼續してゐる所以は歐米第三國の支援の結果であつて、我が國が蔣政權を打倒するためには、これ等第三國を打倒せねばならぬ。これが大東亞戰爭の一原因である。

我が占據地域の全部は新たに興つた國民政府により支配されてゐるが、地方により統治上若干の相違がある。即ち北方の蒙疆地區は蒙古民族の興隆を目指して作られた蒙古聯合自治政府の支配に屬し、共產思想防衛の第一線となつてゐる。北支三省（河北・山西・山東）は滿洲國との接壤及び我が國との歴史的關係により、華北政務委員會の下に自治的存在を認められてゐる。他の中支那の江蘇・安徽・湖北・浙江等の諸省は國民政府の直轄として新支那の中心地區である。この他福建・廣東の海岸地方には各所に我が軍の占據地域はあるが、これ等は蔣政權に對する物資補給を遮斷するためである。唯海南島には天與の資源を藏しながら、これを荊棘に委せてゐるのは不合理であるので、我が國は目下その開發に努力してゐる。

支那の交通と鐵道

支那の交通状態は未だ他の文化國に比し著しく劣つてゐる。支那には古來南船北馬の稱があるが、南船とはいふまでもなく主に戎克で、北馬は馬・驢等の家畜である。今日でもこれ等の交通機關は擔夫と共に支那の重要な交通機關である。

鐵道もその延長約一萬一千軒に過ぎず、これを支那全土の八分の一、支那本部の四分の一に過ぎざる現滿洲國が同長の鐵道を有するに比しても、その一斑が窺はれよう。支那に初めて鐵道が敷設されたのは一八七六年であるが、殆ど凡ての鐵道が歐米の借款によつて建設され、支那の半植民地的性格を一層増進せしめた。今日では一應支那政府に回收せられてゐる。支那鐵道分布上の特色は津浦・京漢・粵漢線等に見る如く、大鐵道は南北の縱斷線を主としてゐることである。近時東西線として隴海線・浙贛線が敷設せられてゐる。

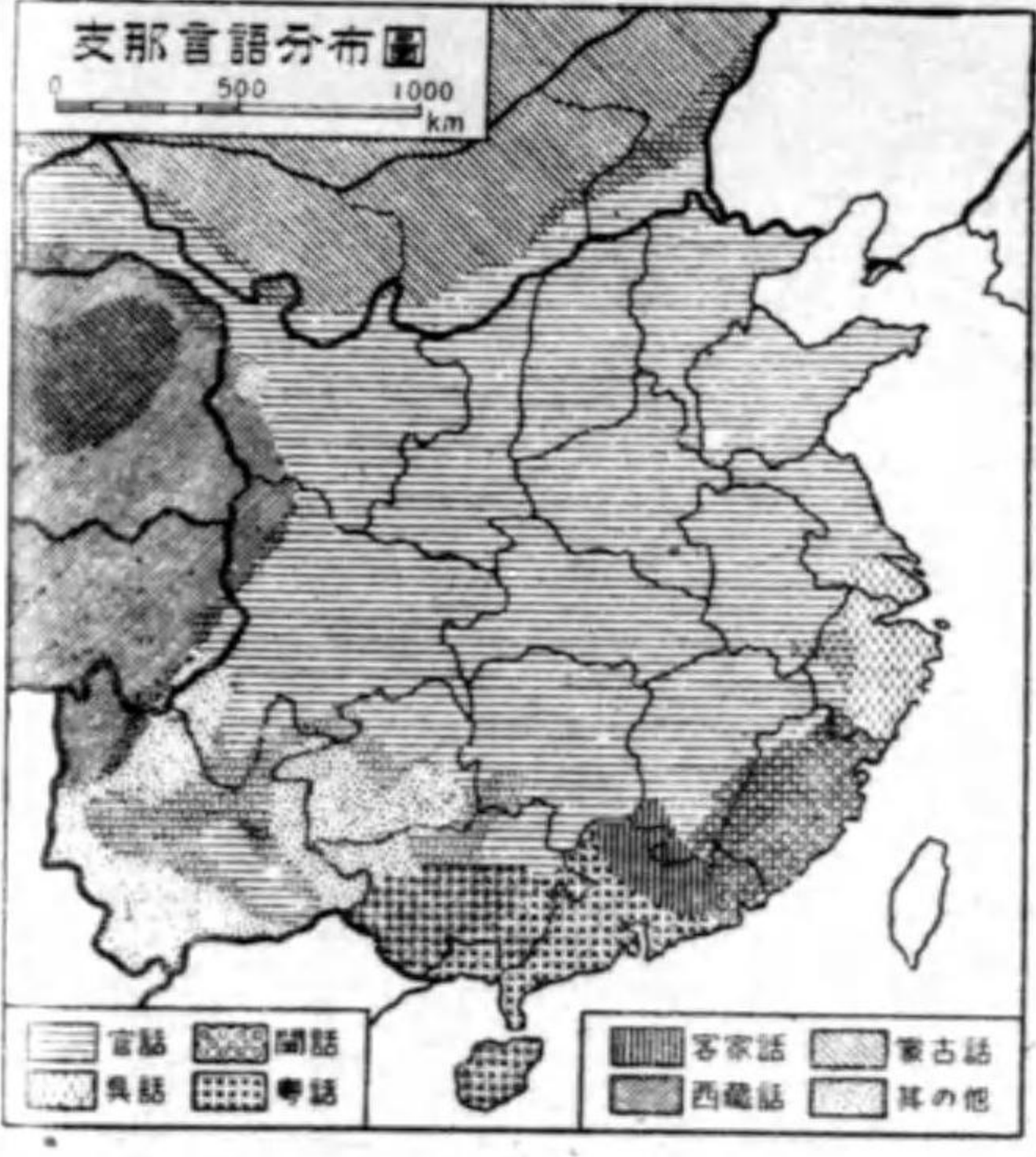
この鐵道網の未完備に反して航空路網はかなりの發達を示してゐる。事變前は米・獨の航空會社のみの經營であつたが今日我が占據區内は日支合辦の會社により行はれてゐる。

水運方面では揚子江流域が最も發達し、黄河はその自然的性質上殆ど利用し得ない。而して支那水運界もまた歴史的に列國の爭奪舞臺であり、全體から觀れば久しく英船が中南支を根據に支配的位置にあつたが、大東亞戰爭の開始後英船に代つて邦船の全面的進出を實現したのは當然である。



支那各部面積比較 (總面積1000万方km)

| | |
|------|-----|
| 支那本部 | 37% |
| 蒙疆 | 8% |
| 新疆 | 18% |
| 蒙古 | 16% |
| 西藏 | 12% |
| 青海 | 6% |
| 西康 | 3% |



支那の人口

支那の人口は約四億五千萬と稱せられ、地球の全人口の五分の一以上を占めてゐる。ドイツの碩學ラツツェルも支那が歐米列強の侵略舞臺とされながら今日まで獨立を保ち得た最大の原因は、この大人口にありと論じてゐる。人口分布の状態は地域により非常な相違があり、東半の支那本部は蒙疆地區を加へても面積は支那全土の三割六分に過ぎないが人口は九割六分を占めるから、支那に於て人口が如何に東部に偏重してゐるか判る。支那本部の中人口の最も稠密なるは揚子江沿岸であつて、江蘇省の如きは密度一方軒に付き三百人に達し、我が近畿地方と大體同一率である。北支も人口多く、河北省では密度約二百八十人に及んでゐる。その他漢口を中心とする湖廣平野、四川盆地、及び浙江・福建より廣東に至る東南海岸地帯もまた著しく稠密である。

華僑の分布

支那に於ける生活の困難及び近時に於ける政治上の不安は、支那人を驅つて海外へ移住せしむる。これが即ち華僑であつてその數甚だ多く、中には非常に成功せるものも少なくない。華僑が外國に於てその繁榮を贏ち得た所以は支那人の持つ民族性が與つて力がある。即ち(一)支那人の體質は氣候馴化性が強く世界何れの地方の氣候にも耐へること、(二)低度の生活に甘んじ困苦を忍び勤勉なること、(三)商才に長じ小賣商として獨得の素質を有することである。而して第一の民族性は華僑を通じて同一であるが、第二・第三の特性は華僑の移住地によりて多少の相違がある。華僑には北方の滿洲國・シベリア等への移住民と南洋方面へ赴くものとがある。北方華僑の出身地は山東省を主とし多く農業を營む。その數は明瞭ではないが日露戰役直後人口八百五十萬に過ぎなかつた滿洲が、今日四千萬に餘るに至つたのは大部分これ等北方華僑の移住によるものである。南の華僑は所謂華僑の代表的ものであつて専ら商業を營んでゐる。その淵源は第十三世紀末の元の史弼の爪哇征服に發するといはれてゐる。現在世界各地の華僑は約八百萬人と稱せられ、これは滿洲への移民を含まぬものであるから全體の華僑は驚くべき數に達する。

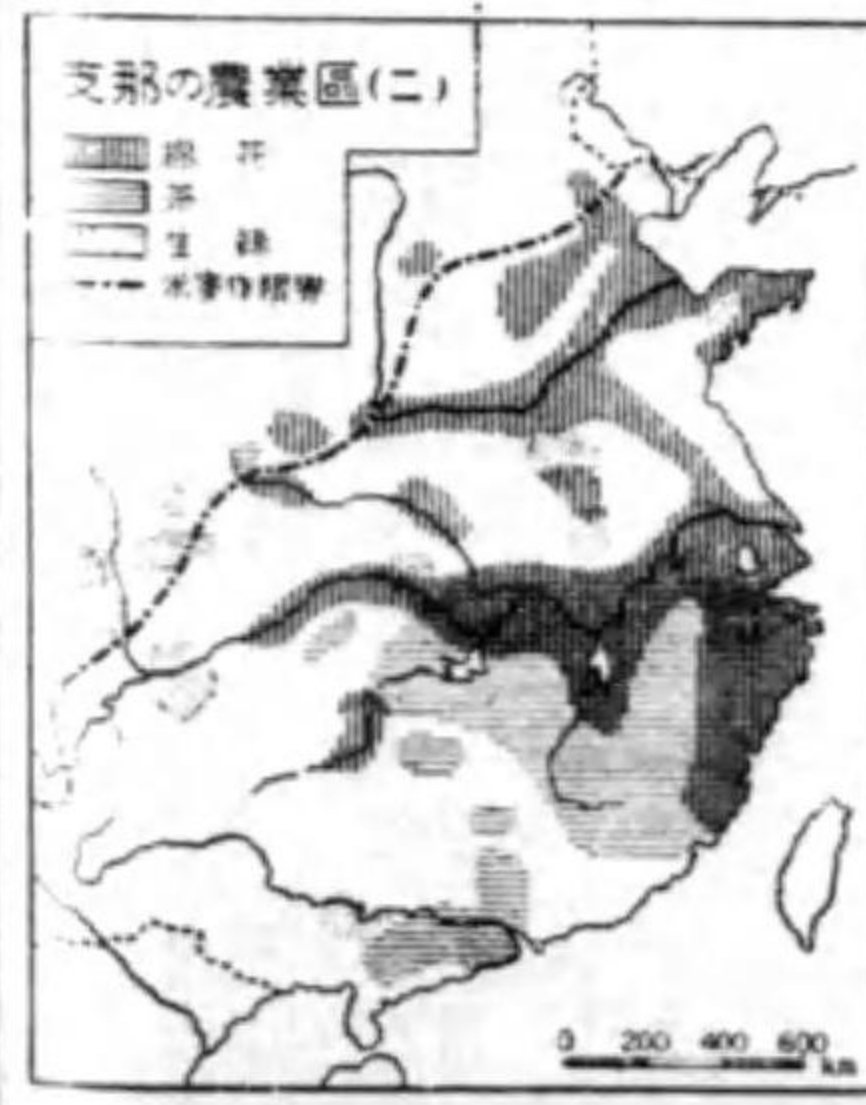
支那人の海外移住に對し我が邦人の支那移住者も多數に上り、昭和十六年四月の調査によれば既に五十萬人(昭和十七年約六十萬人)に及んでゐる。今後一層の増加も期して俟つべきであらう。

支那の言語

古來種々の民族が混淆し且つ土地が廣大なるため、支那人の言語は地方によりて著しい差異があり、中には二地方間で全く言語の通せぬ所が少くない。支那に於て最も廣く通用する言語は官話(北京官話)であつて、他は夫々各地方の土着民の言語で、それ等の地方名を以て呼ばれてゐる。客家語といふのは古く江南地方より廣東に移住した民族の語である。



支那の農業區(一)



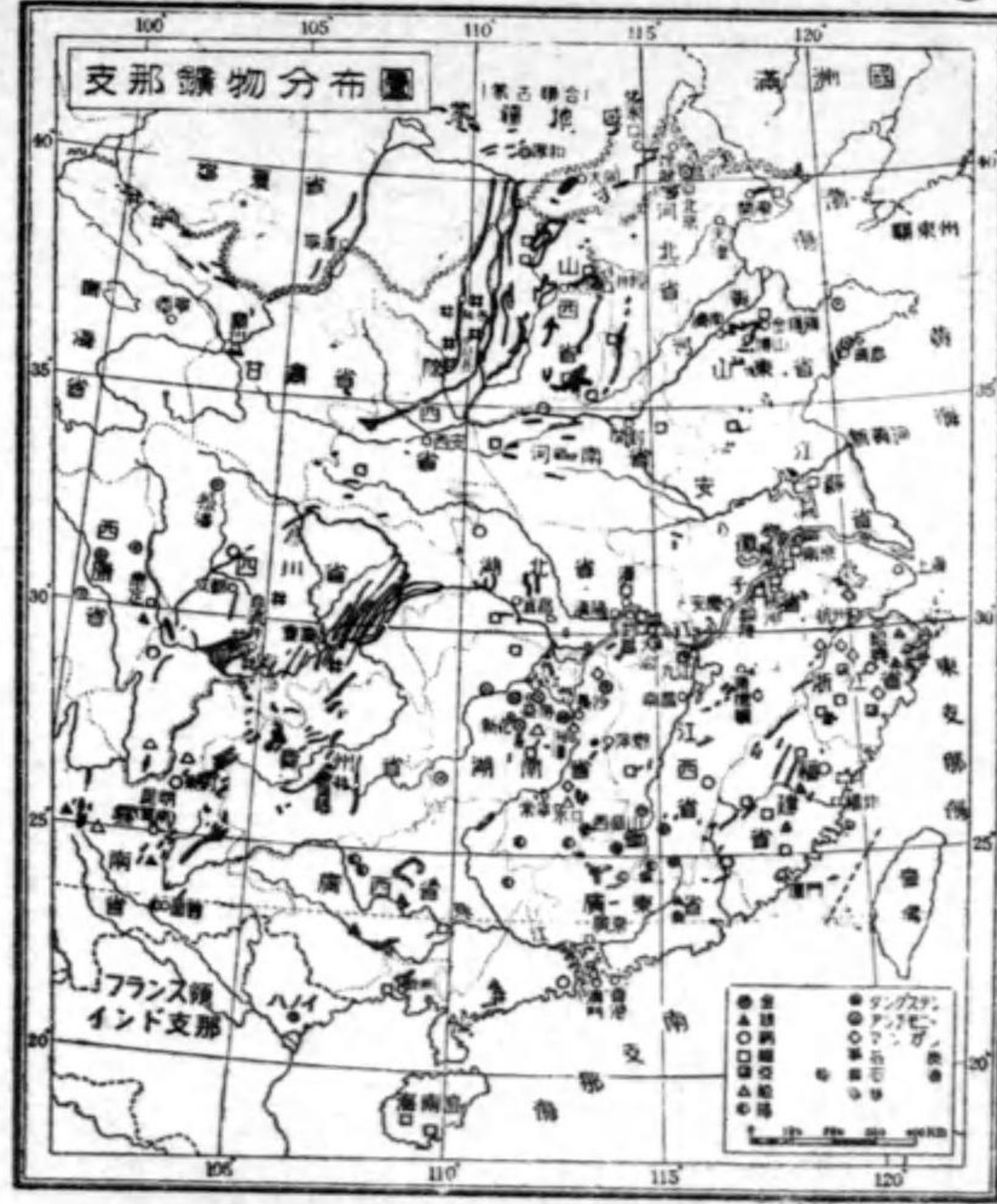
支那の農業區

支那は傳説時代の太古より農業國である。神農氏によりて教へられた農耕法は恐らくは今日でも支那農業の基礎となり、餘り大なる變化がないのではあるまいか。少くとも支那は四千餘年間農業國であつて今日も巨大なる人口の約八割が農民である。或は逆にこの農業あるために四億に餘る人口を養つてゐるともいへる。併し支那の如き廣大なる地域で而かも南北氣候の差大なる國にありては、地方により農産の差を生じ夫々また農法の特徴を來すは當然である。米人ロツシング・バックは南京金陵大學の農業經濟學教授であつたが、數年前政府と學生の援助の下に支那二十三省について各種農作物の地理的研究をなし、支那土地利用地圖集成」を著した。本圖支那の農業區(一)はこの結果を綜合したものである。地理區の分ち方は大體穀物の種類により水稻(米)・小麥・高粱・小米(黍)の生育範圍を示しその間に玉蜀黍・大豆・粟・甘藷等の食料作物と甘蔗・亞片・菜種等の工藝用作物の主産地を記入せるものである。

この等の作物の中最も重要なものは麥(小麥)と水稻(米)とであつて、前者は大體に於て北支、後者は中南支に産する。小麥には東部に冬麥・西部に春麥の兩種がある。米は別圖支那米産地圖の示す如く揚子江流域が最も盛で、「湖廣(湖北・湖南)熱天下足、江浙實天下不飢」の語はこの状態を物語つてゐる。南部も米作が盛んで殊に二期作に知られてゐる。その他高粱と大豆は山東地方に、粟と小米(黍)は北支に、玉蜀黍は奥地の産物である。これに反し甘蔗・甘藷は南支の沿海地方に栽培せられ、菜種は乾燥地よりは濕地がよく、揚子江の下流が主なる産地である。阿片は氣候的制約の敏感なる作物であるが政治上栽培禁止區域も少くないので、今日の生産分布圖は必ずしも自然關係を示してはゐない。

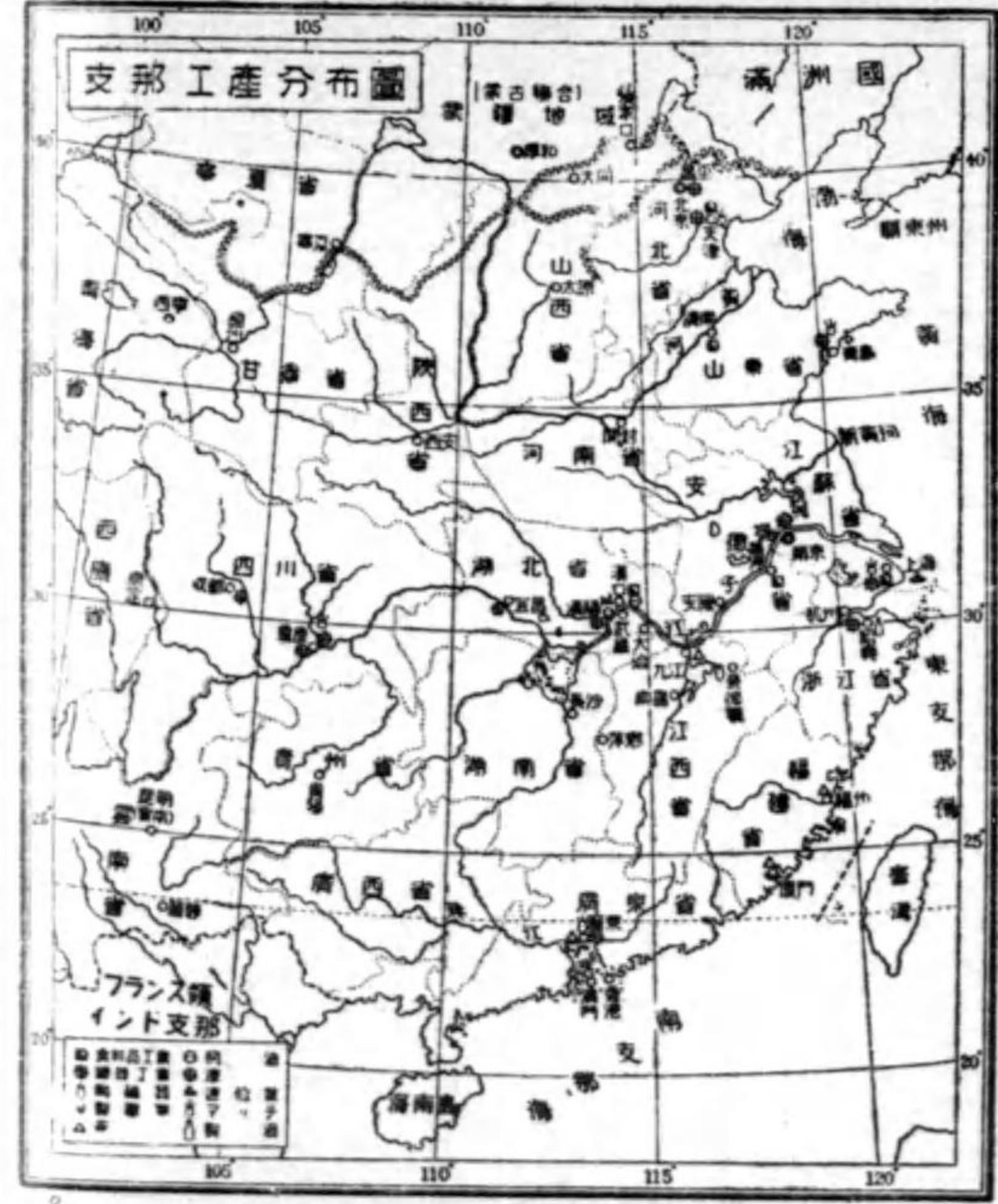
本圖支那の農業區(二)は工藝用作物の大宗たる棉花・茶・生絲(桑)の生産區を示したものである。棉花は現在四大區域に分つことが出来る。即ち河北及び渭水地區・江浙地區・湖廣地區・四川地區である。棉田は中度及び輕度の土壤で鹽分を含むものを良しとし、この點では支那に有利であるが、季節風帶の濕潤なる氣候は良質の棉花を支那に求めしむることに困難がある。茶は支那を原産地とし我が國並びに歐米に於ける茶の名稱は盡く支那音に發してゐる。中支以南の濕潤多霧の地方に産しバック氏の水稻茶區がその中心である。四川その他南部にもその栽培が少くない。

我が國の養蠶が北に盛で南に振はざると反對に、支那の桑による養蠶は北には極めて少く中支以南に多い。これは恐らくは氣温と湿度との相乘的結果であつて、支那の桑園は水稻地區と大體一致する。この關係は四川水稻地區に於ても同様であつて四川には相當大規模の桑園がある。桑による養蠶のほか山東の柞蠶、廣東の天蠶はやゝ注目し値する。



1933年 礦産額表

| 品名 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|
| タングステン | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| アンチモン | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| 鉛 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| 亜鉛 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| 錫 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| 銅 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| 鉄 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| 石炭 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| 石油 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |



1933年 工業物輸出額

| 品名 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 絹織物 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| 織物 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| 紙 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| 茶 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| 糖 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| 皮革 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| 化学製品 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| 硝子 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| 磁器 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |

支那の鑛業

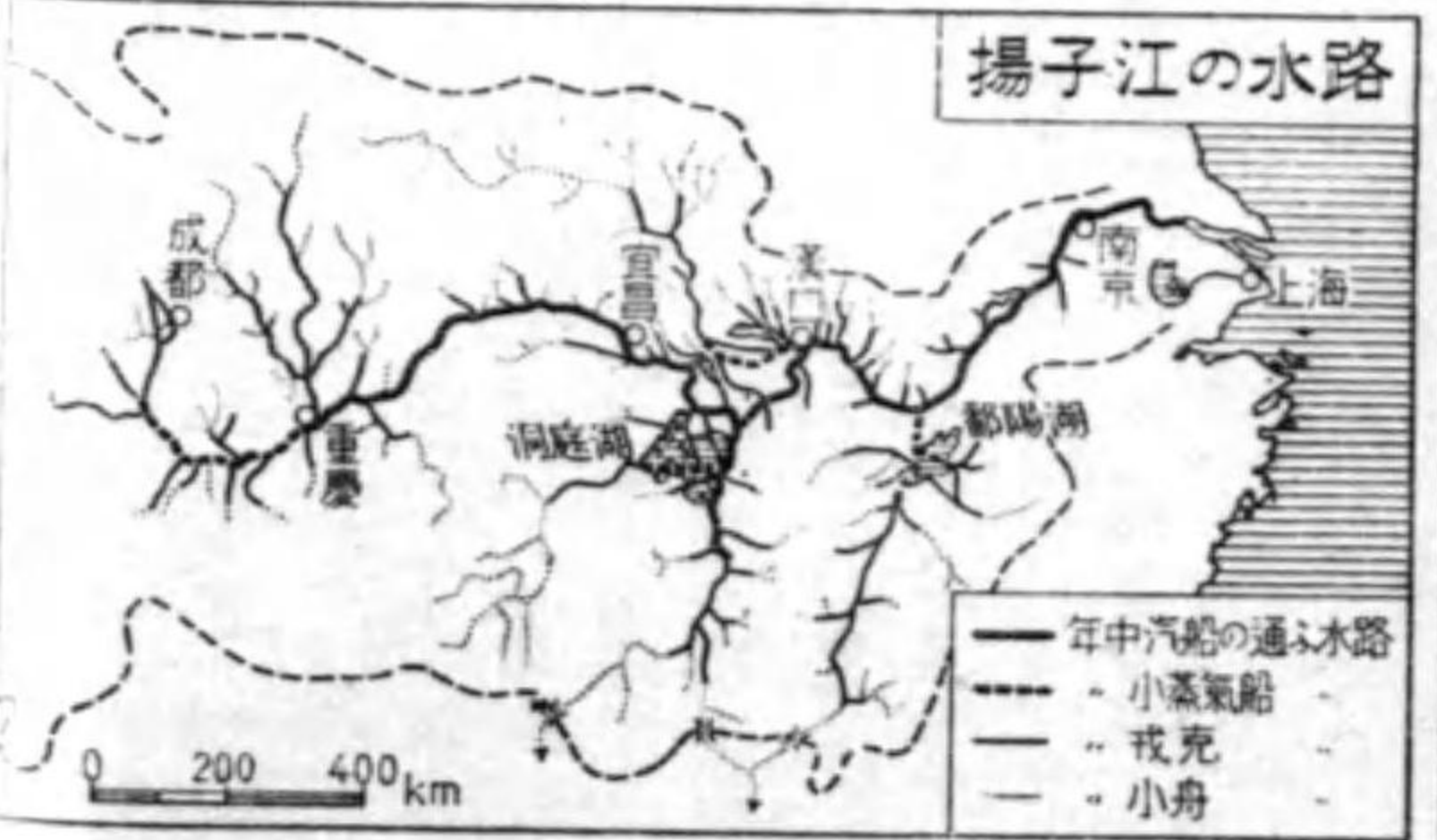
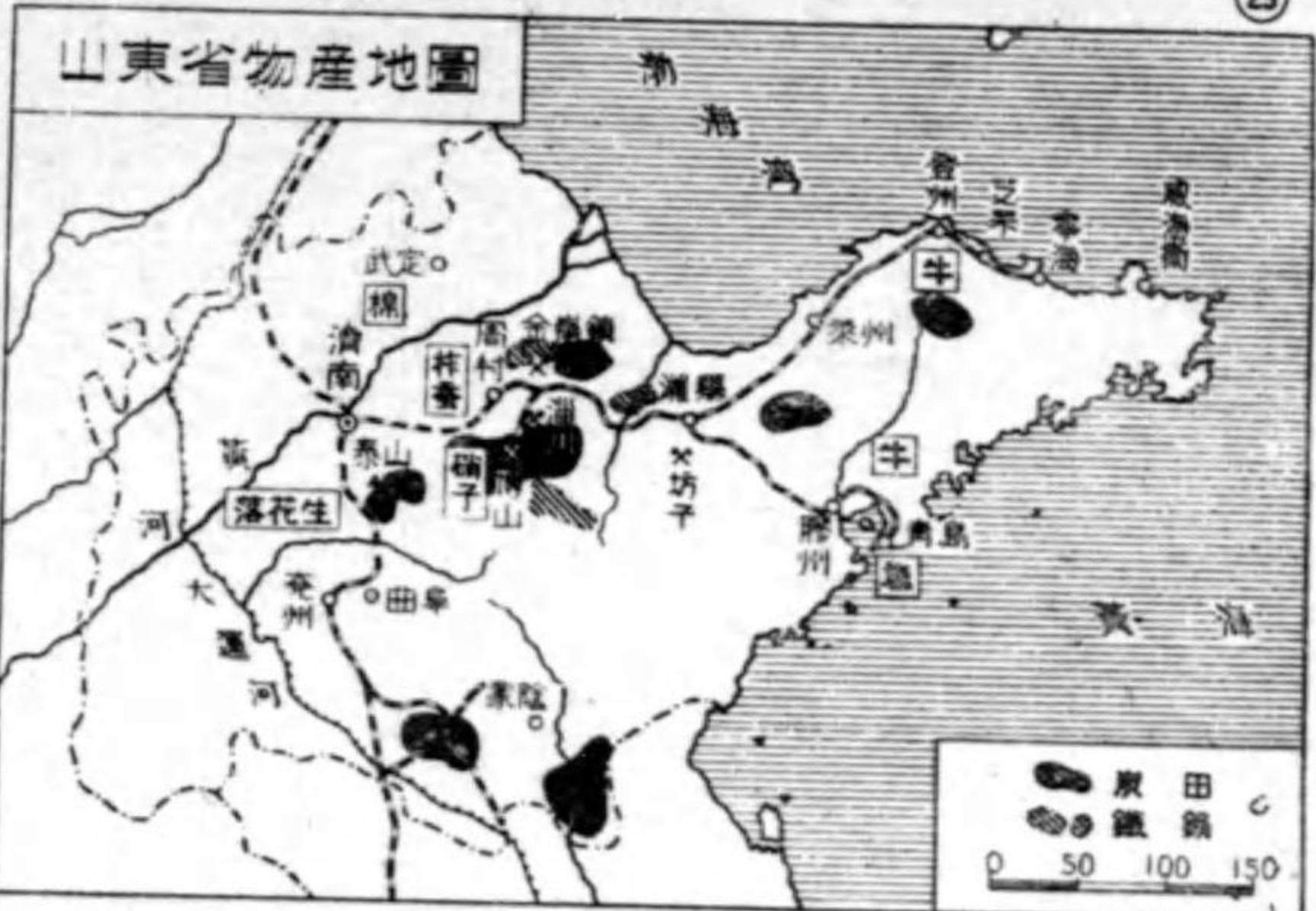
支那の原始産業の中で農業に次ぐものは鑛業である。鑛物の産出は北支と中支以南に於てその様相を異にし、北支は石炭・支那名煤・鐵等二三種類に限られるがその埋藏産出量共に多い。反之中南支は鑛物の種類が多く且つ珍稀のものもあるが、その産に至りては遙かに北支に及ばない。その然る原因は北支が比較的單調なる地質で廣い鑛床を有するのに對し、中南支は中世代に火山岩の噴出があり地質が複雑で鑛床が小なるためである。

北支の石炭は陝西・山西・蒙疆地區より山東を経て海を渡り南滿洲に通する一大炭脈の所産であつて、炭質も極めて良好でその埋藏量は約二千億噸と稱せられ、支那全埋藏量の八割に當つてゐる。殊に山西炭田は最も大で埋藏量千二百億噸に及び、我が國が目下開發しつゝある大同炭田のみでも四百餘億噸を藏するといはれてゐる。中南支の石炭は湖南と四川に稍見るべき炭田があるのみである。石炭に比すれば鐵鑛の所産は貧弱であつて全支の埋藏量は約四億噸でその過半は北支にあり、龍烟鐵山は最も著名である。中支には大冶・桃冲等の鐵山がある。

この二大有用鑛物を除き他の鑛物には見るべきものなく、貴金屬たる金の産は甚だ少く銀と銅とは極めて微量である。唯南支のアンチモン（支那名錒）は世界全體の七、八割を占め、タングステン（錫）は世界の五乃至七割五分を占めて江西・湖南・廣東各地に産し、この二種の鑛物は軍需品としても支那が世界に對して有する二大特産物といへる。このほか錫・マンガン（錳）・鉛・亜鉛（銻）・水銀（汞）に於て少許の産はあるが石油は見るべきものがない。岩鹽の産は數ヶ所に散在し古來鑛と共に政府の專賣となつてゐた。これを要するに支那の鑛物はその領土の大なるに比し寧ろ貧弱で、これを面積に於て更に小なる米國に比すれば鑛物の年産額僅かにその約五十分の一に過ぎず尙に膏壤の差がある。これは自然的原因のほか地質調査事業の未發達の結果でもあらう。

支那の工業

支那の工業は從來の蠶絲・桐油・漆・製茶業の如き農林工業は暫らく措き、純工業としては未だ家内の小工業の域を脱せず、蘇州・杭州の絹織物、景德鎮の陶器、廣東の手工業等が代表的のものである。近代式工業としては上海・青島・天津等の海岸地域に於ける紡績業を主とし、これに局部的の製粉・製鐵・マツチ・造船等のみである。かくの如く支那の工業が甚だ幼稚なる原因は永年に亙る政治・經濟・社會組織の不備のほか、國民が天産物依存の念のみ盛にして、これを加工して價値を増進せしめんとする經濟思想即ち工業意識に乏しく、また工業經營能力の劣つてゐることが大なる禍因をなしてゐる。



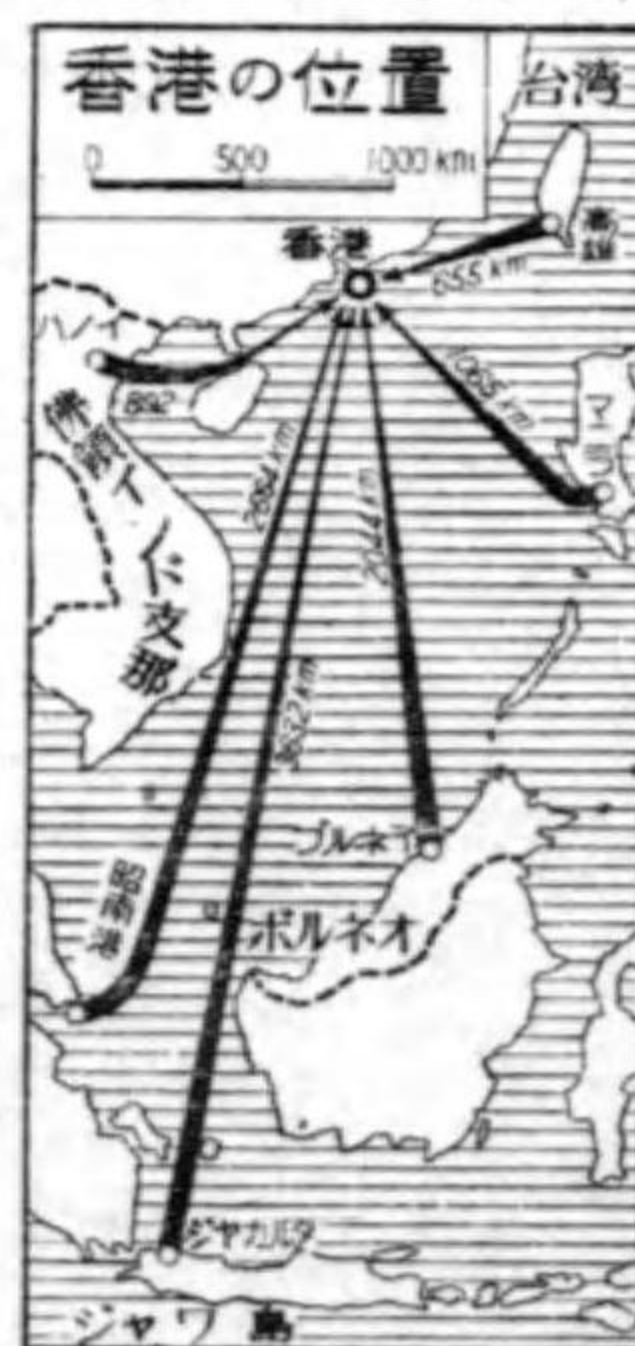
北支の重要性

北支は漢族發祥の地であるが風土上からは決して恵まれた地域ではない。地形は單調で海拔五十米位の高度を有する波狀の平地が無限に展がつてゐる。氣候は大陸的で氣温の較差は二十五度以上に及び、冬は寒氣凛烈で黃塵に覆はれ、夏は炎熱暴雨にして時々旱魃や虫害に襲はれることは、パール・バックの小説「大地」によく描かれてゐる。また黃河は屢々氾濫し河道を變じ大禹以來の歴史上の脅威である。夫にも拘はらず北支は我が國から觀れば政治・經濟上支那に於て最も重要な地區である。これはこの地方が滿洲國と接壤し朝鮮・關東州の對岸にあり我が國防の第一線にあるのと、北支には我が國に於て最も渴望する良質の石炭を多量に産し、鐵の産もあるからである。これに加ふるに我が國に必需の羊毛・棉花・牛・鹽等を産することもその重要性を増す所以である。北支と我が國及び滿洲國とを結び付ける交通線として北方は二條の鐵道によりて天津・北京・蒙疆に通じ、山東には膠州灣から濟南に至り津浦鐵道と連る線があり、南方は連雲・海州より西する隴海線・京漢鐵道により夫々北支の中部に連絡し、政治上・經濟上完璧の交通網を作つてゐる。

中支・揚子江と上海

北支の地域は大體に於て淮河を界とする。それから南は中支であつて揚子江がその中央を東西に流れてゐる。中支は北支に比すれば地形も變化に富み丘陵あり小山脈あり、水路は縱横に通じ多くの湖沼はこれ等水路の貯水池となつてゐる。氣候も溫帶的で且つ雲霧煙雨の變化が多く風物の色彩は濃艶で、北支が黄一色に塗られてゐるのに對し中支は楊柳が茂り桃李花を開き、杜牧をして「千里鶯啼綠映紅」と吟はしめてゐる。従つて天産が豊かで人民も生活を樂しむべき筈であるのに近年は却つて彼等を苦しめてゐる。それはこの肥沃の地方が屢々政治上爭奪の目標となつたためである。近年の支那戰爭は内亂外患共この地方に行はれたといへよう。

揚子江は黃河と異なり一年を通じて水量多く夏季は漢口まで一萬噸級の汽船を湖航せしめることが出来る。河と稱するよりも寧ろ海と考ふる方が適當であつて、揚子江を「支那地中海」と呼ぶことも強ち奇矯ではあるまい。揚子江を中支の大動脈とすればその心臟は正に上海である。揚子江に注ぐ數々の支流を含む廣大の地域に産する物資は大概上海に集り、上海はまたこれ等の地方に對して生活必需品の供給を司つてゐる。靜脈と動脈は上海の心臟に集つて循環するのである。併しながらこの心臟は生れながらにして癌を持つてゐた。それは各國の租界である。我が二回に亘る上海事變が非常なる慘禍を呈したのもこの癌のためであつたが、今次の大東亞戰爭により癌は方に治療せられた。



南支の重點

南嶺の蟠まる所は南支であつて閩江・珠江がその間を流れる。南支に於て政治・經濟上最も重要な地點は前英領の香港であつた。上海を中支の心臟とすれば香港は南支の肺臟である。租借地九龍半島と左右に相並び、英國の南支に對する政治・經濟の策源地であつた。殊に貿易上に於て南支は香港の商圏に屬し南支何れの地方にも香港の息がかゝつてゐた。而かも香港は自由港として四近外國諸地方との取引が盛で、比島・蘭印・マライ等南洋地方の物資は眇たる香港に集散した。政治上では元來香港は一八四一年不當な阿片戰爭により英國が支那より奪取せる所であつて支那屈辱の記念碑であるのに、最近まで蔣政權はその前に跪つて英國の援助を哀願してゐたが、昭和十六年十二月皇軍の進攻によつて忽ち陥落し、蔣政權への補給路が完全に絶たれた。今後の香港は我が國の治下に於てもその繁榮が期待せられる。

廣東は香港が出現するまでは南支の最大都市であつた。古來南方交通の要衝に當り唐宋時代にはアラビヤ人もこゝに來つて貿易し、南海商業の一大核心をなしてゐたが近年その商業は漸次香港に奪はれ衰兆を呈してゐた。併し最近皇軍の占據以後は明朗な發展をなしつゝある。目下既に人口百萬に達してゐる。廣東人はその地理的關係上福建人と同じく海外に移住するものが多く、我が國の華僑中にもこの廣東出身のものが少くない。

廣東灣に臨むポルトガル領澳門も、ポルトガルの盛時には眇たる市街に東西の貨物を集めて大いに繁昌したが、これも香港の出現と共に曉の星の如く影が薄らいで今日に至つた。南支中我が國民の最も關心すべきは海南島である。海南島は南支那海と東京灣との間にあり臺灣の高雄を去る西南約一千軒、本土の雷州半島と幅十二哩の瓊州海峡を挟んでゐる。面積約四萬二千方軒、臺灣よりやゝ大きい、人口は約二百餘萬に過ぎない。黎族を主としその他漢族・苗族等を含む。この島はその位置が南に偏するのと支那の歴代の匪政がその開發を阻み、今日でも殆ど未開に近き部分が多い。平地に富み可耕地は二百萬乃至二百五十萬町歩と考へられてゐるが、現耕地はその五分の一乃至十分の一であるといはれてゐる。現在の農産は米を初め甘蔗・麻・煙草・甘藷等であつて、今後は國防資源としてのゴム・黃麻・棉花等の栽培が計畫されてゐる。豚・水牛・牛も多い。礦物資源も金・銀・銅・鐵・錫・アンチモニー・鉛等があり、特に鐵は良質豊富で石碌・田獨の鐵山は目下我が邦人の手に開發せられてゐる。鹽業もまた有望である。かくてこの島は今後邦人の手により改良増産を計つたならば、第二の臺灣として將來南海の寶庫となるべき運命を持つてゐる。

佛領インド支那 及タイ國政治圖



佛領インド支那 及タイ國産業圖



佛領インド支那とタイ國

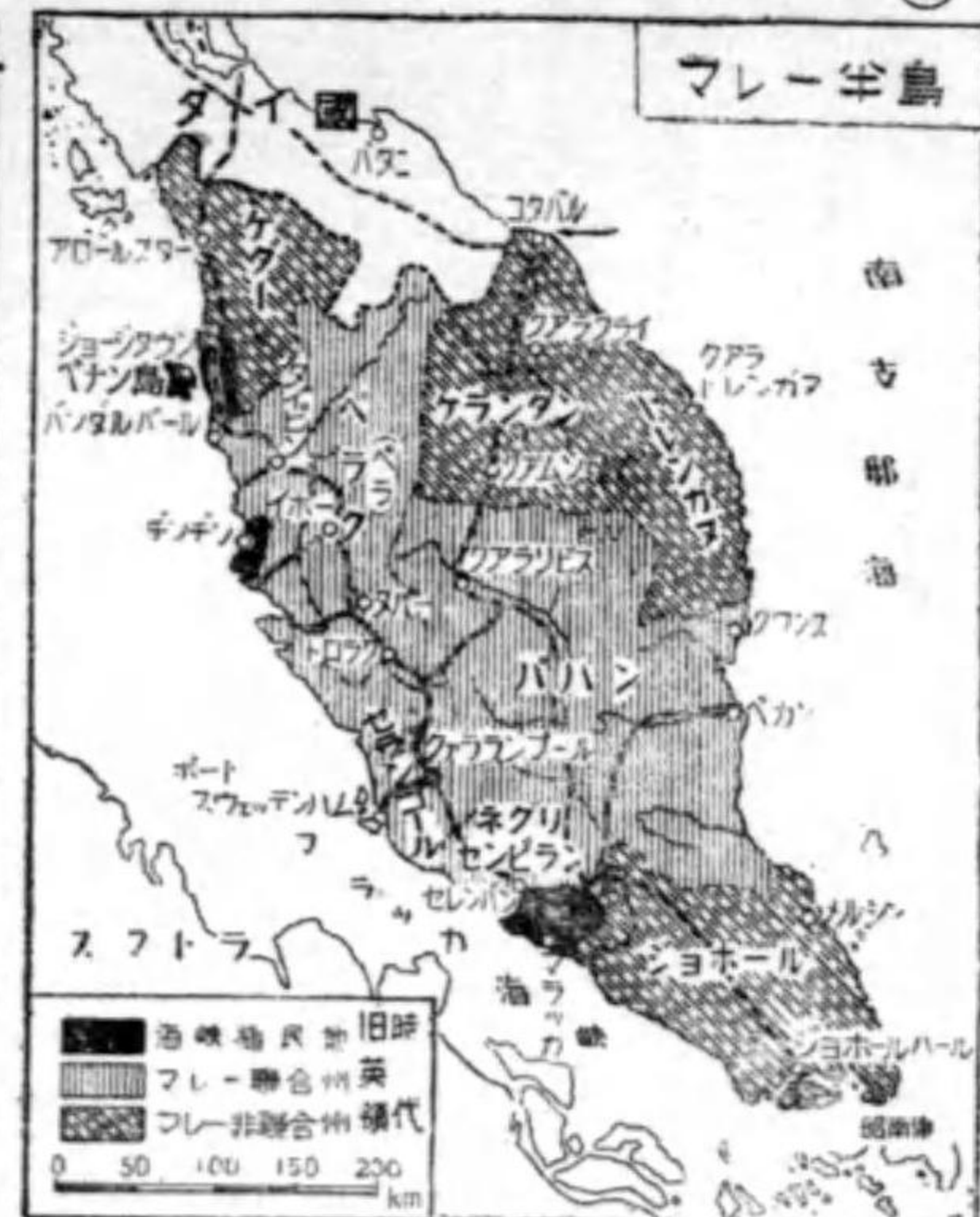
佛領インド支那(佛印)・タイ國はインド支那半島に於ける二大地方で、我が大東亞共榮圏の建設につきては先づその対象となるべきものである。

佛印は面積約六十三萬方軒、我が全領土よりもやゝ小さいが、人口は二千二百餘萬、その七割以上が安南族である。政治上では東京(トンキン)・安南(アンナン)・ラオス・カンボチア・交趾支那の五地方より成る。古昔は大部分が支那の治下にあつたが、一八五八年以來フランスの侵略が始まり、先づ交趾支那を攻略し次いでカンボチア・安南・東京にも保護権を確立した。また一八九三年の條約によりラオス地方に對しシナム(タイ國)の宗主權を放棄せしめた。かくて一八九九年現在のインド支那聯邦組織が成つたが、今日直轄植民地は交趾支那だけであつて、他は皆保護領に屬し一部には王朝の殘存せるものもある。これが今日佛印内政の一つの悩みである。

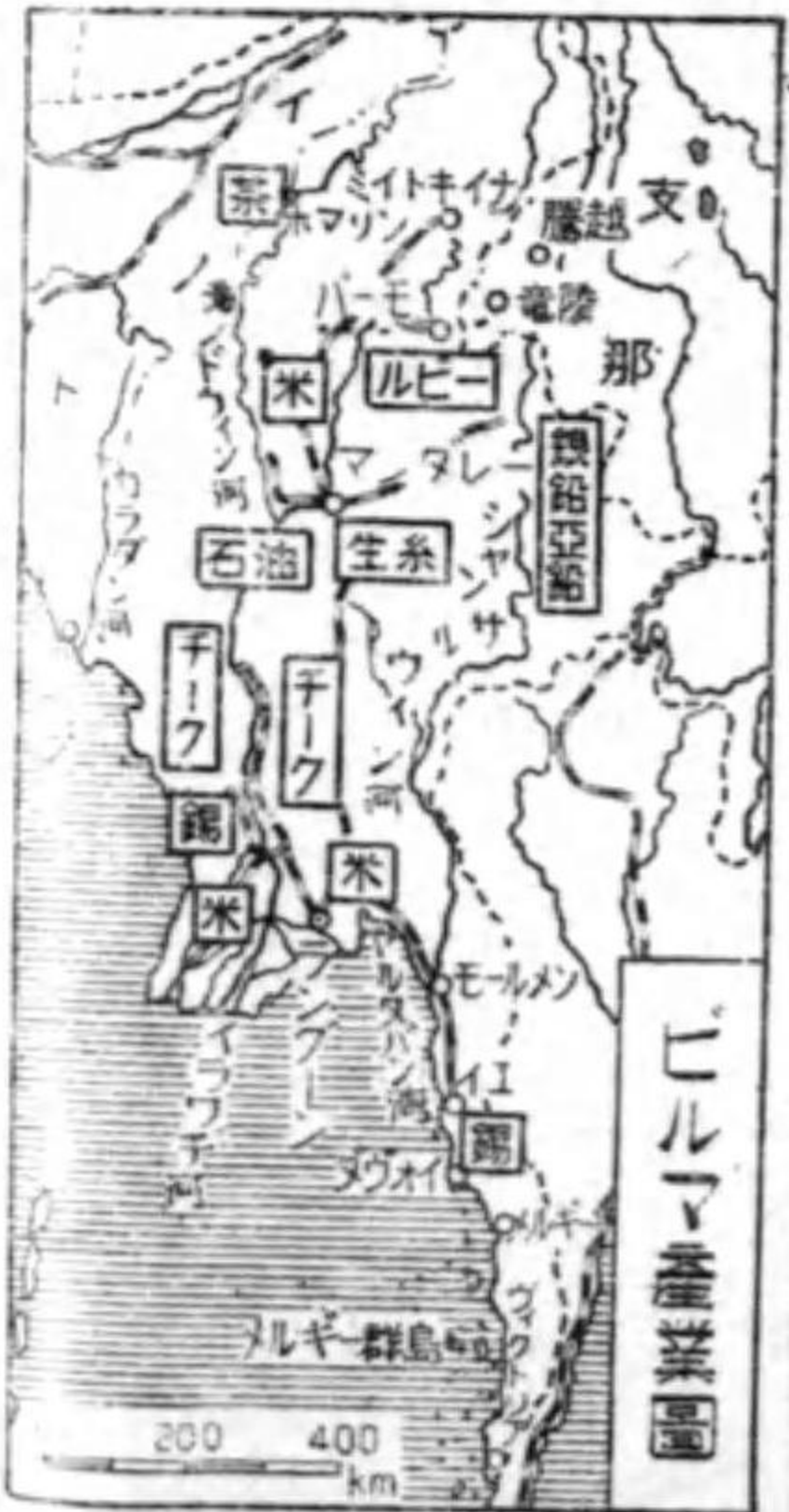
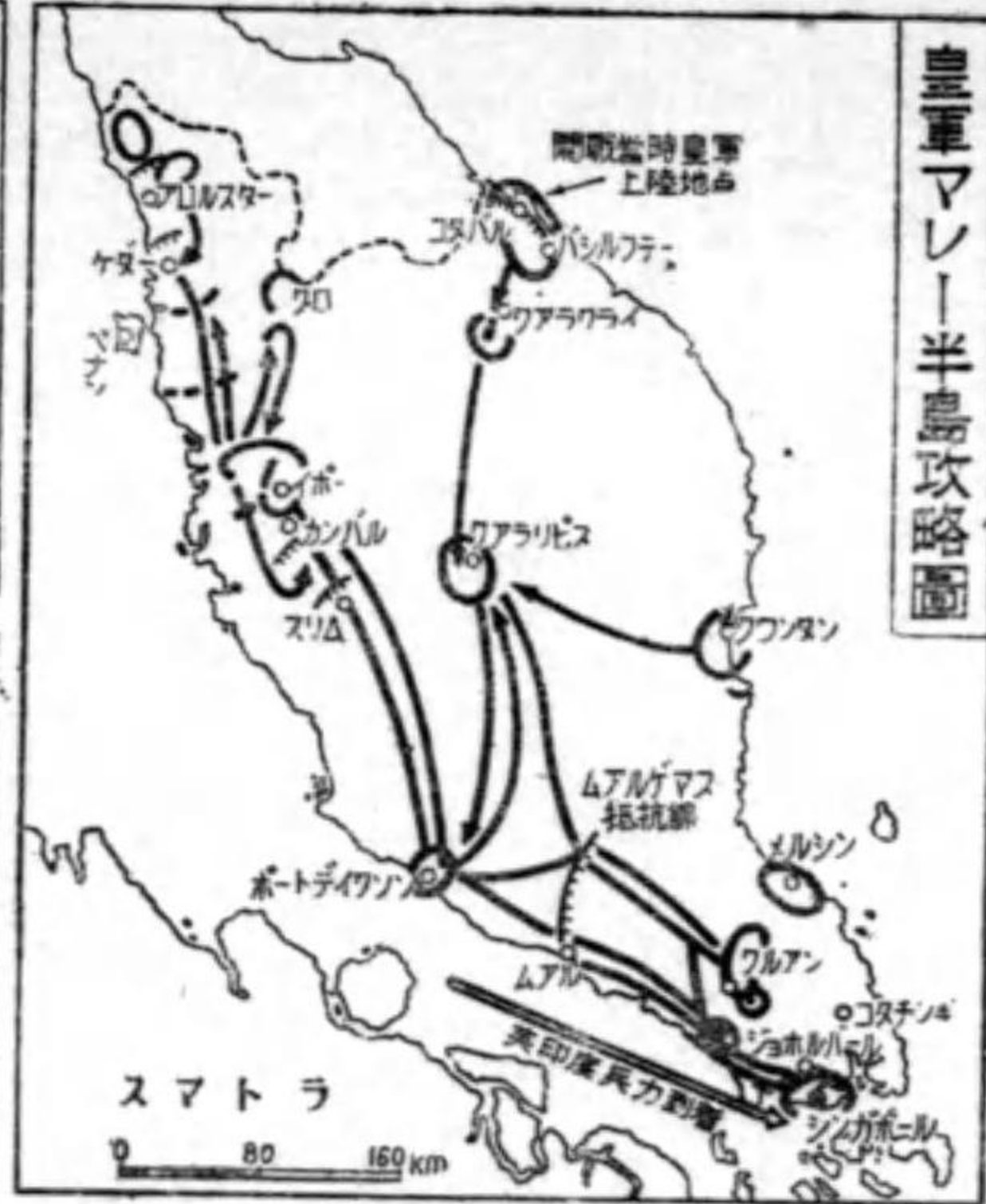
佛印に對するフランスの政策は久しくこれを閉鎖的植民地となし、本國本位の政策を行ひ土民を搾取し、また關稅の障壁を高くして外貨を排斥してゐたが、今次大戰に於けるフランスの敗退と皇軍の進駐とは却つて佛印に生氣を注入することゝなつた。今後は紅河(ソンコイ河)・メーコン河デルタの米のほかゴム・茶・甘蔗等の栽培は益々盛んとならうし、鑛産はホングイの石炭を初め錫・亞鉛・タンダステン・鐵・マンガン等も續々潜在價値を發揮しよう。昭和十六年七月末の日・佛の本地方共同防衛の諒解の成立はこの地方に更に輝かしい將來を持ち來すであらう。

タイ國の面積は從來佛印よりはやゝ小であつたが、最近佛印との紛争が我が國の調停により解決し、約十一萬方軒の地を回復したので、今日では殆ど同じ大きさとなつた。人口は一九四一年の國勢調査では千六百萬人を數ふる。タイ國は一八六八年以來東西より佛・英の侵略を受け、英・佛の勢力下に一つの緩衝國として僅かに存在してゐたが、タイ國民も近年大いに目覺め一九三〇年以來の民族運動となり、或は外國人によつて命名された舊國名シナムを改めてタイ國とし、外人顧問制の撤廢となり、その他國內各方面に復興の氣分を漲らし始めた。殊に最近ルアン・ビアン首相の下に東亞の盟主日本と提携するに至り、國勢は有利に發展し終に昭和十六年佛印に對する失地回復となつた。同年十二月大東亞戰爭勃發するや直ちに我が國と攻守同盟を結び目下我が國と共に英・米と戦つてゐる。

經濟上からタイ國を觀ると、從來英國はタイ國に對し經濟上の實權を握り、商業・金融方面に牢固たる地歩を占めてゐた。即ち米・錫・チーク・ゴム等の特産品の輸出も華僑と共に英人の手中にある實狀であつたが、大東亞戰爭と共に英國の勢力は一掃された。タイ國が將來發達すべき特産としては椰子・煙草・棉花・甘蔗等であらう。



皇軍マレー半島攻略圖



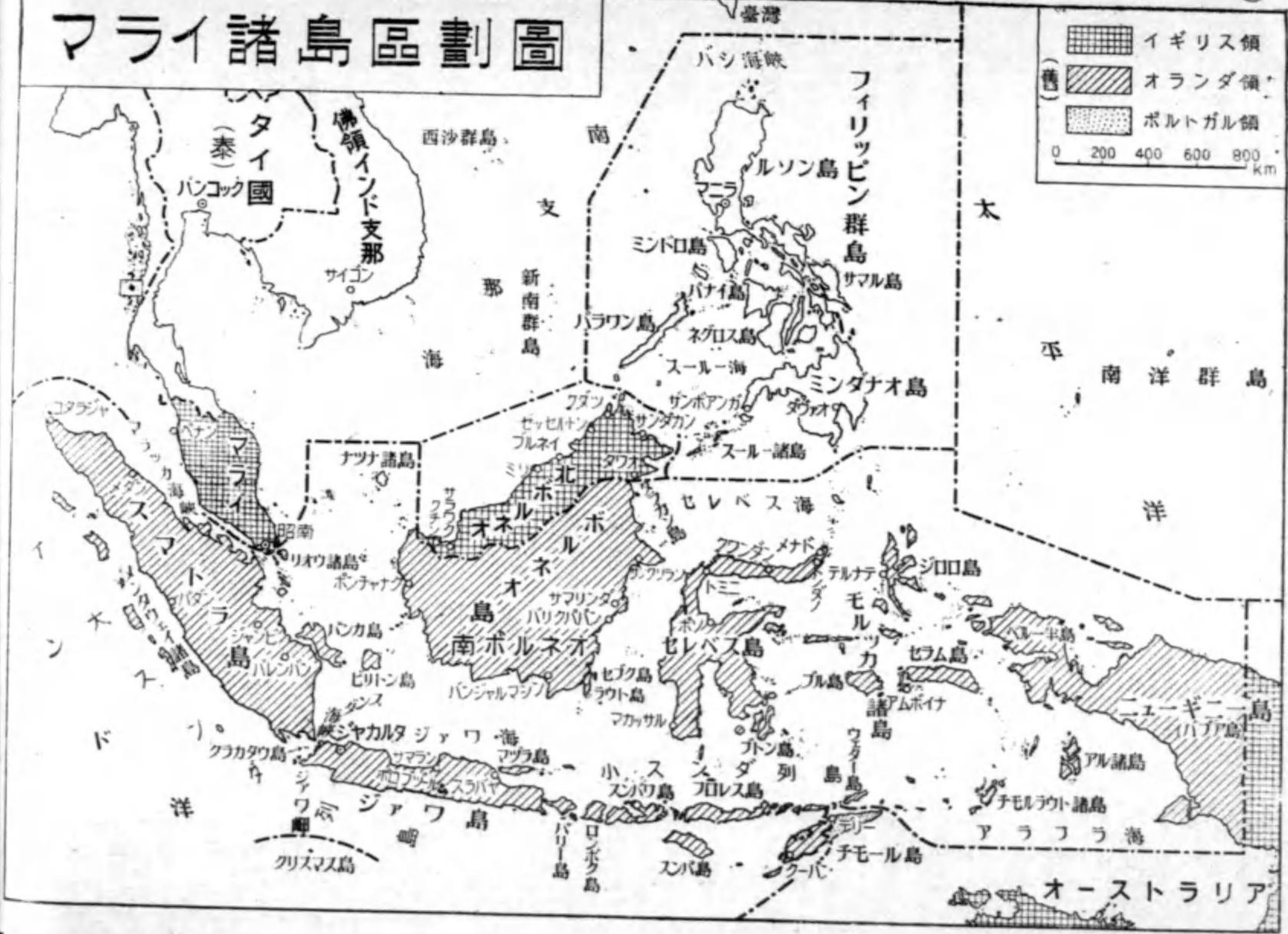
舊英領マレーとビルマ

舊英領マレーはインド支那半島南部のマライ半島の南端にあり、面積十三萬六千方軒(約我が本州の半)人口約五百萬である。英領時代には直轄領の海峡植民地とマレー聯合州(非聯合州の數州より成つてゐたが、皇軍攻略後もほぼその區劃により軍政を布いてゐる。マライ半島は西歐交通の大道マラッカ海峡を扼する要害の地で、歐人の東侵するやボルネオ・オランダに次いで英國は一八一八年スタンフォード・ラッフルズが半島の尖端シンガポール島に自由港シンガポールを建設した。爾來百餘年シンガポールはインド洋から太平洋に入る咽喉を扼し、英國東方經營の策源地となし、最近軍事的施設を増強しシンガポール島全體を擧げて一大要塞たらしめた。これは明かに我が帝國の發展を阻止する目的であつたが、大東亞戰爭により我が國はマライ半島に進攻し、シンガポールを陥れこれを昭南島と改めマレーの稱呼もマライと呼ばれるに至つた。

翻つて産業方面を観るに、マライ半島はその面積の小なるに拘らずその熱帶的自然の恩恵を受けて米・椰子・煙草等を産するほか、現在世界最大のゴム産地で年産額三十八萬萬世界産額の四割餘を占めてゐる。我が邦人も久しくこれに従事してゐた。また數種の礦物を産し錫と鐵とはその主要なるもの、鐵・錫の年産約八萬萬世界第一位を占めてゐる。鐵は頗る豊富でトレンガスのブンゲン、ジョホールのスリメダン二鑛山の如きは夙に我が國への積み出しで知られてゐた。

ビルマ(緬甸)はインド支那半島の西三分の一を占め、サルウィン河・イラワヂ河等が縦谷を成し所謂ラングーン米を産する。面積約六十萬方軒、我が國全土にほぼ匹敵し約千五百萬餘の人口を持つ。住民は大部分ビルマ人である。この國は第十九世紀初頭まで一の獨立帝國をなしてゐたが、一八八六年英國のために滅ばされ爾來インドの一州として統治されて來た。その後住民の反英運動が屢々あつたので一九三七年新たにこれをインドより分離して直轄植民地とした。併しその後土民の英國に對する反感は少しも衰へてゐなかつた。最近支那事變に於て我が國は蔣政権に對する佛印よりの補給路を遮斷したので、英國はラングーンより物資を北上せしめ、滇緬公路により雲南に達せしめてゐたが、今日は我が皇軍のビルマ戡定により英・支の勢力は一掃せられ、最近我が國によりビルマの獨立が約束せられた。ビルマの物産は米を主としチークの産もあり、礦物には錫・銀・タングステンを出し、石油はアジアの英領中最大の産地であつた。その他寶石類も昔からビルマの特産である。

マライ諸島區劃圖



マライ諸島の政治區劃

インド支那半島の東、太平洋の南西部は世界最大の多島海（今日所謂大東亞海）であつて、赤道の南北に互り大小無数の島嶼が連つてゐる。總稱してマライ諸島といふ。この土着人は上代にアジア大陸から移動し來つたと思はるるマライ人（インドネシアン）であるが、歴史時代に入るとインド人は早くから來つてジャワを中心し佛敎文化を傳へ、今日ジャワ第一の名跡ボロブズールはその遺物である。支那人も古くからこの島々に來り住み、元の史弼のジャワ遠征や明の鄭和の南海巡航の如き政治的壓力を加へたこともある。近世に至つてはマホメット敎（回教）の勢力が更に西方より來つて諸所に回教の王國が建てられ、現在も舊蘭領東インド土着民の九割までが回教徒である。

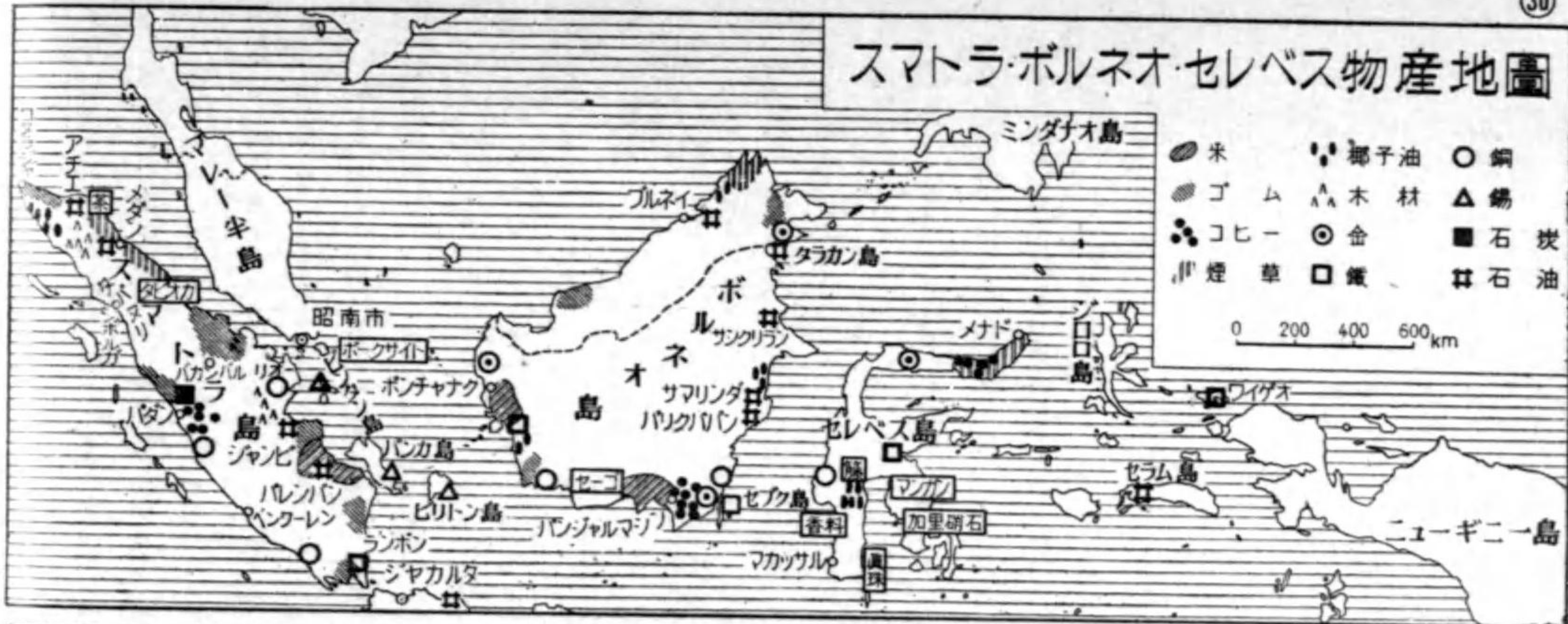
次で第十五世紀末以來歐人東侵の時代に入るや、先づポルトガル人は當時の肉類保存に必要な香料の産地モルッカ諸島に至りこれを占領した。今日チモール島の東半がポルトガル領であるのは當時の遺物である。次いでスペイン人は第十六世紀にフィリッピンを占領して第十九世紀に及んだ。また第十七世紀の初頭オランダはマライ諸島からポルトガル人を逐ひ英國をも壓迫し、ジャワを中心として舊蘭領東インドをつくつた。併し今日は我が國の攻略する所となり我が威力の下に懐伏した。

英國はマライ諸島に於て一時オランダに敗れたが、第十九世紀の初め再び進出を企て、同世紀の中葉ボルネオ島の北部を手中に收め、これを北ボルネオ・ブルネイ及びサラワクに分つてゐた。この英領ボルネオは香港とシンガポールの中間にあり、軍事上の價値も大であつたので、大東亞戦争の物發と共に皇軍は直ちにこれを占領した。産業上では石油・ゴム・カッチ（染料）等の産があり、その石油は占領後忽ち我が資源となつた。

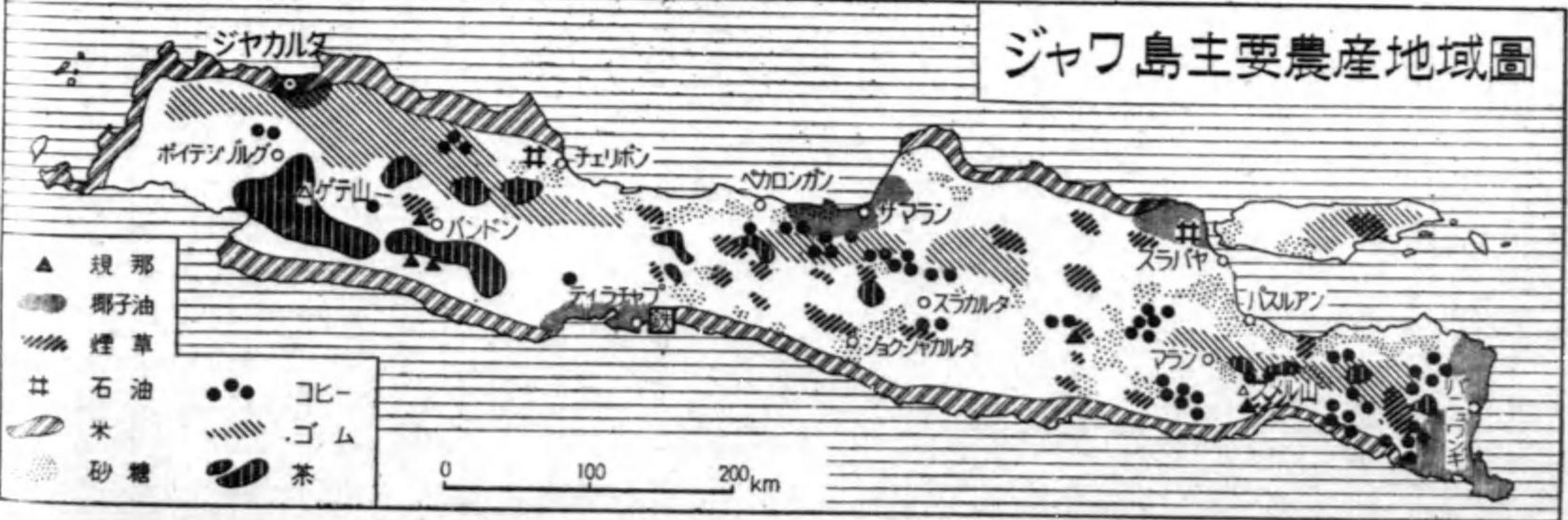
他方第十九世紀末までスペインの治下にあつたフィリッピンはその悪政により土着人と葛藤を生じたが、これを奇貨として米國はスペインと戦端を開き、一八九八年これを獲得した。最近は半獨立の形であつたが實際は米國の支配下にあり、これも大東亞戦争により我が國の攻略する所となつた。

要するにこれ等マライ諸島は最近まで歐・米諸國の制壓下に置かれてゐたが、これ等地方と我が國との歴史關係を観るに、足利末期より我が國との通商が開け、呂宋助左衛門はその代表的商人である。また徳川時代には邦人のジャワに移住せしものもあつたことは、彼の「ジャガタラ文」によつて示されてゐる。近時我が國は國力の進展に伴ひこれ等諸地方の住民に對し共存共榮の實を擧げんとしてゐるのに、その支配者たる歐・米諸國は過去の奪略によつて得たる成果を權利と考へ、我が國の要求を入れないので遂に大東亞戦争となり、今や歐米諸國の勢力はマライ諸島から一掃せられた。

スマトラ・ボルネオ・セレベス物産地圖



ジャワ島主要農産地域圖



舊蘭領東インド (東インド諸島)

舊蘭領東インド(蘭印)は我が臺灣や舊英領マライと共に世界に於て模範的の栽培植民地であつた。栽培植民地は通常温帯文化國がその資本と智識とを以て、熱帶の勢力を使用する經濟的植民地を意味する。舊蘭印植民の成功はその人口が過去五十年間に約倍加して、今日七千萬を算するによりて證明せられる。この成功の結果舊蘭印が今日世界に對する食料や原料供給地としての役割は大きく、中には世界生産の第一・二位を占むるものもある。砂糖は従來本地方の最大産業であつたが近年や、衰へ、一九三八年には百四十萬噸を産してゐた。ゴムはマライ半島に次ぎ世界第二位にあり、産額三十萬噸世界總額の三割餘を占めるので米國を初め世界文化國の垂涎の對象となつてゐた。コーヒーはその品質や、劣るが年産十萬噸以上に及び、コブラ(乾燥椰子)及び椰子油の産も多く共に世界産額の三割を占めるといはれてゐる。規那はジャワの高原地帯に産し産額は一萬噸に過ぎないが世界産出の九割以上である。この他の農産として茶・煙草・ココア・カボック等の産がある。

次に鑛物資源を観るに、蘭印は火山帯が到る所に通じ地質が複雑であるので各種の鑛物に富む。その最も注意すべきは石油であつて年額七百四十萬噸を産し、大東亞圏内では最も豊富な油田區域である。現在開發せられてゐる油田はスマトラ(北部及南部)・ボルネオ(東海岸)・ジャワ(中部)及びヒラム島であるが、近年ニューギニーにも豊富な油田が發見された。而して舊蘭印油田の三分の二は英・蘭・米の會社によつて經營されてゐるが今日は悉く我が有となつた。錫はマライ半島から延び來れる錫脈がシンケップ・バンカ・ピリト等の島に現れ、マライ半島に次ぎ世界第二位の産地であり、産額二萬八千噸であつた。米國はこれを自國の必需品なりとして蘭印問題に容喙してゐた。ボーキサイトはビンタン島を中心とし、アルミニウム原鑛として我が國にも多く輸出されてゐる。このほかセレベス島には未開發の豊富な鐵鑛があり、金・銀は多くの島に見出される。

要之、舊蘭印は世界寶庫の一であつたが、その本國たりしオランダが人口僅かに八百六十萬に過ぎざる小國であるため、本國の面積に約六十倍する舊蘭印の開發にはその手が足りなく、本地方中十分に開發されてゐるのはジャワだけで、他は未だ自然のままに放任せられてゐる所が多い。これはジャワの人口密度が一方軒三一六人に對しスマトラが一八人、ボルネオが僅かに四人であるのを以て見ても判る。小國が大地域を獨占する弊且つ不合理は舊蘭印によく現はれてゐる。この不合理も今後は我が國の統治により是正されるであらう。

フィリピン群島(比島)は臺灣と僅かにバシ海峡を隔て、相臨んでゐる。大小七千餘の島嶼より成り、總面積約三十萬方呎我が國內地の廣さに相當し、人口は約千六百萬を算する。各島共山勝ちて火山が多く氣候は高温多濕、殊に颱風の發生地として著名である。

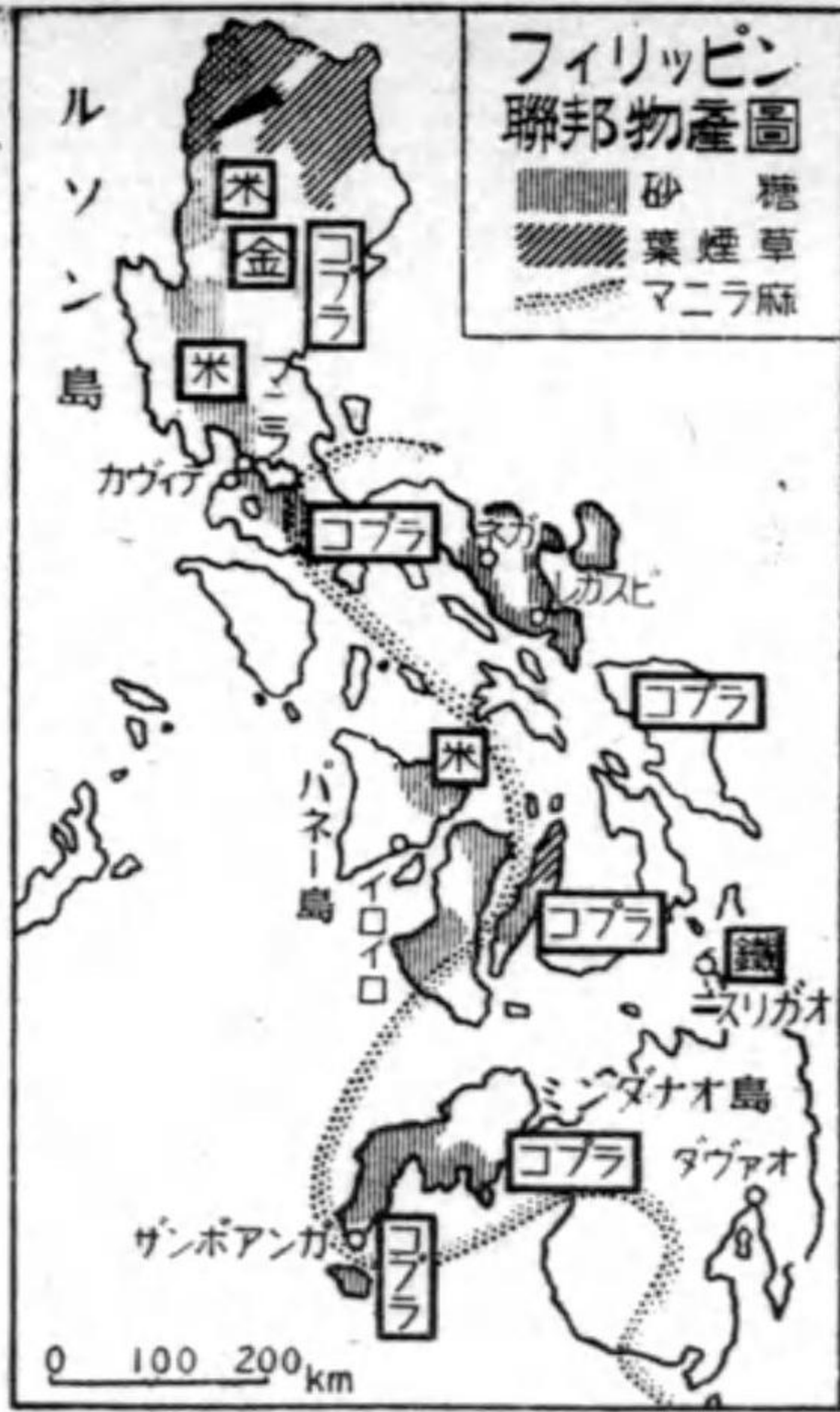
この群島の原住民はマライ人種に屬する。一五二一年マゼランが太平洋を横斷してこゝに到着するやスペイン領とされ、當時の皇帝フィリップ二世の名に因んでフィリピンと名付けられ、住民もフィリピン人と呼ばれた。その後約三百年間スペイン總督の壓政下にあつたが、第十九世紀末積年の弊政に耐へかね、アギナルドを首領とする革命運動が勃發した。この機に乗じ米軍の比島遠征が行はれ、アギナルドは戰爭終了後獨立權を獲得する條件下に米軍と協力して比島のスペイン軍を放逐したるも、平和條約が結ばれるや、米國はさきの約束を顧みずこれを完全な米領としてしまつた。爾來今日までこゝは米國東亞進出の重大根據地となつて來たわけであるが、比島人間の熱烈な獨立要求は遂に一九三四年のマタダフィ・タイディングス法案となり、一九四六年には獨立を許されることとなつた。

併し大東亞戰爭勃發直前に於て米國は比島を以て東亞干渉に要する軍事基地となし、軍港カグイタのほか、別にオロンゴボを築き海・空軍の根據地とし、またバターン半島やコレヒドール島を要塞化してゐた。

比島はやはり農業國であるが今日全面積の一割四分が耕されてゐるに過ぎず、將來十分開かれた暁には現在の四倍乃至五倍の人口を支へ得るといはれる。米を産するが米國の政策に禍せられて島内の需要を満たすに足らなかつた。コ、椰子は比島の特産の一つで、コブラの年産六十五萬越で、産額世界第一と稱せられてゐる。甘蔗糖は米領となつて以來の發達に屬し年産約百三萬越である。マニラ麻も比島の特産で年産二十萬越、世界麻産出額の四分の一を占め第一位にあつたが、主産地はミンダナオのダヴァオ附近で、而かもこれは凡て日本人の手で行はれてゐたことを銘記せねばならぬ。このほかルソンの煙草・ゴム等がある。礦物資源は未だ十分に開發されてゐない。唯ミンダナオのスリガオ鐵山は近年我が國に相當量の鐵石を輸出するので著名となつた。

比島は上述の如く米國の保護下に半獨立の姿であつたが、米國はこれを東亞干渉の足場となし我が國に挑戦したので、遂に皇軍の攻略となり今は全島を擧げて我が治下に入つた。比島はその地理的位置よりしても當然大東亞共榮圈の一翼として、來るべき世界新秩序に際し我が國の指導下に繁榮するであらう。

フィリピン群島



| 米國人の對比投資額 | (千円) 0 | 25 | 50 | 75 | 100 |
|-----------|--------|----|----|----|-----|
| 比島公債 | | | | | |
| 工業用地 | | | | | |
| 製造業 | | | | | |
| 通商手帳 | | | | | |
| 郵便 | | | | | |
| 森林 | | | | | |
| 地産 | | | | | |
| 山行 | | | | | |

| 比島在住外人 | (万人) 0 | 3 | 6 | 9 | 12 |
|--------|--------|---|---|---|----|
| 日本人 | | | | | |
| アメリカ人 | | | | | |
| スペイン人 | | | | | |
| イギリス人 | | | | | |
| その他 | | | | | |

フィリピン群島

日・滿・支・佛印・タイ國・マライ・ビルマ・舊蘭印及び比島等を含む東亞共榮圏内の諸地方は、面積二千六百萬三千萬方呎・人口七億三千萬に上る大地域であつて、貿易の年額は百七十億以上に及んでゐた。併し従來この地域内に於ける諸地方は通商關係に於て必ずしも自然の發達をなし、また互に親密であつたとはいへない。これはこれ等諸地方の政治狀態が種々の點に於て貿易の發達及びその方向を歪めてゐたからである。

本圖は大東亞戰爭以前に於ける我が國以外の大東亞共榮圏を構成する各國の貿易額を圖貨に換算して示したもので、これによりその國の經濟力の一斑を知り、相手國別によつて列強或は他地域との依存關係を一目にして認識することが出来る。

先づ貿易額より觀れば、滿洲國を最大とし舊蘭印・マライこれに次ぐ。滿洲國の最大なるは喜ばしいが、貿易はかなり均衡を失ひ輸入が極めて多くの割合を占める。これは同國が建設の途上にあることを物語るもので、日本の占むる割合は當然壓制的である。

蘭印の貿易は多額の出超を示し、輸出では歐米依存の狀態をよく現はして居り、日本への輸出は極めて少なかつた。輸入では日本製品が一分五厘を占めてゐるが、昭和七・八年頃はそれが二割以上に及び第一位であつた。

舊英領マレーは面積小なるに似ず貿易額巨大なるのは、シンガポール・ペナンの二自由港が仲繼貿易の役割を果してゐたため、輸出に於て米國の第一はゴム・錫を需要したからである。輸入國として舊蘭印やタイ國が上位にあつたのはこれ等諸國の物資が更に英・米へ運ばれてゐたので、經濟上にもマライは英・米東亞侵略の第一線となしてゐた。

支那は面積と人口とに比すれば貿易額は餘りにも少い。而かもやゝ入超であつた。これは支那が歐米の植民地的地位にあつたため貿易が發達しなかつたことを物語るもので將來は大東亞圏の大核心として日本への物資供給はもつと盛にならねばならぬ。

タイ國の貿易の少額なることは輸出入共シンガポールのみに依存してゐたためである。今後タイ國の貿易は大東亞共榮圏内に於て發達するであらう。

フィリピンと佛印とはほぼ同様な型式を示し、その支配國との關係が餘りに濃厚であつた。この様相は概ね人為的政策制度の結果であるが、今後佛印は政治的關係の變化により日本との貿易が必然的に増加すべく、比島の貿易も全くその性質を改めるであらう。

要するに、遠き歐米諸國との關係が密であつたが、今日はこのブロックは既に崩壊し、寧ろこの地域を包含する廣域經濟の確立によつて各地方の貿易は發達するであらう。こゝに大東亞共榮圏の意義が見出されるわけである。

東亞共榮圏内の貿易

東亞共榮圏諸國の貿易額比較 (1938 1939年 円に換算)

| タイ國 | |
|------------|------------|
| 輸出 | 輸入 |
| シンガポール 66% | シンガポール 27% |
| 香港 12% | 日本 20% |
| その他 | イギリス 12% |
| | その他 |

| 佛印 | |
|----------|----------|
| 輸出 | 輸入 |
| フランス 52% | フランス 57% |
| 香港 11% | 香港 11% |
| その他 | その他 |

| 支那 | |
|---------|----------|
| 輸出 | 輸入 |
| 米國 22% | 日本 27% |
| 香港 21% | イギリス 16% |
| イギリス 9% | インド 9% |
| 日本 7% | 蘭東州 7% |
| 蘭東州 5% | 米國 6% |
| ドイツ 4% | 蘭印 5% |
| その他 | その他 |

| 滿洲國 | |
|---------|--------|
| 輸出 | 輸入 |
| 日本 63% | 日本 85% |
| 支那 20% | 米國 5% |
| ドイツ 6% | 支那 4% |
| エジプト 5% | その他 |
| その他 | その他 |

| 英領マレー | |
|-----------|-----------|
| 輸出 | 輸入 |
| 米國 298% | 蘭印 27% |
| イギリス 201% | イギリス 186% |
| 日本 93% | タイ國 16% |
| フランス 75% | 支那 44% |
| 蘭印 71% | その他 |
| その他 | その他 |

| 蘭印 | |
|------------|-----------|
| 輸出 | 輸入 |
| オランダ 20% | オランダ 22% |
| シンガポール 15% | 日本 15% |
| 米國 135% | 米國 124% |
| オーストリア 55% | ドイツ 10% |
| イギリス 54% | イギリス 8% |
| ドイツ 35% | シンガポール 7% |
| 日本 24% | その他 |
| その他 | その他 |

| フィリピン | |
|--------|--------|
| 輸出 | 輸入 |
| 米國 76% | 米國 69% |
| 日本 7% | 日本 6% |
| その他 | その他 |

各國共輸出入の外郭は貿易總額を示す

單位十億円

ソビエト共和国連邦政治區劃圖



ソ連邦と政治區劃

ソ連邦は英國に次ぐ世界第二の大國で地球陸地面積の六分の一を有し、アレキサンダー三世をして「ロシアは世界の第七大陸なり」と誇稱せしめた程である。而かもその領土は英帝國の如く各地に分散せずして、地形上亞歐に跨り一單位をなしてゐる。従つて人文上でも亞歐兩文化が混合し、概してアジア的で都市の様式の如きもそれである。スターリンが「予はアジア人なり」といひ、ナポレオンがモスコの雀が丘に立つて「汝アジアの都よ」と叫んだこと等はその一斑を示すものである。

元來スラヴ民族は西暦第一世紀の頃はカルパチア山脈の東に住んでゐたが、その頃より東西へ移動を始め、西遷せるものはブルガリア・南スラヴ・チェツク・ポーレン等の民族となり、東行せるものは大ロシア・小ロシア等今日のソ連邦の民族となつた。

ロシア族は第九世紀の頃既に今日のヨーロッパロシアを統一し、都をウクライナのキエフに置いたが第十三世紀以後蒙古の攻略を受け、第十六世紀の初めロマノフ王朝が興り國土を回復し、そのベテル大帝によりて政治上の大勢力となつた。これより先き一五八二年イェルマツクによりてシベリア征服が行はれ領土の大を來した。東方の領土は第十九世紀の央滿洲より奪取したものである。

今日のソ連邦は一九一七年の革命によりロマノフ王朝を倒して樹立した新國家であるがソ連邦の政治組織は建國以來屢々變遷し、現在の制度は一九三六年の所謂スターリン憲法によるものであつて、ロシアソビエト聯合社會主義共和國(РСФСР)を本體とし、これに他の十ソビエト社會主義共和國(ССР)を加へ國號をソビエト社會主義共和國連邦(СНЗСР)と稱するのである。ソビエトは委員會の義である。連邦各部の面積人口(現大戰前)は左の如くである。

| ソ連邦の構成共和国(略稱・以下同じ) | 面積(千平方里) | 人口(千人) |
|--------------------|----------|--------|
| 1, ロシア聯合共和国 | 一六五五九 | 一〇九二七九 |
| 2, ウクライナ共和国 | 四四三 | 三〇九六〇 |
| 3, 白ロシア共和国 | 一一七 | 五五六八 |
| 4, アゼルバイジャン共和国 | 八五 | 三二一〇 |
| 5, ジョージア共和国 | 七〇 | 三五四二 |
| 6, アルメニア共和国 | 三〇 | 一一八二 |
| 7, トルコマン共和国 | 四四 | 一一五四 |
| 8, ウズベク共和国 | 一七一 | 六二八二 |
| 9, タジク共和国 | 一四三 | 一四八五 |
| 10, カザク共和国 | 二七二四 | 六一四六 |
| 11, キルギス共和国 | 一九七 | 一四五九 |
| 合計 | 二〇五九三 | 一七〇四六七 |

即ちソ連邦の中樞をなすロシア聯合共和国は全領土に對しその八割、人口の八割五分を占め名實共に指導的立場にある。ソ連邦中ヨーロッパ洲にあるものはロシア聯合共和国の一部とウクライナ及び白ロシアのみで、全領土の二割五分人口はその八割である。最近の獨ソ戦争によりソ連は一九四二年末までに領土約百萬方軒人口約三千萬を失つてゐる。ソ連邦の政治は所謂ソビエト政治で、各共和国に互り社會組織の單位細胞の集團より漸次上級の集團の委員を選出し、最後に連邦はソビエト委員を選ぶ。この委員中より人民委員即ちソ連中央政府が作られる。各共和国内に夫々直轄領のほか政治的經濟的に後れてゐる地方には自治共和国(ソブソブ)・地方・州・自治州等が置かれてゐる。今や勇猛獨軍の砲火を受けつゝあるソ連の明日の政治體制は如何になりゆくであらうか

嘗て廣漠たる原始的存在として單に流刑植民地であつたシベリアも、今ヤソ聯邦の産業建設の檜舞臺に登場し著しくその相貌を變化せんとしつつある。

農業に於ては特に西シベリアの草地帯が開發の中心となり、南露の黒土帯に接続する農業地としてソ聯獨得の農業體制たるコルホーズ・ソホーズが盛に建設されてゐる。特に注意すべきは中央アジア南部の棉花栽培であつて、國境の高山地方の雪溶けの水を利用して大規模な灌漑網を設け、世界有数の棉花産地となつた。(トルク・シブ鐵道もこれ等棉花を初め中央アジア農業開發に伴つて敷設されたものである。) 林業は古來シベリア第一の資源とされ、針葉樹の密林は所謂タイガと稱せられシベリアの北半を被覆し、内部には貴重な毛皮獸が棲む。この毛皮獸はロシア人東侵の一原動力をなしたものである。針葉樹は曾てはシベリア鐵道の燃料となり今日は製紙原料を供する。漁業はベーリング海・オホーツク海を中心にして世界三大漁場の一に包含され、沿岸はポーツマス條約による既得權として我が漁船の活動區域である。鑛業は金が夙に著名であつて各地に産し、石炭は近時の發見にかかるが、鐵道の沿線に多いのとまた鐵鑛の産地に近いので工業の發達にも利便を供しつつある。石油は西部の各地に産し、東部では北樺太の油田のみである。この油田は尼港事件の結果我が國が採掘權を得たもので從來は兎角その順調な開發が阻害せられてゐた。

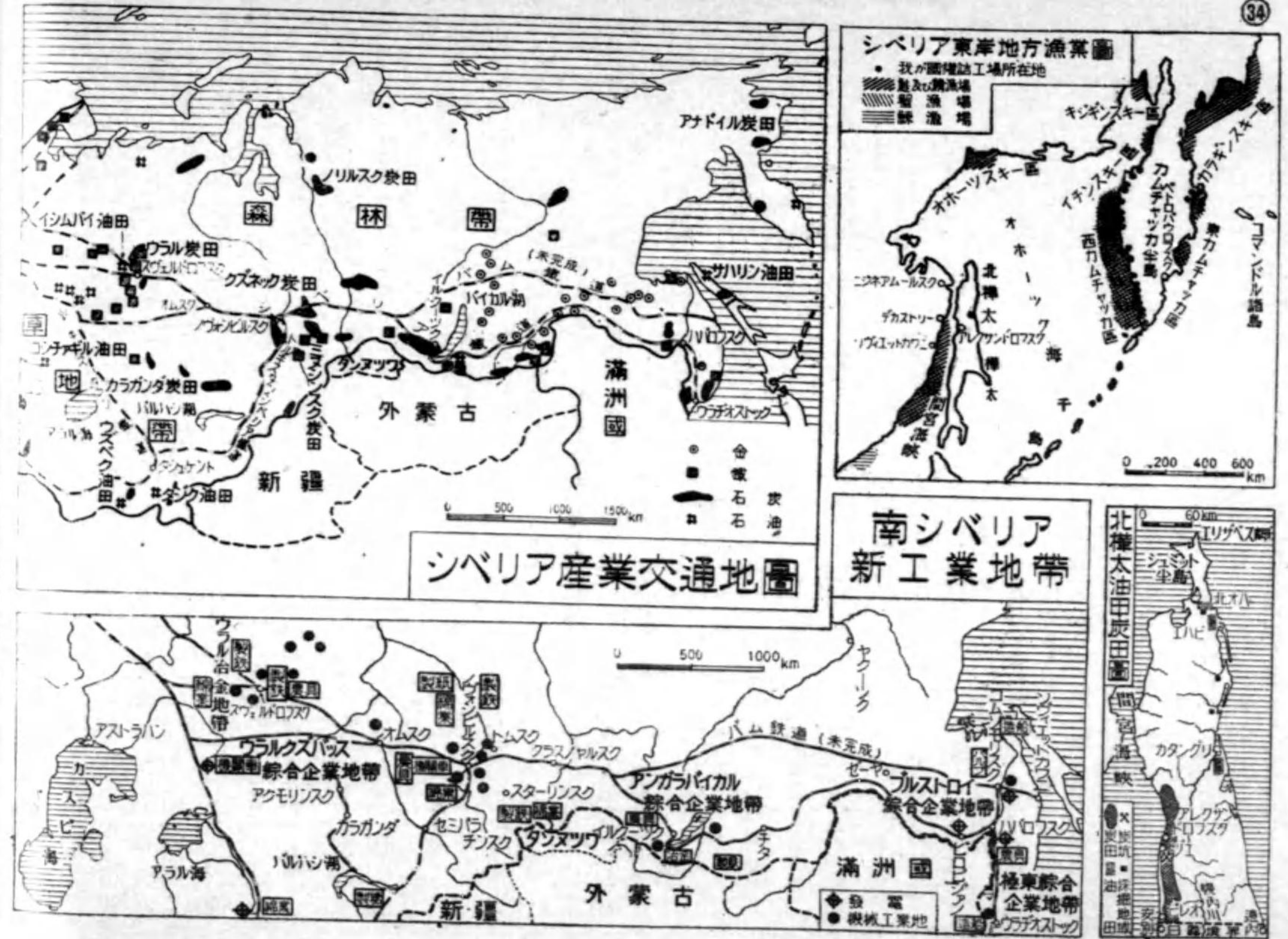
以上の原始産業のほかシベリアには最近五ヶ年計畫により南シベリアに多くの綜合企業地帯が設けられ、そこに大工業地帯が發展しつつある。その主なるものは左の如くである。

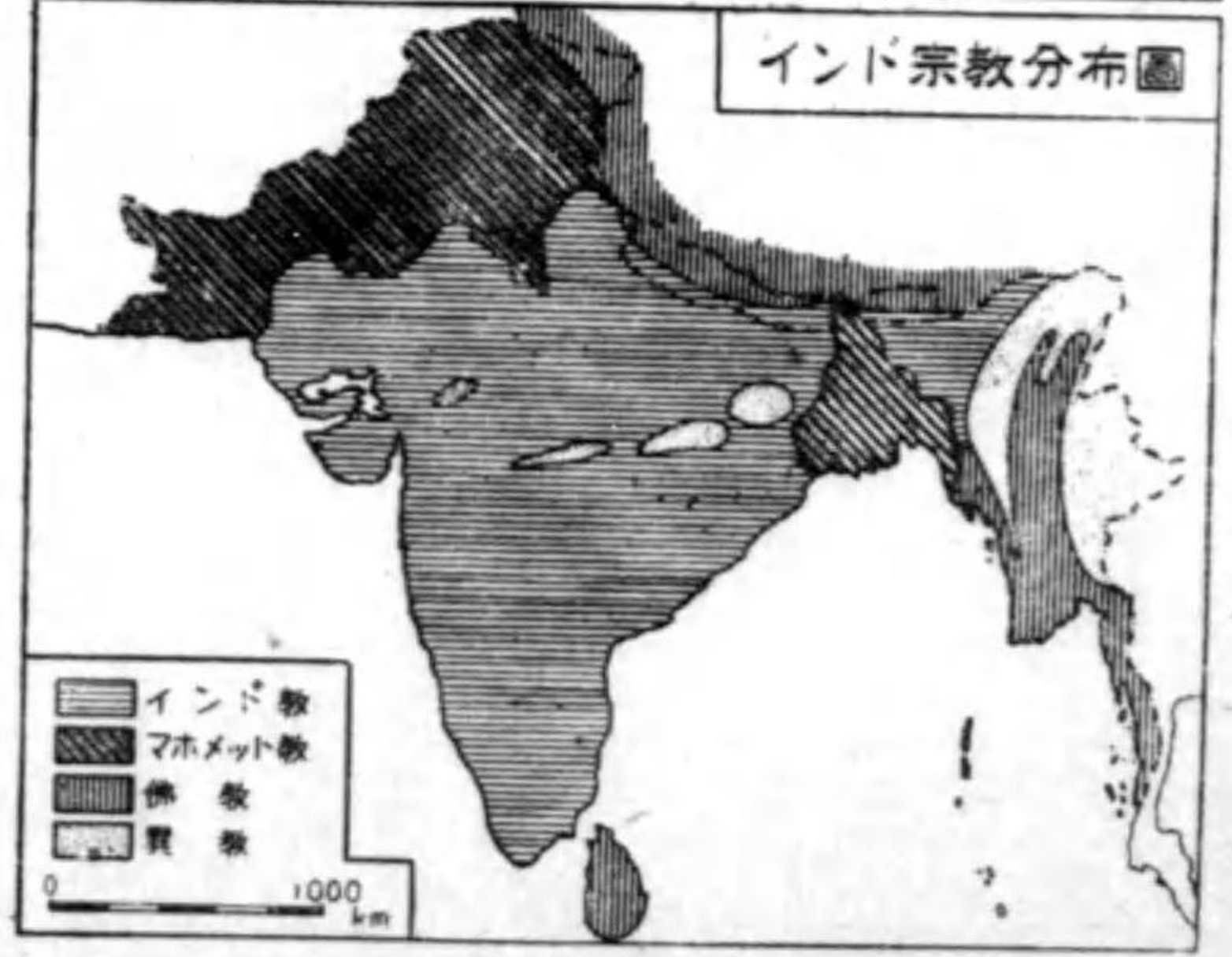
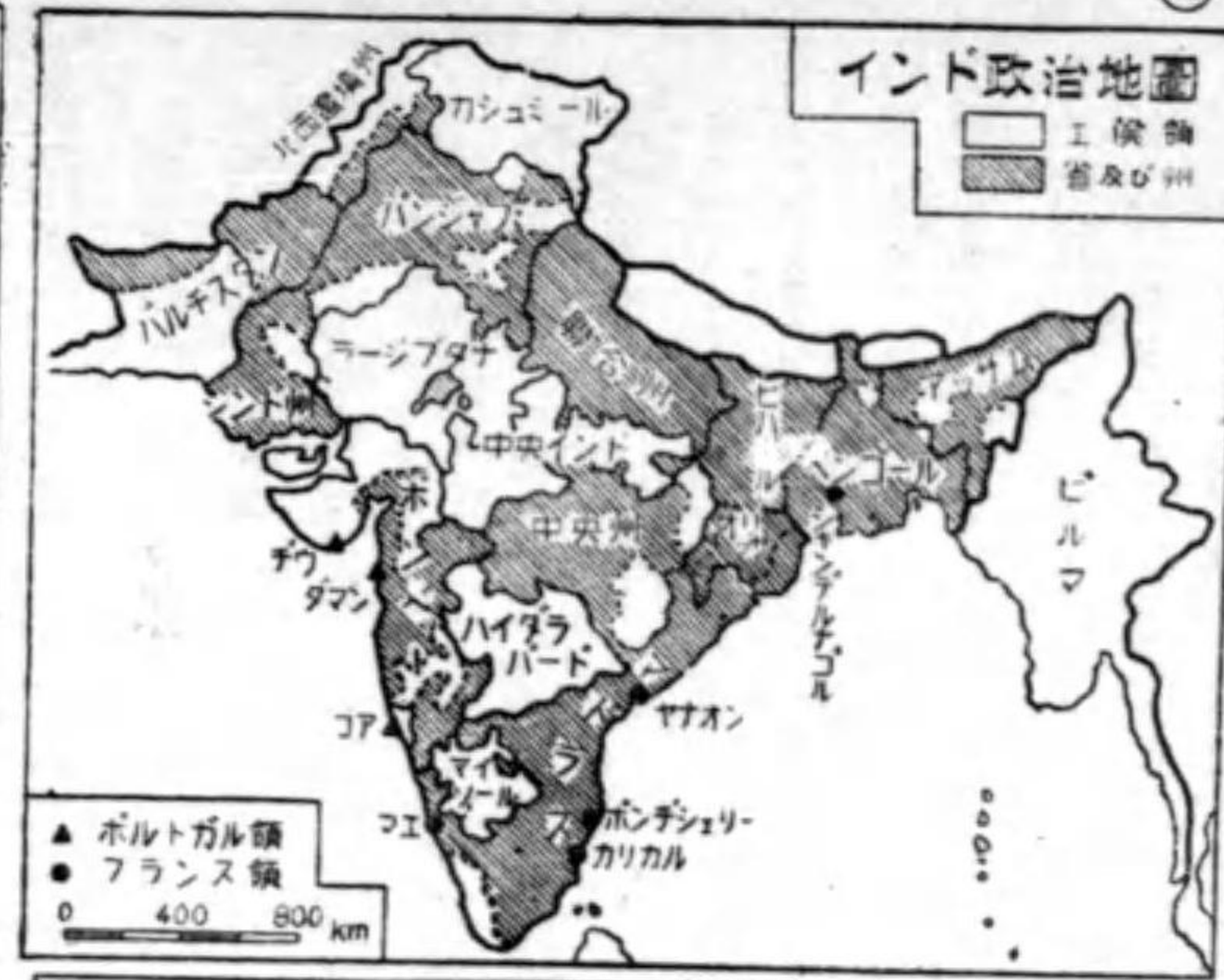
(一)ウラルクズバツス綜合企業地帯——ソ聯最大の埋藏量を有する西シベリアのクスネツク炭田を中心とし、これとウラル山脈の鐵その他の礦物資源とを結合せしめて成立させたソ聯第二の大工業地帯で、第一の歐露のドンバス工業地帯と相對する、農具の製造の他最近軍需工業が發達したスヴェルドロフスク、ノヴォシビルスクはその主要市である。

(二)アングラバイカル綜合企業地帯——イルクーツクを中心として附近の鐵・石炭・アルミニウムを原料とし、水力を利用し目下農具・冶金等の工業が興りつつある。(三)ブルストロイ綜合企業地帯——ハバロフスクを中心とし附近の鐵・石炭を利用する。極東軍への物資自給がその目的とし、地帯内のビロビジャンはユダヤ人の町である。

かくしてシベリア鐵道沿岸に新しき工業都市が起つたが、なほ周知の如くソ聯邦はバイカル湖北部を迂回して太平洋岸に至るバム鐵道を目下建設中である。土地の廣大性と相俟つて新シベリアの經濟價値は隣接の我が國としても十分の注意を拂ふ必要がある。

シベリアの産業





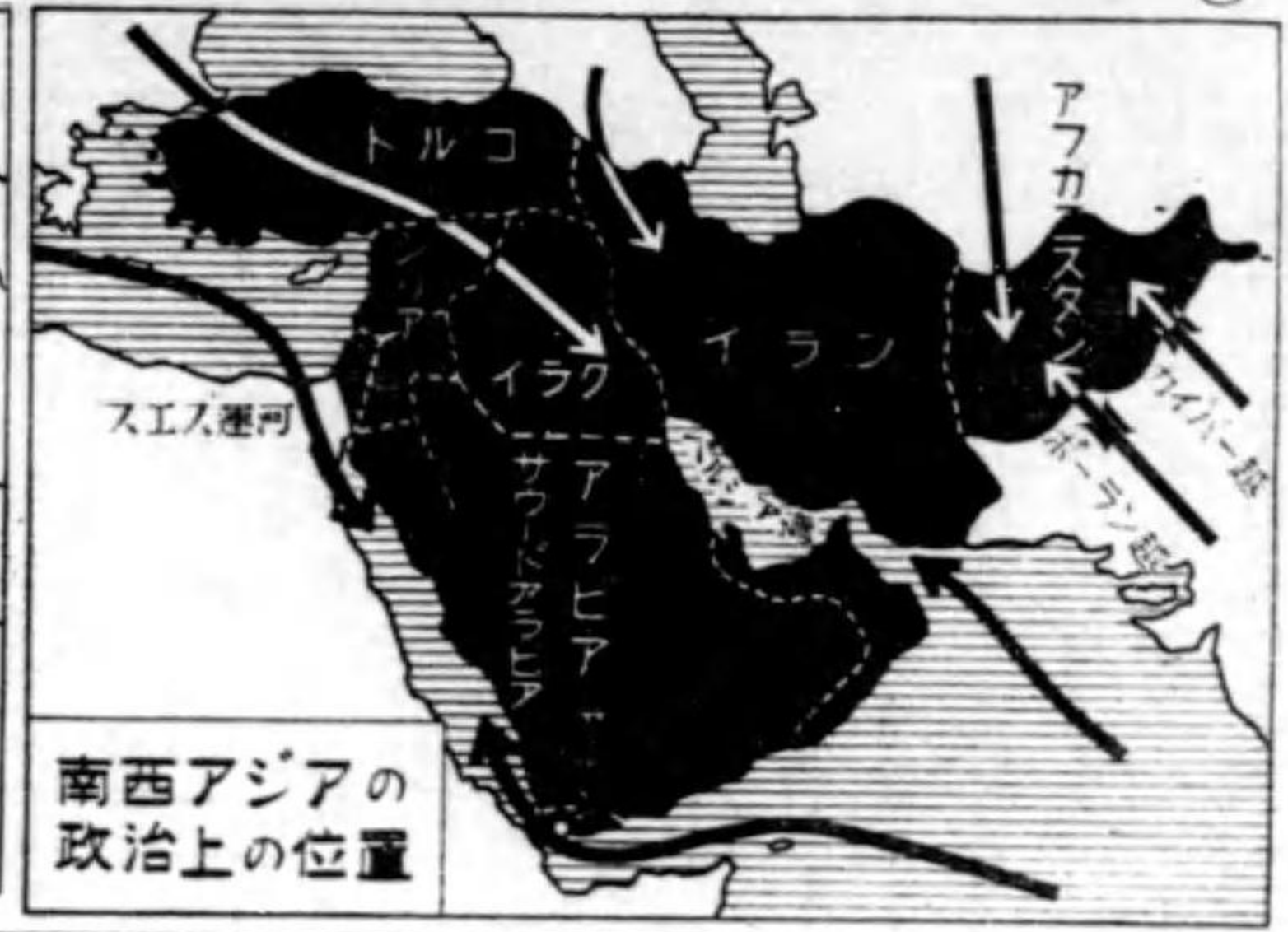
インドの民族・政治・産業

インドは面積四百七十萬方軒（支那本部の一倍半）人口は三億五千萬を算し、その數が共に巨大なる上に、地形は北部に世界第一のヒマラヤ山脈が連り外界との接觸を妨げ、南方には縹緲たるインド洋が展開するので、古來インド族はインドを夫自身一つの世界と考へ、或は須彌山の世界觀となり或は獨自の文化・宗教を發達せしめて今日に及んでゐる。

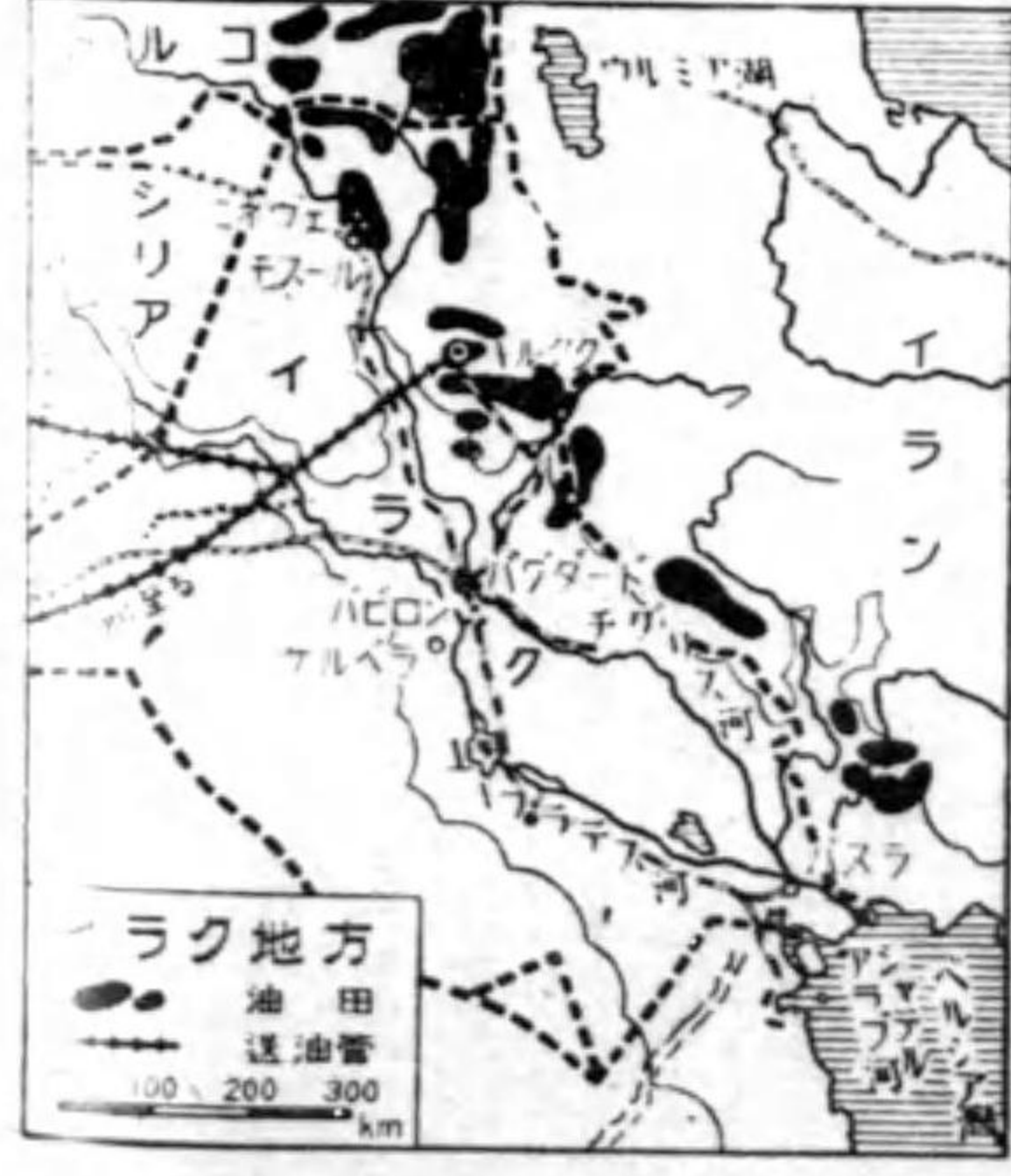
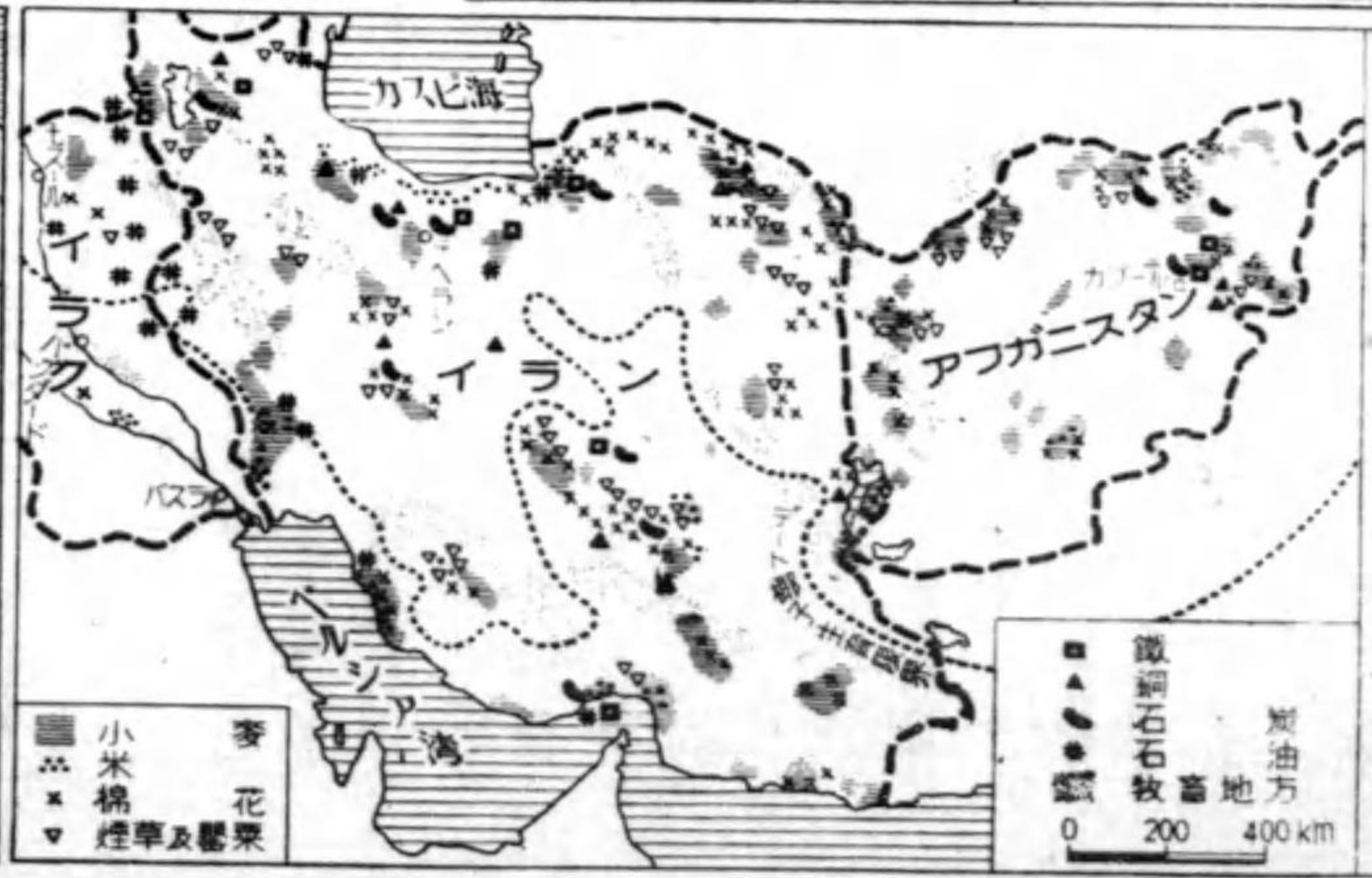
インドの民族的構成は極めて複雑で、有史以前の先住民はドラヴィダ族であつたが、太古以來アリアン族・イラン族・蒙古族も侵入し來り、これに伴ひ言語風習にも千差萬別を來し特有の種姓制度が發達し、宗教にも種々變遷があつた。殊に宗教方面ではその昔華かなりし佛教は、中央アジアにその根據を有すると考へられるインド（ヒンズー）教のために漸次壓迫せられ、今より千年以前既にその權威を失ひ、今日はインド本土には佛教は殆どその姿を潜めた。マホメット教は第九世紀以來インドに傳はり、今日では信徒七千萬を擁し二億二千萬のヒンズー教徒と常に抗爭して、イギリスの利用する所となつてゐる。

イギリスのインド侵略は第十六世紀から始まつたが、結局その執拗な努力は功を奏しインドは遂にその帝國主義の下に全く征服されて了つた。英國のインド統治はその國土と民族の複雑性を巧みに利用した所謂「Divide and Rule」主義で、恰も徳川時代の地方統治の如く英國の直轄州と土王領とを犬牙錯綜せしめてこれを牽制してゐる。僅か二十萬の英人を以て三億五千萬の異民族を壓迫し統治し得たのは、この巧妙な政策に因る。併し最近我が國の興隆に刺戟せられて目下反英開爭が各地で行はれてゐる。なほインドの海岸には今日點々と葡領や佛領の港市が残つてゐるのは諸國が英國と時を同じうして東洋侵略を試みた際の遺物である。

インドはまた世界の寶庫の一つである。甘蔗・棉花はこの附近を原産地とし、そのほか寶石・香料・藥種等の貴重商品の特産がある。今日産業の本幹は農業であつて住民の八割は農民である。作物は耕作技術が幼稚で品質や收量の點では劣るが、生産量に於て世界第一・二位を占めるものも少なくない。即ち黄麻・採油用種子・甘蔗・茶に於ては世界第一位、棉花・米は第二位、小麦は第四位である。従つてインドの輸出品もこれ等の農産物を主とするが、食料作物の如きは國內の需要に足りない。重要な鑛産物はカルカッタ西方の鐵鑛でその品質は極めて優秀である。タタ（製鐵所名）鐵鑛として我が國へも輸入せられてゐた。石炭は少く品質も不良である。このほかデッカ高原のマンガン、セイロンの黒鉛・眞珠は世界有數の産地である。



アフガニスタン・イラン・イラク産業地帯



南西アジアの政治と産業

英領インドの西北境を限るインダス河を渡つて西の方、廣義のイラン地方に出ると天地の相貌が一變する。インドにはヒンドスタンの平原が開け季節風の天恵に浴し、各種の農産物が饒多であるの對し、イラン地方は海拔一千米以上の高臺に被はれ且つ氣候極めて乾燥し、植物の生育甚だ困難である。それにも拘らず古來この地方は幾多の歴史的事蹟を残してゐるのは、歐洲からアジアの寶庫インドへの橋梁的地位にあるからである。觀ようによりてはアジアの寶庫をむざ／＼歐人の手に歸せざらしめんとする天の意圖により、この艱險の地帯が作られたともいへよう。

而してこれ等橋梁的諸國が現在持つ政治上軍事上の性質を検討してみると、アフガニスタンは國境の大部分がインドに接するため歐洲諸強との交渉が重大であつて、英國は嘗て首都カブールを占領したことがあり、ロシアも第十九世紀後半よりこゝに勢力を扶植した。この國が從來僅かに獨立を保つて來たのはこの英・露兩國の勢力の均衡によつてである。その後國勢が揚り一九二二年に至り立憲君主制を布き名實共に獨立國となつた。國土の大部分が高原であるため**畜牧**が國の主要産業で、また小麦・米等の農産物や若干の鑛物がある。近年日本との精神的經濟的提携が強くなつて來た。我が國とは同大の面積を有し千六百萬の人口があるので、この國の向背は決して輕視してはならない。

イラン國はもとのペルシアであるが海路が直ちにインドに通じるので、英國にとりては防禦地帯としてもその價値は大きい。またその豊富な石油資源は英國の垂涎するところである。英國は凡ゆる手段を盡してイランを懐柔せんとしてゐた。他方ロシアもインド洋へ出るためこの國に食指を動かしてゐた。一九四一年八月獨・ソ戦争の結果英・ソ兩國は相約してイランに侵入し、これを半保護國とした。イランの物産は小麦・米・煙草・棉花等少量の農作物のほか、北部に産する絨氈は最も著名である。油田は主に南西部のペルシア海岸にある。

イラクは所謂メソポタミアの地で世界最古の文明を生み、また幾多の王朝・民族が興亡した地である。第十九世紀までは唯歐・亞間の橋梁としてのみ價値を有し、嘗てドイツは所謂三B政策によりベルリンよりバグダードの鐵道建設を企てたが、最近は寧ろモスル油田の資源が列國争奪的となつて來た。即ちこの地を制せるものは交通と資源を併せ有することになりその利益は頗る大きい。今次の戦亂により英國は逸早くこれを占領しイラクを保護國としたが世界戦争の進展に伴ひ再び變化するであらう。

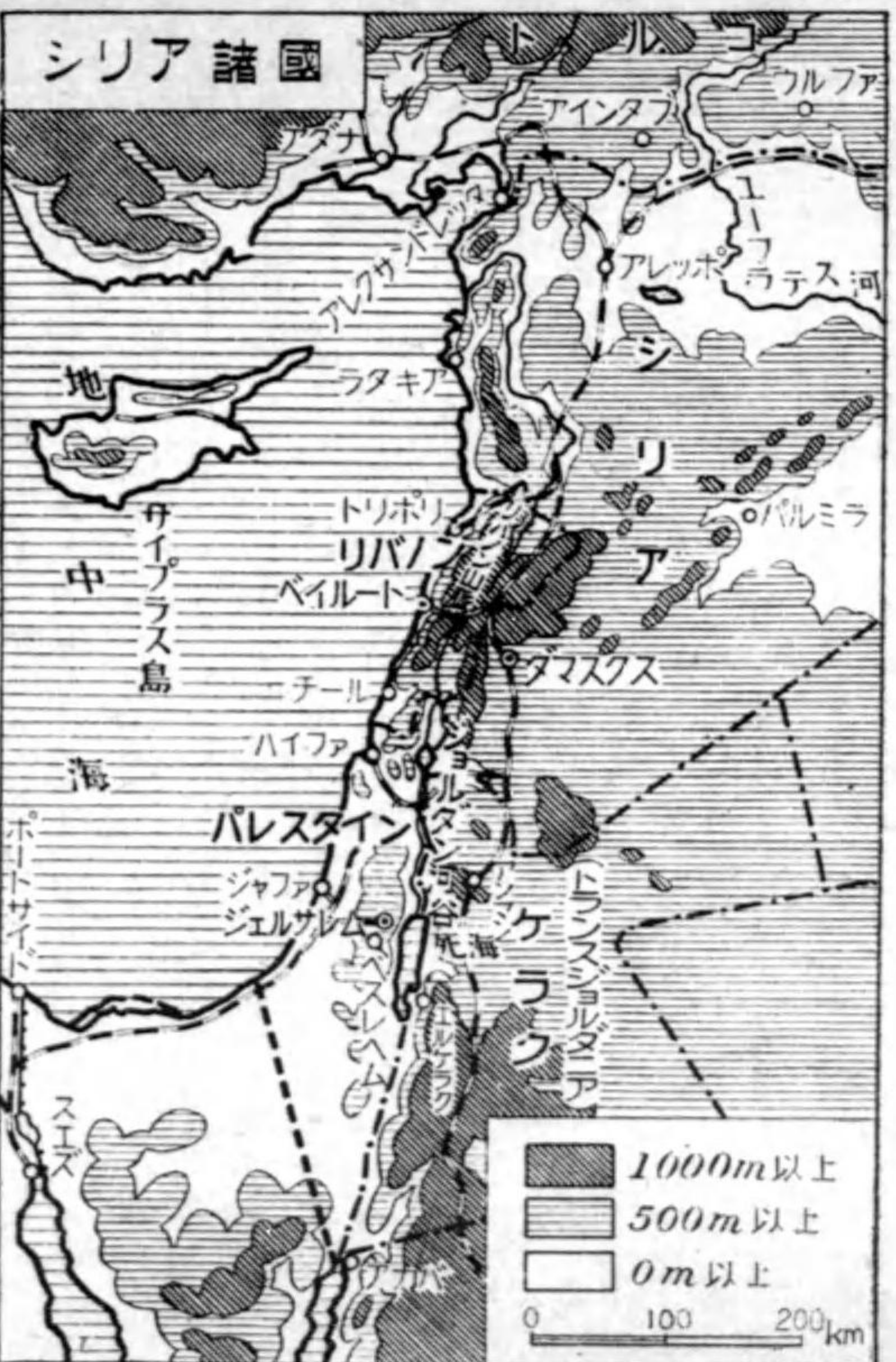
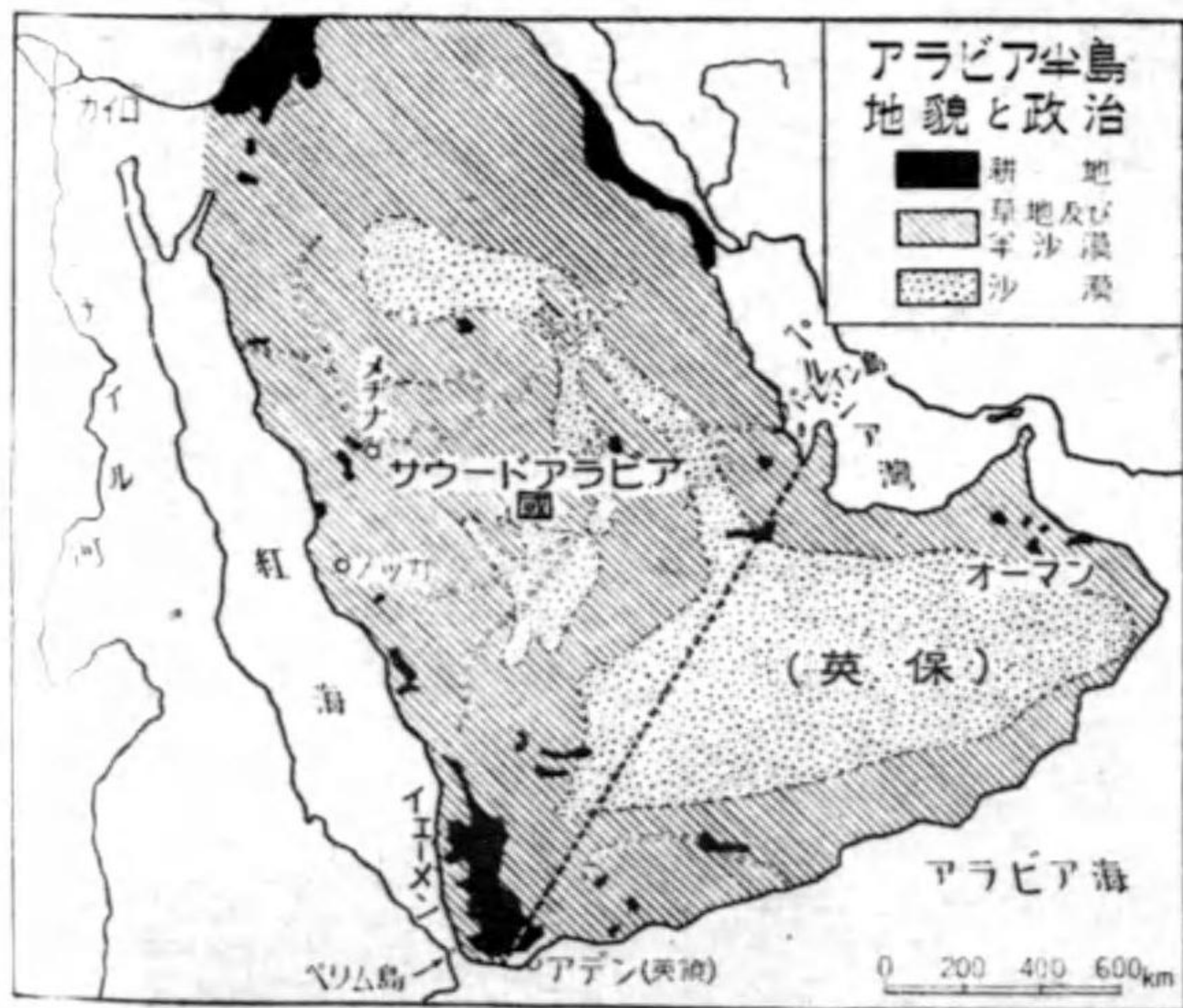
これ等西部アジアの國々は地中海・紅海の東に連り、上古亞・歐・阿三大陸の文化の接觸地で、また諸民族往來の舞臺でもあつた。

トルコは第一次世界大戰に敗れ殆ど歐洲の領土とアジア西南部の諸地方を失ひ、今日は小アジア半島を主體とし、これにヨーロッパの殘存部を以てトルコ共和國を形成してゐる。即ちトルコは從來歐洲の一大國と考へられてゐたが今日はアジアの一小國となつた。併しこれを他面から観るとトルコはこの國家の悲運に促されて政治上社會上大なる革新をなした。即ちスルタン制を廢止し、國都を歐洲のイスタンブールよりアジアのアンカラに遷し、回教の國教たることを罷め、一夫多妻や奴隸を禁じたる如きは其の主なるものである。

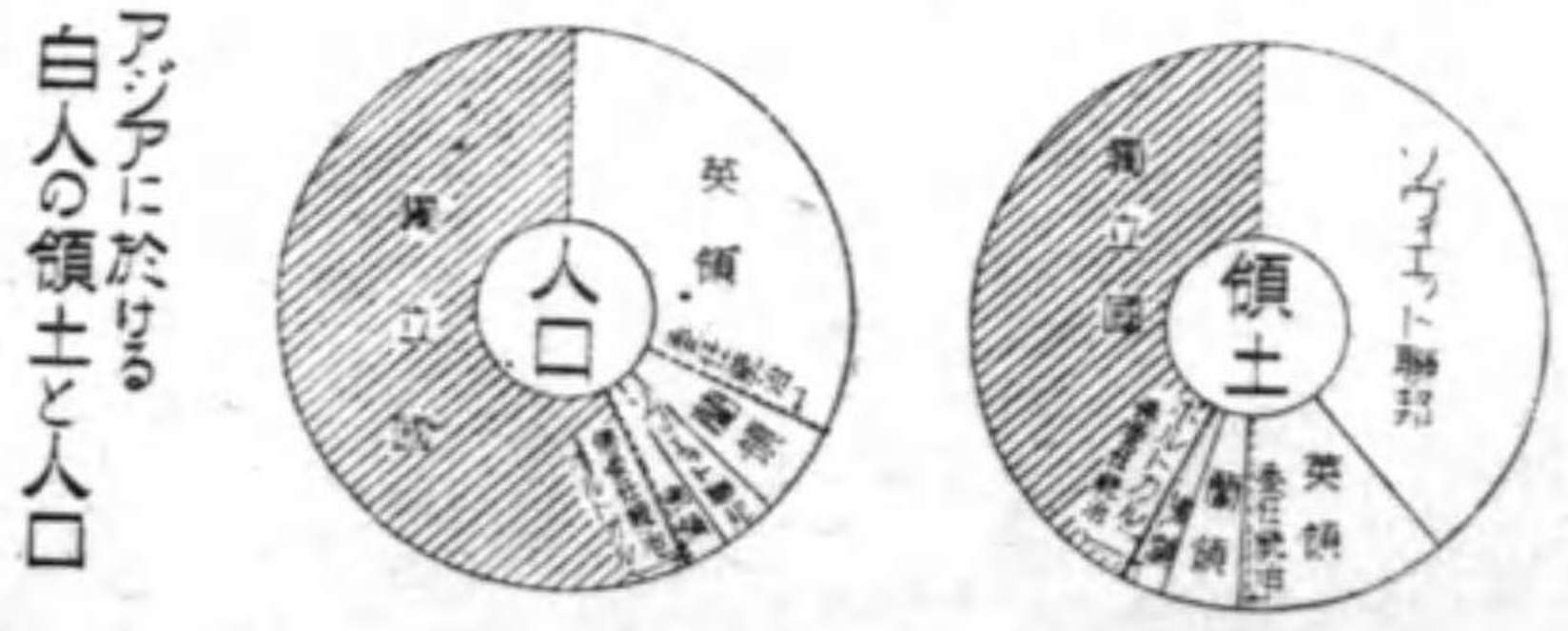
今日のトルコはかくして更正した一小國であるが、その領土は政治地理上なほ二大重要性を持つ。その一は西アジアにある諸回教國と相連なりサードパッド同盟（西アジア回教國の同盟）の盟主となつてゐること。二はその領土が今日なほダダネルス・ボスボルス兩海峽を含み歐亞の咽喉を扼してゐることである。この事實こそトルコが今日獨・英・ソ聯等の列強の間において中立を守り、隠然として重きをなしてゐる所以である。

トルコの南に連るシリア諸國は何れも舊トルコ領であつた所で、古代文化史の名所である。シリアのリバノン海岸は世界最古の商業民族たるフェニキア人の根據地、パレスティンはユダヤ人の故郷としてまた聖地エルサレムを擁して歐洲精神文化の源泉として知られ、現在では南部に英國の傀儡國家たるパレスティン・トランスジョルダニアの二國があり、北部のシリア・リバノンは佛保護領であつたが最近英國の占領する所となつた。これらの海岸の各港にはイラクの石油を運ぶ送油管が沙漠を横斷して延び來つて、今日英國がこれ等を占有してゐる。併しこれ等地方の住民は決して英國に信服せず、またアラビア人とユダヤ人とはパレスティンの居住問題を繞つて流血の民族鬭争を演じてゐるから、この地方は近き將來に於て更に多彩の變化が見られるであらう。

シリア諸國の南に續くアラビヤはまた紅海とペルシア灣に挟まれて特殊な重要位置を占める。中世に燦然たる文化を展開したアラビア人の故郷で、回教はこゝから起りサラセン帝國はこゝに發して遠く西歐に及んだ。その後彼等はトルコの支配下に一時屈伏してゐたが、その標悍な性格は第一次世界大戰に當り英國に利用せられトルコに抗戦せしも、戦後英國の不信によりその獨立性を失つた。現在のサウードアラビヤ國は近年イブンサウードが英勢力に抗して建設したものであるが、まだ十分に羈絆を脱してはゐない。アラビヤは大部分沙漠であつて生産的價値は少いが、交通上の重要性があるのでその政治上の價値は輕視出来ない。



トルコ・シリア諸國・アラビヤ



アジアに於ける白人の領土と人口

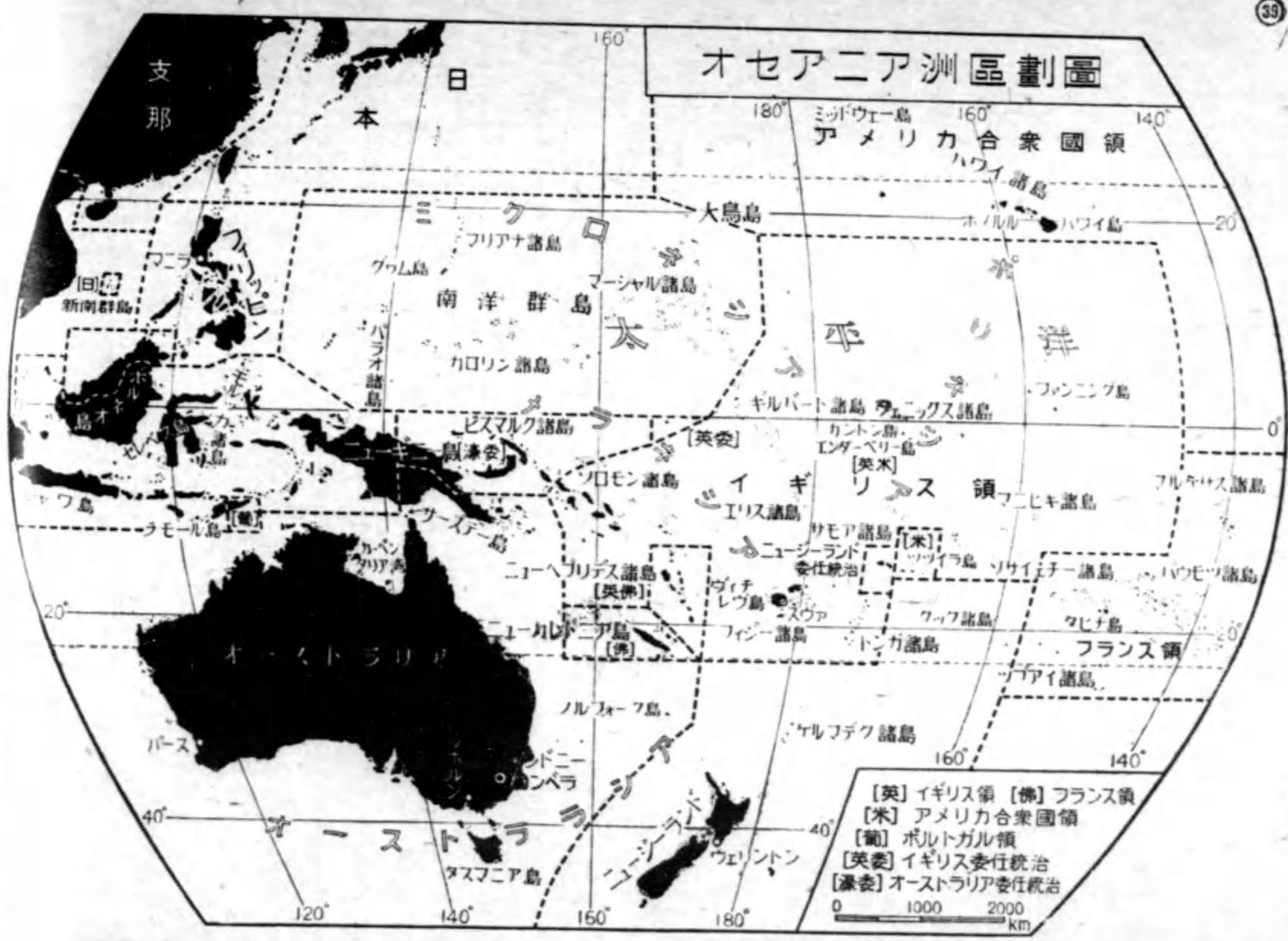


アジア諸國と列強の勢力

アジアは太古から世界人類の本據であつた。人類の祖先は中央アジアの高原地帯を播種としたといふ説があり、言語もまたこの地方に發し、ここから四方に分散して現在の分布を示すに至つたといふ學者もある。アジアといふ言葉は語源的には「朝」を意味し、ヨーロッパはこれに對して「夜」の國である。これは地理上の位置から名付けられたものであるが文化的にも同様であつた。即ち現在の歐洲各國が未だ野蠻暗黒の時代にあつた頃、アジアには既にアッシリア文明や支那文明が興つてゐた。耶穌紀元前後より歐洲の文明がその曙光を現はしたが數百年にして忽ち暗黒時代となつた時、アジア殊に支那の文明はその絢爛の境に達した。かくしてアジアは中世まで独自の文化を持ち、政治上では寧ろ歐洲をその勢力下に收めた程である。第九世紀のアラビア帝國はアフリカからスペインに亘る廣大な版圖を以て歐洲を睥睨し、第十三世紀に於ける蒙古の帝國に至つては殆どアジア大陸全土を席卷し、今日の歐露の大部分を支配した。然るにこの東方西漸は第十六世紀から逆に西力東漸と變つた。即ちポルトガル・スペイン・オランダ・フランス・イギリスは次々に海上より來つてアジアを侵略し、第十六世紀末以來ロシアは陸上より北及び東アジアを征服した。

かく歐洲人がアジアを攻略し得たる主なる原因は、單に白人の技術が稍先進的立場にあつたといふだけであるが、彼等白人はこれを武力に用ひ、僅か數十萬人を以て十億のアジア人に臨み、これを處使し制壓してその富を奪ひ去つた。今日の歐人の富強なる國家は全くアジア人に對する搾取の上に樹られたものである。

今アジアに於ける白人の領土とその内の人口を獨立國のそれ等と比較すると、最近まで白人の領土は全アジア面積の約五割八分を占め、その人口は約四割三分に及んでゐた。而かも支那の如く白人の半植民地的位置にある地方を加ふれば、白人の有する割合は極めて大なるものがあつた。この間にあつて我が大日本帝國のみは八十餘年前東洋の一小邦たりし時すら、英・米・佛・露諸強の強請に抗しつゝ白人をして一指も我が國に觸れしめなかつたことは、當時支那が危大の國土と住民とを擁しながら脆くもこれ等列強の前に屈せしこと、對比して、如何に我が國が優秀性に富んでゐたか判る。宜なりその後には於ける我が國の進展は白人をして我が前に屈せしめ、先きには強露を敗り今日は英米聯合するに非ざれば我が國に抗し得ざるに至つたのは寧ろ快心事といはねばならぬ。近年我が國は滿洲事變を契機として逐年アジアの盟主としての地歩を固め、大東亞戰爭勃發と共に東アジアの民衆は我が國を指導者として大東亞共榮圈の確立に協力してゐる。我が國が更に英・米に完勝するに至らば我が國の八紘爲宇の大精神は全アジア十億の民の上に及ぶであらう。



オセアニア洲大洋洲の小史とその區劃

アジア大陸の南方には他の一大大陸があるとの説が古くから一般歐洲人の間に信せられて居り、彼等はこれを「未知のオーストラリア(南方)大陸」(Terra Australis incognita)と稱してゐた。日本にては今これを濠洲と呼んでゐる。この大陸に初めてヨーロッパ人が足跡を印したのは第十七世紀の初頭で、それはオランダ人であつたが不毛の地としてその儘放棄せられてゐた。第十八世紀の末英人クックがこの大陸を探検し、またニュージーランド島をも發見し、爾來これ等が共に英領とせられた。今この二地方を併せて地理學上オーストラリアと呼んでゐる。而してこの大陸より東北に當つて太平洋中に英布羅列する大小の島々は、何れも第十六世紀以來ヨーロッパ人によりて發見せられたものであつて、そこには當時既に相當の文化が發達し、ハワイ・サモア・タヒチの如く政治上にも進歩した王國もあつた。併しこれ等の王國や諸島は次々に滅ぼされ、中にはその民族が全く絶滅したものも少なくない。タスマニア島はこの好例であり、東太平洋のイースター島の如きは住民は全く滅びて、唯その巨石文化のみが残つてゐる。これ等の民族の亡びし原因の中には白人によりて土人へ齎された酒と性病とがあり、ここにも白人の罪惡史が描かれてゐる。而して彼等白人間に於ても第十九世紀以後にはこれ等諸島嶼の爭奪も盛んであつて、最近まで太平洋上に英・佛・米・蘭・葡等の所領が錯綜してゐたのはこの結果である。

大洋洲の王者たる濠洲は地理上に獨立せる如く、英人は政治上・經濟上にも久しく獨占的地歩を占めて今日に至つた。太平洋諸島は初めはその物産によりて價値づけられてゐたが、時の推移と共に或は汽船の寄航地となり次いで石炭貯藏所・海底電線陸揚場・航空基地等交通上の利用法が異なるに伴ひ、諸島の重要性が昔と今とは大いに異り、従つて列強の關心も變化して來た。嘗ては全く顧みられなかつた蕞爾たる小島すら、その位置の關係上今日は非常に重大なる價値を有するものも少なくない。ウエーク(大島)島やミッドウェー島等がそれである。

太平洋上の諸島はその数が甚だ多いので地理學の便宜上諸種の群に分たれる。即ちメラネシア(黒人島の義)群・ミクロネシア(小島)群・ポリネシア(多島)群がそれである。これ等の諸島嶼やオーストラリア大陸(濠洲)を總稱せるものがオセアニア洲(大洋洲)で、これも近時地理學者によつて名付けられたものである。

これ等大洋洲に屬する各地は白人に發見された許りに濠洲の如く未開發のまま残され、太平洋上の諸島の如く土着人は或は滅され或は壓制せられ、人口は漸次減滅しつつある。今や太平洋諸島は既に我が國の制壓下に置かれたから、今後は我が國の善政により諸島の住民の上に繁榮と福利とが齎されるであらう。

オーストラリアはクックが初めて探検し、英國がその開發に乗出してから僅かに百五十餘年に過ぎない。而かも英本國から最も遠い植民地であるため、ここに來住するものも少く人口僅かに六百八十餘萬である。而してその約半數はシドニー・メルボルン・アデレード・ブリスベーン・パースの五大都市に集中してゐるから、僅か三百數十萬人が七百七十萬方杆の大地域に住み、従つて人口は甚だ稀薄で大部分一方杆一人以下の密度（我が内地は百八十人）である。それにも拘らず近年所謂白濠洲主義を採つて有色人の移住を禁止したので、金鑛に働いてゐた支那人や甘蔗栽培に携つてゐた日本人は事實上居住を禁止せられてゐる。併し地理的に觀ればこの大陸の大部分は熱帯に屬するために白人の勞働に適せず、濠洲の開發は體質がこの地方の氣候に堪へる勤勉なアジア移民に俟たねばならず、ここに濠洲の大なるデレンマがある。前シドニー大學のテラー教授は夙に自然應の原理を唱へてアジア移民の必要を説いたが、この正論は却つて教授を禍し遂に濠洲を追はれたことすらある。濠洲人の頑迷は洵に度し難しといふべきである。

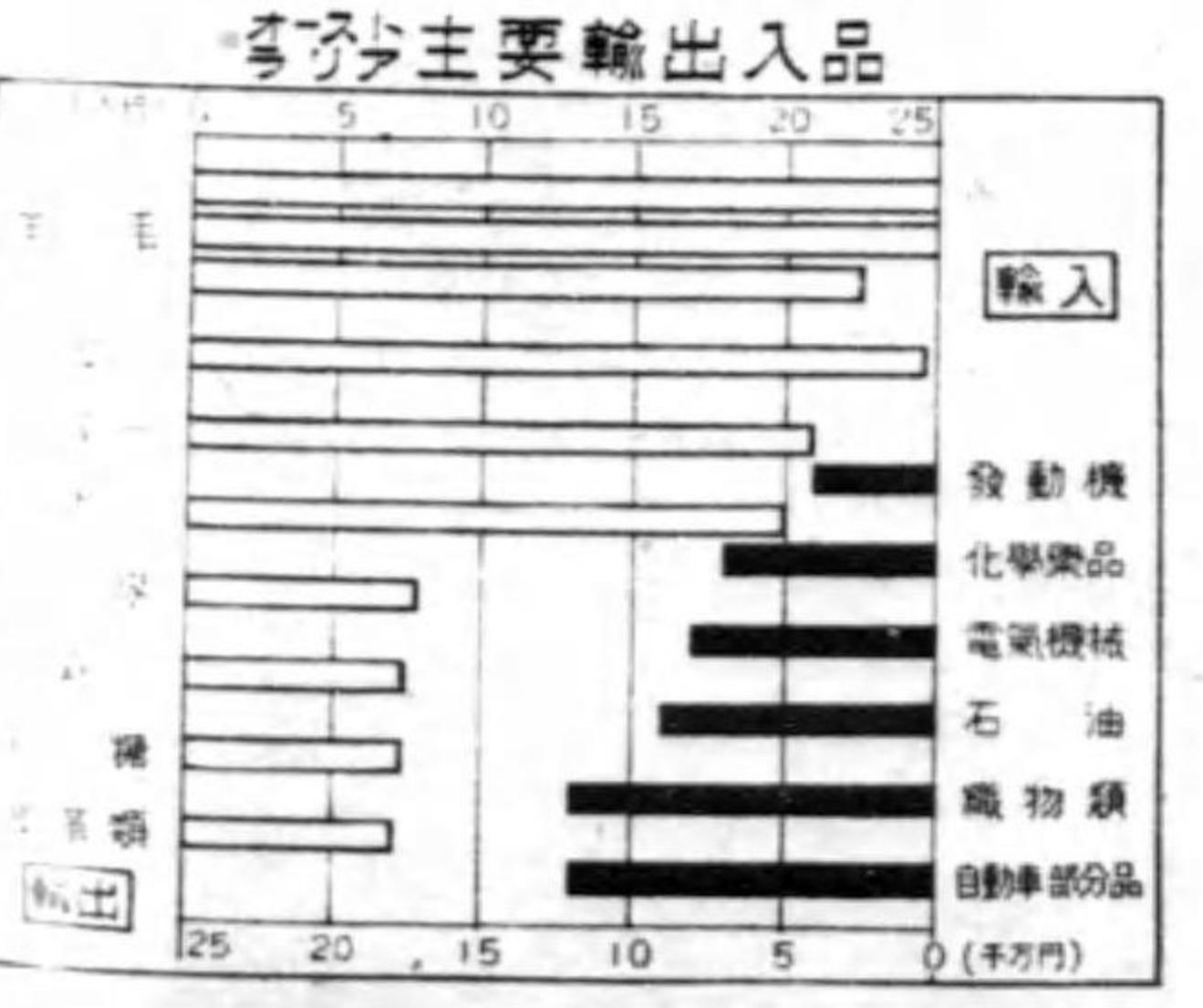
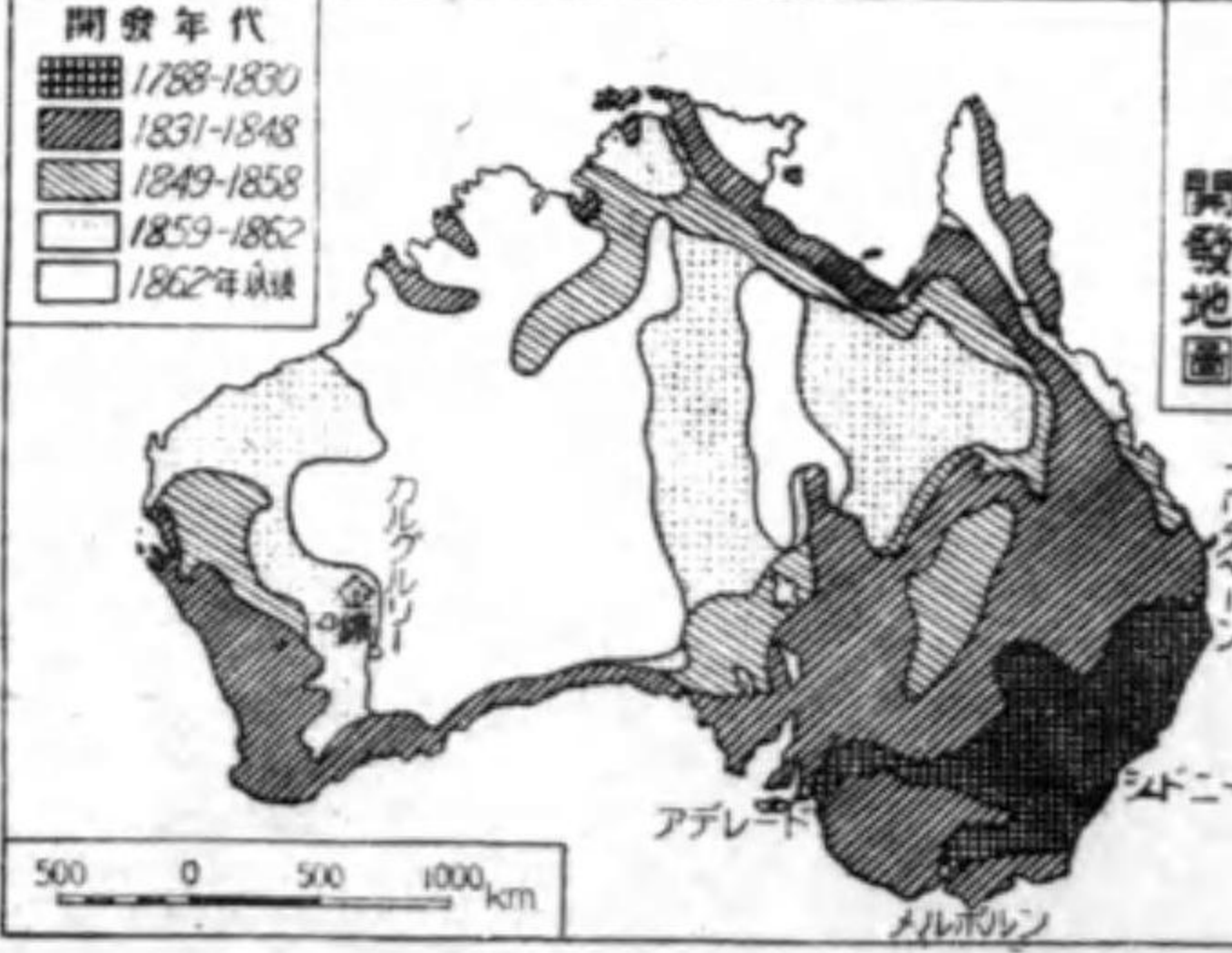
濠洲産業の王者は牧畜である。殊に一億二千萬頭の羊が經濟の根幹をなす。綿羊は元來乾燥を好む動物であるが、濠洲の東部山脈の西斜面ダウンズ地方は雨量六百耗内外で牧羊に最も適當してゐたため、遂に世界牧羊の中心となつたのである。羊に次ぐ牛はその數一千三百萬頭、羊と異り多濕の土地に適すから、クイーンズランド州の東のダウンズを主たる地域とする。農産物の最も重要なものは小麦であつて、世界の重要小麦輸出國となつてゐる。産地は南方のダウンズを中心とし、西濠洲がこれに次ぐ。濠洲は更に甘蔗・棉花等亞熱帯生産物の栽培に適するが、前述の人口問題に禍され生産費が高くなるために十分開かれてゐない。金鑛は濠洲開拓史上に重大な要素をなし、西濠洲のクイルガルディー・カルダリリーを中心の産金は世界第五位を占める。その他ニューカースル附近の石炭・ブロークンヒルの銀・鉛・南濠洲の鐵鑛も重要である。石油は先づないと觀られてゐる。

この濠洲産業の状態は當然その貿易の上に反映し、濠洲は農・牧の天産物を輸出し加工品を入れる。近時濠洲にも工業がやゝ振興して來たが、有色人種排斥の結果白人勞働者の高賃銀に禍せられてその十分な發達は望まれない。白濠洲主義はここにも自經自縛の醜態を示してゐる。我が國へは主として羊毛を輸出し絹・綿製品を輸入してゐた。我が國は輸出國として第三位にあつたので、濠洲は常に我が國に心を寄るために努めてゐたが、最近はこの政策に左右せられて漸次敵性を發揮し今日は純敵國となつてゐる。

オーストラリア及ニュージーランド 政治人口地圖

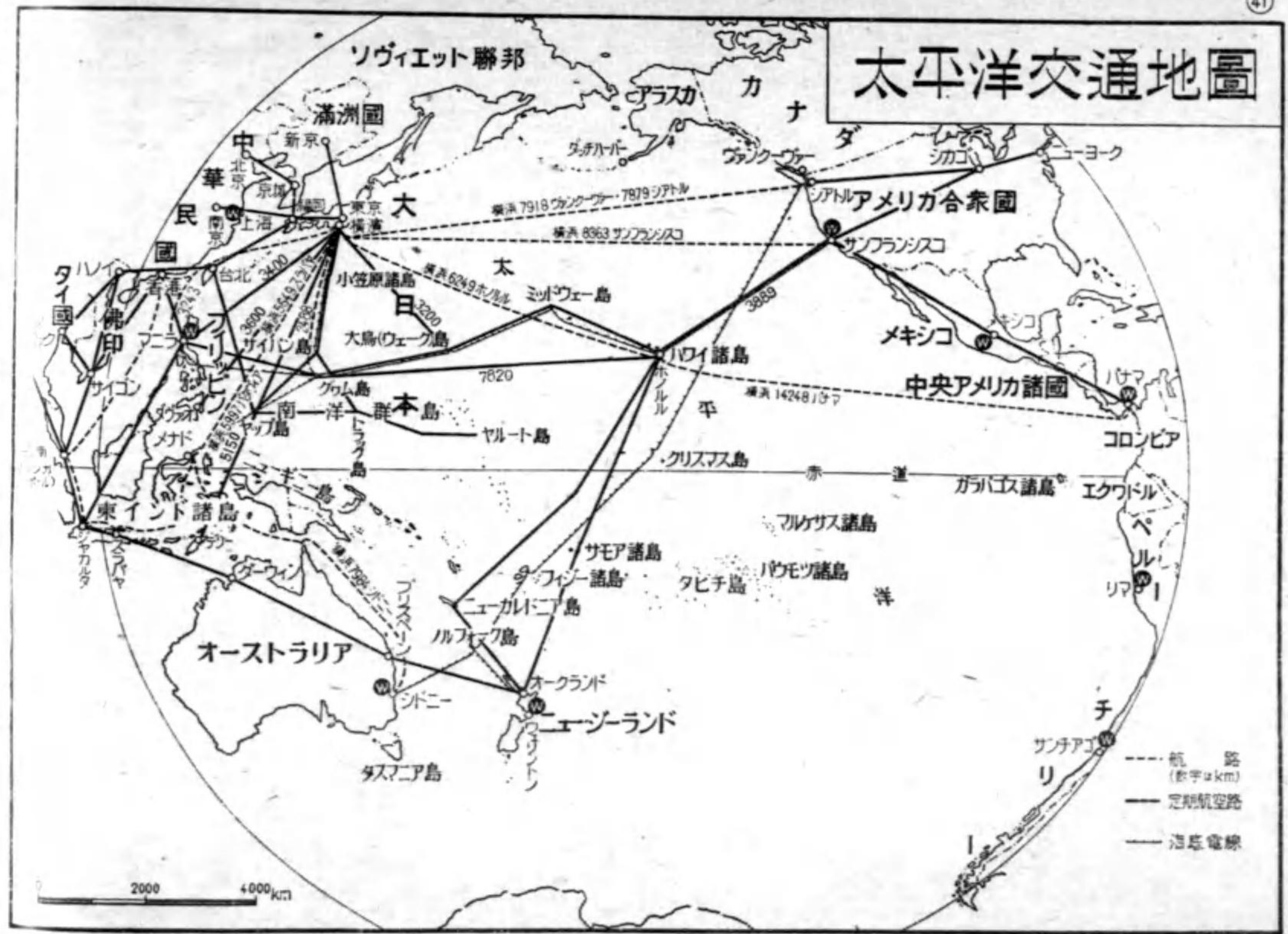


オーストラリア 開發地圖



オーストラリアの概観

太平洋交通地圖



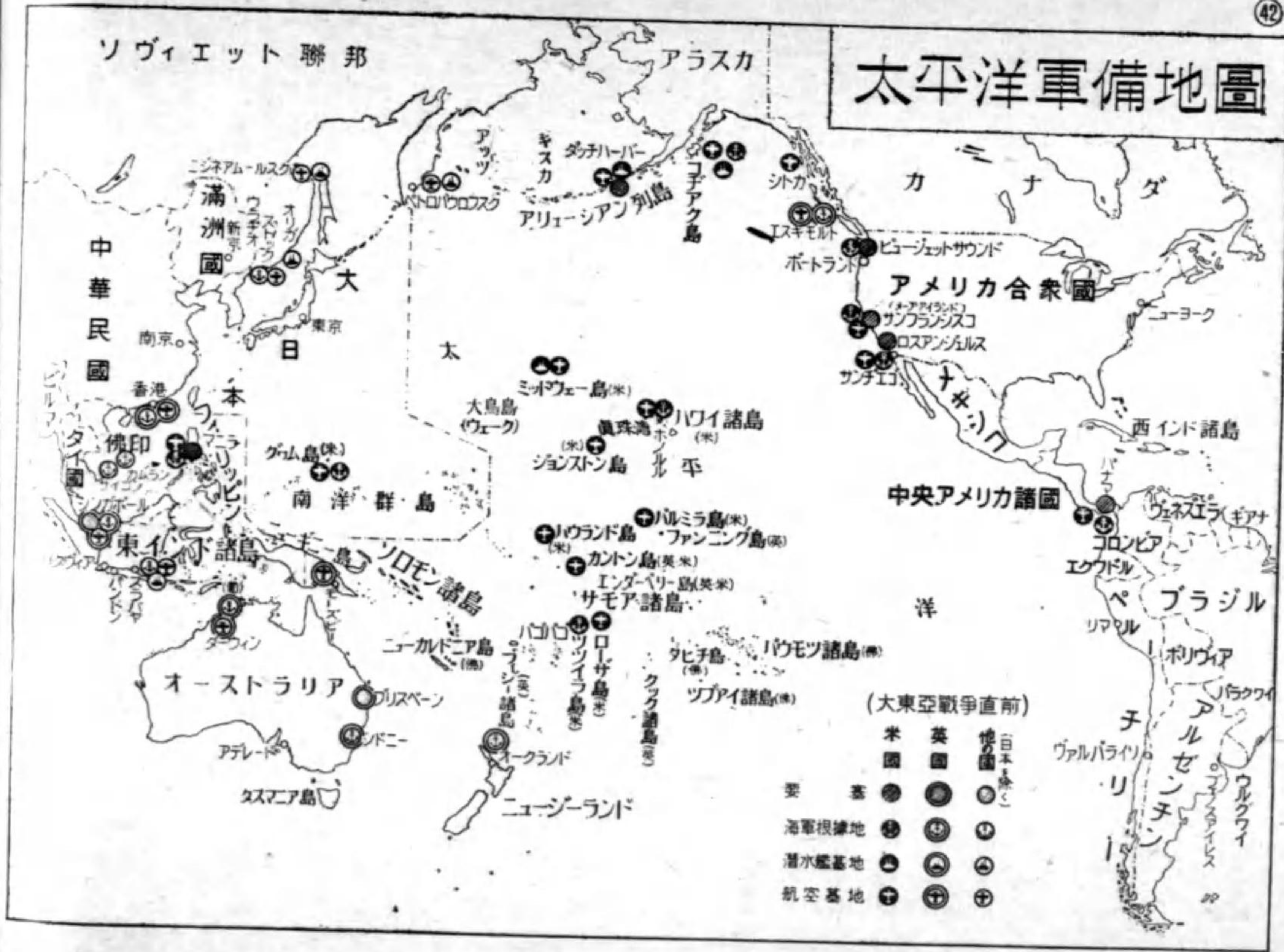
太平洋の交通

廣表一億八千方軒太平洋は世界最大の大洋であつて、大西洋の約二倍に當りその横斷距離は北部中緯度に於て一萬軒以上に及び大西洋のそれに比すれば約一倍半である。これが太平洋交通の久しく振はなかつた最大原因で、之にその兩側の人種・文化・經濟等の相違がその副因をなしてゐた。先づ太平洋の海運に就いて觀るに大西洋のそれに比すれば甚だ劣り、現大戰前まで世界の海上交通の七割までは大西洋上で行はれてゐたのに對し、太平洋上の交通は僅にその二割内外に過ぎなかつた。太平洋上最も主要なる航路は日米間の北太平洋航路であつて現大戰前これに就航してゐた船舶は年延數二百五十隻百七十萬噸であつた。主要な船會社が我が郵船・商船を初め米國のダラー汽船・カナダのカナダ太平洋汽船等がそれであつた。南太平洋にも北米・濠洲間に若干の交通は行はれてゐたが北太平洋に比すればその重要性は甚だ少かつた。

次に太平洋の海底電線について語らう。第十九世紀の後半、太平洋を隔てて相對するアジア・アメリカ・濠洲が政治的・經濟的發展をなしたので、これ等相互間に海底電線敷設の必要に迫られ、初めは深度と距離の大なるため容易に實現を見なかつたが、第十九世紀末カナダとニュージールランドを繋ぐ英國線が成功し、これに刺戟されて幾もなく桑港・ハワイ・グアム間の米國線も完成し、これが次第に延びてフィリッピン及び舊蘭領セレベスに至り、また我が小笠原經由の線もこれに連ることゝなつた。

太平洋の航空路については今日大體三つのコースがある。第一は北方コース(千島—アリューシアン—アラスカ)で距離は短いが氣象が非常に不良で、殊に東より西に來る航路は海流とその上を吹く恒風のため逆コースであつて、定期航空をなすには不適當である。併し我が國防上では寧ろ有利といへよう。第二は中央コース(北米西岸—ハワイ—アジア)で距離は最長であるが氣象はかなり良好で、現戰爭開始前は汎米航空會社が米國と香港間のクリップバーコースを經營してゐた。第三は南方コース(北米西岸—サモア—濠洲)でハワイ以南はポリネシアの多島海が良好な條件を提供する。全體的に觀れば太平洋はその廣表が甚だ大ではあるが多くの島嶼が散布するので將來の航空は必ず大なる發展を遂げよう。要するに太平洋はなほ交通の處女地であるが、やがて大東亞共榮圏の繁榮に伴つて又大なる發展をなし、大西洋のブリューリッポンを太平洋に奪取する日も遠くはあるまい。

太平洋軍備地圖



太平洋の軍備

太平洋は現大戦前より既に世界の戦場たるの運命にあつたので、之に利害關係を有する諸國は各所に壯大なる軍備を施してゐた。先づその邊縁につきこれを西海岸から觀れば、我が國は大湊より澎湖島まで多數の軍港を連ねて嚴然たる鐵桶の護りを示して居り、ソ聯は日本海の一隅とオホーツク海に赤い軍艦旗を翻してゐる。佛領インドも若干の根據地を持つ。英國は最近まで香港とシンガポールに堅固なる要塞を築き傾きゆく社稷を支へんとし、米國もマニラ灣にアジア艦隊を屯させて東洋干渉の根據地となしてゐた。蘭印またスラバヤ軍港を英・米・蘭聯合艦隊の基地として我が國に抵抗してゐたが之等は大東亞戦争により脆くも潰滅した。

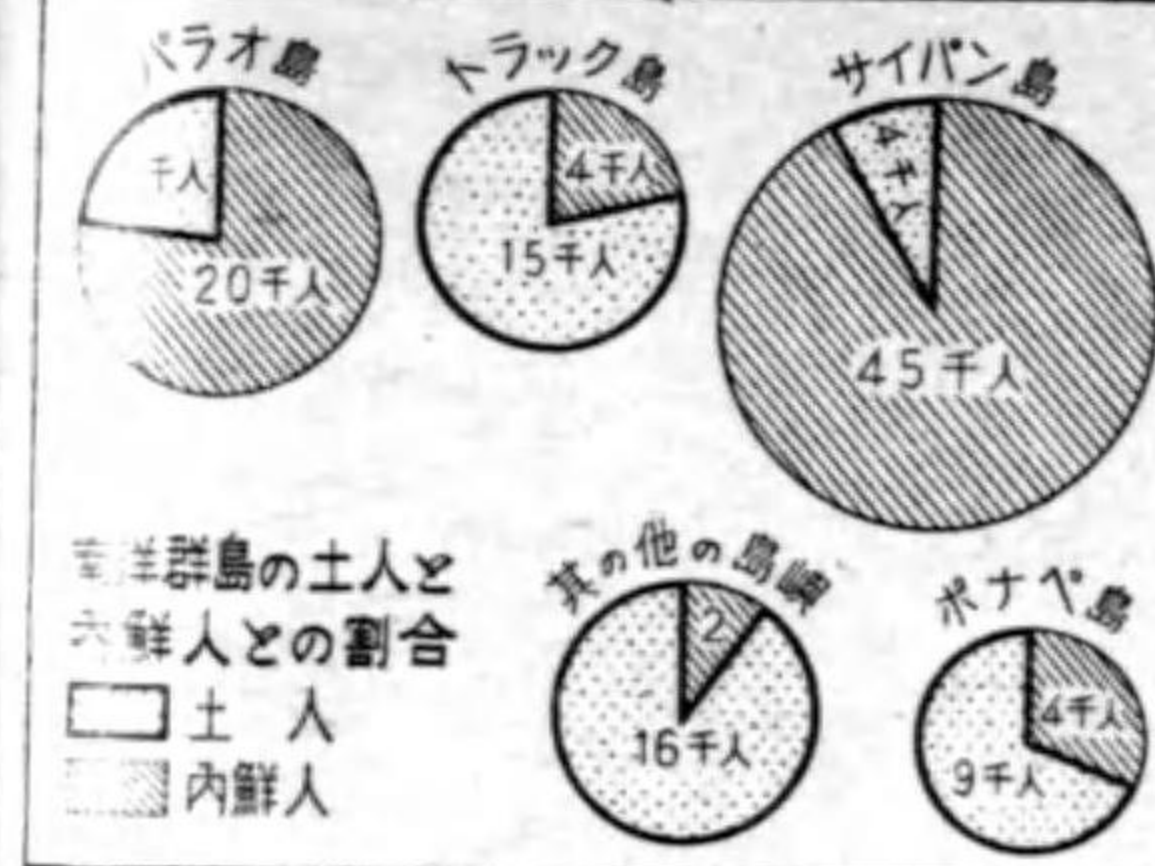
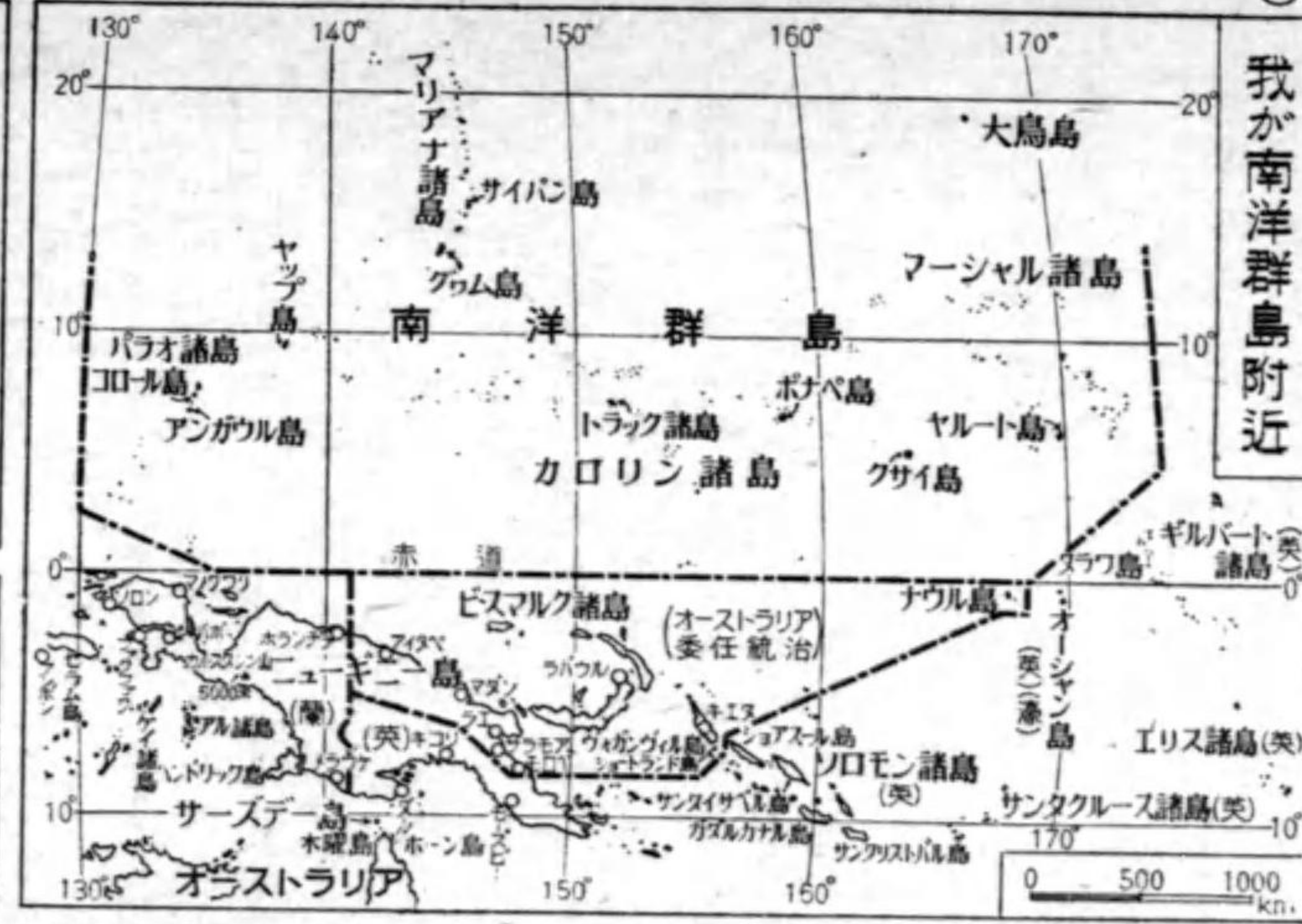
次に東海岸を觀るに最北部には米領アラスカにダッチハーバーの根據地があり、南下してカナダに至ればエスキモルト軍港がある。米本國にはビュージェットサウンド・サンフランシスコ灣・サンベドロ・サンヂエゴ等何れも太平洋艦隊の大基地をなしてゐる。更にパナマに至つては太平洋の東門を扼する重大地點で、米國はこれによりてのみ大西・太平洋艦隊を動かす得るのであるから、その防備は極めて嚴重である。また南米でも海軍國チリはヴァルパライソに基地を有し、かくして太平洋周圍の陸地は殆ど軍事據點の連続である。

併しこれ等太平洋兩岸の軍備は更に太平洋上に於ける島嶼に設けられた前哨地點と連絡することによりその意義がある。先づ米國はハワイ・ミッドウエー・グッドム・比島を連ねて北太平洋の防備陣となしてゐたが、今日その大半は失はれたので米國は更にサモア島に由つて濠洲と結びつき、またソロモン諸島やニューギニーに進出してゐる。

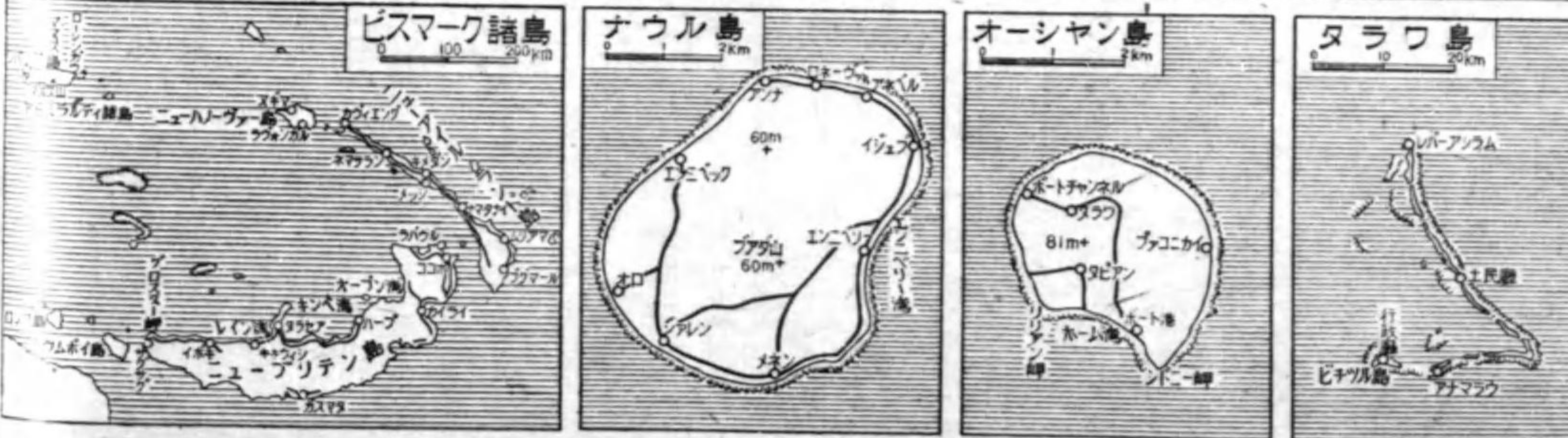
英國はエスキモルト・ファンニング・フィジーを経て斜に太平洋を横斷してカナダと濠洲とを連ねてゐるが、今日は實質上海上權を米國に委譲した。これに對し我が日本は戰前小笠原群島より南洋群島に至る防禦線を作つてゐたので、こゝに英米の防禦線と交叉し正に地政學上の「死の十字路」を描いてゐた。而かもこれより我が防備線は更に西に延び我が新勢力圏たるインド支那方面に達すれば、正しく英・米・蘭合作の防備線と並行するのであつて、これが隨所に接近し發火の危険を藏してゐたから、我が國は機先を制してこれ等の防備線を突破した。

要するに今日の太平洋の軍備は日・露・英・米・蘭・佛の間に夫々遠大の計畫の下に準備せられたものであるが、航空戰が現在並に將來の戰爭の中樞である時、太平洋の島々は所謂「天然の航空母艦」として最も重要である。今次の我が太平洋の捷戰は我が海軍が先づ之等敵國の島嶼を銀翼下に收め制空權を獲得した結果である。

我が南洋群島附近



| 品名 | 金額 |
|-----|--------|
| 砂糖 | 1880万円 |
| 鯨節 | 508万円 |
| 燐礦 | 350万円 |
| ジュン | 270万円 |



我が南洋群島附近

我が南洋群島は地理學的にはミクロネシア島嶼群の大部分を占め千四百の島々より成るが、その名の「微小」が示すやうに殆ど小島のみで全部を合しても面積は我が東京府に匹敵する位である。併しその占める空間四至は極めて廣く、南北約二千二百軒東西約四千六百軒に及んでゐる。従つてここを領有する我が國はその防衛に大なる苦心を要すると共に他方西太平洋に於て我が制海權を樹立する上には非常の利便がある。若しこれ等の島々が他國領であつた場合には、我が日本の本土は直接東方海上より脅威を受くることとなり、國防上甚だ危険である。幸にも南洋群島あり我が國防の第一線をここに置くことが出来るのであつて、この意味に於て南洋群島は我が生命線なりといへる。

これ等の島々には久しく土着人が住み桃源の世界であつたが、第十六世紀以來白人侵略の大波は漸くここに打ち寄せるに至り、一五二一年かのマゼランが初めて通過した今のマリアナ諸島は、一五六五年以來スペイン領となり當時のスペイン皇后マリアナに因みてその名となつた。カロリン諸島は一五二七年ポルトガルのデイエゴ・ロシヤがこれを発見したが、一六八六年またスペイン領となり時の國王カール二世の名によつて今日の如く名付けられた。更にマーシャル諸島はや、後れて世に知られ、一七八一年英人船長マーシャルによつて発見されたが、所屬不明であつたのを、第十九世紀中葉太平洋進出を睨つてゐたドイツにより占領せられた。一八九八年米西戦争が起り、その結果スペインはマリアナ諸島中のグロム島をフィリピン群島と共に米國に譲渡した。而してドイツはこの米西戦争の騒ぎに乗じて、他のマリアナ・カロリン兩諸島も四百二十万ドルでスペインから買収した。併し未だ十分の開拓を行はぬ中に第一次世界大戦勃發し、これ等の諸島は我海軍に占領された。次いで對獨平和條約の結果、我が國は英國と約して舊ドイツ領中赤道以北の島を我が國の所領となし、以南の島嶼はイギリスに入つた。この赤道を限界としたことは我が南洋群島の南限を示したものであるが、他方これがため赤道に接する南の嶺南島ナウルが英領となつたのは遺憾であつた。併し本島はその東の英領オーシャン島と共に最近我が攻略する所となつた。南洋群島の北東に近き前米領ウェーク島も既に我が國の占領地となつた。

南洋群島は我が領有に歸して以來拓植政策は着々その功を收め、今日では砂糖・鯨節・燐礦・コブラ等にて年額約三千万圓の生産をあげてゐる。舊住民のカナカは約四万七千人、チャモロは三千餘人であつて、内地人は在留者約六万に上つてゐる。我が南洋群島は上述の如き廣大なる水域に互つてゐるが、その中に唯一つの異物的存在は米領グワムであつたが、今次の大東亞戦争に於て我が國の占領する所となつた。

なほ我が南洋群島の南東及び南西には英領ギルバート諸島(主島タラワ)・濠洲委任統治の舊獨領ビスマルク諸島があり、これも方に我が治下に入らんとする。

南北アメリカ政治形態圖



南北アメリカ洲言語分布圖



南北アメリカ洲の政治態勢

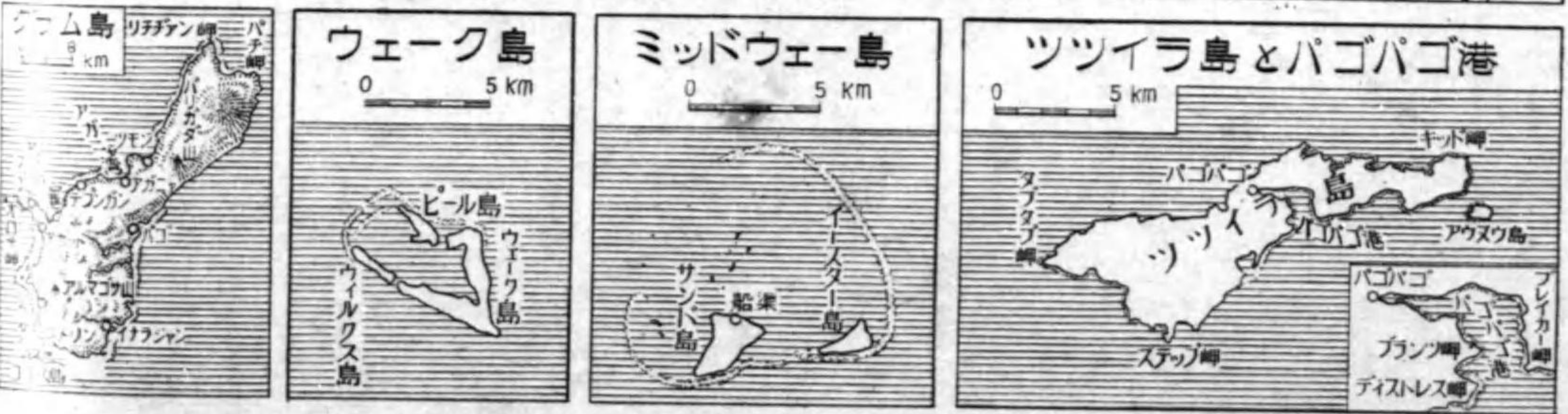
太平洋の彼岸に横はる南北アメリカの二大洲は共にインディアン(アメリカインディアン)の郷土であつて、中米にはマヤ文化、南米にはインカ文化が夫々或る程度の發達をなしてゐた。第十六世紀以後この新大陸に侵入した白人は「インディアンは人類に非ず」との暴言を吐いた將軍もあり、漸次白人の迫害と壓迫を受けその数を減じまた文化は滅びた。併し彼等白人もその後互に相闘ぎ、種々の國家が分立して統一してはゐない。

今日米洲大陸には二十一の獨立國があり何れもその建國は新しいが、現住民の種族上より南北アメリカを大別すればアングロアメリカとラテンアメリカとなる。前者はカナダと米國とをいひ後者はメキシコ以南の中南米諸國を總稱する。

政治形態は共に共和國とはいへ國により區々である。或は共和政と稱しながら實際統裁制を布くブラジルの如きあり、民主主義を表看板としつゝ獨裁的ならんとする現米國があり、また純民主と統裁の中間の形態もある。而して現在の政治情勢として、ラテンアメリカは殆どその民族を同じくしながら各國間に争闘常なく、また屢々革命が勃發して政治上常に不安が絶えない。これを利用して米國は南北米洲の覇者たらんとし、近時は汎アメリカ主義を唱へて一九四〇年六月ハバナ會議を開催し米洲の團結を企てた。大東亞戦争の勃發するや、米國は樞軸國たる日獨伊に宣戰を布告すると共に中南米諸國の籠絡に力め、今日ではアルゼンチンを除き他の諸國をして樞軸國と斷交せしむるに成功した。併しこれは唯米國の金權によりこれ等諸國を壓迫した結果に過ぎない。

南北アメリカ洲の言語分布

言語より觀るに北米にては米國・カナダは勿論英語を以て國語としてゐるが、カナダの東海岸は佛語が相當の勢力を占める。これはこの地方が嘗て佛領であつて今日もその子孫が居住するためである。メキシコ及び中南米諸國の言語の基礎をなすものはスペイン語であるが、ブラジルはポルトガル領たりし關係上ポルトガル語が盛である。北部のギアナは英・佛・蘭諸國に屬するので、その本國の言語が使用せられるは當然である。そのほかイタリー語もかなり通じた日本語も特定の部分に行はれる。要するに兩米大陸はその構成人種が世界各國の移民の子孫なるが故に多種多様の言語が話され、この點で特色ある現象を呈してゐる。これは同時に宗教關係の相違ともなる。アングロアメリカの新教に對しラテンアメリカは熱心な舊教國である。獨伊樞軸がラテンアメリカに勢力を扶植するのはまたこの宗教關係を通ずることが多い。



米國の領土

米國の急激な發展は我が國の勃興と相對して東西の二大驚異である。コロンブスの米大洲發見は第十五世紀末であるが、今日の米國の起源は更に新しい。故國に容れられぬイギリスの清教徒が自由を求めて「メイフラワー」號に乗じブラマスの海岸に到着したのは三百年前である。これ等移民の子孫がまた本國の搾取に堪へかねてボトマック河畔に自由獨立の旗をかゝげてから未だ百六十餘年を経たに過ぎない、併しこの間に米國は急激に膨脹をなし、獨立當時の十三州は今や四十八州となつて居り、その構成の上に世界的強國としての合衆國が成立し、鞏固な物質文化を支柱として世界に覇權を握らんと企ててゐる。

米國の發展の方向は常に西を目指してゐた。初めは所謂「西漸運動」(Westward Movement)で換言すれば大西洋から太平洋への突進であつた。この運動は第十九世紀初頭から初まり五十年間には現在の國土を完成した。この間その領土擴張の手段として選ばれたものは、買収及び條約であつたが西部諸州は殆どメキシコより奪取したのである。而してこの西漸運動は一八六七七年のアラスカ買収となり第十九世紀末よりは更に海を越えて太平洋に及び、一八九八年にはハワイ諸島を併せ翌九九年にはグワム・フィリピンを獲、太平洋を横斷して東亞にその帝國主義的勢力を延ばして來た。また太平洋中に於ても種々の島嶼を併せ今日米國に屬する島嶼は思ひのほか多い。而して米國は最近は傳統の勢力西漸を以て満足せず東に向つてもその領土を擴張、侵略の魔手を伸ばし歐洲戰に藉口して、兵をグリーンランド・アイスランド最近には北アフリカに進駐せしめ、永久占領の素地を作つてゐる。また南に向つてはカリブ政策を樹てモルトリコを奪取しキューバを半保護國となし、今次の世界大戦により英國の頽勢に乗じてカリブ海にある多くの島嶼を獲得して、カリブ海を所謂アメリカ地中海と稱し自己の領海となさんとしつゝある。かくて米國の領土的發展はその宣言の如何に拘らず全く帝國主義的侵略形態をとつて四方に向つてゐるので、關係諸國民は何としてもその野望を阻止する必要がある。

米國領土中我が國防に關係を有するものは太平洋中の米領諸島である。ハワイ及びサモアはもとポリネシア人の獨立王國であつたが、第十九世紀末何れも米國の占領する所となり、今日ハワイ在住十五萬の我が邦人は米國の監視の下にのみ生活を許されてゐる。ハワイのパールハーバー(眞珠灣)は南のサモア諸島中のツツイラのバゴバゴ港と共に南北の米海軍二大基地であるが、眞珠灣は昭和十六年十二月八日我が海軍航空隊の爆撃により破壊した。ミッドウェー・ウェーク・グワムの諸島も米國海軍基地となつてゐたが、ウェーク(大鳥島)・グワムは我が占領する所となつた。ミッドウェーの運命も知るべきである。

現在のカナダは英帝国の自治領としては第一位を占め、殆ど准獨立國としての面目を保つてゐる。フランスの評論家アンドレ・シーグフリートはカナダを評して「位置から観ればアメリカ的、國民の構造から観れば英國的及びフランス的、政治上から観れば名義上英國と同一の國王を戴くのみ、而して經濟上から観れば世界的國家」といつてゐる。若し今次の大戦に英國は敗れなばカナダへ逃れんといはれてゐるのも決して故なき事ではない。

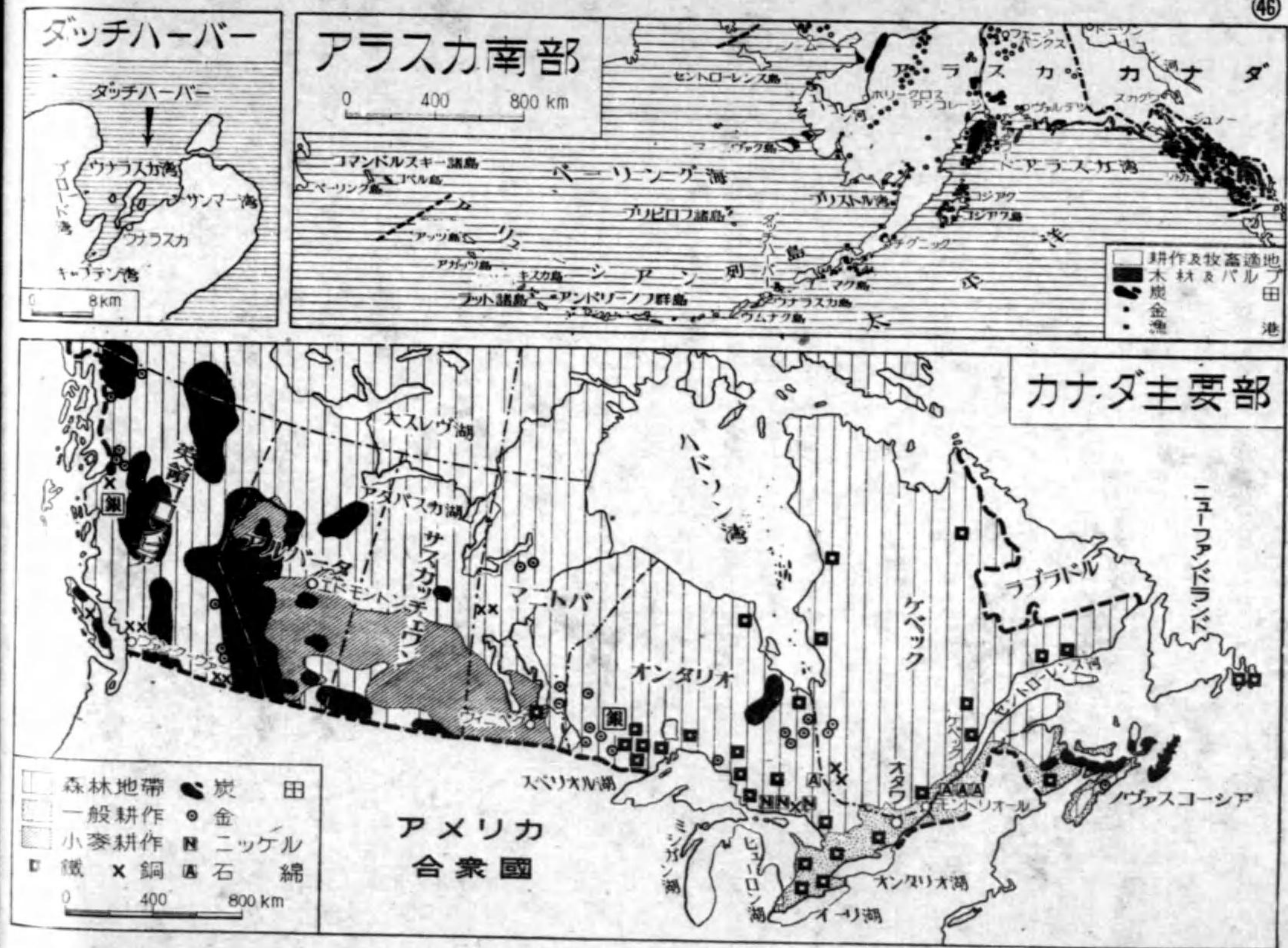
カナダは初めフランスの植民地であつたが英國との競争に敗れ、一七六三年の條約でこれを抛棄したものである。今日でも國民の三分の一は佛人の子孫で、彼等は東部のセントローレンス河流域をその勢力範圍とし、佛語を語り舊教を信じてゐる。カナダは現在英帝国の自治領として「ドミニオン・オブ・カナダ」と稱され九自治州と二直轄領とより成る。内政については完全な自治権を有し、外交に於ては夙に自主權を確立し日本・米・佛等關係の緊密な國々と公使を交換してゐた。經濟的には先づ農本國で殊にロッキュー東麓のブレイリー地方は世界の穀倉の一であり、小麦を第一としその輸出能力に於ては世界第一位にある。燕麥・大麥・馬鈴薯の産も多い。森林は全土の約三割を占め貴重な寒帯樹林であるから、バルブ材生産國として世界有数の地位を占め、製紙工業は殊に豊かな電力に恵まれて東海岸地方に盛である。水産業も東海岸は世界三大漁場の一に屬し鮭・鱈・鰻の漁獲が多い。更に鑛産物はカナダの一大資源で、金・銀・銅・ニッケル・石棉・鉛・亜鉛・鐵・石綿等があり、金・銅・銀は共に世界第三位、ニッケルは第一位で凡てヒューロン湖北部のサドベリー附近に集中してゐる。ただ石油は殆ど産しない。

かくてカナダは北米の一大寶庫であるが、その經濟は米國と密接な聯繫を保ち、企業も米國の投資によるものが多く、兩國々境の無防備と相俟つて、寧ろ米國と一體をなせる觀がある。殊に今次の大戦以後この現象が強化された。

カナダ

アラスカは面積百五十二萬方軒我が國全土の二倍以上であるが、人口は僅かに六萬餘人に過ぎぬ。一八六七年僅か七百萬ドルでロシアから米國が買収した土地で、嘗ては金鑛の産地として知られユーコン河地方やノームなど喧傳されたが、今では寧ろ漁業が第一の産業であつて、鮭・鱈・鯨・鯨等を産する。南部海岸の針葉樹林はバルブ原料を供し、毛皮の産も多い。政治上では從來僻遠の地として顧みられなかつたが、近年國際情勢險惡化と共に米國の北方據點として重要となつた。最近カナダを經るアラスカ公路が開けた。シトカ・コジアクは海軍根據地である。アリューシアン列島のダッチハーバーは夙に海軍基地として知られ、西部のキスカ・アツプは我が海軍の占領する所となつた。

アラスカとアリューシアン



米國は一大陸を横斷する國家であるから場所により自然的・人文的に多種多様の差があり、従つて各地方が夫々相異なる利害を有し、そこに自ら地域性即ち米國特有の地方分立主義 (Sectionalism) を生ずる。これは米國を經濟上・政治上分裂せしめんとする要素で極めて注意すべきものである。この現象を最もよく示すものは政治的に觀た各州の獨立性である。米國はその名の如く United States で四十八州の聯合であるが、各州は夫々憲法と議會とを有して國內的には全く獨立し、米國はこの意味で四十八の小國家の集合と考へられる。米國の首府ワシントンが東京・ベルリン・ロンドンの如き中央集權の大都市でない理由はこゝにある。今中央政府と州政府との任務について見るに左の如く分立的である。

中央政府——外交・國防・關稅・通貨・郵政・移民
 各州政府——治安維持・土木・教育・市政・労働・司法

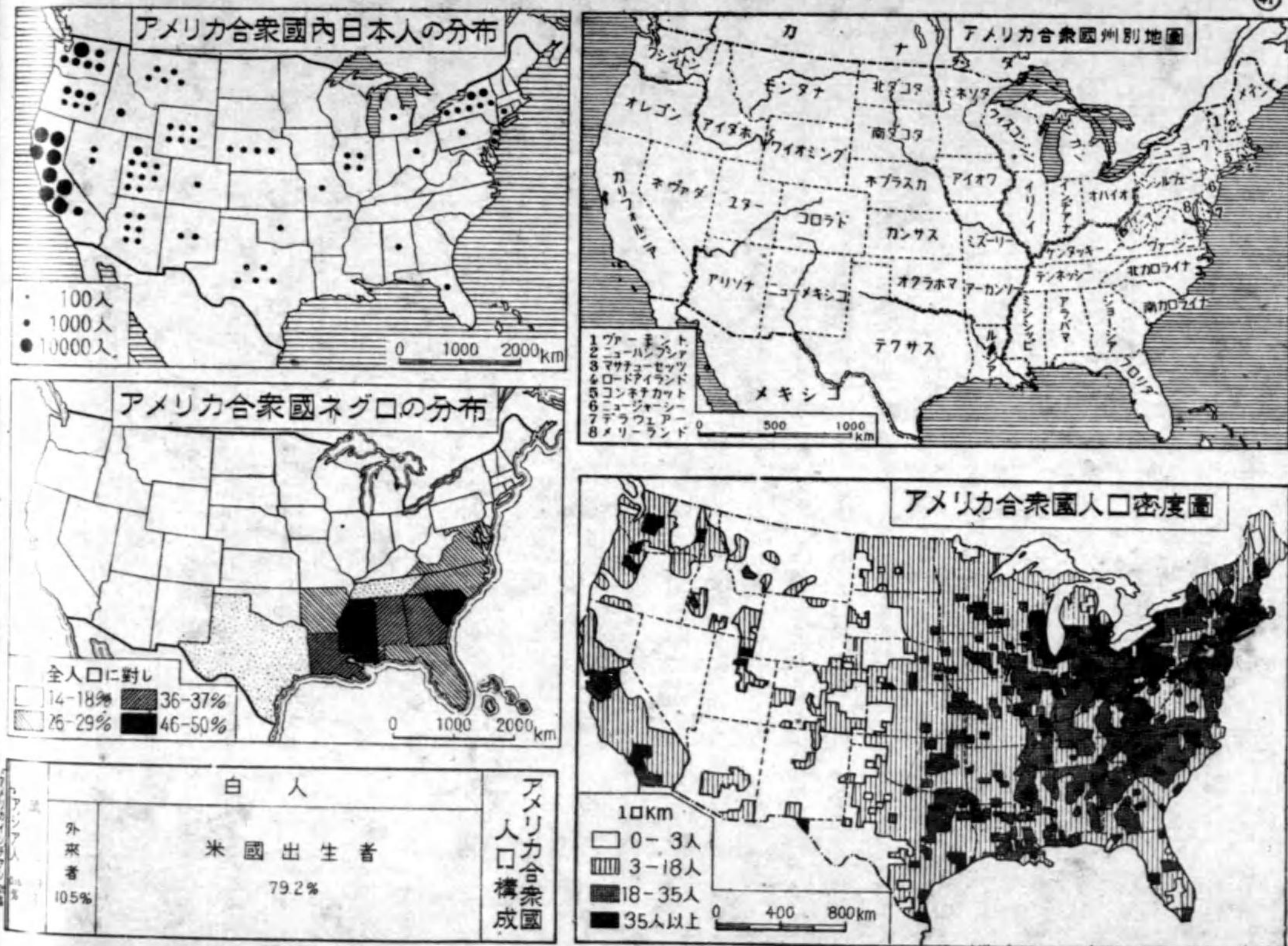
かく特殊の權限を保有するこれ等各州が、到底中央政府の政策に對し常に一致し得ぬことも明らかで、南北戦争等は正にその現はれであり、また東と西の對立もかなり著しい。

米國の人口は今日一億三千萬に達するが、上述の地理的關係と開拓の新舊によりその密度も地方により大差がある。歴史的に最も早く開かれた東北部の海岸が最大の密度を有し中央大平原は密度や多く、ロッキー山脈に至れば稀薄となるが、太平洋岸は再び稠密性を帯びる。併し米國全體を平均すると密度は僅かに十六人で、我が總領土密度の九分の一である。それにも拘らず近時移民法 (Immigration Law) を設けて外來移民の制限をなしてゐるのは、唯自國民の自由のみを主張して世界人類の自由を顧みざる利己的措施である。

また米國の複雑性は國民の構成に於て最も甚しい。これは勿論新開地であるため世界各地より移住民の集りし結果であつて、米國は實に人種の坩堝である。少數のアメリカーン・デアンは暫く措き、白人は米國全人口の約九割を占め、その原籍は區々であつて勿論最大多數の白人は英人であるが、ドイツ系の米國人のみにても一千萬人といはれてゐる。ラテン系・スラヴ系の來住者も近年増加したユダヤ系も非常に多い。

米國民構成につきて最も大なる問題は黒人である。彼等は元來南部諸州の棉花・甘蔗耕作のため奴隸として輸入されたものであるが、その旺盛なる繁殖力は今日その數千二百萬に達し、所謂ニグロ線と稱する北緯四十度以南に於て到る所に散布し、米國の政治上・社會上の一大癥である。米國は一方には上述の移民法によりて一九二九年來外來移民數を一年十五萬餘人と制限し、カリフォルニア州の荒野を今日の沃地に變へるのに偉大な功績を残した我が日本人への割當は、僅かに百人に過ぎない。併しかく今慌てて外來移民を極端に制限しても、他方千二百萬の黒人の既存異分子を如何ともすることが出来ない。

米國の州制と人口状態

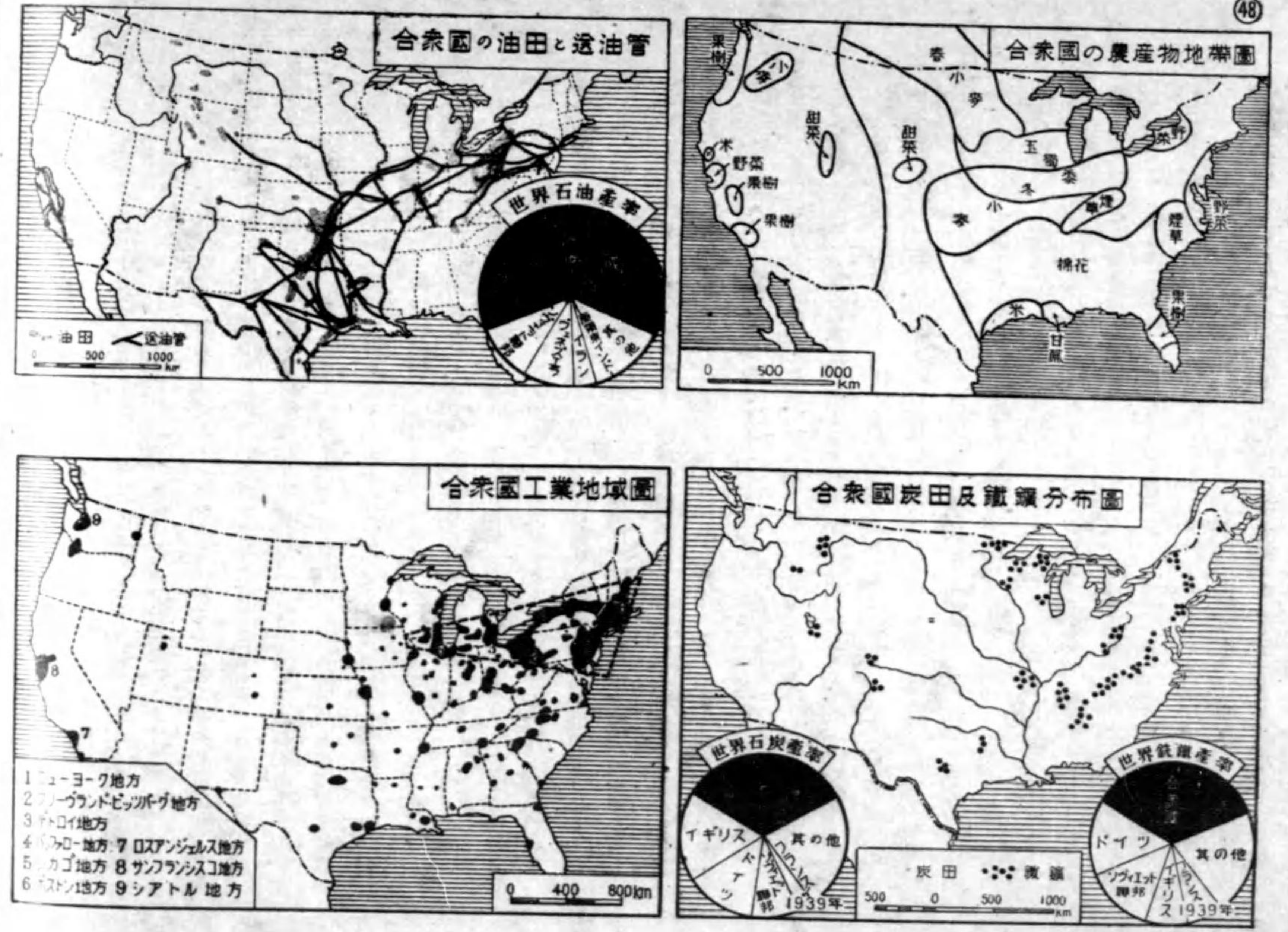


かくの如き各地域の自然環境の差は獨り産業のみならず文化にも現はれ、殊に南北に於て著しい。即ち北部ニューイングランド方面にはエマソン・ストウ夫人・ホーソン等の如き汎神論的・人道主義的・道德的な色彩の濃厚な文學が起つたに對し、南部諸州ではエドガーアランポーの如く夢幻的・情熱的・怪奇的な要素が多い。近時讀書界を風靡せるマーガレットミッチェルの「風と共に去りぬ」の女主人公スカレットオハラは全南方人の典型的なもので、その性格は北部人の容易に理解し得ぬところであらう。

前述の米國のセクションナリズムは産業的地域構成にも著しく現れてゐる。(一)清教徒が初めて開拓に従事したボストンを中心とするニューイングランド地方は氣候寒冷・土地確で農業に不適であつたので、往時はアペラチア山脈の東斜面の所謂瀑布線の水力を利用して紡績その他の輕工業が興つたが、近時この地方は産業よりは寧ろ文化の中心となつてゐる。(二)ニューヨークからアペラチアを超えて五大湖に亙る地方は世界第一の鐵・石炭の産地であるため、米國重工業の中核をなし物質至上主義の濃厚な土地である。以上の二地方を除く他の地方は大體に於て農・牧業が盛んで所々に工業を點綴してゐる。即ち(三)南北カロライナから南へかけては煙草と果樹に適し、アメリカカンザイエラと稱せられるフロリダはその名の如き「花の饗宴」であつて米國人の享樂地帯である。(四)中央大平原に至れば北部は麥の穂なびき玉蜀黍の葉繁り世界の穀倉の一であり、隨所に聳立する穀物倉庫は新世界獨特の景觀を呈する。

更に南方に下つてケンタッキー州には煙草の産が豊かで、南北カロライナ・ジョージアからルイジアナ・テクサス諸州にかけては一望千里の白き棉畑が擴がり、世界第一の大河ミシシッピはその間を洋々と流れてゐる。この地方はまた世界第一の石油産地で、ここから數千軒のバイブが四方に伸びてゐる。この邊はまた嘗て邦人によりて移植された米田が甘蔗園とならんで展開してゐる。(五)嘗てインディアンの野火が物凄く空を焦したロッキンギ東麓のフレリーは今アルファルファとブレリーローズに被はれた世界の牧場となり、同時に西部開拓の幌馬車及びカウボーイの國である。(六)ロッキンギ山中ではアリゾナの如き不毛の沙漠もあるが、コロラド・モンタナ州には世界第一の銅山アナコンダを初め多くの鐵山が散在する。(七)太平洋岸に出づれば北部のワシントン・オレゴン州方面はなほ鬱蒼たる原始林に包まれた晝なほ暗き地方であるが、カリフォルニアは明朗な地中海的氣候に恵まれ、レモン・オレンジの香高く葡萄・オレンジは枝もたわゝに實り、これ等の果樹の栽培や米作は我が邦人の活動部門である。こゝはまた米國第二の石油の大産地で、諸工業はこれに伴つて發達してゐる。映畫都市ハリウッドの出現はこの繁榮を示す端的な表れといへよう。

米國の産業分布と人文の地方的色彩



米國は英國に次ぐ世界第二の貿易國である。而かも英國は輸入に於て世界第一なるに對し、米國は輸出に於て第一位の國である。これは米國産業の積極性を示すと共に世界諸國が米國の物資に依存することを意味する。而かもその輸出品は米國にとつては餘剩物資といひ得べく、輸入國には必需品が多いのでそこに米國貿易の強味があり、米國はこの武器を以て所謂ドル外交と連關せしめ、政治上にも威力を發揮してゐる。但し最近米國が軍備を擴張するに當り缺乏資材の第一類として、アンチモニー・クロミウム・錫・マンガン・ニッケル・マニラ麻・結晶石英・キニーネ・ゴム・生絲を擧げ、これ等を供給する輸入國に對し米國は受身の筈であるが、寧ろこの事實を逆用してまたドル外交を試みてゐる。

大戰前（一九三九年）の米國の貿易を大陸別に類別すると左の如くである。

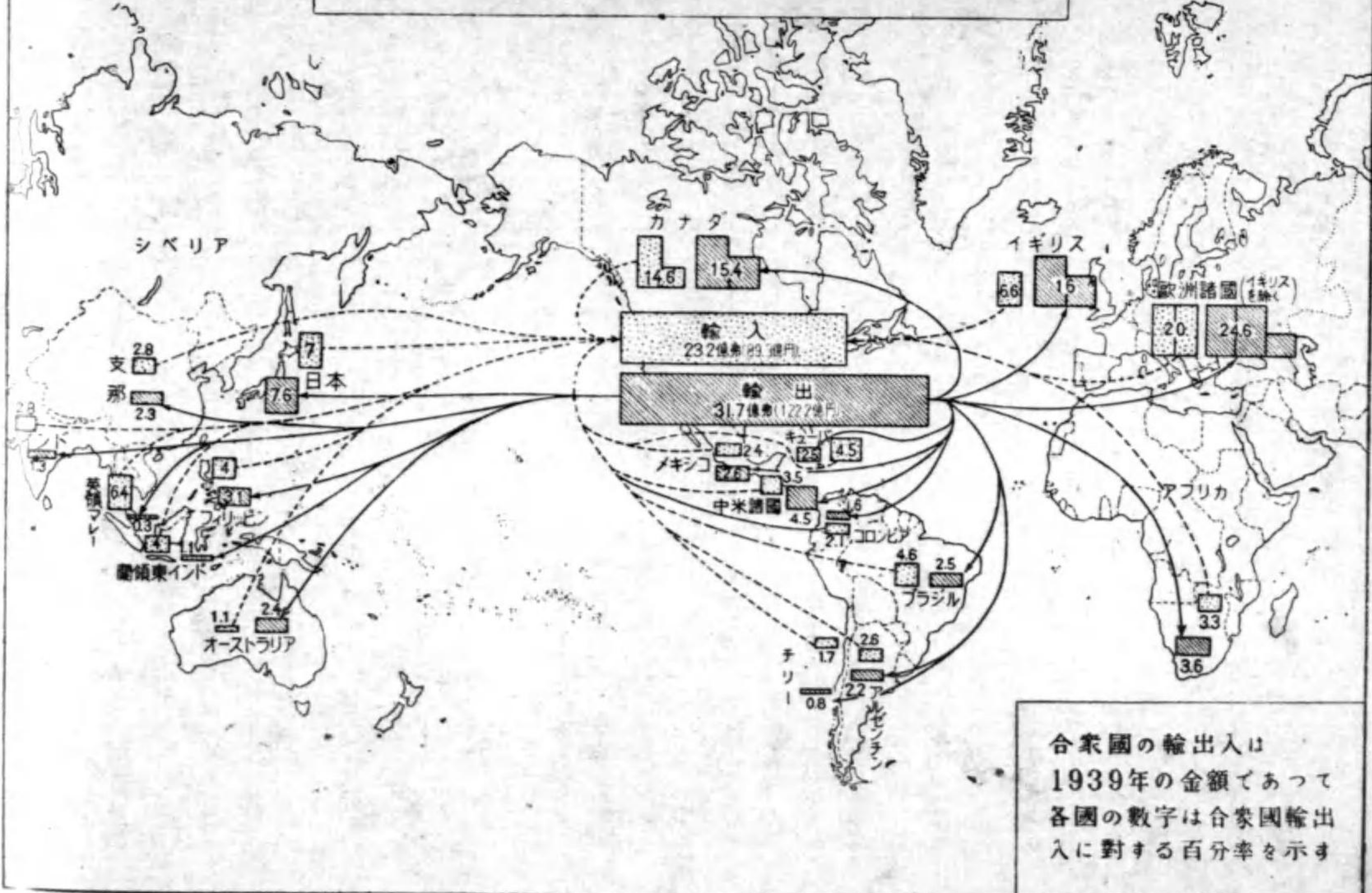
| | | | | | | |
|----|------|------|------|------|-------|------|
| 輸出 | 北米 | 南米 | 歐洲 | アジア | オセアニア | アフリカ |
| 輸入 | 北米 | 南米 | 歐洲 | アジア | オセアニア | アフリカ |
| | 二五・二 | 一〇・三 | 四〇・六 | 一七・八 | 二・五 | 三・六 |
| | 二五・二 | 一三・六 | 二六・六 | 三〇・二 | 一・二 | 三・三 |

即ち輸出に於ては歐洲が第一位で、輸入に於てはアジアが主位を占める。歐洲は最近まで米國にとり輸出第一位であつたが、近時上述の理由によりアジアよりの輸入を増加し歐洲はその地位をアジアに譲り、かくしてアジアは米國の關心を増大することゝなつた。次に主要國別に觀るに米國と最大の貿易をなすのはカナダであつて、この兩者が政治・經濟に互り事毎に一體をなせる觀のあるのはこれがためである。これに次ぐは英國であつて、これは英國が米國の棉花・小麦・皮革・煙草等の原料・食料に依存すること大なるを示すものである。第三の貿易國として我が日本が位し米國の輸出入に對し各々七分の割合を占めてゐた。この輸出入を合せた貿易額は獨・佛・ソ聯等の歐洲列強の各々よりも遙かに大であつて、ソ聯邦との貿易額の如きは我が國の夫々の五分の一にも足りなかつた。支那と米國との貿易は香港を加へても我が國との貿易額の約三分の一に過ぎなかつた。但し近時支那との貿易額も桐油・タングステン・アンチモニー等の輸入増大により漸次重要性を加へ、また蘭印・フィリピン・マレー等の諸國よりのゴム・錫・砂糖等の輸入が増加して來たので、これ等の地方が恰も我が國の主張する大東亞共榮圈にあるからこゝに米國と我が國との衝突を惹起した。

米國と南米諸國との貿易關係は米國が所謂汎米政策を用ひその増進を圖りつゝあるにも拘らず、その發展の程度少きは米國とこれ等諸國との間にははゞ同種の物産があり相互に輸出入の必要少きためである。アフリカ洲との貿易の約半は南阿聯邦との間に行はれ、大洋洲との貿易の殆ど全部が濠洲及びニュージラランドとの貿易にあるが、こゝに米國は農業機械・事務用品を輸出し輸入はさまで著しいものはない。

米國の貿易

アメリカ合衆國貿易地圖



メキシコ及中央アメリカ諸國産業地圖



メキシコ及中央米諸國の産業

メキシコの主要産業は農・鑛業である。農業では國民の常食たる玉蜀黍を初め小麦等を高原地帯に産する。特産としてはヘネケン麻(シザル麻とも稱する)があり、南方のユークタン半島を中心として世界産額のほぼ半を占めてゐる。併しメキシコの産業を代表するものは寧ろその鑛業である。銀はスペインのメキシコ征服の主要目的物であつたが、今日と雖もその重要性に變りがなく世界産出の四割を占めて第一位にある。銀に次ぎアンチモニーは世界の四分の一、鉛は同じく一割六分で共に第二位を占める。そのほか金・亜鉛・銅の産もある。更に石油に至つては往年世界の四分の一を出し、米國に次ぐ第二位の産出國であつたが、今は減退して第七位となつた。而してこれ等メキシコの鑛業資本の九割七分が英・米を主とする外國の投資であつたが、その中石油の三大外國會社に對し一九三八年政府はその大部分を沒收した。併し今日と雖も英・米殊に米國勢力の侵入に敵せず、最近は米國に阿り樞軸國に宣戰した。

中米のグワテマラは農業を主とし殊にコーヒーの生産が盛で世界第四位にある。ドイツ人がこのコーヒー園の約半數を所有してゐることは注意すべきである。そのほかバナナ・甘蔗・チクルゴム(チューインガムの原料)等を産し、また熱帯性の貴重木材が豊富である。サルヴァドルも小國ながら主としてコーヒーを産し、パルサムはその特産物である。ホンチユラスはバナナ・ココ椰子を産し、英領ホンチユラスはマホガニー・ログウッドに知られる。ニカラグワでは東部のバナナが有名で大部分は米國へ積み出される。西部ではコーヒー・甘蔗・玉蜀黍を産する。鑛産としては英・米系資本による金・銀鑛山がある。

コスタリカはその國名が「豊饒な海岸」を意味し、嘗てスペイン人がこの海岸にあつた金山に因んで命名したものであるが、今日は衰へた。農産としてはコーヒー・バナナを主とし養蜂もある。パナマの最大の産物はバナナで全輸出高の三分の二を占め、米國のユナイテッド・フルーツ會社の大資本下に經營されてゐる。パナマ灣よりは眞珠を産する。

パナマ運河

一八七八年フランスのレセップによつて始められたパナマ運河は財政と悪疫に苦むこと二十五年、その工事が遂に一九〇三年米國政府に引繼がれるに及び米國はその運河の形式を改め閘門式となし、また悪疫を清掃し刻苦努力の結果一九一四年これが開通を見た。大西洋岸のコロンより太平洋岸のバルボアに至る陸内延長四十哩半、その間に閘門三を作り人造のガッソ湖の水を利用して船舶の揚卸をなす。運河の水深は最少四十一呎、最少の幅は三百呎である。一九三九年ここを通過せし船舶は五千九百隻、二千七百八十六萬噸に及んでゐる。

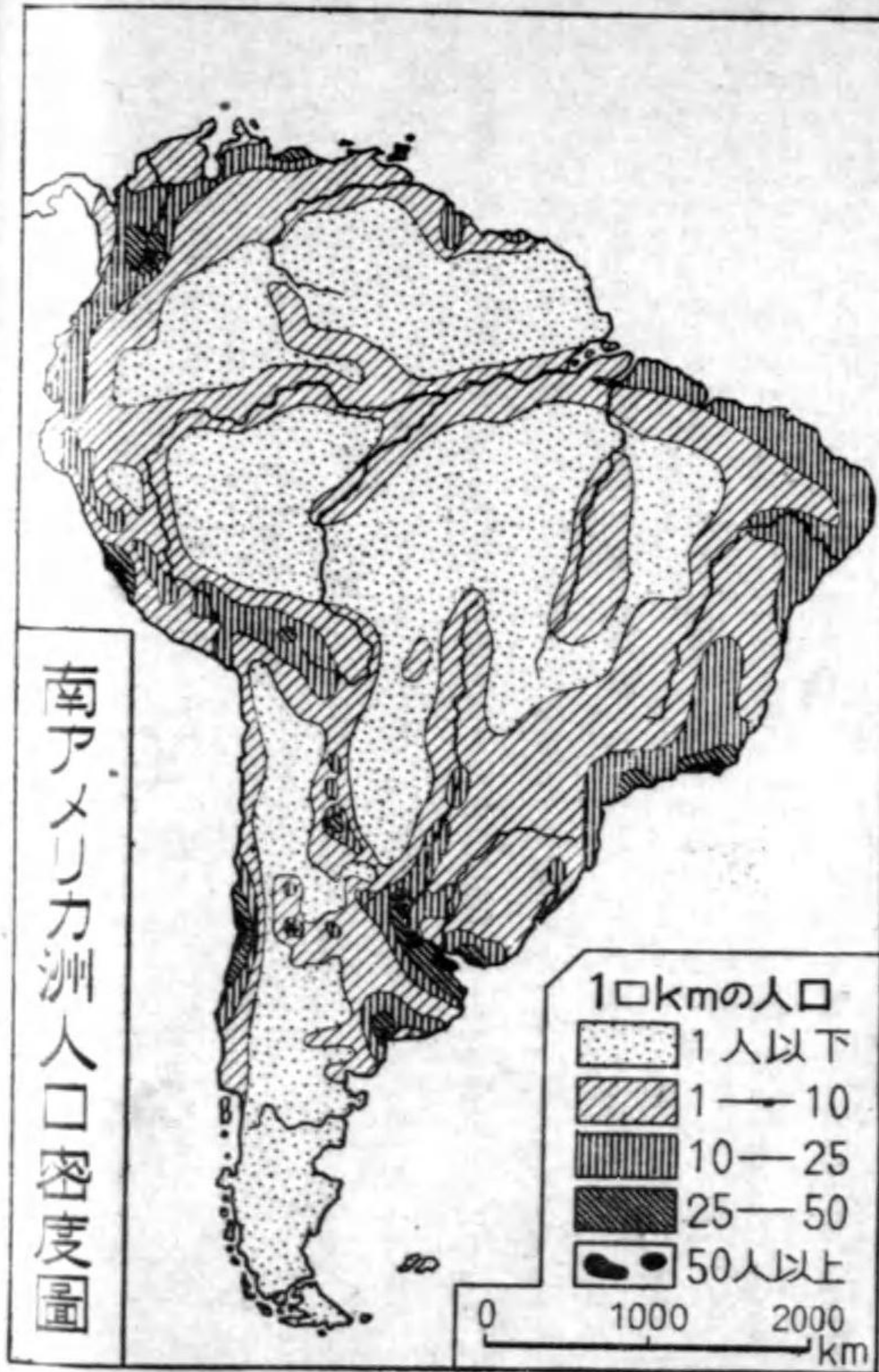
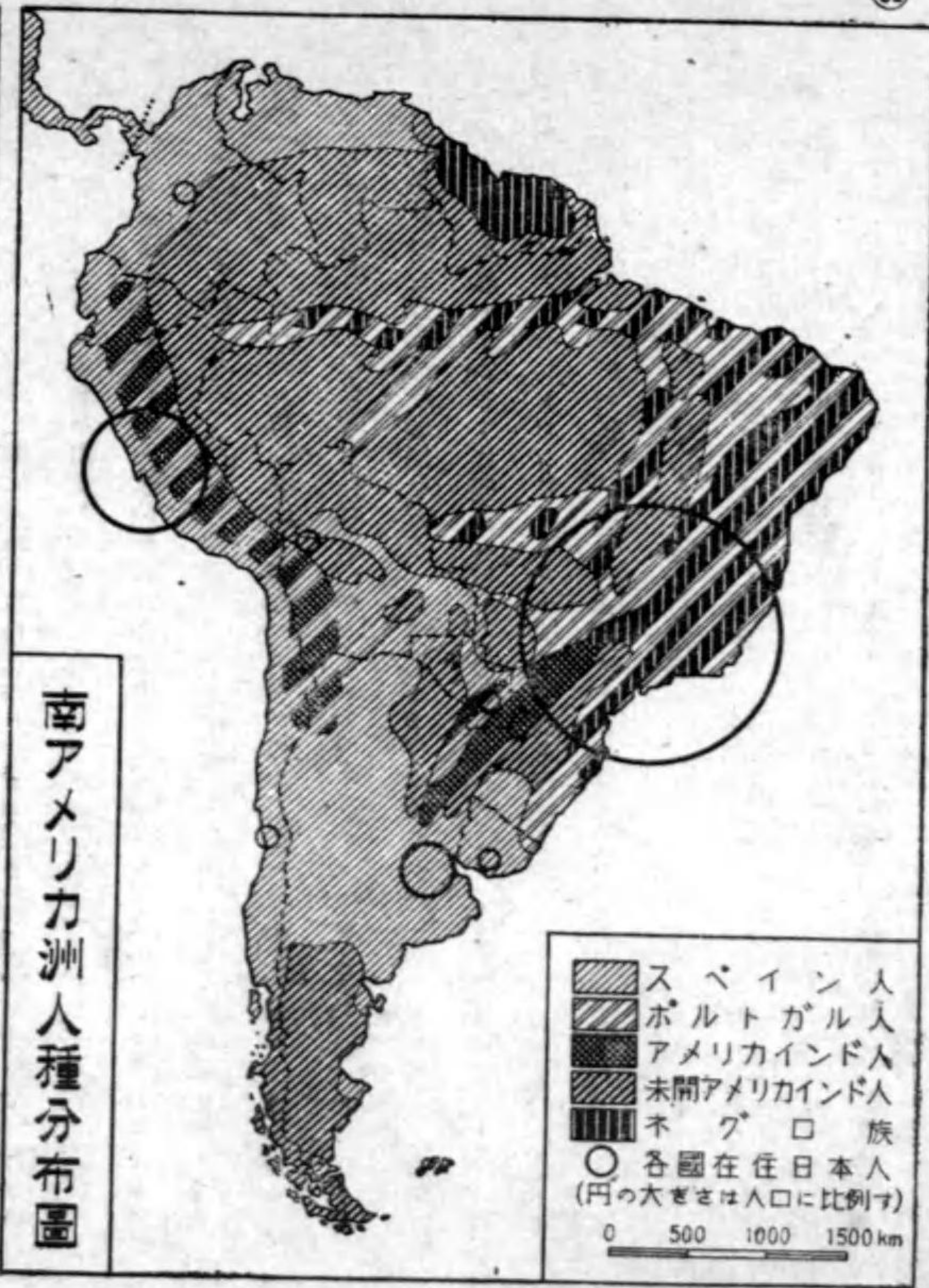
カリブ海は中米の地峡と南米の北海岸と大小アンチル諸島とによつて囲まれた海で、所謂アメリカの地中海である。元來地中海なるものは大洋と異りその支配が容易であるために、自ら一國家による所謂マール・ノストロ(我等の海)即ち海洋獨占の態勢を形成する。例へばヨーロッパ地中海はこのマール・ノストロ傾向が遠くローマ帝國に發し、今なほ熄まず、英・佛・伊諸國の爭奪地方となつてゐる。大東亞(亞濠)地中海に於ても過去に大争闘があり、今や日本と英・米・蘭との間に狂瀾怒濤が惹起されてゐる。而してアメリカ地中海に於てはこれが發見以來四百餘年間、英・佛・蘭・米・西諸國により激しい摩擦が行はれたが、現在では米國カリブ政策の確立により米國の制覇が成つた。

米國がカリブ海の制覇に乗り出したのは比較的新しく、この海は發見後約一世紀間はスペインの内海であつて、スペインはキューバ・サントドミンゴ・ポルトリコの大島嶼をその領土としてゐたが、第十七世紀に至り英國はジャマイカ島・トリニダード・グレナダ・セントルシア・バハマ諸島を占領し、中米にあるホンデュラスの一角に地歩を占めた。フランスも一時は大小アンチル諸島の大部分を所有し、今日もなほ小アンチルのマルチニクその他に名残を止めて居り、オランダもキュラソー島を領有してゐる。これに對し米國は、一八九八年の米・西戦争以來初めてカリブ海政策に乗り出し、ポルトリコ島を奪ひキューバを間接にその支配下に置き、グァージン島をデンマークより購ひ、ハイチ共和國に對しては財政軍事の指導權を握り、かくしてカリブ海に入る一連の諸島をその手中に收めた。唯東方の小アンチル諸島には一つも根據地がなかつたが、今次の大戦に乘じ英國よりアンチグワ・セントルシア・トリニダード島を租借し海の長城を完成した。而して大陸には一九〇三年パナマを、一九一三年ニカラグワを事實上の保護國となし、ここにカリブ海包圍陣が成立したのである。併し最近では屢々ドイツ潜水艦の脅威を受けてゐる。而してこの包圍陣完成の大目的は恐らく今日の情勢下に於ては左の四つであつたらう。

(一) パナマ運河の外側防衛 (二) メキシコ及び中米・西インド諸島に對する歐洲よりの攻勢の完封 (三) この包圍陣自身の諸島嶼に於て米國の不足せる熱帯産物の増産 (四) 米國より南米諸國に至る海路及び空路の確保。

カリブ海地方政治地圖





南米の人種分布及人口密度

南米の人種はかなり複雑である。この大陸の原住民は北米と同じくアメリカインド人であつて、元來この種族は骨格・毛髪・頭蓋その他の人類學的標準によれば、アジア人種たることは疑ひなく、而して彼等が米大陸に移住せし徑路はアリューシヤンの陸橋を傳はり北米に來り、それより南下して南米に移りしものと思はれる。南米には別に西太平洋より漂流し來れるカナカ族の原住民があつたやうである。南米のインド人中最古の住民はブラジル東部に住むインド人で、アジアよりの移動は氷期時代と考へられる。他のインド人中氣候の比較的良なる中・南米の高原地方に住めるものは相當の文化が發達し、殊にメキシコのマヤの文明ペルトのインカの文明の如きはその著名なものである。これに反しアマゾン河オリノコ河流域に住むものは文化最も後れてゐる。これ等各地のインド人は第十六世紀以來非道なる白人の劫掠に遭ひ漸次その數を減じた。而して白人中ブラジルのみがポルトガル系であつて他は皆スペイン人の後裔である。東部地方にはネグロ族が散在するが、これは中・北米と同じく開發時代に輸入せしものである。

これ等南米の各種族は今日多くの混血が行はれ、インド人と白人との雜種はメスチゾと呼ばれ、白人とネグロとの雜種はムラットであつて、インド人とネグロとの雜種はサンボである。これに對し今尙血の純潔を保つてゐるスペイン人の子孫をクレオレン、ポルトガル人の後裔をブラジリエロと稱してゐる。現在南米に住むこれ等各種族の總數は不明であるが、インド人は大體七百萬でその中七割は文化民である。ネグロは約四百萬と數へられる。而して南米十ヶ國につきこれ等有色族の最も少きはチリーで、アルゼンチンこれに次ぎ、山岳地方の諸國は住民に對する率が甚だ多い。このことはこれ等諸國の文化・産業・政策等に影響することが少くない。

南米の人口密度は未だ他に比し著しく少く、全體として一方軒五人に過ぎない。殊にアマゾン流域のセルグアス・カンボスの如きは極めて稀薄である。これに對してアルゼンチンのパンパス地方やブラジル南海岸等は、開拓の進展に伴ひやや稠密である。而して新開地の特色である人口の都市集中の傾向は南米にもよく現はれ、リオデジャネイロ・ブエノスアイレスの二つの百萬都市を初めサンパウロ・ロサリオ等の相當な都市もある。一方西岸アンデス地方では高度により氣候に相違があり、これが人口密度を左右し、暑熱の高い海岸地帯は交通上有利であるに拘らず、都市附近を除き人口は稀薄で、寧ろ高原地帯ほど人口稠密となる。これはメキシコ等と同様の現象である。

この人口稀少な南米に對し、今方に黎明期にある世界新秩序の發展は如何なる影響を與ふるかは、現大戰後に殘された重大な命題である。

ヘルーは大部分アンデス山系に属し、気候は高原のためと海岸にフンボルト寒流が流れてゐることにより比較的温和である。既述のインカ帝國の故地であり、帝國滅亡後は南米を支配したスペイン副王の居住地であつた。接壤の隣國と境界の争が絶えず今は未確定の土地があり、屢々干戈に訴へることがある。資源としては鐵業が重要で殊に石油が最も著名である。金・銀・銅も少からずヴァナジウムは世界有数の産地である、農産物としては良質の棉花と甘蔗がある。なほこの國は南米に於ける日本人最初の移住地として知られ、在留邦人もリマを中心に二萬人を越えてゐるが、現在ベルーも反樞軸國であるため、ブラジルの如く邦人もまた壓迫を受けてゐる。

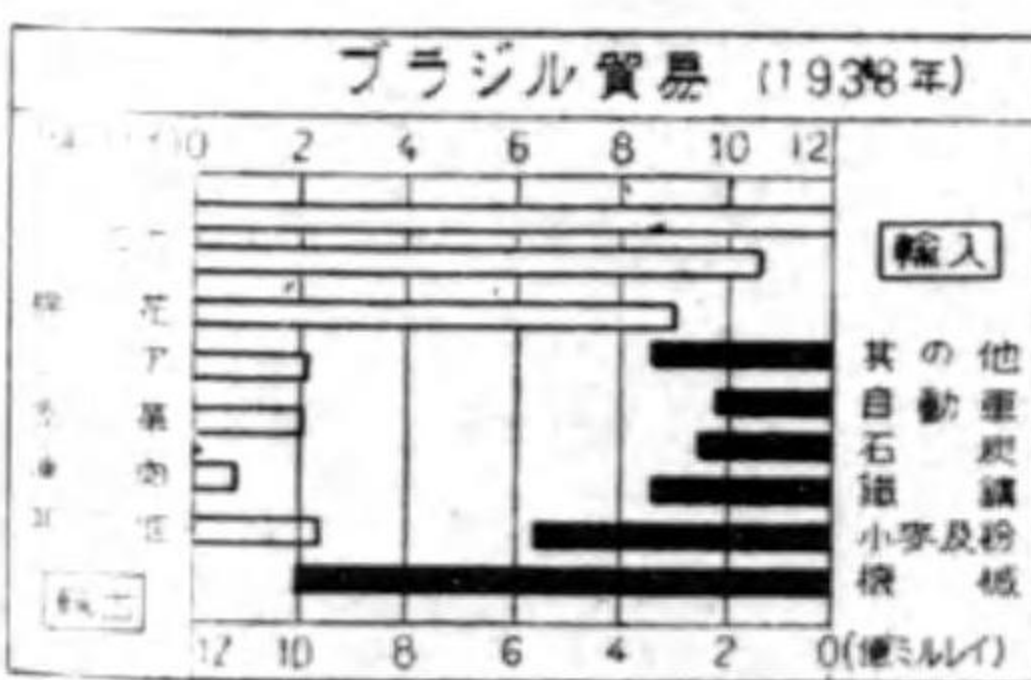
南米は今日十の獨立國三の植民地に分れてゐる。全體の地形が單調であるにも拘らず、かく多數分立する所以は、スペイン系住民の獨介性のほか、各地方の氣候、地勢の自然的關係も與つて力がある。即ち大西洋方面では北より南へかけリャノス・セルヴァス・カンボス・パンパス等の種々な植物地帯が存在し、これが住民生業の差を生せしめ、また西方太平洋方面では高峻なアンデス山脈があつて諸國の割據に便なるからである。

ブラジルとベルー

ブラジルは南米の最大國家である。面積八百五十萬方呎日本の十三倍に及び、人口も四千五百萬南米全體の半以上を占める。併しこの國は今なほ人口稀薄で各國移民の吸收地であるが、その努力は主として世界産額の過半を占めるコーヒー栽培にあつた。コーヒーは東方のブラジル高原の赤土地帯に産しこの國總輸出額の約七割を占めるが、一國の農産物がかく偏倚する所謂單種栽培は、一方に世界市場を獨占する利あると共に他方或は凶作に見舞はれ或は市場が不況となれば、國內經濟組織が大打撃を蒙るので、近年は漸次單種栽培より多種栽培(多角農業)に轉換し、棉花・ゴム等を新たに生産せんとしつつある。棉花は東岸の高原に於て既に成功してゐるが、ゴムはアマゾン流域がその原産地でありながら労働力不足のため未だ大なる發展はない。更にブラジル高原の削磨された古き地塊は、良質の鐵礦・金・金剛石を初めその他の礦物に富んでゐる。燃料資源は一般に乏しい。

ブラジルは従來南米に於ける日本移民の重點をなし、米國の移民禁止後海外移民といへばこの國への渡航を意味したほどで、現今在留民二十萬を越え滿支に次ぐ日本人の集團地である。大東亞戰爭開始以後ブラジルは聯合國に味方したので邦人は不當の壓迫を受けてゐる。

ヘルーは大部分アンデス山系に属し、気候は高原のためと海岸にフンボルト寒流が流れてゐることにより比較的温和である。既述のインカ帝國の故地であり、帝國滅亡後は南米を支配したスペイン副王の居住地であつた。接壤の隣國と境界の争が絶えず今は未確定の土地があり、屢々干戈に訴へることがある。資源としては鐵業が重要で殊に石油が最も著名である。金・銀・銅も少からずヴァナジウムは世界有数の産地である、農産物としては良質の棉花と甘蔗がある。なほこの國は南米に於ける日本人最初の移住地として知られ、在留邦人もリマを中心に二萬人を越えてゐるが、現在ベルーも反樞軸國であるため、ブラジルの如く邦人もまた壓迫を受けてゐる。

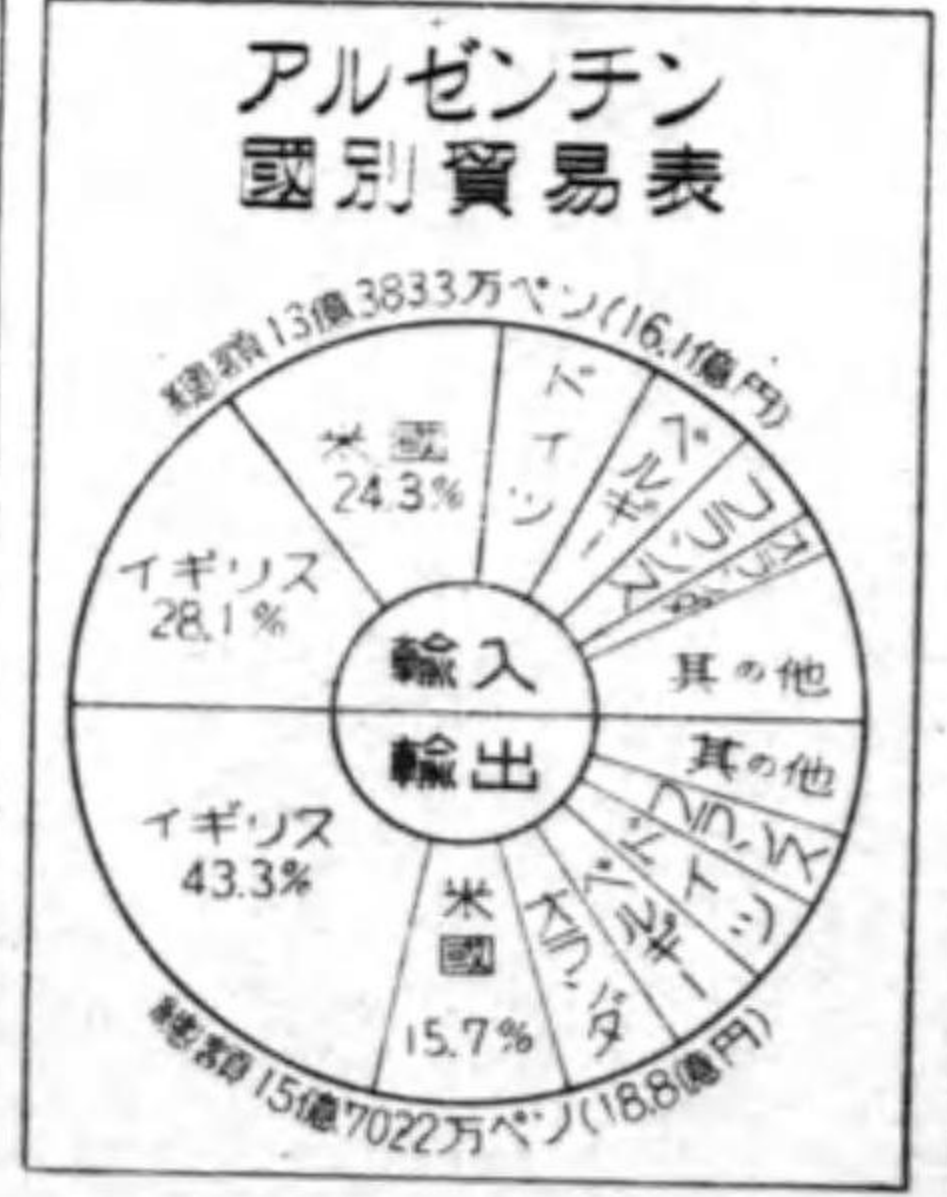
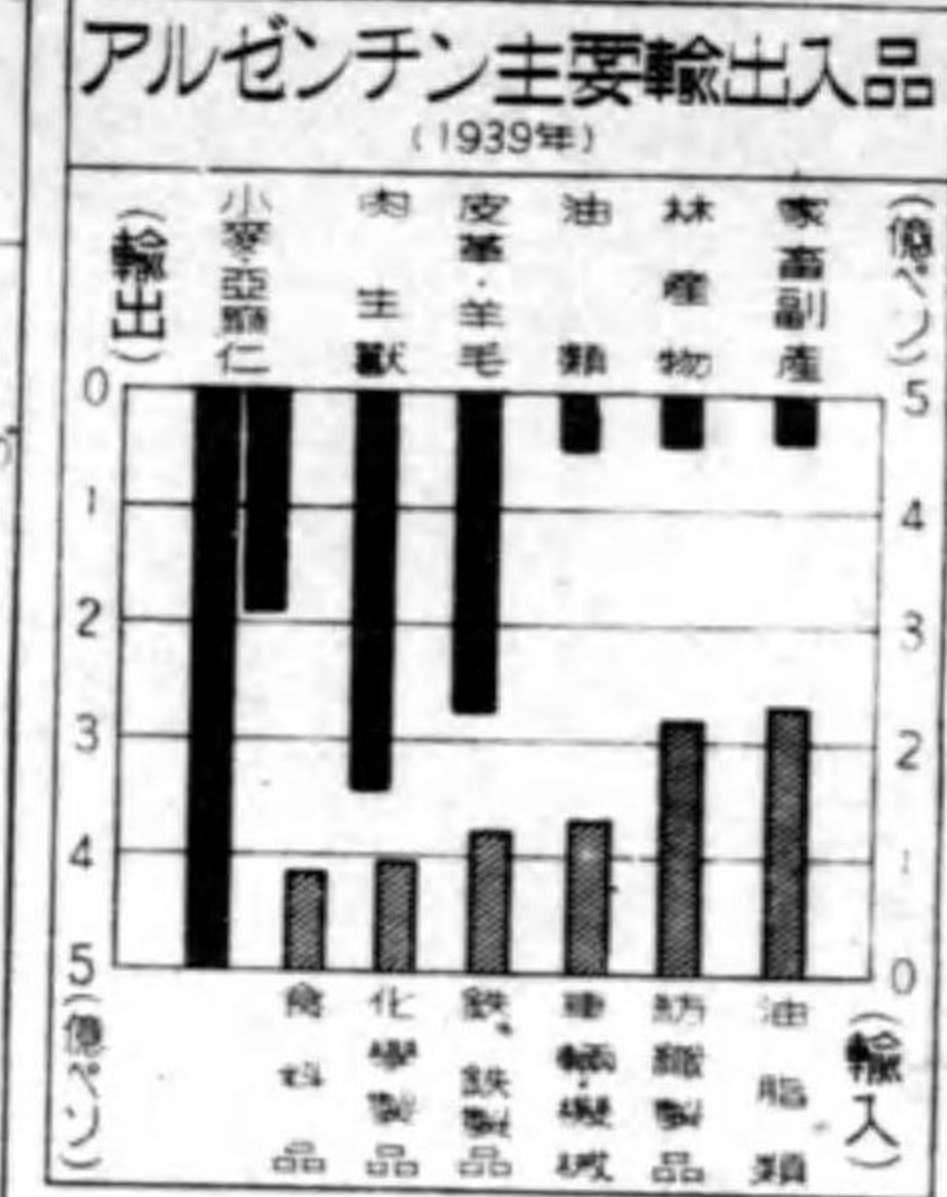


アルゼンチン・ブラジル・チリを南米のABC國と稱し、その國力は他の南米諸國に優つてゐる。この三國中アルゼンチンは人口千三百萬で、南米の最大國ブラジルに比すれば人口はその四分の一で面積もその三分の一であるに拘らず、經濟力に於ては南米の首位を占め政情も極めて安定してゐる。これはこの國が氣候の最も良好な温帯に位し、土地も肥沃であり人口構成の點でもメスチゾが比較的少く、經濟上では特に歐洲諸國と貿易・交通等密接な關係にあつたからである。而してその反對に米國との關係は甚だ薄く、寧ろ南米諸國中反米的色彩の最も濃厚なる國である。首府ブエノスアイレスも約二百四十萬の人口を有して南半球第一の大都會であるが、新開地方の通有性として國內の人口の分布は甚だ不平均で、ブエノスアイレスのほか人口五十萬のロサリオ、二十七萬のホルドバの三大都市のみで全國人口の四分の一を占め、従つて農業國たるに拘らず地方の人口密度は甚だ少い。併し敢て移民を歓迎しないのはブラジルと異つてゐる。

アルゼンチンの國土は自然上パンバス・(グラン)シャコ・モンテ・パタゴニアの四大地區に分けられる。パンバスは小麦・玉蜀黍を産しアルゼンチン國力の源泉であり、兼ねて世界穀倉の一である。パンバスはまたアルファルファ草が繁り牛羊の牧場ともなる。この牧農地區をエスタンシアといひ、普通大資本家がそこに獨立の聚落を作る。農場は小分してチャクラと呼ばれる。グランシャコはラプラタ上流の森林原野の混合地で森林からは特有の硬木ケブラチヨを出し燃料代用に用ひられ、また南米の一般飲料たるマテ茶を産する。モンテ地方はアンデス東麓の地方で氣候乾燥し人口も比較的少い。パタゴニアは氣候最も不良で若干の牧羊が行はれるに過ぎない。東岸中部に相當豊富な油田がある。

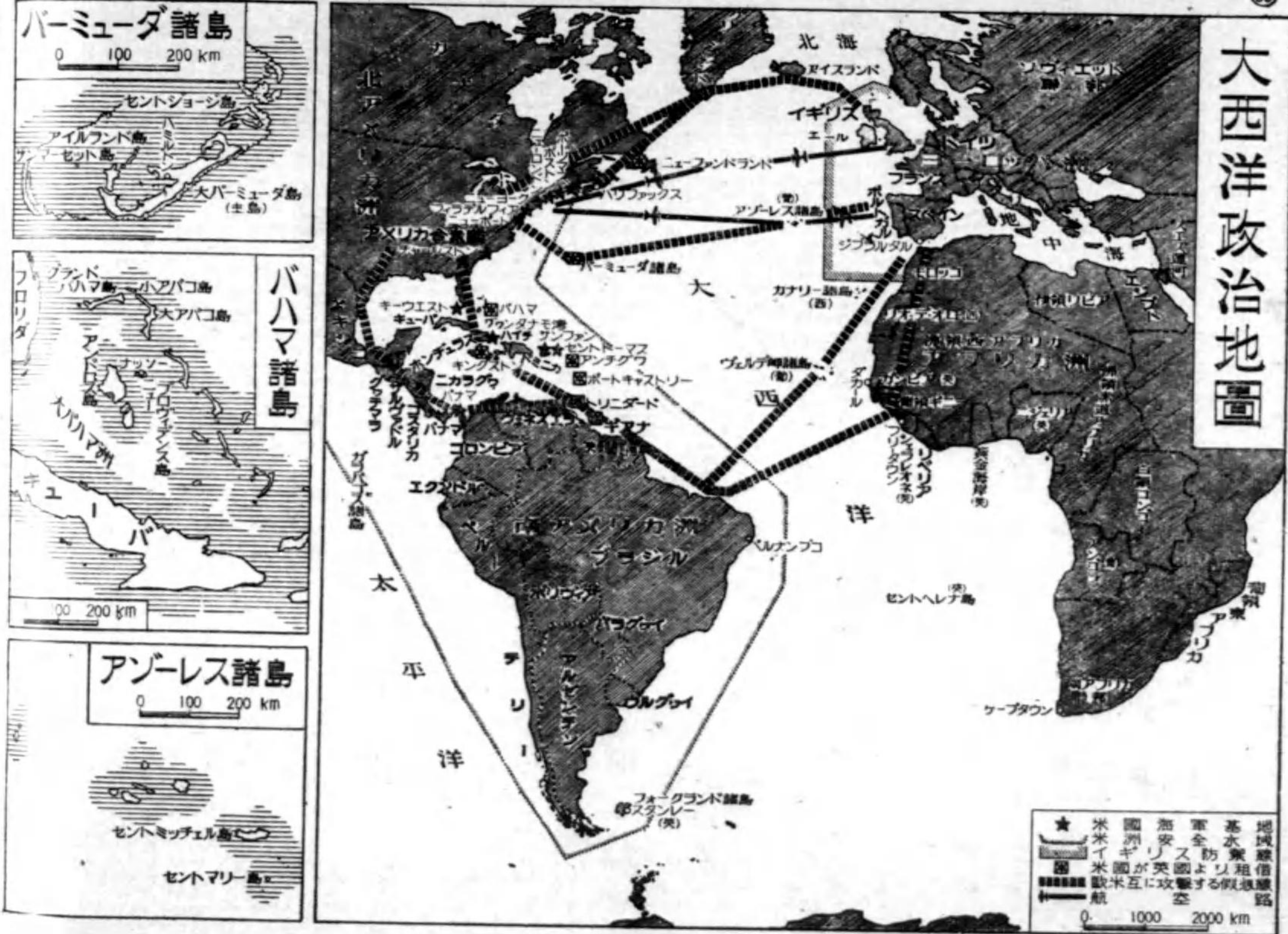
次にチリは南米十國中第七位の小國であるが、ABC三國として重きをなしてゐてブラジルと共に反米思想が盛んである。國が狹長で幅の最も廣き所で三百軒に過ぎないのに南北四千軒に亘つて延び、従つて氣候により三つの地域に分れる。北方のアタカマ地方は乾燥して沙漠地帯をなすが却つてその故に硝石の産地として、この國では最も重要な土地である。チリ硝石は世界的資源であるが今日では空中窒素肥料の出現で打撃を受けた。今日尙その生産物のヨードと共に一億五千萬ペソの輸出をなし、銅と並んでチリの二大輸出品である。中部はサンチャゴ・ヴァルパライソを中心とした温和地帯で農耕が行はれる。南部はアンデス山系の海に没する所で大小無數の島嶼がありマゼラン海峡に終る。こ

こは雨量が最も多く従つて密林繁茂し殆ど人間の居住に適さない。



アルゼンチンチリ

大西洋政治地圖

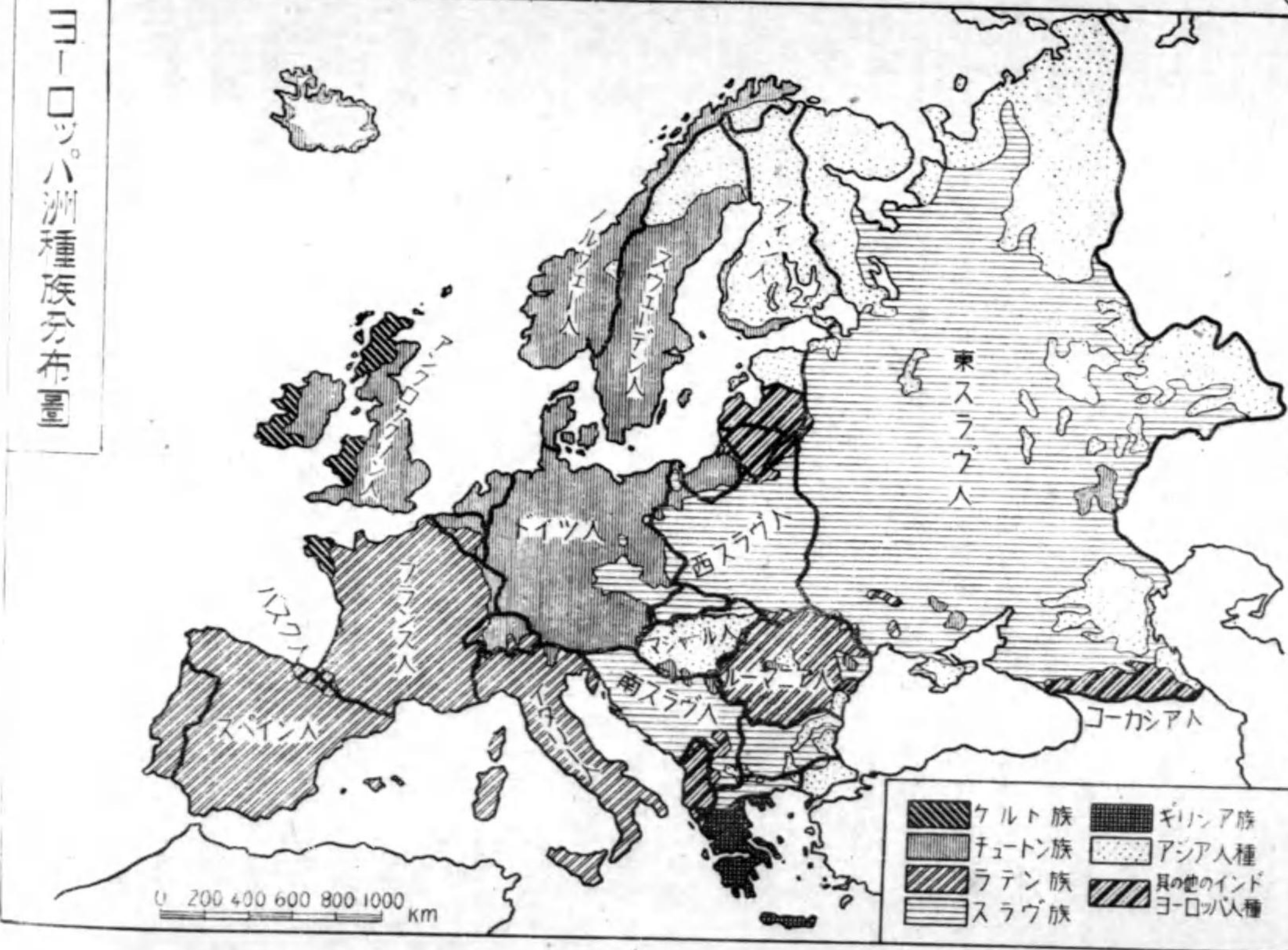


大西洋政治地圖

大西洋は歐洲と米洲の二大政治圏間に横はつて、現大戰に於て攻撃・防禦兩面から非常に注目される大洋となつてゐる。抑々この大洋は第十世紀の頃勇敢なるノルマン人によつて横斷せられたほか、太古以來歐洲の文化と政治とから閑却されてゐた。然るに第十五世紀以後コロンブスの航海を契機として、大西洋は舊世界と新世界を連絡する大道となり、西歐諸國は競つてこゝに乗り出し、海上交通の中心はこゝに移るに至つた。殊に大西洋はその廣袤八千二百萬方呎に及ぶといへ最狹部に於て僅か三千呎に過ぎず、ドイツの地理學者フンボルトの如きは「大西洋の谷」といふ言葉を用ひてゐる位であるから、これが近代交通機關の發達に伴ひこの大洋の横斷は頗る容易となつた。即ち今日の優秀船を以てすればこの大洋の航行僅か四日で歐・米の二大陸が結び付けられ、また航空機によれば二十時間を要せぬであらう。

こゝに於て政治上から観ると、今日の大西洋は昔日の如く防禦の深淵ではなく、攻・防何れの側にも頼りとするに足りないのである。この場合問題となるのは洋中の島嶼であつて、飛行機の發達せる今日列強がこれを保有するとせざるとにより、攻・防に非常の差あることは自然の理である。これによりて米國は現大戰の初頭に於て僅か五十隻の小艦艇と代へ、大西洋の西側にある七つの島嶼を英國より獲得した。その中バミューダ諸島はもと英國が米大陸を制せんがために所有してゐたものであるが、今では逆に米國の海軍基地となつた。バハマ諸島・小アンチル諸島また然り、英國は今後大西洋や米大陸に對し發言力を全く喪失せるものといふべきである。これに反し米國は更に大西洋を北方に進みグリーンランドを收めアイスランドに進駐するに至つて、北大西洋西部の制海權は完全にこれを握ることになつた。次に東部に對しても米國はそこにあるポルトガル領アゾール諸島やヴェルデ岬諸島及びスペイン領カナリー諸島を狙つて居り、最近ではアフリカ北西岸のフランス領を占領したので東大西洋もまたその勢力下に置かれた。本圖中に歐・米互に攻撃する假想線として描きしものは今日現實線となつてゐて、米國は大體この線によつて地中海や北西アフリカを攻略してゐる。

大西洋と南米諸國との政治的關係の近狀を記せば、米國は現歐洲大戰勃發直後一九三九年九月米洲諸國と相約して米大陸の周圍に米洲安全水域なるものを設け、また領海三百哩の聲明を發し、中・南米に對し防衛的立場を強調した。最近はまだドル外交によつて南米諸國を懐柔し反樞軸國たらしめるのに或る程度成功してゐる。



ヨーロッパの種族分布

世界の人類を體質的に分類すると、その大なる區別は人種であつて小なる區別は種族である。單一の種族や數種の種族が或る一定の人文的結合をなせば民族と呼ばれる。而してヨーロッパは全體ヨーロッパ人種に屬するが、その種族は極めて複雑でアジア人種との混血も少くない。今本來のヨーロッパ人種に屬する主なる種族とその特色とを擧ぐれば左の如くである。

(一)北歐種 スカンデナヴィア・バルト海沿岸・北ドイツ・イングランド等に分布し、身長高く皮膚の色淡く金髪が多い。チュートン族(ゲルマン族)はその代表的のものである。民族としてはアングロサクソン人・ドイツ人等があり、一般に精神的能力は頗る高く沈思的な氣象を持つてゐる。英國にあるケルト族はフランスのそれと同じくも大陸の各部にありしもの、遺物であつて、北歐種ではない。

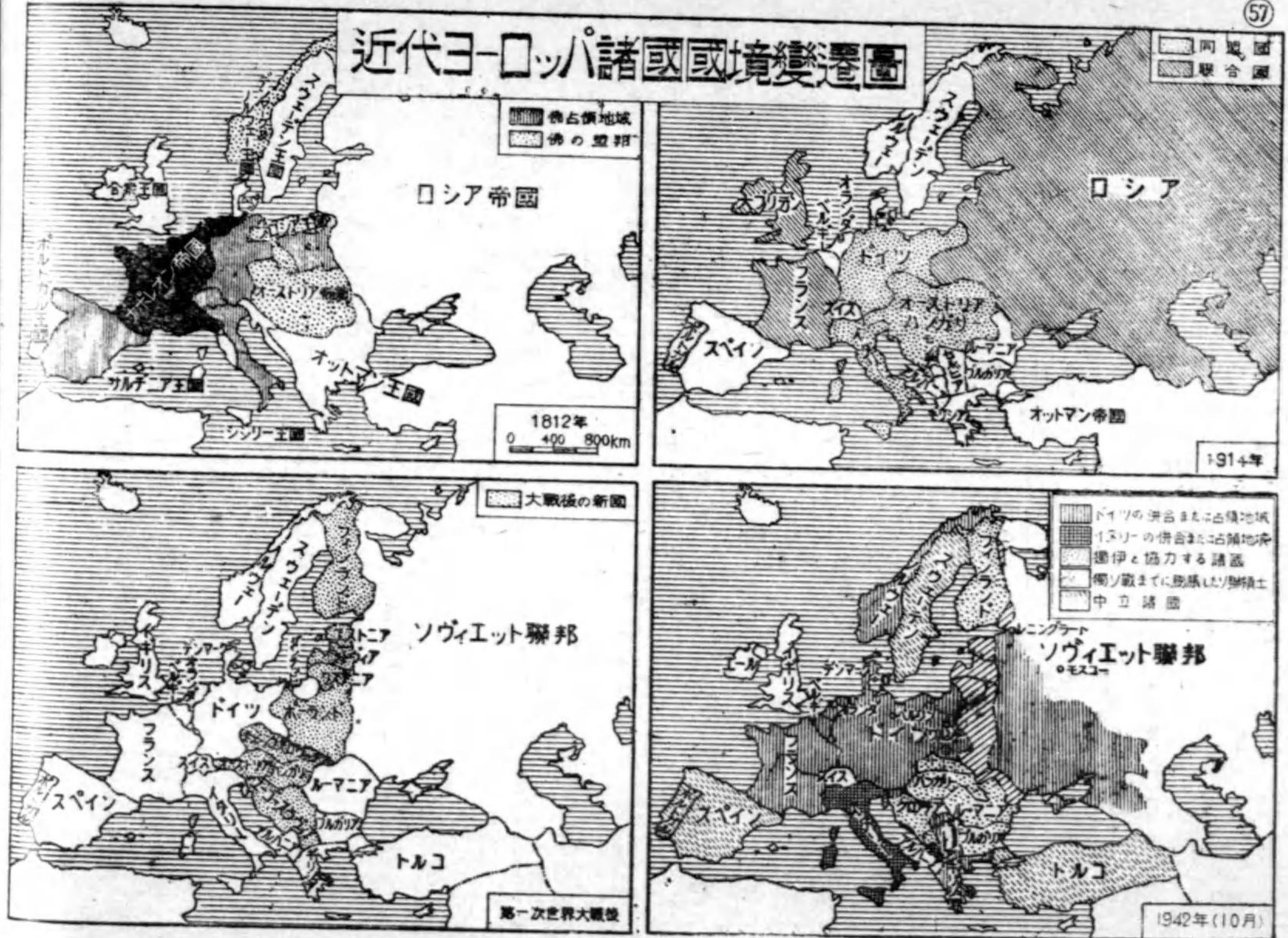
(二)地中海(中陸)種 地中海を繞る諸地方に住するもので、所謂ラテン族が代表的のものである。この種族は氷期時代から良き氣候と地勢に恵まれ、明朗な性格を有し情操は發達せるも深刻な思考には不向である。北歐種に比すれば身長や、短く顔面の幅狭く臍はやゝ黒い。スペイン人には歴史的關係によりアジア人種の血が混つてゐる。

(三)アルパイン及びディナール種 共に恐らく原住地をアジアに有せしものであつて、アルパイン種はアルプスを中心としてその東西に住む。ディナール種は北伊からアドリア海東岸に亘つて分布し、バルカン半島の固有民族がこれである。ギリシア人はこのディナール種と中陸種の混血であらう。而して東歐からバルカン半島に分布するスラヴ族は、アジア人種が北歐種やアルパイン種・ディナール種と混血したものである。

このほか純アジア系のものにハンガリーのマジヤール種、南バルカンのトルコ種、北歐のフィン種・ラブ種がある。更に歐洲の異民族たるユダヤ族は歴史時代の初期にアジアより歐洲に來りしもので、ジプシーは歐洲人居住以前からの原住民と考へられる。

かくの如く歐洲の種族構成は複雑であり、これに加へて地形錯雜せるため各種族の混浴せる數十の國家を形成して、種族は今日では殆どその血液上の結合性がなく、甚しきに至つてはこれ等同種族も互に相聞くものが寧ろ常態である。これに反し假令種族的には純粹ならざるも永く共同の一地域に住めるものは自ら一民族を形成し一國家の下に結合せるものが少くない。近代のヨーロッパ史は種族的よりは民族的によりて強く色づけられてゐる。

近代ヨーロッパ諸國國境變遷圖



近代歐洲諸國の國境變遷

世界の歴史に於て歐洲はど戰亂が多く従つて國家の興亡・國境の變動の甚しき處はあるまい。それは既に述べた如く、多岐なる歐洲の地勢と民族の複雑性とが相俟つて、何れの時代にも數十の國家が存在し、これ等諸國は個人及び民族の發展上更により大なる生活圏を求め、そこに歐洲諸國特有の霸道主義の政治が行はれ、これがため戰爭が起りその結果大小の國家が興亡し國境の變化となつたのである。

これを第十九世紀以後の變遷について觀るに、世紀初頭の大ナポレオン時代にはフランス帝國が恰も今日のドイツに似て全歐洲に君臨し、大陸の中部以西は概ねフランスに從屬し、ナポレオンの威令の行はれなかつたのは英合衆王國とトルコのオットマン王國及びロシア帝國・スウェーデン王國のみであつたから、境域も従つて簡單であつた。それ以後第十九世紀末に至る間はかなり國境に變動を生じた。一八七一年ドイツは普・佛戰爭に勝ちドイツ帝國を建設し、イタリーはサルデニアを盟主として同じく一八七一年ローマに都を奠めて統一の業を成した。一方多年バルカンに勢力を振つたトルコは次第に西歐國家に壓迫されてその國勢が蹙まり、これに乗じて領土内の各地方が分裂し、第十九世紀の前半に先づギリシアが立國し、後半に至りルーマニア・ブルガリアも獨立もしくは半獨立して、トルコの歐洲領土は將に壊滅の淵に臨んでゐた。かくて第十九世紀末の歐洲はこれ等の諸小國はありながら、獨・奧・露・佛・伊・英の六強國が歐洲の大部分を占據して、その勢力均衡により辛うじて平和を保つてゐた。

然るに第二十世紀に入るや一九一二年起つたバルカン戰爭に於てトルコの敗退となり、アルバニアの獨立を招きバルカン諸小國の動搖を來したが、これを契機として一九一四年勃發せる第一次歐洲大戰は歐洲を全く混亂に陥れた。その結果大戰後は所謂ヴェルサイユ體制によつて民族主義が採用せられ、歐洲に多くの新國家が生れたが、歐洲諸國の領域は愈々複雑性を加へた。而かもこの新體制たるものは全く戰勝國の御都合主義の結果であり、徒らに小國家を分立せしめたので、狭小な歐洲諸國はこれがため益々十分な生活空間を與へられざることとなり、各國との間に摩擦を生じ、以て今次大戰の直接原因をなしたのである。現歐洲戰爭の目的はかゝる不合理なヴェルサイユ體制を打破し割據の小邦を統合し、ドイツ・イタリーを中心とする歐洲廣域經濟圏を確立することに在る。現在戰はれつゝある歐洲大戰の結果は未だ豫斷を許さぬが、元來「國境の拂拭」はナチスドイツの理想であり、戰後の領域の變動はまた近世歐洲史上未曾有のものとならう。

この間にイタリアは一九三五年アルバニアを占領し、一九四〇年六月ドイツの對英・佛戦争に参加し、今日ドイツと共に英・ソ兩國と戦つてゐる。而してソ聯は一九四〇年フィンランドと戦つて南東のカレリア地方を獲、またバルト沿海諸國にも進駐してこれをソ聯邦に編入し、またルーマニアからベッサラビア・北部ブコヴィナを獲得した。一九四一年四月に至りドイツはユーゴスラヴィアの變節を憤り兵を進めてこれを攻略し、次いで英國と同盟せるギリシアを破つた。六月に至りドイツは突如ソ聯邦に對し戦を宣しソ聯本土のスターリン防禦線を突破した。併しその後ソ聯の抵抗意外に頑強でドイツの進攻はやゝ鈍つたが、東方はヴォルガ河畔に至り南方にてはドネツ炭田を手中に收め、アゾフ海岸やコーカサス山脈に達し、北方にてはレニングラドを包圍してゐる。バルカンの舊ユーゴ一國にはクロアチア・モンテネグロ二國が作られた。(昭和十七年十一月)

歐洲 現勢圖

歐洲は今や硝煙の唯中にある。一九一八年世界史未曾有の大戦亂が熾りて僅かに二十年歐洲は再び修羅の巷と化した。而してその直接の原因は上述の如くヴェルサイユ體制の不合理によるものであるが、その遠因は一言にしていへば歐洲人生活の行詰りである。歐洲は一八〇〇年には人口一億八千萬であつたが、一九〇〇年には四億、一九三八年には五億三千萬に及んだ。百三十餘年間に正に三倍し、マルサスの原則を如實に示してゐて、それだけ歐洲人の生活難が加はつたわけである。

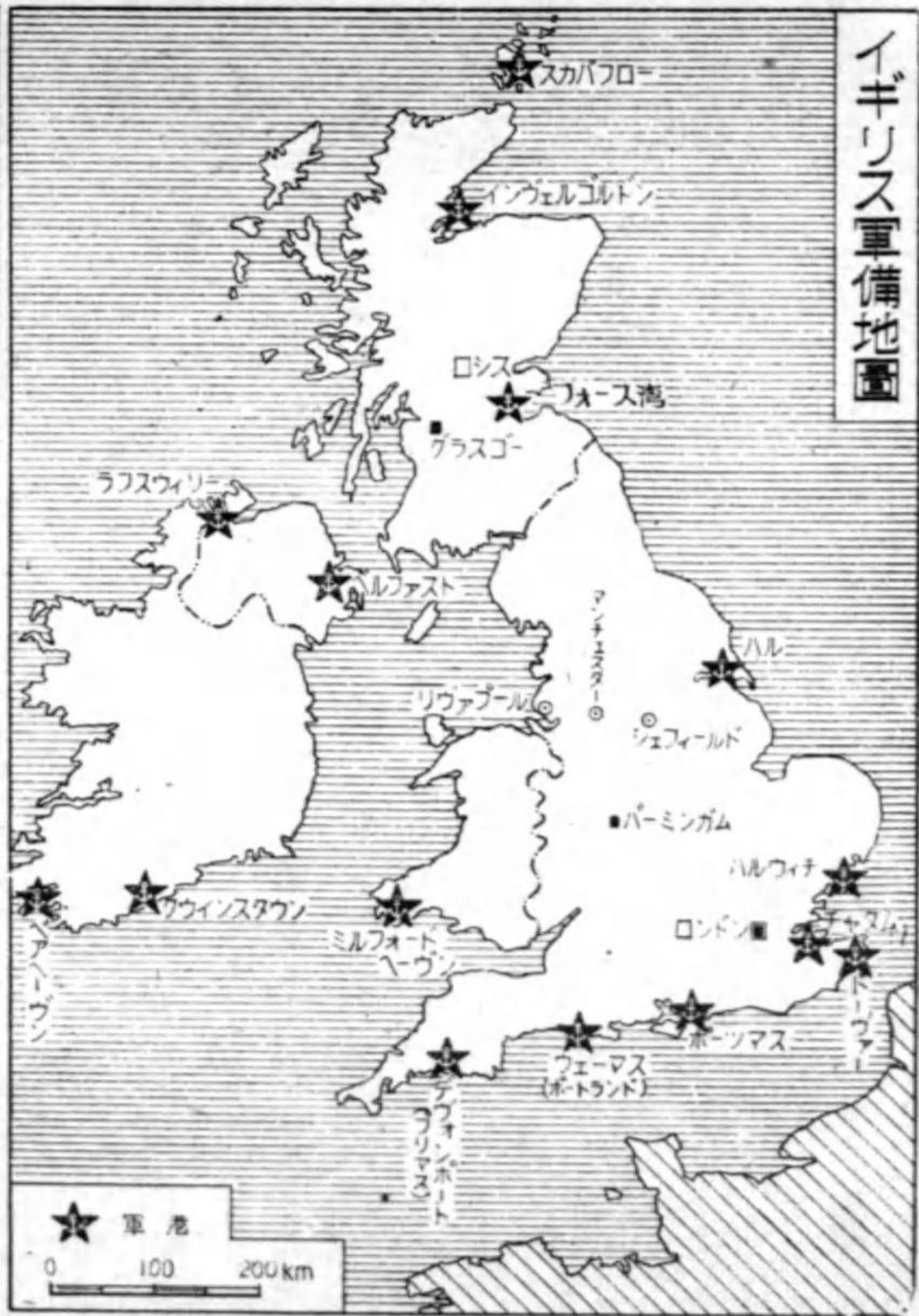
而してこれをドイツについて観るに一八七一年の人口四千百萬から一九三五年の六千八百萬に増加したのに、他方ドイツの領土は本國に於ても縮少しまた植民地を全然失つたのであるから、實際上の經濟生活・政治生活は共に著しく困難なものとなつてゐた。ナチスドイツの作家ハンス・グリュムの名作「土地なき民」を讀むものは歐洲人の豫想外な生活苦に一驚を喫すると共に、ドイツ・イタリア等の「持たざる國」が現状打破を目指して立ち上つたのは、必然的生存權の要求に基づくことをよく理解することが出来る。この情勢の下に一九三四年總統となつたヒットラーは三五年敢然としてヴェルサイユ條約を破棄して再軍備をなし、僅か三年にしてドイツ再起の自信を得、三八年オーストリアを合せ三九年チェッコを攻略し、同年九月ソ聯邦と相謀つてポーランドに進撃を企て、また英・佛二國に戦を宣した。かくてポーランドの攻略は僅か數週にして終りソ聯邦とポーランドを分割した。四〇年四月ドイツは更にデンマーク及びノルウェーに所謂電撃作戦を遂行し、また數週にして兩國を手中に收め、息つく間もなく翌五月にはオランダ・ベルギー等に進撃してこれを席卷し、六月遂に英・佛聯合軍を撃破して英軍を大陸より逐ひ、フランスの北半を占領した。目下フランス政府はヴィシーに設けられドイツに服従してゐる。

ヨーロッパ現勢圖 (1941-2年10月現在)

- 1938年の國境
- - - 現大戰前消失せし國境
- 1940年10月の國境
- ▨ ドイツへ併合せし地域
- ▩ ドイツの保護國となし地域
- ▧ ドイツの占領せし地域
- ▦ ソ聯邦の併合せし地域
- ▥ 他の諸國の併合せし地域
- ▤ 1941-2年獨り戰
- ▣ 1941-2年獨り戰
- ▢ 1941-2年獨り戰
- 1941-2年獨り戰
- 1941-2年獨り戰
- ▟ 1941-2年獨り戰
- ▞ 1941-2年獨り戰
- ▝ 1941-2年獨り戰
- ▜ 1941-2年獨り戰
- ▛ 1941-2年獨り戰
- ▚ 1941-2年獨り戰
- ▙ 1941-2年獨り戰
- ▘ 1941-2年獨り戰
- ▗ 1941-2年獨り戰
- ▖ 1941-2年獨り戰
- ▕ 1941-2年獨り戰
- ▔ 1941-2年獨り戰
- ▓ 1941-2年獨り戰
- ▒ 1941-2年獨り戰
- ░ 1941-2年獨り戰
- ▐ 1941-2年獨り戰
- ▏ 1941-2年獨り戰
- ▎ 1941-2年獨り戰
- ▍ 1941-2年獨り戰
- ▌ 1941-2年獨り戰
- ▋ 1941-2年獨り戰
- ▊ 1941-2年獨り戰
- ▉ 1941-2年獨り戰
- █ 1941-2年獨り戰
- ▇ 1941-2年獨り戰
- ▆ 1941-2年獨り戰
- ▅ 1941-2年獨り戰
- ▄ 1941-2年獨り戰
- ▃ 1941-2年獨り戰
- ▂ 1941-2年獨り戰
- ▁ 1941-2年獨り戰
- ▀ 1941-2年獨り戰



イギリス軍備地圖



イギリス工業地圖



英國の産業及軍備

英國は面積では我が國の本州程度であるが、四千六百萬の人口を有して密度では世界最高國の一である。この現象は英國が海外に有する廣大なる領土によりて國民の生活が潤はされた結果であるほか、その直接の原因は英國の樹てた商工業立國政策のため國が富強となつたからである。英國は夙く歐洲の古代史にその名を知られてゐたが、ギリシアの旅行家ヒテアスの記録によれば、當時の英國の住民は僅かに牧畜により貧困な生活を營むとあつた。これは英國が當時僻遠の地であり、氣候は寒冷にして土地は太古水河によりて削られ、寧ろ確確で農業に適しなかつたことによるのである。然るに近世以後地中海中心の經濟が衰へて大西洋中心時代に至るや、英國はその地の理に據り重商主義を唱へて世界の商業に乗出し、他方イングランド及びウェールズの山地の石炭と鐵とは忽ちにして工業の發達を促し、近世産業革命のトップを切ることとなつた。ランカシア地方・カーヂフ地方・ニューカースル地方・グラスゴー地方及びロンドン地方はその五大工業地區であつて、綿工業・造船・機械・鐵器・毛織物の製造等は嘗て世界の王座を占めてゐた。併し最近ではそれ等工業の多くは漸次新興國家に凌駕せられんとしつゝある。

過去に於ける英國のこの商工の發達はその海外領土の擴張と相俟つて自然海運の興隆を來し、軍備上では海軍が最も重んぜらるゝに至つた。これは英國の如き島國にありては海軍さへあれば、歐洲大陸より攻略せらるゝ虞はないからである。併し他方これがため陸軍の發達を阻害したのであつて、史家の或る者はいふ、英國の政治に民主的色彩が濃厚で、國君の權力が極めて弱く所謂虚君立憲國になつたのは、英國王がその親衛たるべき大なる陸軍を持たなかつたためであると。洵に平時に於ける英國の陸軍は殆ど儀禮的存在の如くであつてその數も少く、現大戰前英國軍の常備軍は僅かに十餘萬に過ぎなかつた。これをドイツが一九三九年には既に百萬の陸軍を有してゐたのに比し霄壤の差がある。

これに反し海軍は世界第一であつて現大戰前艦艇三百三十隻・百三十六萬噸を有してゐた。またこの海軍の根據地としては英國は絶好の地理的特色を有し、到る所に軍港適地があり殊にこれ等の多くは嘗て水河によりて作られた峽江の奥に位し、外部からの侵入にとりては甚だ安全の位置にある。而して沿岸中危険の最も大なるドーヴァー海峡は白堊の絶壁をなし、外敵を阻止するに大なる強味がある。勇猛ドイツが開戦後三年に及びて今なほ英國を攻略し得ざる所以は勿論ドイツ海軍の劣勢によるも、英國が國防上有するこの諸種の地理的利益に負ふ所が頗る大なりといはねばならぬ。

イギリス海外領土圖

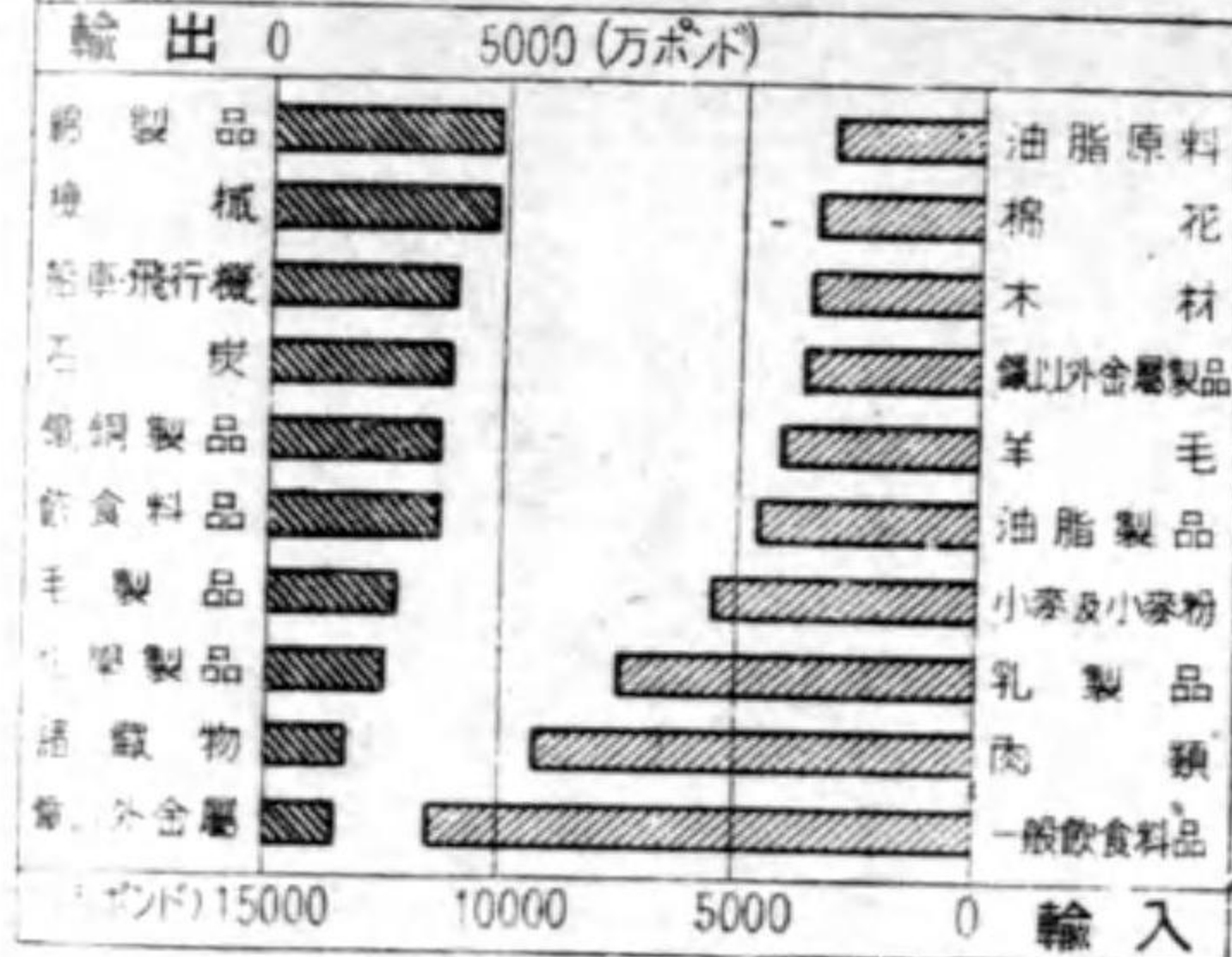


●はイギリス領

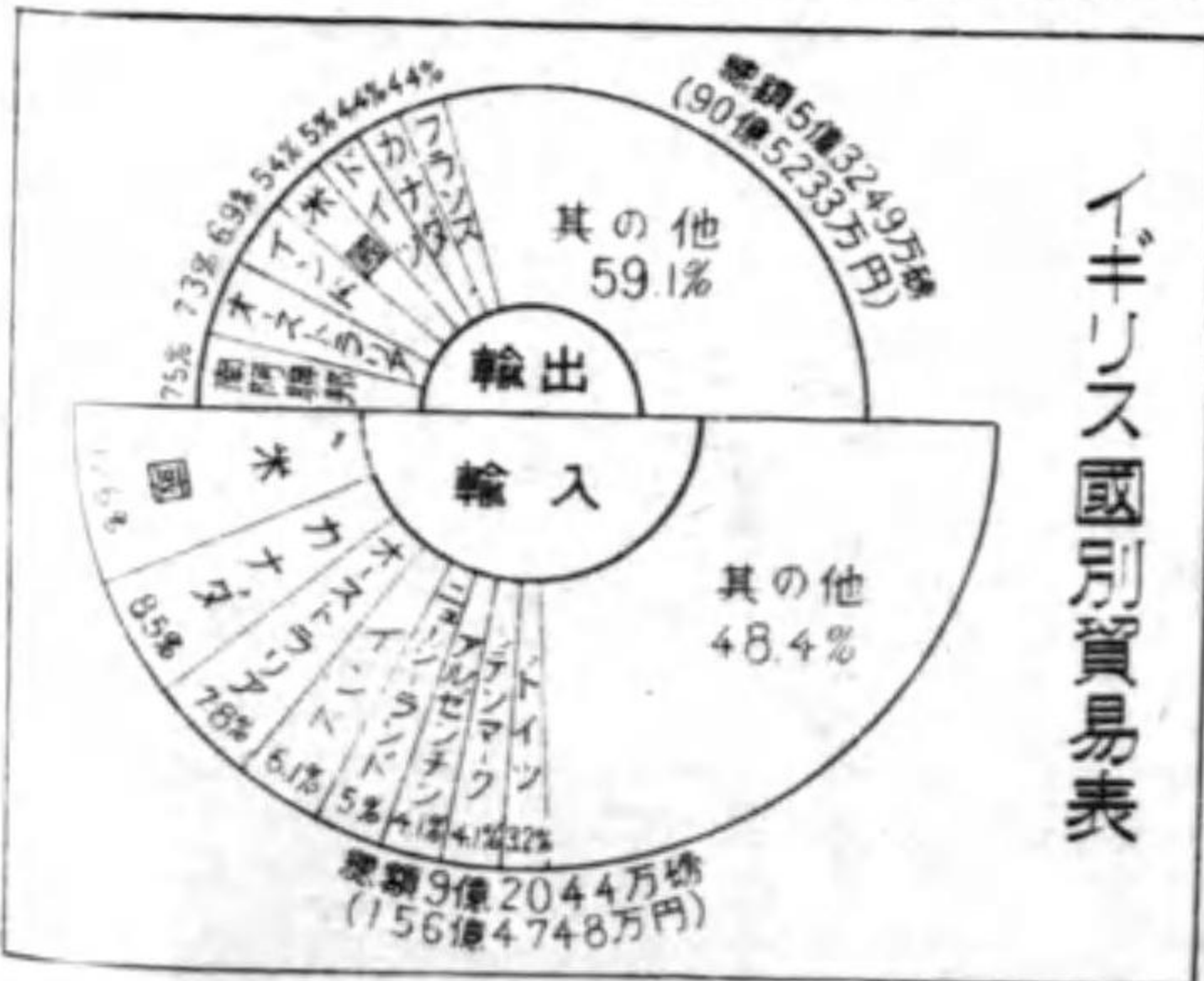
| 地域 | 面積 (三六〇〇万平方) | 人口 (五億) |
|---------|--------------|---------|
| アジア | 130% | 730% |
| オーストラリア | 235% | |
| 北アメリカ | 278% | |
| アフリカ | 332% | 120% |

| 人種 | 割合 |
|-----|-----|
| 白人 | 72% |
| 黒人 | 14% |
| その他 | 8% |
| その他 | 36% |

イギリス貿易品表



イギリス國別貿易表



英國の領土と住民

所謂大英帝國は世界到る所に領土を有しその總面積は世界陸地の四分の一に及び、從來自己の領土に太陽の没することなしとの不遜な言葉をすら發せしめて來たのであるが、漸次各屬領の獨立性が增大するに從つてその政治構成に變化を生じた。現大戰前の組織は一九二六年開催された帝國會議の結果であつて、全領土を英帝國と自治領とに分ち、前者は英本國の直轄地で英本國・植民地・保護領・委任統治領・インド及びビルマを含み、後者は領土 (Dominion) と稱しカナダ・オーストラリア・ニュージーランド・南アフリカ及びエールの五つがあつた。英帝國中英本國は大ブリテン・北アイルランド等より成り、植民地は本國に直屬しセイロン・海峡植民地等がそれであつた。保護領はウガンダ・舊マレー聯合州等で、委任統治領は舊ドイツの植民地やパレスタイン等である。インド及びビルマは純粹の直轄領ではなかつたが、英本國の支配を受け英王はインド皇帝を兼ねる。次に自治領たる各地方は本國政府と對等の地位にあり共通の皇帝を戴くに過ぎない。従つて各領土は外交上にも獨立し自由に公使を派遣してゐた。而してこの英領土の機構の變化に伴ひ英全領の稱呼も改められ、今世紀の初めまでは全領土を凡て大英帝國の名に於て呼ばれてゐたが、今は英國民聯邦 (The British Commonwealth of Nations) の名に置かへられてゐる。今日使用してゐる英帝國 (British Empire) は即ち英本國のみを指すのである。

次に英領土の住民を観るに總數約五億で、また世界人類の約四分の一を占むるもその大部分は有色人種に屬し、領地内の白人は約七千萬でその中に佛・蘭・西その他の諸國民を含み、純粹の英人は六千餘萬である。若し今次の戦争が持久總力戦となつた時、イギリスは假令物的資源に於て豊富なりとしても、人的資源としては最後に頼み得るものは本國の四千六百萬を主とし、他は若干の植民地の白人に過ぎない。

英國の貿易

英本國は既述の如く重商工政策を探り意を國內の天産に用ひざりしため、最近英國の輸入は天産物殊に食料が全輸入額の約半を占めてゐた。これは英國の一大弱點であつて小麦の如きは今なほ國民消費量の八割、肉類は六割、酪農品は八割五分を海外に仰いでゐる。併しこれ等食料の過半は帝國内屬領の供給する所で、一九三二年のオッタワ協定の重點もまた屬領生産の食料に特惠關稅を與へてこの關係を強化することにあつた。次に輸出品は綿製品以下の工業製品であるが、英國民の賃銀の昂騰と能率の低き舊式機械とによりその製品は高價となり、従つて市場は漸次縮小せられ、現大戰前二十五年間の輸出趨勢は漸減若くは停止の状態にあつた。輸出入の國別關係は輸入に於ては米國が第一位にあり、輸出は主として國內領土の各地方であつた。



フランスの産業

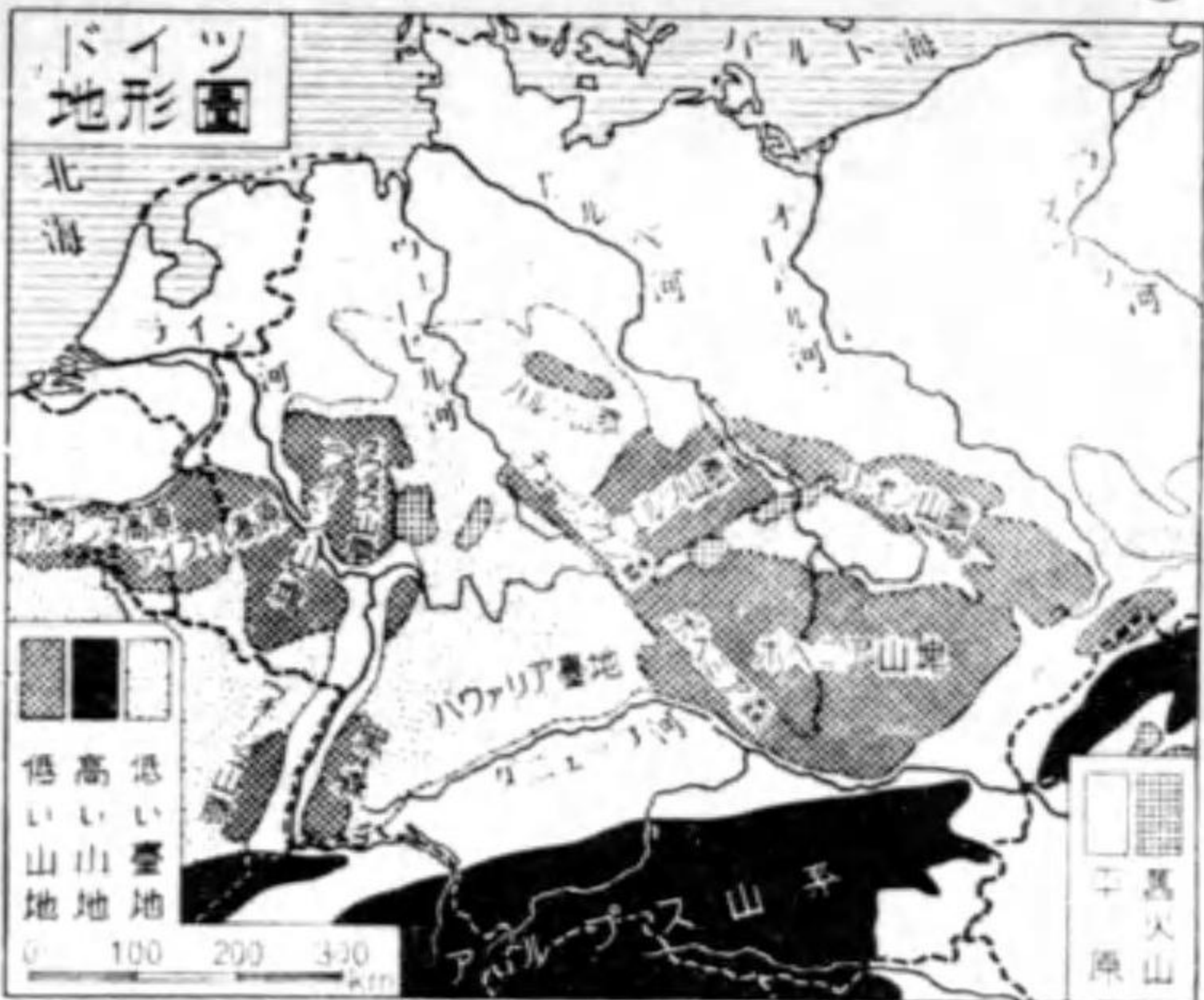
フランス大革命の時モットーとせられた自由・平等・友愛の精神は、百餘年後の第二十二世紀に至りフランスに非常な害毒を齎した。これはアンドレモローアの「フランス敗れたリ」を讀むまでもなく、現大戦前フランスに生起せる日常の出来事は悉くこれを裏書きしてゐた。自由を尙ぶ結果は政治上無数の黨派と共產主義とを許容し、内閣は猫の眼の如く更り一定の國策なく、社會上には産兒の自由制限が横行して人口を危殆に瀕せしめた。平等を主張するために産業上には平等の保護主義が用ゐられ反つてこれを萎縮せしめた。また友愛は戀愛や享樂に變形して國家を精神的に麻痺せしめた。

フランスはその面積五十五萬方呎であるが人口は四千二百萬に過ぎず、英國に比すれば密度は遙かに稀薄である。これはフランスが英國とは反對に古來重農主義によつて農業を主産業とせるためであつて、國土の六割二分までが農耕地で農民は全人口の五割以上に及んでゐる。従つて國民の食料もほぼ自給するに足り、獨・英等の工業國に比し全く農本國的色彩を帯びしめる。また有利な農産たる葡萄・オレンジ・柑橘等を栽培してその生活も富裕であつた。工業は北東部に鐵・石炭を産することによりリール方面にかなり發達したが、本質的には重工業よりも寧ろ化粧品工業等に重きが置かれてゐた。

以上の諸事情の下にフランス人は近時過激的に墮し、過去に於て先人の努力により得た大植民地も敢て開發に努力せず、唯搾取の目的物に過ぎなかつた。尤もフランスの植民地はその領土の廣き割合にはアフリカの植民地の如く不毛の地が多く、最も有望なるは佛領インド支那のみである。今やこの地方は最近我が國の勸説に應じ、東亞共榮圏の一郭となつたことは兩國のため慶賀すべきことである。

現歐洲大戦とフランス

第一次世界大戦に敗れたドイツは雌伏二十年、再び立ち上つてその宿敵フランスを攻略した。前大戦後フランスはドイツ國境に所謂マジノ線の要塞を築きその國防を誇つてゐたが、ドイツもまたシークフリッド線を作つてこれに對應し、その何れが強固なるかは世界の謎であつた。一九三九年獨・佛開戦するやドイツは對佛戰線に暫く満を持して動かす、翌四〇年五月驟然攻撃を開始するや、忽ちにして中立國にして防禦力薄弱なるオランダ・ベルギーを攻略し、これよりフランスに攻入りフランダーズの殲滅戦となりて佛・英・白三軍を粉碎し、他方マジノ線に迫つた獨軍もその北部を突破しかくして獨軍は遂にパリに入城したのである。その後フランスはその北半をドイツの占領に委し、ドイツと講和して新國都をヴァイシーに置きドイツと協力して今日に至つてゐる。



ドイツの地形と産業

ドイツは三千年來この地方に住んでゐるドイツ民族の本據である。地形は大別すれば二となり、即ち北の平原ドイツと南の高地ドイツである。北ドイツは土地平坦であるから生産上有利の筈であるが、この地方には有史以前北方から來つた氷河の齧せる砂石が堆積し、地味を瘠薄ならしめてゐる。南部の山地にも幾多の小山脈と溪谷とがあり、森林は繁茂するも農耕地は乏しい。嘗てローマの歴史家タキツスは當時のドイツの状態を記して人類の住むに耐へざる悪土としてゐた。ドイツ人はこの不良の自然と戦ひ二千餘年間奮々としてその国土の改良をなし、今日のドイツを築き上げたものである。この挽まざる努力が即ち所謂ドイツ精神であつて、この不屈不撓のドイツ精神こそ科學を進歩せしめ、カントの哲學・ゲーテの文學・ベートーヴェンの音樂を生んだ原動力である。

右の次第でドイツの自然的環境は農・牧業の天然産業には不向であるが、幸にも近代工業に必要な鐵と石炭とを産するのでこれにより諸種の重工業を興し、また世界第一の加里鹽産地を有するからその生産を契機とする化學工業の發達を促した。而してドイツは久しく多くの聯邦に分れてゐたため各聯邦に獨自の工業が興り、國內到る所に各種の工業が分布してゐる。中には工業立地學からいへば不適當と考へられてゐた工業もあるが、兎に角これ等工業の大發展は即ち今日の強國ドイツの基礎となつた。

なほ第一次世界大戰までの獨領であり再び今次の大戦でドイツに奪還された舊ポーランドは平原で農業を主とするが、その西南部に石炭と油田とがありまた岩鹽を埋藏し、今日はドイツの物資供給地となつてゐる。

ドイツの人口とその構成

第一次世界大戰前約六千萬を算したドイツの人口は大戰によりその領土を縮小せられしに拘らず、人口は増加し現大戰前は六千九百萬を數へた。これは一面にはドイツ人の活動力の大なるを示すと共に、他面ドイツが領土の擴張を痛感する最大原因ともなつた。而して最近の人口はこのドイツ本國のほか一九三八年併合せられたオーストリア、翌三九年回收したズデーテンの人口約一千万を加へると一九三九年のドイツ總人口は約八千萬となつてゐる。これ等は何れも純ドイツ民族である。更に現大戰となるやポーランドやバルカン及びソ聯西部の住民約五千萬の人口を加へ、かくして現在その治下のドイツ全人口は一億三千万を越えてゐる。この人的資源は英米ヤソ聯邦と雌雄を決するに於いての一大要素といはねばならぬ。

ドイツ本國人口の職業的構成を観ると、第一次大戰前と一九三九年とを比較すると農・林業の人口は著しく減じ、工業者は三割一分から四割一分に増加してゐる。これはドイツ工業の進歩を物語ると共に軍需工業の躍進をも暗示してゐる。

| ドイツ人の職業構成 (1939年) | | ドイツの人口 (1940年) (總數1億) | |
|-------------------|-------|-----------------------|-------|
| 工業 | 41.1% | 本國 | 69.5% |
| 農林業 | 17.6% | ポーランド | 20.6% |
| 商業 | 16.1% | オーストリア | 6.9% |
| 官吏 | 10.0% | | |
| 家事 其他 | 15.2% | | |



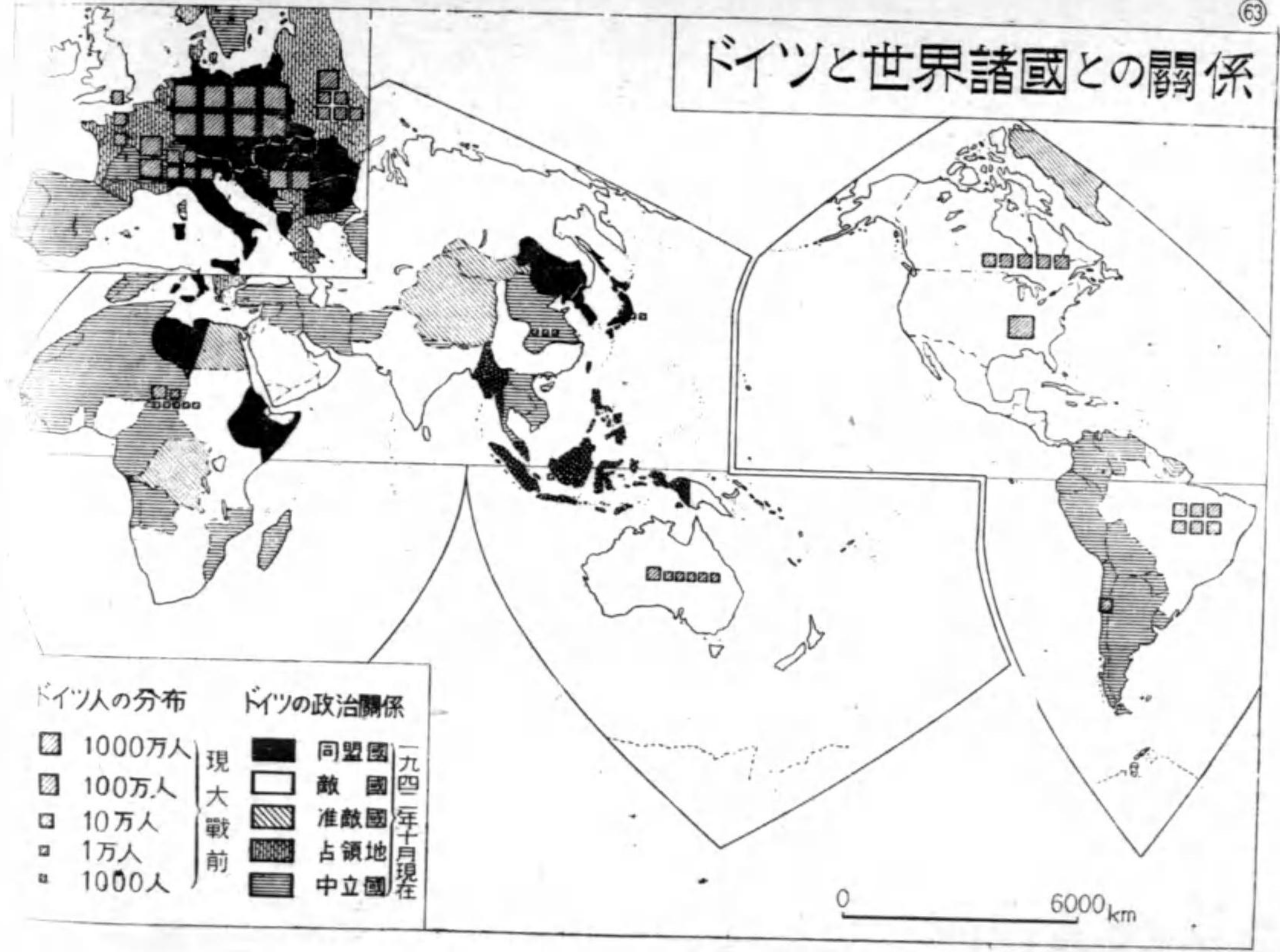
「ドイツチュランド・ユーバー・アルレス」(ドイツは凡ての上に)は久しい間ドイツ人の理想である。この逞しい民族精神はドイツを今日の大國家に發展せしめたのであるが、如何せん上述の如く立上りが遅かつたので、その國力は他の歐米列強に比し遜色があつた。併し功を急いだ結果第一次の世界大戰に於て一敗地に塗れ、海外領土を喪失し本國も縮小せられた。爾來ドイツ人は臥薪嘗膽一九三三年ナチス黨がヒットラーの下に政權を掌握するや直ちに強大なる軍備を進め、他方ヒットラーの天才的外交・軍略と相俟つてその領土を擴張し、一九三九年現大戰によりイタリイと同盟して殆ど歐洲大陸諸國をその支配下に收めた。現在歐洲に於けるドイツの敵國は英國とソ聯邦のみで、中立國はスウェーデン・スイス・スペイン・ポルトガルに過ぎない。

歐洲以外に於ては英國及びオランダ・ソ聯邦の領土を除き大東亞戰爭勃發以前までは多くはドイツに對し中立國であつたが、米國は大東亞戰爭開始後ドイツの宣戰により敵國となり、西アジアの諸國は英・ソ兩國に攻略せられてまた事實上敵國となり、南米諸國も米國のドル外交により漸次敵性を帯びつゝある。併し今大戰の結果ドイツは必ずや勝利を得、我が國の大東亞新秩序建設と呼應して世界の新秩序の上に貢獻するであらう。

ドイツ領土の變遷と世界的關係

グリムの童話に屢々示された如くドイツ人の祖先は森の住民であつた。耶蘇紀元初期にはなほ未開の域を脱しなかつたが、第十二・三世紀に於ける歐洲の科學復興期には既にその先頭に立ち、コロンブスの新大陸發見も實はその頃のドイツ人ベ・ハイムに負ふ所が大であつた。併し發見時代には他の西歐諸國の如き大洋上の活動を缺きしたため、海外に領土を獲得せずまた本國は周圍諸國の壓力により多くの小國に分裂して統一せず、従つて國力の發展が阻げられた。映畫「勝利の歴史」の劈頭にあるドイツ人の慷慨はこのことをいつたものである。一八七〇年ドイツがフランスに克ち國家の統一が成り漸くその力を海外に伸ばし得るに至つたが、この時世界は既に英・佛・米等によりて分割せられ、ドイツは僅かに残されたアフリカの不生産地を入手し得たに過ぎなかつた。而かも他方にはドイツの人口は増加して止まなかつたので、彼等は勢ひ他國に移住を餘儀なくせられ、一八二〇年乃至一九三〇年間にドイツの國外移住者は六百五十萬の多きに及んだ。而してこれ等の大部分は英・佛人が自國領土内に移住せしと異り、他の歐・米諸國への竄入に過ぎなかつたので、ドイツ人の煩悶は想像に餘りがあつた。それにも拘らずドイツ人の足跡は世界到る所に印せられ、ドイツの世界發展の礎石となつてゐる。殊に南・北米に於けるドイツ人等は夙に海外在住ドイツ人團體を作つてその組織化に努めてゐた。

ドイツ人とその分布



これ等の國々は現大戰に當つて最も早くドイツの支配下に入り、その歐洲新秩序建設に協力することゝなつた小國家群である。

スカンチナヴィア半島はノルウェー・スウェーデン兩國に分れる。ノルウェーは北緯七十度以上にまで領土が延長するから歐洲でも最も寒冷な地方に屬するが、事實はメキシコ灣流の末端がこの西海岸を洗ふため溫和で不凍港がある。西岸はまた水河の作用による大小無数の峽灣が錯綜し、山岳は直ちに海に迫るので陸上で十分の農業は行ひ得ず、住民は漁業と海運とを主要生業となし、海運は商船の噸數四百八十萬噸、世界第四位であつた。

スウェーデンはノルウェーに比較すれば平地に恵まれ農耕地も多いが、氣候寒冷に過ぎ農業よりは牧畜が盛である。また寒帯林が繁茂し世界有数のバルブ供給地である。北方のグヅヴァールは有名な鐵鑛産地で、ノルウェーのナルヴィクはその輸出港である。

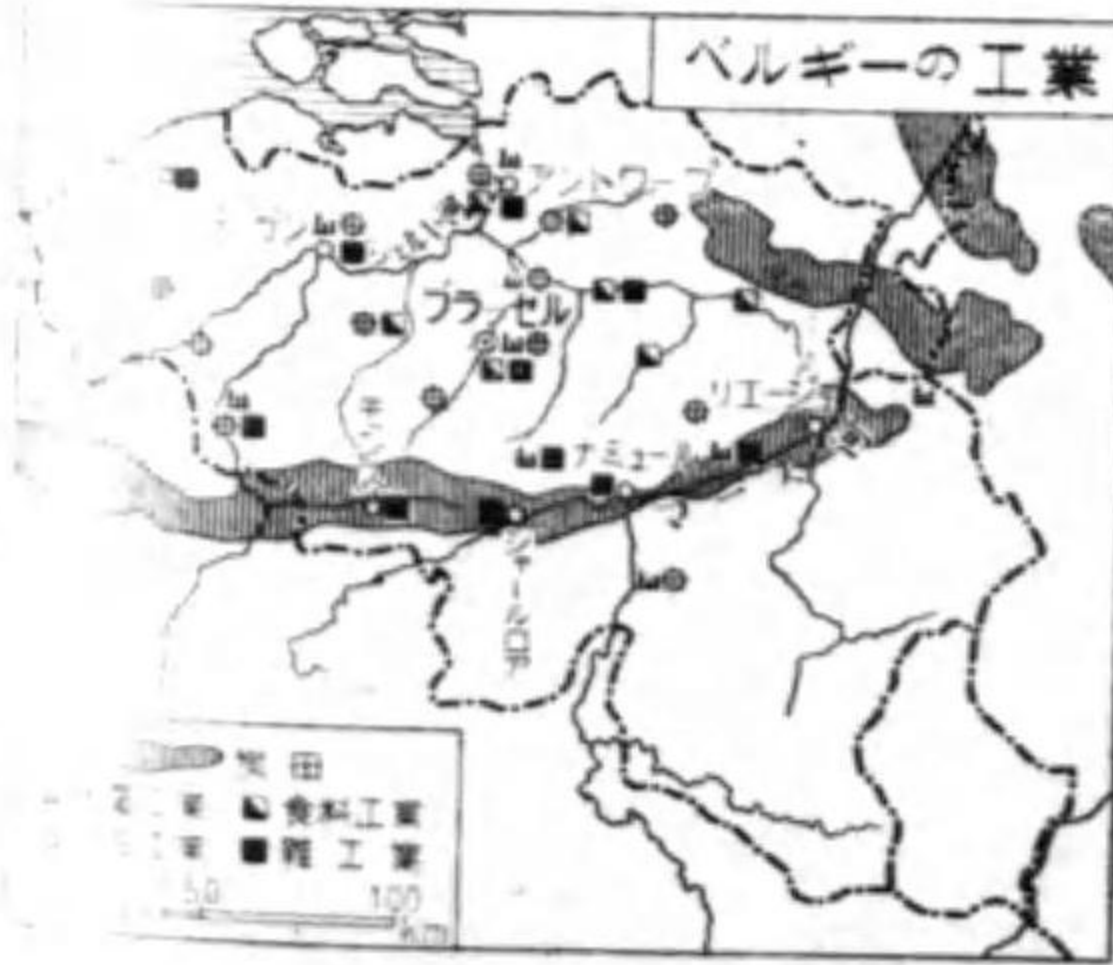
デンマークはユトランド半島の大部分を占め地形極めて平坦で、氣候も良好であるため農業・牧畜は盛であり、殊に民族の勤勉なことゝ相俟つて模範農業國と呼ばれ、また歐洲有数の食料資源供給地である。輸出高の八割はこれ等食料品である。デンマークはアイスランドを支配し共同の國王を戴いてゐたが、一九四一年米國軍の進駐により今やその主權は中止せられてゐる。

オランダは本来「低地」を意味し、國土の大部分はライン・マース二河のデルタ上にあるり、海面以下の土地が多くこれを干拓してポルダーを作り農牧を行つてゐる。人口は僅か八百萬に過ぎぬが最近まで本國に六十倍する領地を有し、富裕な生活を楽しんでゐた。

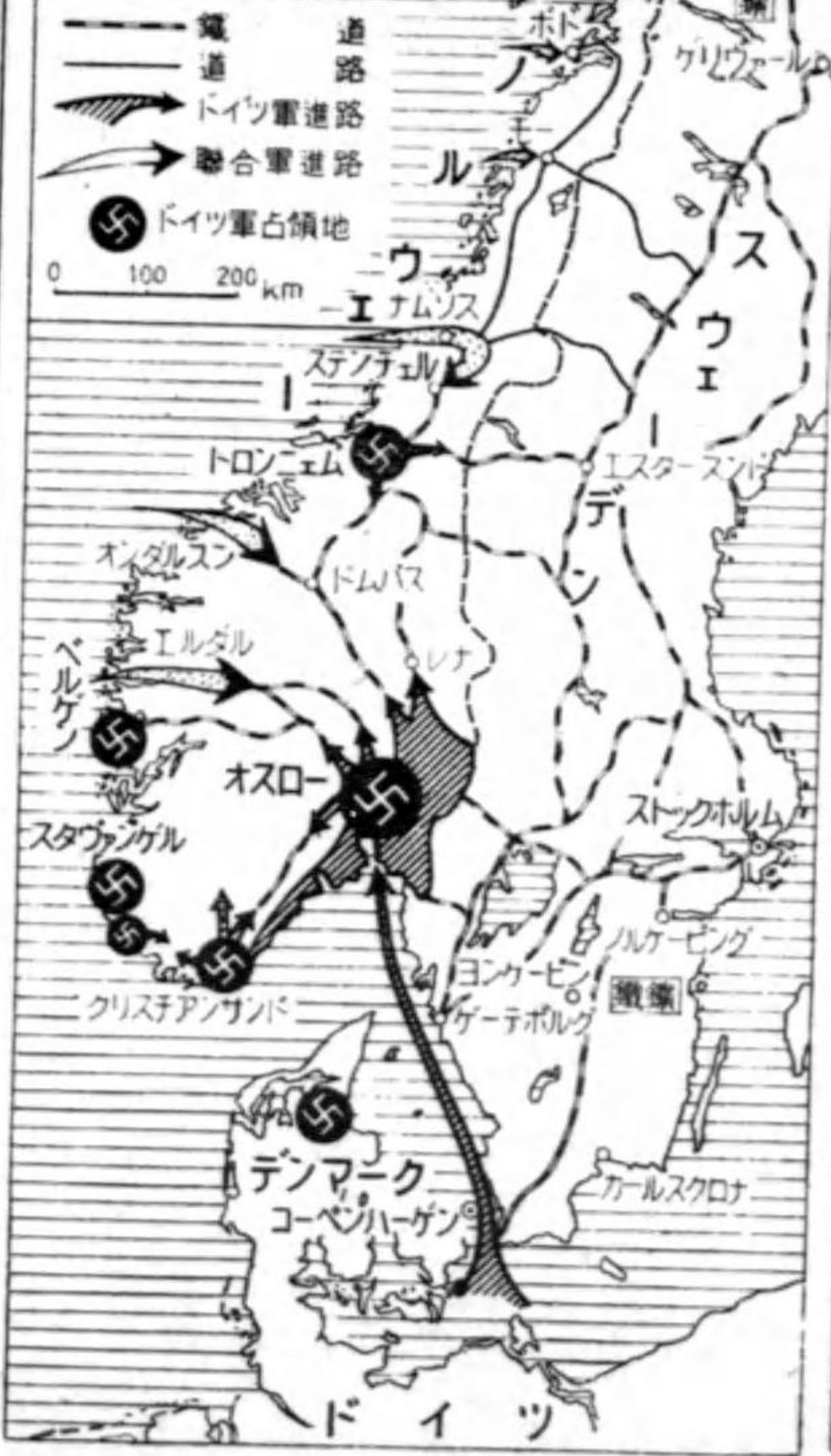
ベルギーはもとオランダから分離した小國で人口密度は世界第一位にある。これは工業の盛なるとアフリカに廣大な領土を有して住民の生活が裕かであるためであつた。

現大戰に於てこれ等諸國に對しドイツは先づ攻略の手を伸し、一九四〇年五月所謂電撃作戰によりデンマーク・ノルウェーに突入し、この二國を支配下に置いた。英國はノルウェーを奪取せんとして各地に侵入し殊に主力をナルヴィクに集中したが、獨軍の反撃に遭ひ遂にその企圖を放棄した。その翌五月行はれた所謂西部戦線に於てはオランダは水攻軍略を以てドイツを防がんとしたが、ドイツは落下傘部隊を降下せしめて全土を占領した。これに對しベルギーは初め英・佛と結んで聯合軍を組織しドイツに當つたが、獨軍は電撃作戰を續けてベルギー各地を占有したので、ベルギーは全くドイツの軍門に降つた。而してその結果はフランスの英・佛大滅亡となつたのである。

スカンチナヴィア諸國・オランダ・ベルギー



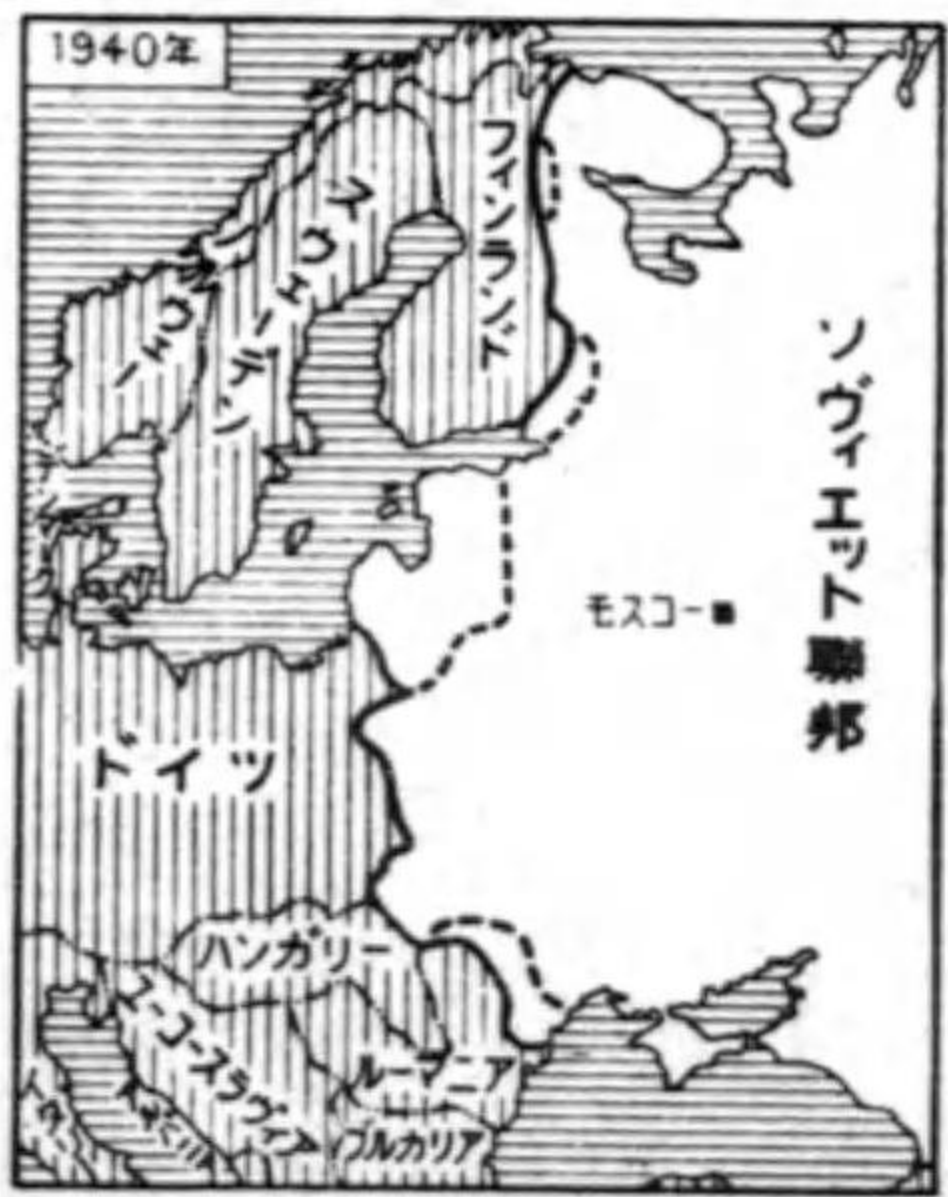
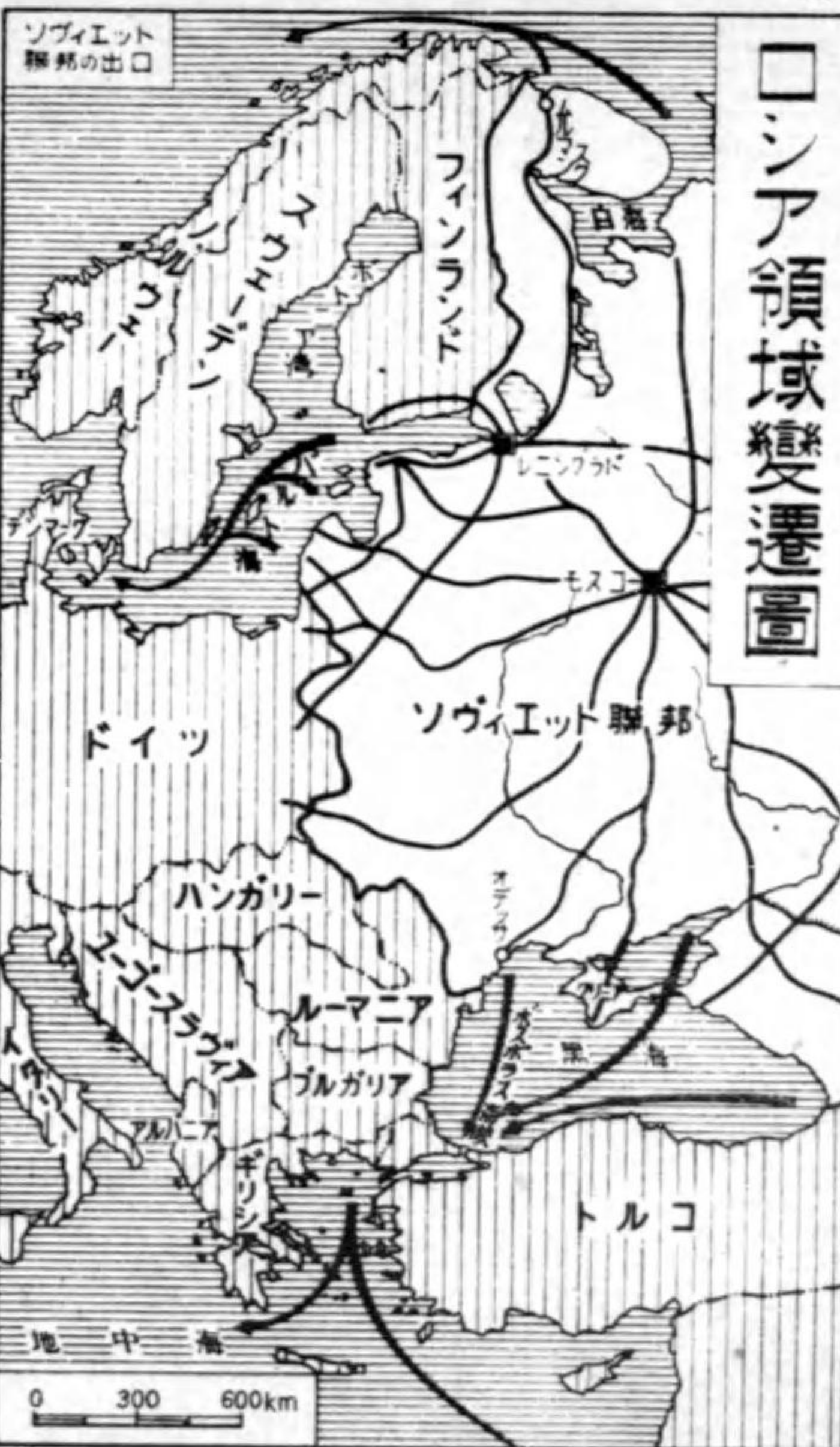
現大戰ドイツ北歐攻略戰圖



スカンチナヴィア半島主要農産地域圖



ロシア領域變遷圖



ロシア領域の變遷と海への出口

ロシアは帝政時代殊にペテル大帝以來帝國主義により領土の擴張に専念し、日露戦役もその結果の一つであつた。一九一四年勃發せし世界大戰に於てロシアは敗れ、一九一七年帝政が亡びソ連邦が生れたが、この時國力の衰頽に乗じ同年より翌年にかけて、そのロシア領土内にはフィンランド・ラトヴィア・エストニア・ポーランド・リトアニア等の諸國が獨立し、一九一八年ベツサラビアはルーマニアの奪ふ所となり領域は非常に縮小した。併し東方には外蒙古や新疆への事實的占據が着々と進行してゐた。一九三九年現大戰勃發するやソ連邦は先づドイツと約してポーランドの東半を攻略し、翌四〇年にはフィンランドと戦つて小地域を獲得し、續いて兵をバルト三國に進駐せしめてこれを併合し、ルーマニアよりベツサラビア・北ブコヴィナを奪還し、再び傳統的の侵略的本質を露呈するに至つた。

このロシアの領土侵略を裏付けるものは海洋への進出慾である。これは地政學的にも興味ある問題で、内陸國が如何に海への出口を求め、これに伴ひ侵略が行はれるかをロシアは最もよく示してゐる。ロシアが海への關心は第九世紀ノヴゴロドに都せしルーリツクに始まるといふが、實際の活動をなしたのはツァールの稱號を初めて用ひたイヴァン四世(第十五世紀)である。彼は先づバルト海にその出口を求めたが失敗したので、ペテル大帝は一七〇三年首都ペテルブルグを建設しこれにより「西方への意」を開けることに成功し、また南方にもアゾフ海に出口を得た。その後更に黒海よりの出口を求めんとして、屢々トルコと戦つたが、終にボスポラス海峡を突破して地中海に出ることが出来なかつた。他方北大西洋に進出せんとする努力も行はれ、現世紀の初頭ナルヴィク港を奪はんとしてノルウェーを脅したが、これは失敗に終つた。唯第一次世界大戰中ムルマンスク鐵道を作りこれにより北氷洋への出口を得、今次の大戰に於てもやゝ利用されてゐる。

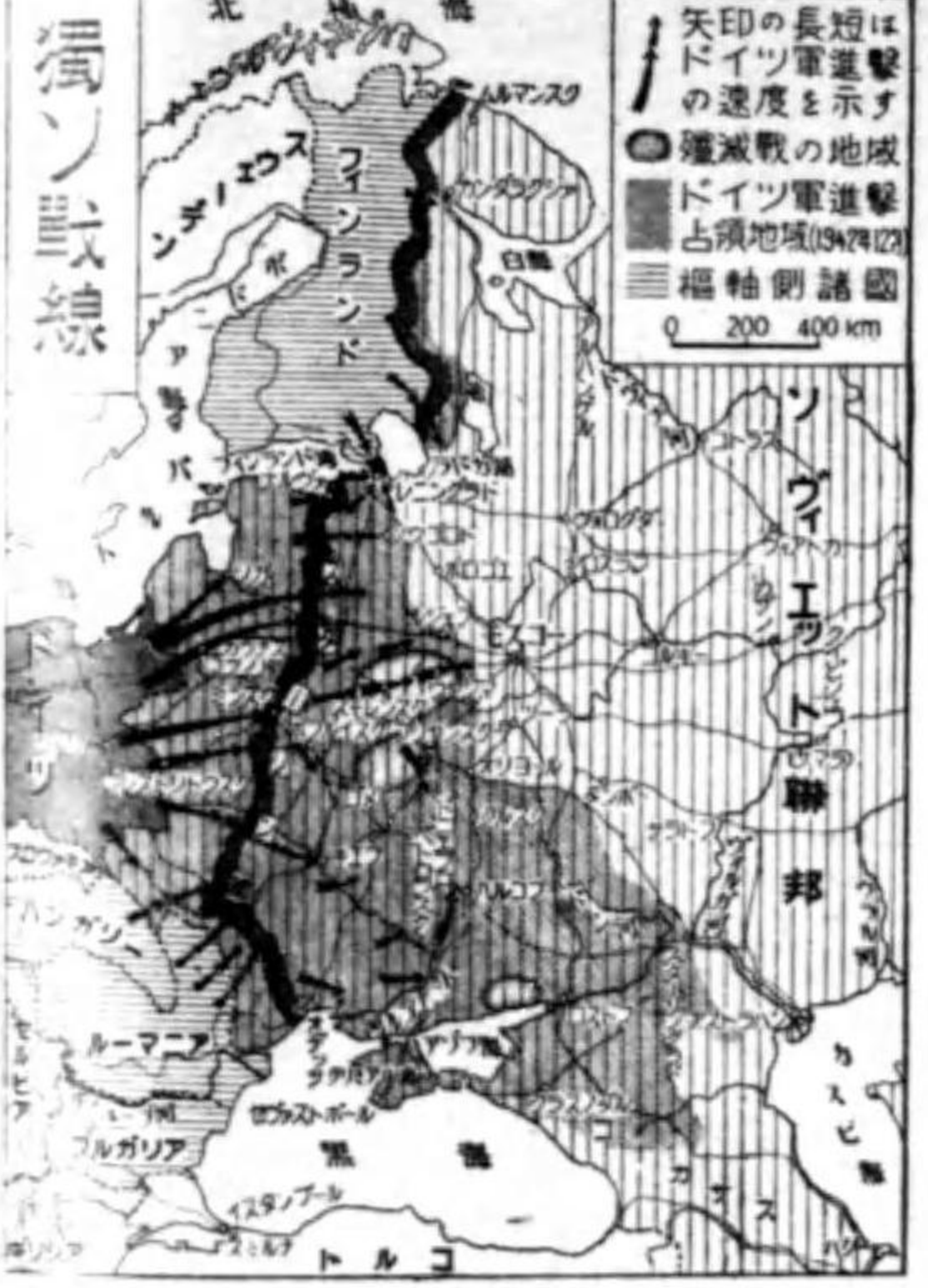
この西方への出口に對し東方の太平洋に出でんとする努力も第十九世紀中頃より始り、一八五一年には黒龍江口に出で、一八六〇年にはウラヂオストツクに到つてこれを「東の守り」とした。併しこゝは凍結するために更に朝鮮を窺ひ一八九八年に旅順を得て初めて東方に不凍港を所有し得たが、日露戦争によりその計畫が全く挫折した。このほかロシアは第十九世紀末からトランスカスピ地方よりペルシア灣に出でんと試みたるも、これは英國によつて阻止された。最近再びこの方面に進出してゐる。

ロシアは今やドイツと乾坤一擲の勝負を決しつゝある。若しロシアが敗れたならば、典型的侵略を以て構成された危大なその領土は果して如何なる變化を見せるであらうか。

ヨーロッパロシア政治区劃圖



ロシアの鉄工業



ヨーロッパロシアの政治区劃

ソ聯邦の現在の政治組織は一九三八年に制定せられた所謂スターリン憲法を根幹とする。聯邦は全國十一の共和国より成り、その下に自治共和国・地方・州等の小行政区がある。聯邦共和国中歐洲のものはロシア社會主義共和国とウクライナ及び白ロシアの三國である。他はアジアに屬する。このほか一九四〇年來ソ聯邦が併合した諸地方に五つの共和国を作つたが、これ等は獨・ソ戦により忽ちにして潰滅し、ドイツ・フィンランドの手に歸した

ヨーロッパロシアの産業

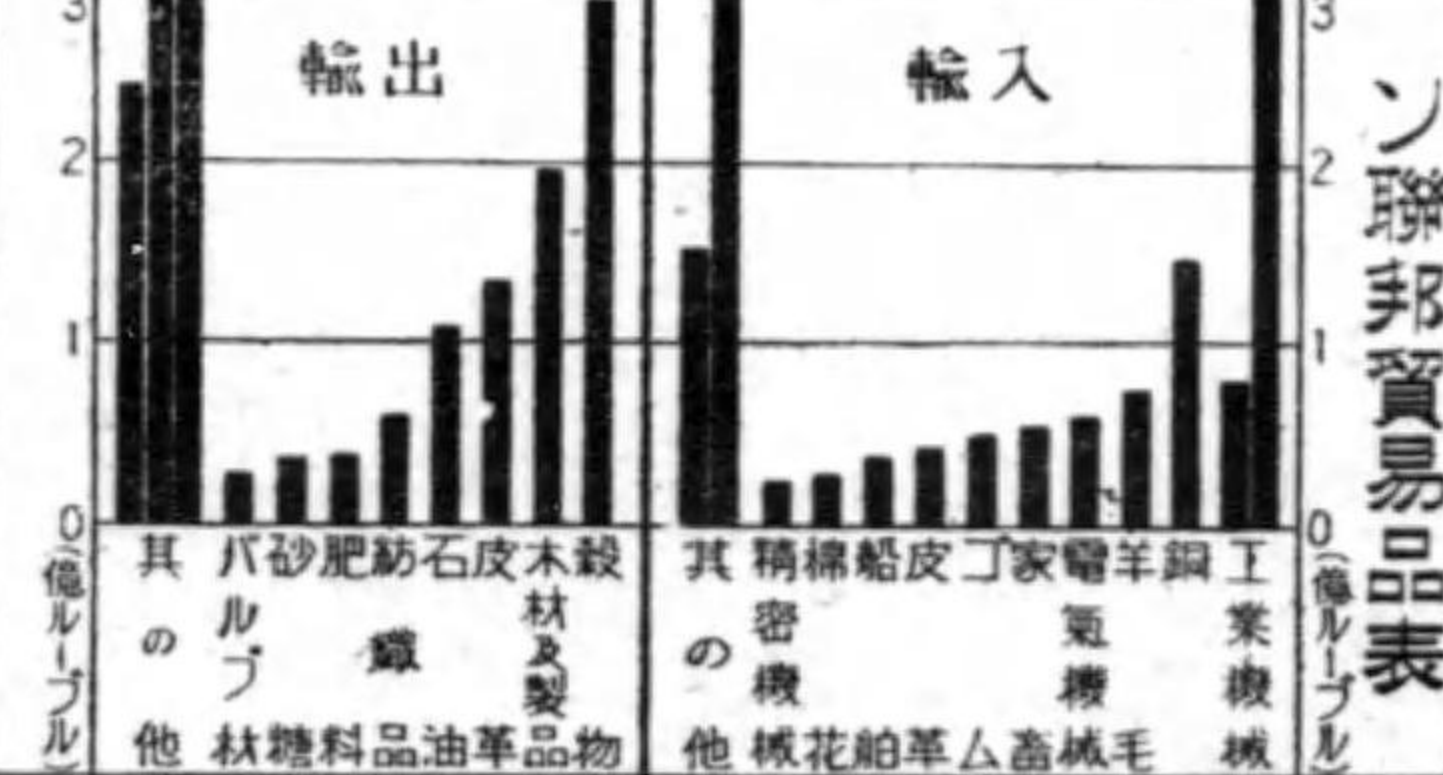
農業國として知られたソ聯邦は近時工業國に變りつゝある。第一次世界大戦前の一九一三年ロシアの生産物價額中天産物は五割八分、工業品は四割二分であつたが、一九三四年には後者が七割八分、前者が二割二分となつた。この點我が國とや、趣を同じくしてゐる。併しこのことはロシアの農・牧業等が退歩したのではなく工業の躍進したためであつて、農業は五ヶ年計畫の實施により農法の改良とコルホーズ・ソホーズ等の組織とを通じ農産物の産額は増加してゐる。

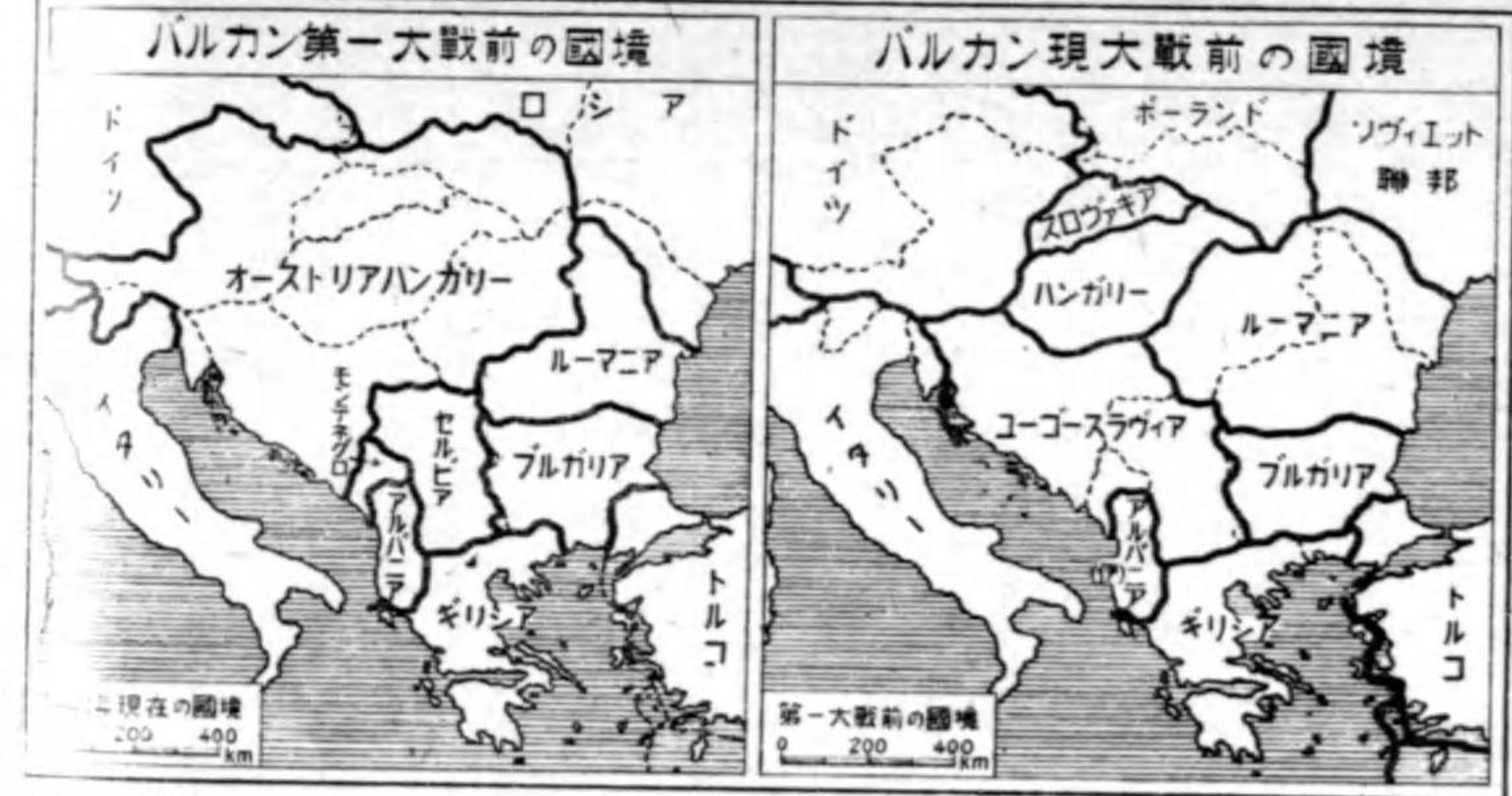
農産物では小麦・大麦・ライ麥・亞麻・大麻は何れも世界第一位、馬鈴薯は第二位、棉花は第三位である。次に鐵業を觀るに石油・石炭・鐵・マンガンはソ聯邦の四大産物であつて、石油はアジア部のコーカサスのバクトとヨーロッパ部のグロズヌイの二大中心があり、ソ聯全産油の九割はこゝで占める。石炭は南ロシアのドネツ炭田（埋藏量六百八十億噸）を最大のものとす。鐵鑛はウクライナのクリヅォイログを中心にして全國の四分の三を出し、これに次ぐのはウラル山中のマグニトゴロスクである。併しこれ等物産の中麥類の三割甜菜の八割石炭・鐵の約六割石油の大部が此度の戦争で失はれた。

ソ聯は近年諸種の産業五ヶ年計畫を建て重工業を國內の工業化に置き所々に所謂コンビナートと稱せられる綜合大工業地帯の建設をしてゐる。そのうち歐露に屬するものはドンバース工業地帯で、ドネツの石炭、クリミア半島の鐵、ドニエプログスの巨大な水力發電所に據り、ドネツを中心とするものでソ聯最大の重工業地帯であるが、これは最近ドイツの手に歸した。他は歐・亞に跨るウラルクズバース工業地帯・トランスコーカサス工業地帯である。併しこれ等の工業は未だ國內の必要に應ずるだけであつて、貿易上から觀ればソ聯邦は依然として農産輸出・工業輸入國である。

獨・ソ戦争

一九四一年六月突如として始つた獨・ソ戦争は開戦後一ヶ月にしてドイツは舊ポーランドやバルト三國を席巻し、舊ロシア國境に設けられたスターリン線を突破したが、それより頑強なるソ聯軍の抵抗により獨軍の進勢が鈍つた。併し年末にはキエフ、オデッサを抜き、レニングラド及びモスコに迫つた。一九四二年には更に南部及びコーカサス地方に進出したが、最近は稍西に後退してゐる。





バルカン半島

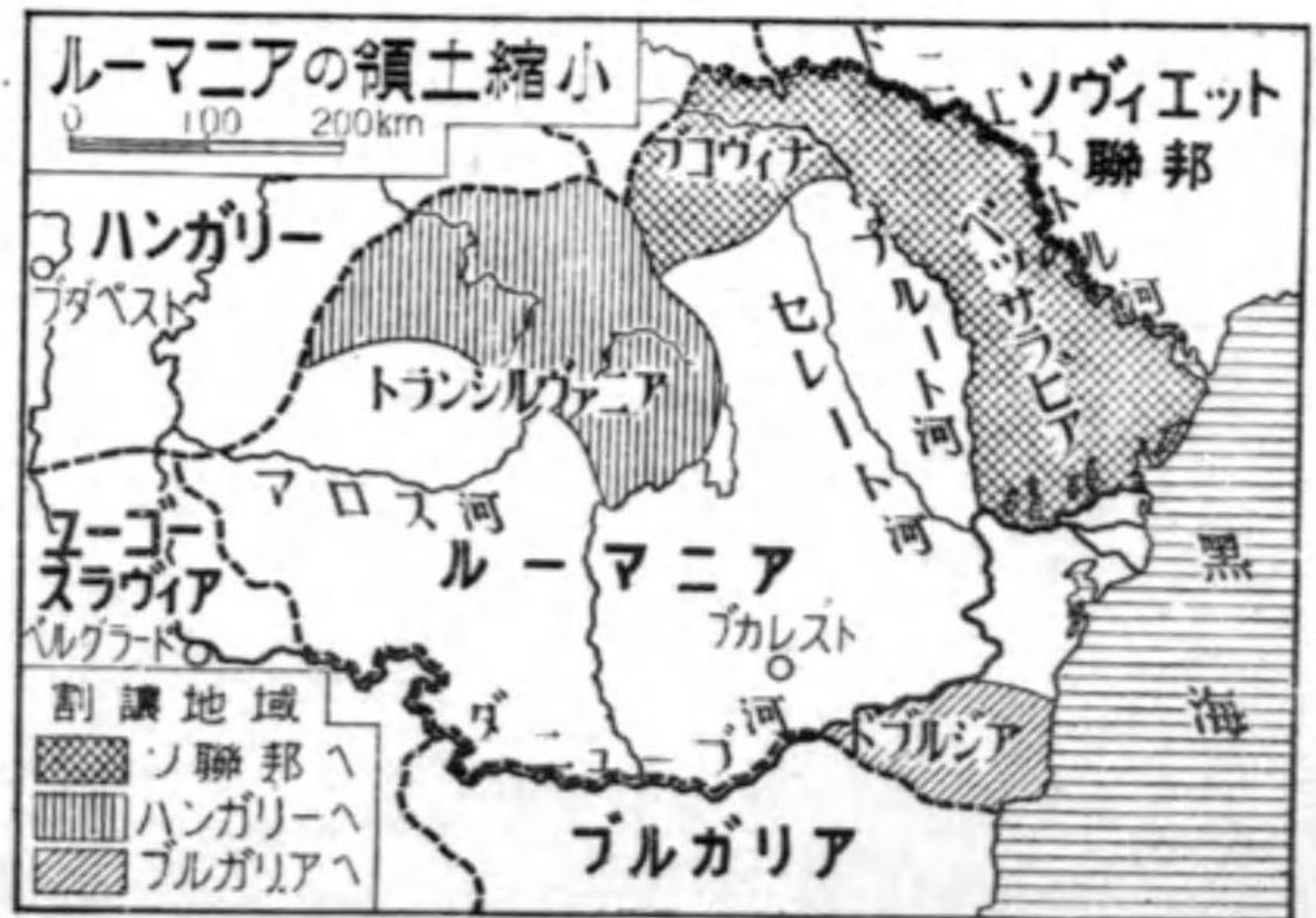
バルカン半島は永らく歐洲の火薬庫と呼ばれ、その複雑な政情は他に餘り類を見ぬものである。この現象は主としてバルカンの位置・地形とその民族分布の特色から來てゐる。バルカン半島はアドリア海と地中海と黒海とに挟まれ、換言すればアジア・アフリカ・歐洲三大陸の陸橋をなしてゐる。複雑な歴史の第一の自然的基礎はこの點にある。而かも周圍を獨・伊・ソ聯邦の三強國に接してゐるから、自らその勢力線の交錯場たらざるを得ない。更にこの半島の地形は頗る起伏に富み、アドリア海に面してチナルアルプス山系、北方にはカルパチア山系、南方にはバルカン山脈が連り、これ等の諸山脈の間をダニユール河その他が流れ、所々に幾多の盆地平野をつくつてゐる。この地形は小國家の存立を可能ならしめるが統一的國家の發達には不適當である。而して半島は歐・亞の橋梁地帯であるため諸種の民族が入込み、その地形の複雑性を利用して各地に割據してゐるので、益々國家・民族の分立を來すのである。

第十九世紀の前半までバルカンの大部分はトルコの領土であつたが、トルコの衰微と共に北方はオーストリア・ハンガリーの蠶食する所となり、南部にはルーマニア・ブルガリア・セルビア等の諸國が興り、第一次世界大戰當時既に歐領トルコの大部分が失はれてゐた。大戰後バルカン半島にはルーマニア・ブルガリア・ギリシア・ユーゴスラヴィア・ハンガリー等が國を立てゝゐたが、現大戰によりてユーゴスラヴィアは滅びギリシアは潰え、新たにスロヴァニア・クロアチア・モンテネグロ・新アルバニア等の諸國が興つた。

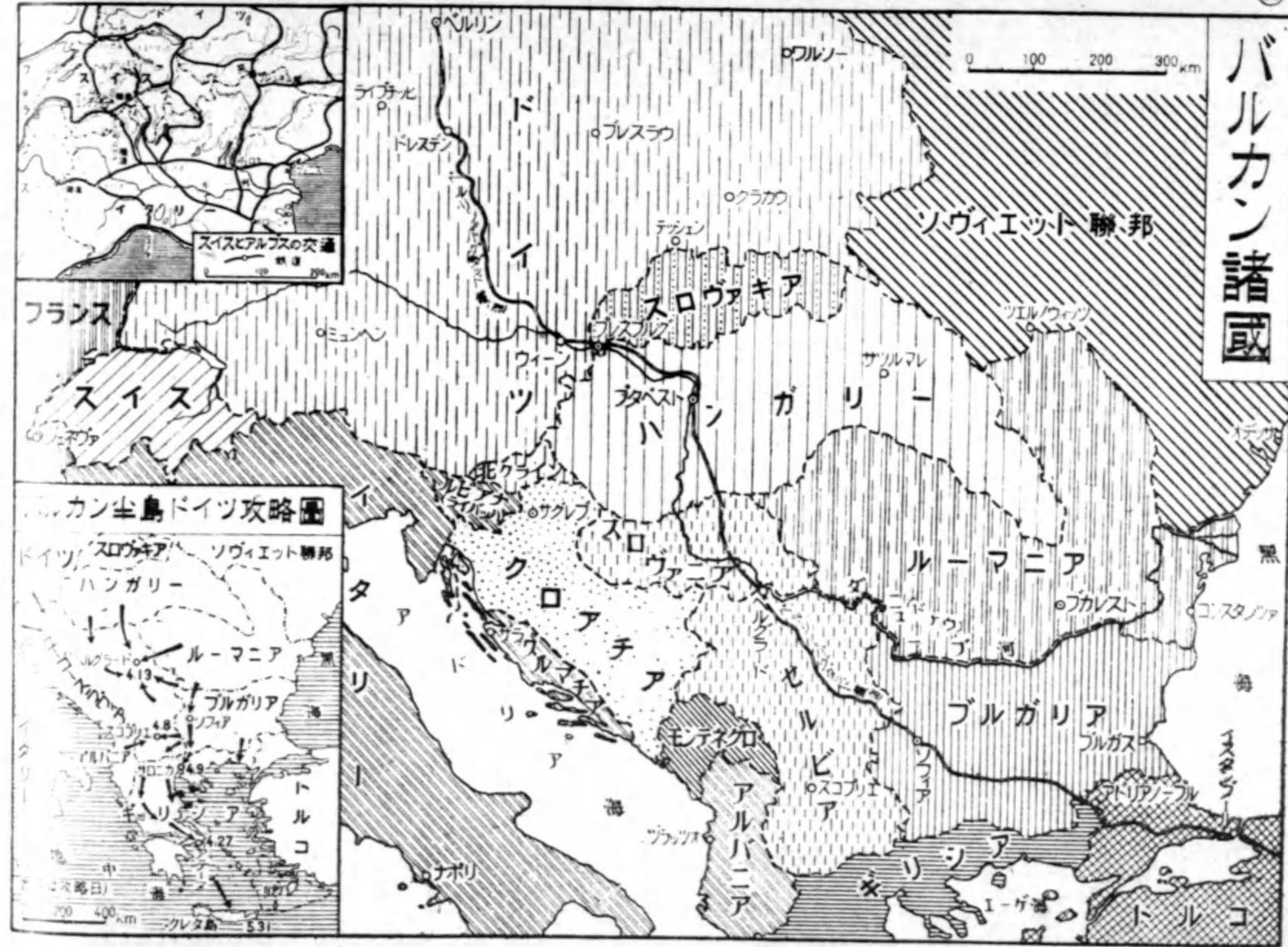
ルーマニア

バルカン諸國の中でルーマニアほど近來政治的に多事多難であつた國も少いであらう。この國は一八七七年トルコから獨立したものであるが、第一次大戰に際しては英・佛に味方したため、ヴェルサイユ體制ではソ聯邦からベッサラビアを奪取し、オーストリアからブコヴィナ、ハンガリーからトランシルヴァニアを獲得したことにより、面積は戦前の二倍人口は八百萬から一躍二千萬となつて、バルカンの大國となるに至つた。併しこの急激な膨脹は國內に數百萬のハンガリー人・ドイツ人・ユダヤ人等の異民族を持つこととなつたので、絶えず民族争闘に悩まされてゐた。現大戰勃發するやルーマニアは逸早く親獨陣營に投じ自己保存を圖つたが、近隣諸國に對し領土の返還若くは割讓を餘儀なくせられ、再び第一次大戰前の状態に逆轉するに至つた。ルーマニアはバルカン諸國の中最も自然に恵まれ、全土の半は平野で玉蜀黍・小麦を産し、石油はこの國の一大資源で中部歐洲唯一の大量生産地であり世界第六位にある。そのほか石炭・ボーキサイトも出る。

ルーマニアは今や樞軸國の一員として再び獨軍の對ソ聯戦に参加し、ベッサラビアを奪回し更に南路に兵を進めてゐる。



バルカン諸國



バルカン諸國

バルカン諸國はルーマニアのほかその南にはブルガリアがあり、この國は今世紀の初頭トルコから獨立したもので、第一次世界戦争には同盟側に立つて敗れその領地を縮小したが、今次の戦に於て再びドイツに味方し、その支持の下に南ドブルジャ地方をルーマニアより獲得した。この國は農・牧を主とし若干の石炭を産する。

ルーマニアの西に接するアジア人の國ハンガリーは遠く一〇〇一年來の獨立國である。ヨーロッパ人種の中に取殘されたこの人種の島は久しく歐人に對抗した協調し、第一次世界大戰まではオーストリアと共に協同國を作つてゐた。戦役後もまた一國として残り今次の戦争には逸早く樞軸國に味方して、その結果ルーマニアよりトランシルヴァニア地方を回復し、今日は樞軸側の力強き一翼として戦つてゐる。そのブスタ平原は肥沃であつて良質の小麥を産したまた家畜も多く、鑛産としては世界第一のボーキサイトの産地である。ハンガリーの北に小國スロヴァキアがある。これは一九三八年ドイツに併合せられたチエコスロヴァキアの殘存物でドイツの保護國である。農産のほか見るべきものがない。

舊ユーゴスラヴィアはバルカンの中で最も衰れを止めた國である。第一次大戰後英・佛支援の下にセルビアを中心としてスラヴ族の住む四周の地方を合せてセルブ・クロアチア・スロヴェニア國を建て、人口千四百萬の鬱然たる大國となつたが、民族はその名の如く頗る雜多であつた。その後國號をユーゴスラヴィアと改め強力な軍備を誇つてゐた。今次大戰でドイツのバルカン進撃起るや、一時は樞軸に加はつたが英國の謀略に躍らされてドイツを裏切つたので、忽ち獨軍の蹂躪する所となり、遂に國土を喪失するの愚を敢てした。國土の五分の四は山岳地帯であるが、玉蜀黍・小麥・大麻等の農産があり、牧畜も盛で羊が多い。鑛物資源には金・銅等がある。

この國の瓦解以後その領土は分割せられ、最北端の北クライン地方は獨領となりその南にクロアチア國が起り、スロヴァニアが分立し南方のダルマチア海岸は南のアルバニアと共にイタリーの手に歸し、モンテネグロも獨立の姿となつた。舊セルビアは今なほ獨軍の支配下にある。

これ等のバルカン諸國の物情騒然たるに對し、文字通り高く超然たるは山岳國スイスである。國內には獨・佛・伊三民族が雜居してゐながらその獨立と中立を堅持し得る所以は、一に地形の保護によるものである。

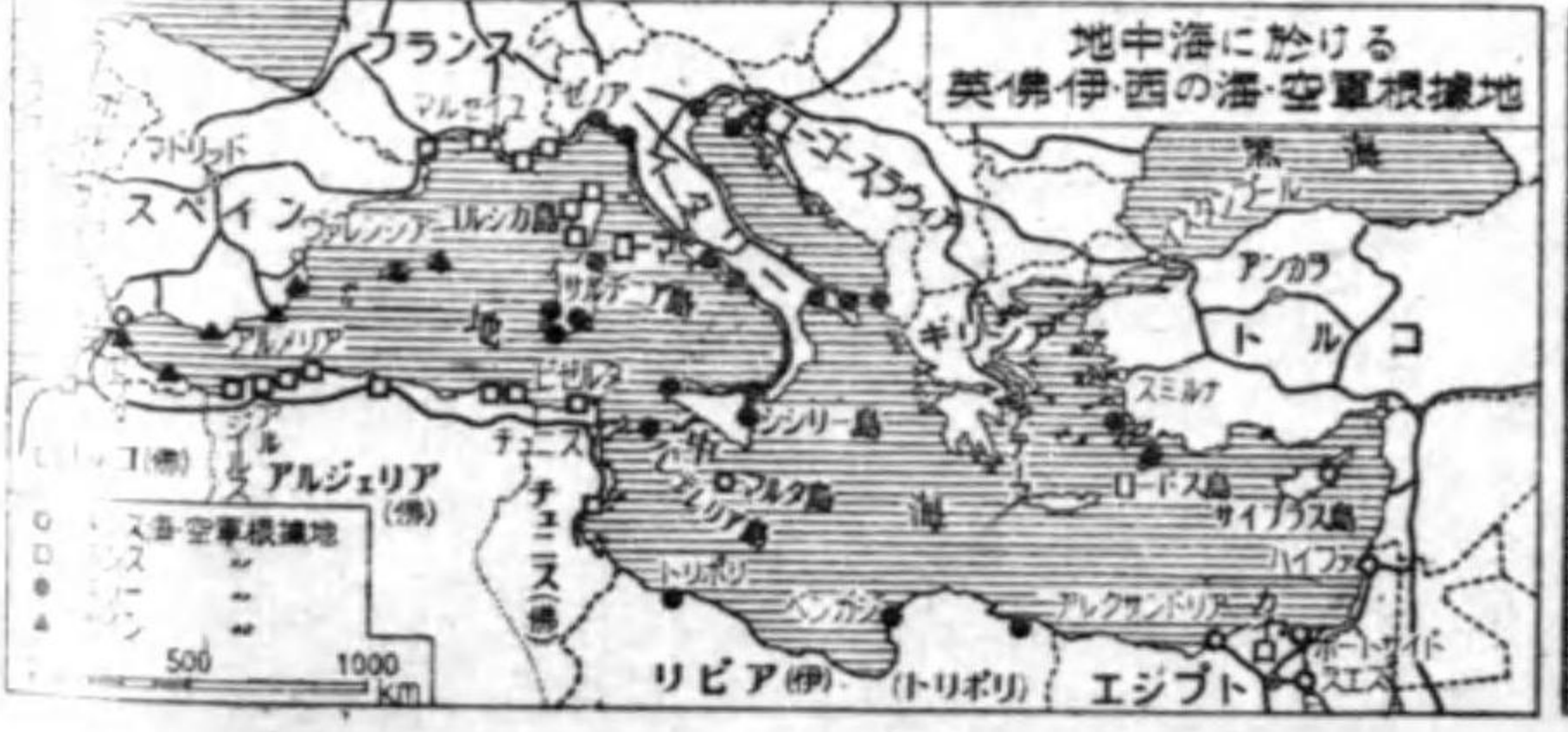
地中海と黒海とは**ダルダネルス及びボスポルス**の兩海峡によつて結ばれる。實にここは東歐と地中海の關門であつて世界の海峡中この海峡ほど重要性を持つものはない。この海峡の争奪は遠く古代ペルシア以來行はれ、ある意味に於てこの海峡は世界史の中心でもあつた。その後東ローマ帝國からトルコ帝國へとその所屬は變つても、ロシアは絶えず北方からここを狙ひ英・佛は南からこれを阻止した。この兩海峡はその幅頗る狭くダルダネルスは一・三軒、ボスポルスは〇・七軒に過ぎず、その軍事的價値は今更いふまでもない。第一次世界大戰に於て英・佛聯合艦隊は海峡の強行突破を企てて成らず、ガリポリ半島に上陸したがケマルパシャの反撃を蒙つて退却せざるを得なかつたことがよい證左である。トルコは今日再びここに堅固な防備を施してゐて列強は如何ともすることが出来ない。既述の如くトルコの持つ政治的重要性は唯この海峡を所有することのみに係るとさへいひ得るのである。

ダルダネルス・ボスポルス兩海峡

地中海は歴史的に觀て最初の「世界の海」であり「水夫の搖籃」である。フェニキア人はこの海の東端から出でて全地中海沿岸の貿易に従事し、世界最古の商業民族として發展した。ギリシア・ローマまた何れもこの海盆と結合し當時の世界に雄飛し、また世界文化の中心となつた。今日は大洋の交通が盛となり地中海の價値はやや減じたが、内海の有つ特性は失はれず、大洋間の通路としての役割は更に大きい。

内海は既述の如く各時代を通じ地政學的にはマール・ノストロ（我等の海）運動が行はれ、地中海につきては太古クレタ島がその前驅をなして地中海を支配し、ギリシアはエーゲ海の周圍に多くの根據地を作つてこれをその内海とした。而してローマ帝國は遂に全地中海をその勢力版圖とすることに成功した。近世に至り英・伊・佛等の國家が地中海に覇を企て英國はこの海を寶庫インドへの通路として西の關門ジブラルタルと東の關門スエズを抑へ、その間にマルタ島をも確保してゐる。フランスは南佛の海岸からアルジェリア・チュニス・モロッコ等のアフリカ對岸へ勢力を延ばしてゐた。イタリーはその進出がやや遅れたが、一九一一年對岸トリポリをトルコから一九二六年東部のキレナイカを埃及より奪ひ、兩者を併せて伊領リビアと呼んでゐる。スペインまたモロッコの一角を保つてゐる。これ等の諸國は最近に於ける海・空軍の發達により各々その適地に海・空軍の基地を設け、地中海岸はこれ等の基地により埋められてゐるといつても過言ではあるまい。今次大戰に於て獨・伊と英とはスエズ運河の争奪を目標としリビアに戦つてゐたが、一九四二年十一月米國は英國と謀つて地中海南岸の北阿に進攻し、アルジェリア・トリポリを攻略し、チュニスに於て樞軸軍と交戦してゐる。

地中海沿岸諸國

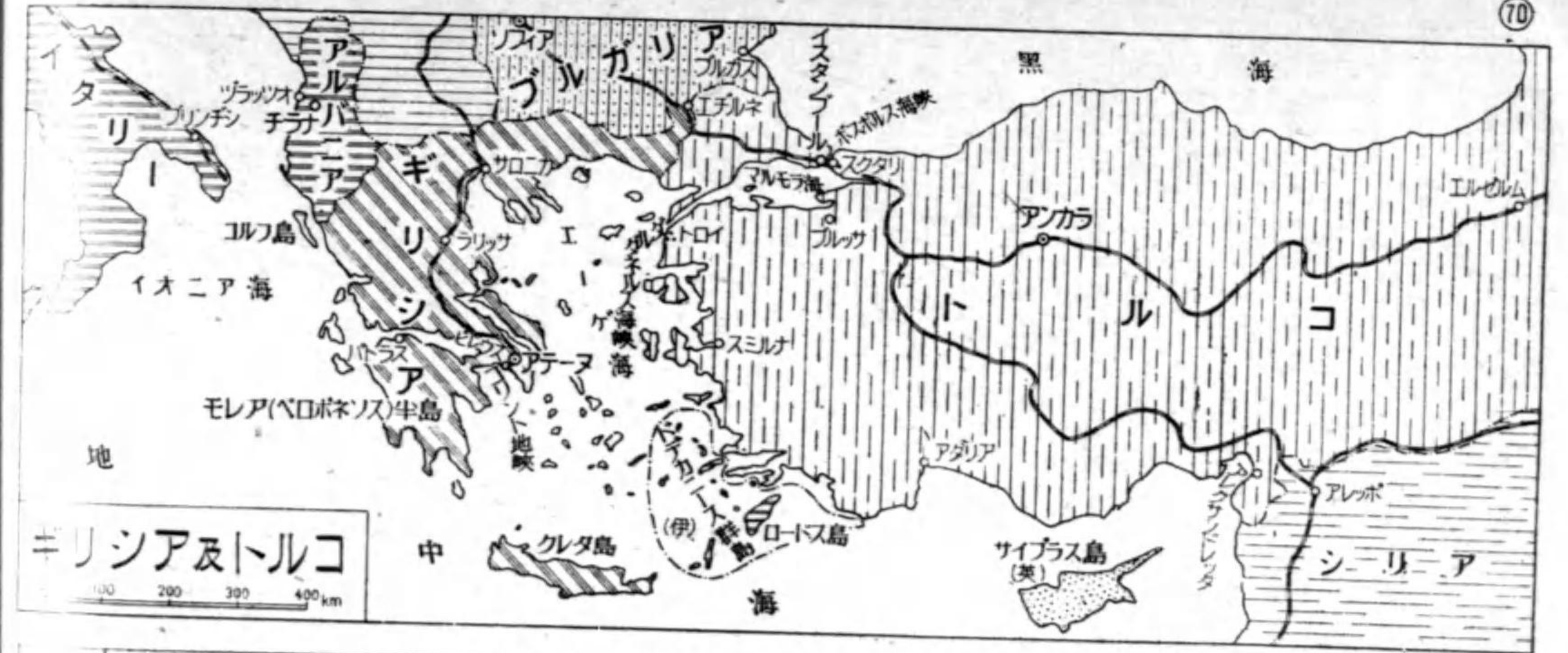


今日のギリシアは面積十三萬方軒人口約七百萬の小國で、バルカン半島の南端とエーゲ海の諸島嶼より成る。この國は古代歐洲の中心で今日の歐洲文化も遠くここに芽生えた。地形は狭小であるが變化に富み、且つ海に面してゐるので交通が便利で四方の文化を吸収することが出来、これにギリシア人特有の感受性が加はつて所謂ギリシア文明が作られたのである。紀元前第四・五世紀の頃東方のペルシアと戦ひ、青年大王アレキサンダーはペルシアを征服してその勢威は遠くインドにまで及んだ。然るにこの大國ギリシアも星移り物變つて今日では僅かにバルカンの一角に踞踏するに至つたのは、この國が近代物質文明の根柢をなす鐵・石炭を産せず、國民の性情が組織的堅實性を缺くことが最大原因であらう。但しこの國と雖も最近世史には若干の盛衰があり、第十九世紀初頭ナポレオン戦争が一段落を告げて自由主義の風潮歐洲を被ふや、この國は逸早く英國の援助を受けて、一八二九年バルカン諸國中では最初にトルコの支配を脱した國となつた。また第一次世界大戦では戦勝國となつたが、間もなくトルコのケマルパシャに破られて成果の大部を失ひ、また政體が屢々變化した。今次の大戦では英國の煽動に乗せられて獨・伊に抗戦したが、旬日を出でずして敗北の已むなきに至つた。

山地が多く耕地に乏しいが煙草・葡萄の特産があり、住民は海運業者・商人として相當の活動をなし、これが人口稠密なギリシアの經濟を成立せしめて行く基礎となつてゐる。

トルコはヨーロッパに於てアジア人種の第一線に立つた國である。上代中央アジアから西亞及び歐洲に移つたトルコ族は、第十四世紀以來歐・亞・阿三大陸を制する要衝の地帯に所謂オットマントルコとして勢威を振ひ、また回教教主として世界三億の教徒に號令する有利な地位にあつた。然るに第十九世紀以來西歐國家の興隆と他方國內の腐敗とにより國運は次第に衰退して、歐洲の廣大な領土にはルーマニア・ブルガリア等の諸國が獨立し、また他の強國のため屢々侵略を蒙つた。第一次世界大戦にはドイツに與して善戦したが一敗地に塗れ、トルコは將に亡びんとするに至つた。幸にして一のケマルパシャありその滅亡を既倒に救つて、ここに新らしきトルコを建設し得たのである。併しその犠牲は頗る大であつて、歐洲領土としてトルコに残されたものはイスタンブール周辺の二萬四千方軒人口百二十七萬に過ぎず、他の領土は大部分小アジアにあるので、一九二〇年その首都をイスタンブールからアジアのアンカラに移した。而してアジアに於ける南方の舊領は既述の如く、シリア・イラク以下の諸國の分立する所となつた。

ギリシア・トルコ





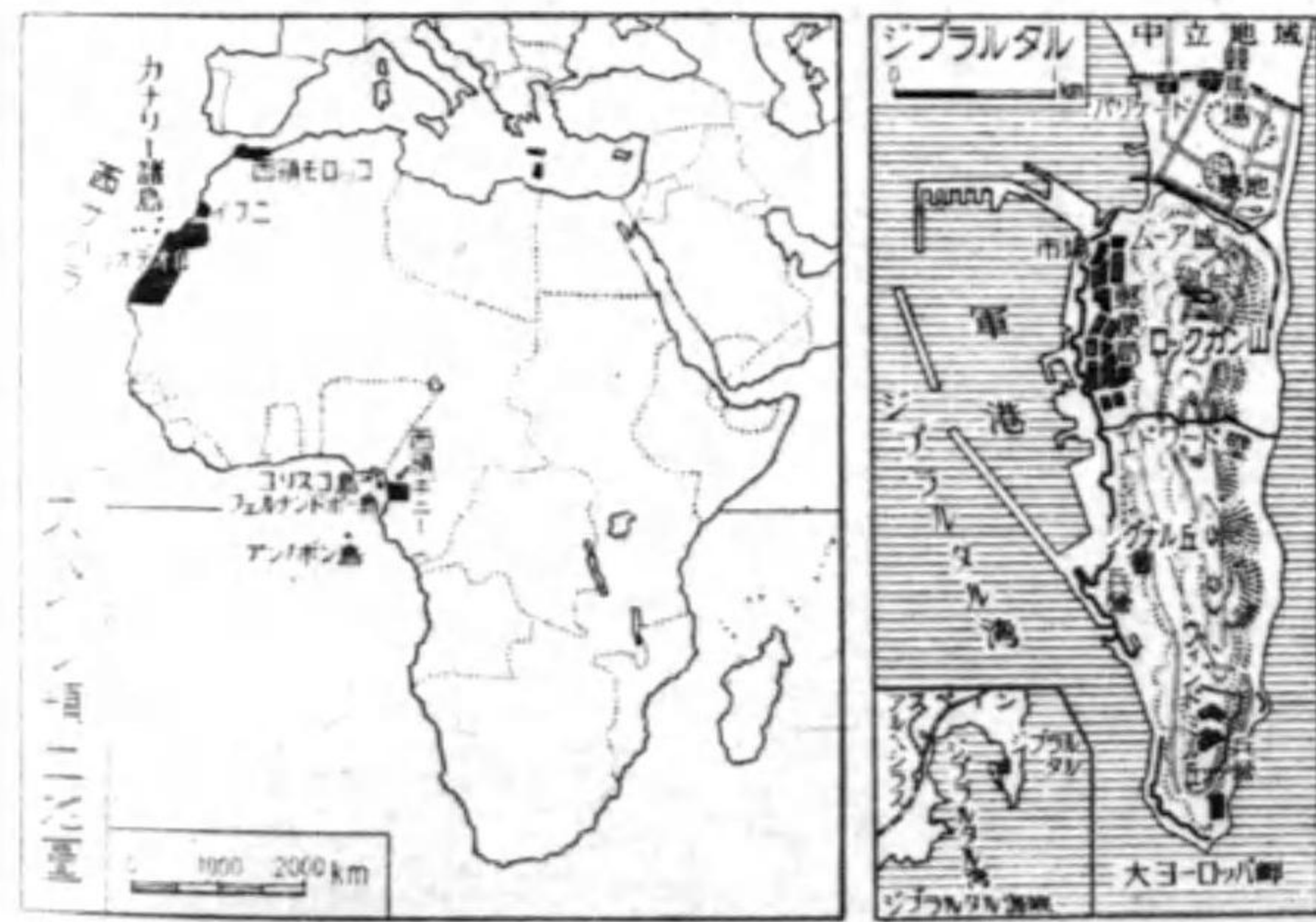
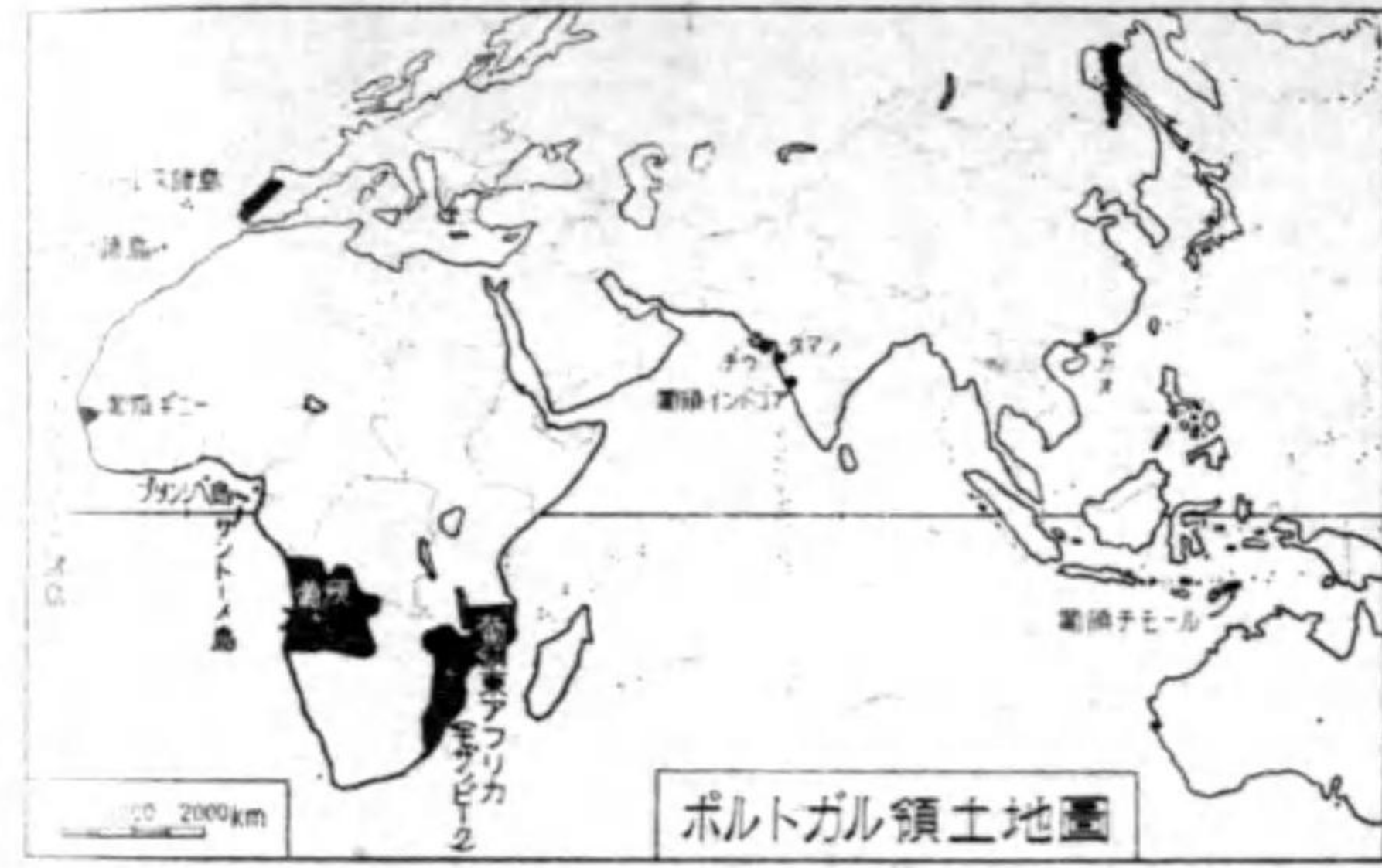
イタリアー(イタリア)

イタリアーは面積三十一萬方軒、日本内地の約四分の三、人口は四千四百萬で人口密度はほぼ日・獨と相等しい。この國は嘗てオーストリアの宰相メツテルニヒの言つた如く「完全な一つの地理的表現」で、その人文的活動が自然によつて最もよく支配されてゐる國の一つである。先づ第一に地理的位置を観るに長さ約九百軒の半島をなして地中海の中央に突出し、シシリーと共にアフリカへの自然的陸橋をなし、またこれにより地中海を縦斷する形勝の位置を占める。昔ローマ帝國がこの形勝な地域にあつて當時の世界に覇を稱せしも當然であり、現在でもこの自然環境によつて所謂イタリアー帝國を建設して、中・南歐及びアフリカの制覇を目指しローマ帝國の再現を圖つてゐるわけである。ムソソリーニの率ゐるファシスト黨の目標もこれにはかならない。併し千五百餘年前のイタリアーと今日とは世界の情勢は一變してゐる。嘗て南ヨーロッパが歐洲の中心であつた時代にはイタリアーは海に樞要の位置を占めてゐたが、今日では中心は北に移つて南國イタリアーの存在は必しも歐洲に重きをなさない。次に今日の國家の隆替はその國家の生産總量によつて決せられるのに、今日のイタリアーは面積は小さく山勝ちで農産も多からず、殊に現代文明國の基本資源たる鐵と石炭に乏しく、石油は全く産せず海に持たざる國の典型である。國土のこの状態はイタリアーをして必然的に植民地の要求を叫ばしめたまたその獲得に努力するに至らしめたのであるが、近世に於てイタリアーが統一的國家を樹立せしはドイツと同じく第十九世紀の央であつたため、植民地の獲得に目覺めし頃は既に世界の繩張りの終つた後で、イタリアーに與へらるる何ものもなかつた。今日のイタリアーの僅かの領地は第二十世紀に至つて初めて獲得されたものであつて、アルバニアの如きは一九三九年の占領にかかつてゐる。續つてイタリアーの住民を観察すると、國勢の艱難なるにも拘らずその人口増加率は極めて著しく、第十九世紀初期には千八百萬であつたものが百年間に四千四百萬となつた。ムソソリーニが「イタリアーは餓死するか然らざれば爆發するほかはない」と叫んだのは尤である。現代に於てイタリアー人は世界的な移民として知られ、現今外國にあるイタリアー人は約一千萬の多きに及んでゐるのもこの故である。

現大戰に於て樞軸國に於けるイタリアーの役割は大きい。第一次世界戦争に於てイタリアーは聯合軍側に立ちて善戦したがその酬ゆられし所甚だしく、英・佛に對し衝む所が大であつたので、今次の戦争にはドイツと結び一九四〇年ドイツ側に立ちて參戦し、同年九月、日・獨と共に三國同盟を締結し、主として地中海作戦に従事してゐる。併し東アフリカ植民地は聯合國側の占領する所となつた。

イタリアー貿易品表

| 品名 | 輸出 (億リラ) | 輸入 (億リラ) |
|-------|----------|----------|
| 野菜果實 | 10 | 5 |
| 絹及人絹 | 65 | 5 |
| 綿糸綿布 | 10 | 5 |
| 自動車部品 | 5 | 10 |
| 毛織物 | 5 | 10 |
| 葡萄酒 | 5 | 10 |
| 魚類 | 5 | 10 |
| 子一ズ | 5 | 10 |
| 其他 | 10 | 5 |



イベリア半島

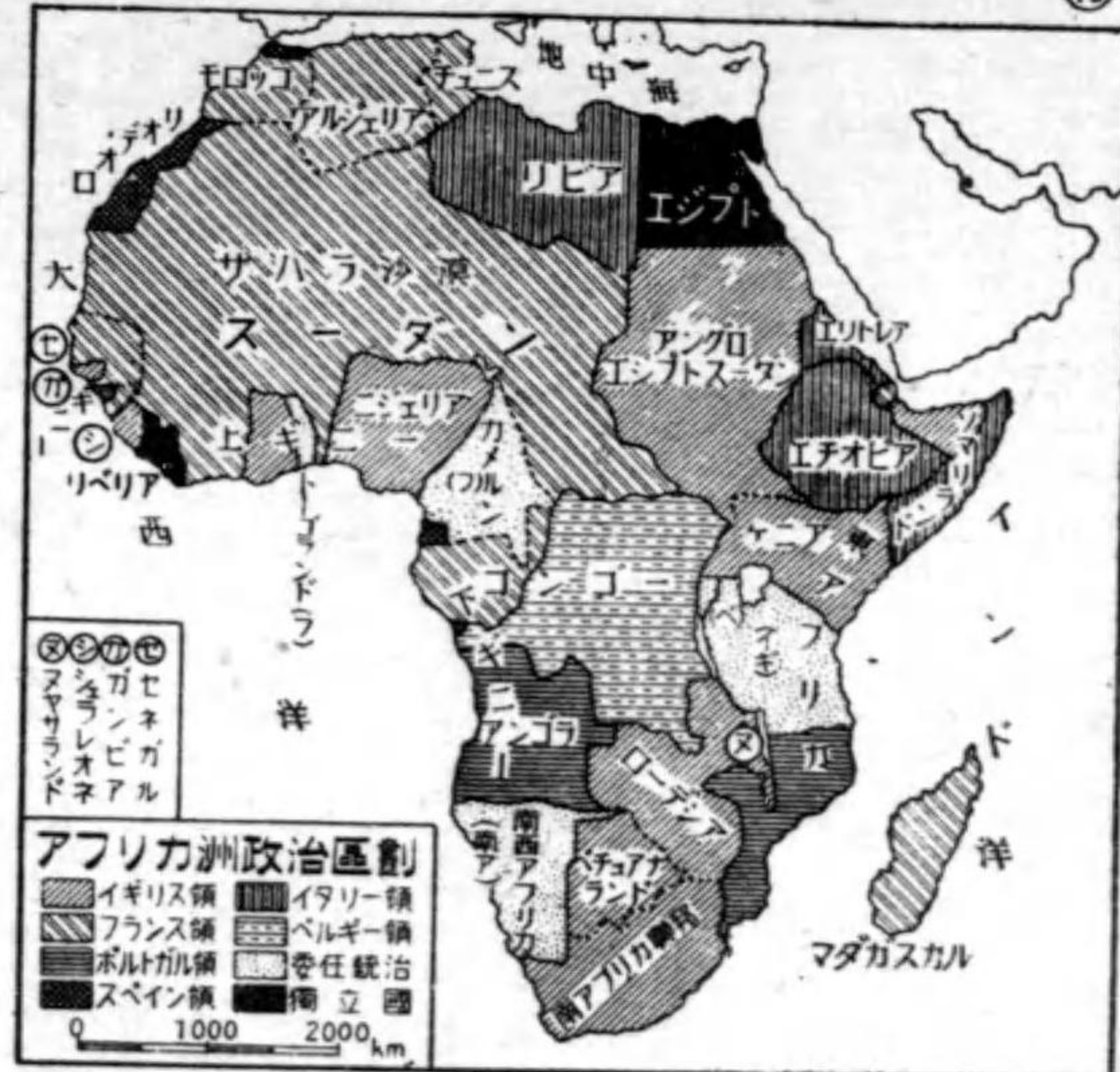
イベリア半島は地中海の西壁をなし、ジブラルタルの狭い水道を隔ててアフリカの突角と相對する。半島内は山岳重疊し大部分スペイン領で西部にポルトガルがある。典型的な地中海的氣候に屬し、民族はラテン族であるがアラビア人との雜種もある。一般に多血質で不安定な感情の所有者であり屢々政體を變更する。

スペイン・ポルトガル二國は近世に於ける歐人世界劫掠の先驅者であつた。この二國は共に大西洋に面してゐるから當時地中海經由の亞・歐貿易ルートがトルコによつて遮斷されてゐたのに對し、海路インドに至る道を求め、ポルトガルはアフリカの西岸傳ひに次第に南下して喜望峯を廻り、そのヴァスコガマは遂に一四九八年インドに到着した。今日ポルトガルがアフリカ・インド・マライ群島及び支那に持つ領土は凡て當時の前進基地の遺物である。これに對してスペインは大西洋を西に横斷し一四九二年コロンブスのアメリカ(西インド)發見となり、引續き中南米一帯に勢力を振ひ、更にマゼラン海峡を迂回して太平洋に出でフィリッピンを占領し、ここに兩國は世界を一周した侵略網を東亞に於て結び付けるに至つた。

その後スペインはその植民政策を誤り、第十九世紀に至るやその領土は次々に失はれ國勢次第に衰微し、今日では僅かにアフリカに少許の植民地を残すに過ぎない。而して最近に於けるスペインは一九三〇年の革命でアルフォンソ王家は追はれ赤色政權が樹立されたが、これに對しフランコ將軍を主班とするファランヘ黨は獨・伊の援助により抗戦し、久しい内亂の結果漸くフランコ側の勝利となつて一應政情は安定した。併しなほ今日内亂の傷手は癒えてゐない。現在の人口は二千五百萬で面積は約五十萬方千米である。

これに對しポルトガルは一九一〇年の革命で王政を顛覆し、その後内亂は絶えなかつたが、一九三二年オリヴェイラサザールが首相となつて以來獨裁政治を施行し、國力の挽回に力めてゐる。面積約九萬方千米人口七百四十萬である。

イベリア半島は地勢が全體に高原をなし、内部は乾燥して農業に不適であるが海岸には米、河川の沿岸には葡萄・小麦の産があり、林産としては南部に特殊のコルク樫を産する。鑛物資源はかなり豊富で鐵・水銀・鉛・亜鉛・銅を産し、世界有数の地位を占めるものが多い。イベリア半島の南端にあるジブラルタルは狭長な岬をなし面積僅かに五方千米であるが、地中海の西入口を抑へる絶好の軍事的要害であるので、一七一三年英國がこれを占領して以來、強大な軍備を施してインドルート確保の一據點となつてゐる。スペインがこの失地回復を狙つてゐることも周知の事實である。



アフリカ州總説

アフリカは面積ではアジアに次ぐ大陸でありながらその人口は一億四千萬に過ぎない。嘗てその一隅に世界最古の文化を發達させたこともあるが、その後第十九世紀後半まで暗黒大陸として放棄されてきた。現在と雖も經濟・文化の發達程度は六大洲の中で最も遅れてゐる。然らばかかる状態を來さしめた主要な原因は何であらうか。それは原住民が劣等であつたほか、自然的に觀ると第一に地形の單調性である。アフリカは海岸線の屈曲が極めて少く良港灣が少い。また内部の地形は全體が一大高原をなし高地が海岸近くまで迫つてゐるから、河川は海岸に近く瀑布を形成して海岸から内部への交通を妨げ、従つて文化が進まなかつた一原因をなしてゐる。唯北部のナイル河のみは例外で、これがためその流域に古代エジプト文化が發生した。第二はその氣候であつて、アフリカの中央を赤道が横切つるため本洲は一般に高温で、赤道直下には雨量が多くその外側に進むに従つて乾燥する。従つて植物型も熱帯森林・叢林(サヴァンナ)・沙漠・草地等に分れ、大部分は人類の生活に適せず、文化人の活動を許す地方は僅かにその兩端のみといつてよい。

この暗黒アフリカも第十九世紀の央よりリヴィングストン・スタンリー等の探検により光明が投げられ、他方英・佛・伊・西・白・獨等の西歐諸國はその探検の結果を利用して本洲を征服しこれを分割した。第一次世界大戦により英國はドイツ領の大部分を獲、今次の戰爭に於てイタリア領を占領し、英國は歐洲に於ける敗戦と反對にアフリカに於てはその領域を擴張した。今日アフリカに於ける獨立國はエジプトとリベリアであるが、唯名義上の獨立國に過ぎない。殊にリベリアに於て然りである。

産業的に觀ればアフリカ洲は未開の寶庫である。今日エジプトの棉花・南阿の羊毛等は著名な農・牧産品であるが、アラビアゴム・駝鳥毛・象牙等の特産があり、鑛産については南阿の金・金剛石・東アフリカのソーダ、ベルギー領コンゴの銅・金剛石は既に世界的に知られてゐる。今後に於けるアフリカの開發は北方に於て沙漠の灌溉による耕地の増加と中南部に於ける鑛物の採取の上にかかつてゐよう。要するにアフリカ洲は未だ原始産業を奪掠産業に委されてゐるが、鑛業が興る時が來れば、本洲は世界最大の水力資源を有することが大いに物をいふであらう。

なほアフリカの固有の人種はネグロと矮人で、前者は北部のスーダンネグロ・南部のバントネグロとに分れ、彼等と白人の雜種をフェラタといふ。矮人には、同じくブッシュメンとホットテントトとに分れる。他の種族は他洲よりの來住民で、地中海岸に住むセミチツクは太古アジアより移りしもので、白人としては英領各地に英人があり、南阿にはオランダ人の子孫であるボーア人が少くない。

アフリカ洲は既述の地形的理由から主として海岸が開拓せられ、内地の開発は未だ甚だ遅れてゐる。その結果今日でもアフリカの重點は皆海岸地方である。

スエズ地峡は幾千年間アジア・アフリカの文化を連絡する陸橋であつた。今日では運河により断ち切られて一種の海峡となつたが歴史的役割は昔も今も同じである。こゝに運河を作る計畫は既に紀元前エジプトの王ラムセス二世に發し、近世に至つてフランス人レゼツプは再びこれを取上げ、十年の歳月と四億七千萬フランの工費を費して一八六九年これを竣功せしめた。途中二・三の湖水を利用しこれを加へて運河の總延長は百六十一軒である。この運河開通の結果世界の海運は非常な恩恵を得たが、中にも最も利益を受けたのは東洋に多くの領土を持つ英國であつて、インドと本國間に於てアフリカ迂回に比し七千二百軒短縮せられた。このため英國はこの運河をフランス人から奪つて目下運河會社の株は大部分英人の手にある。現大戦前運河を通過せし船舶は六千隻でその半は英國船である。而して他方スエズ運河を國內に持つエジプトは、この運河あるため常に英國の羈絆を脱することが出来ないのは一種の皮肉である。

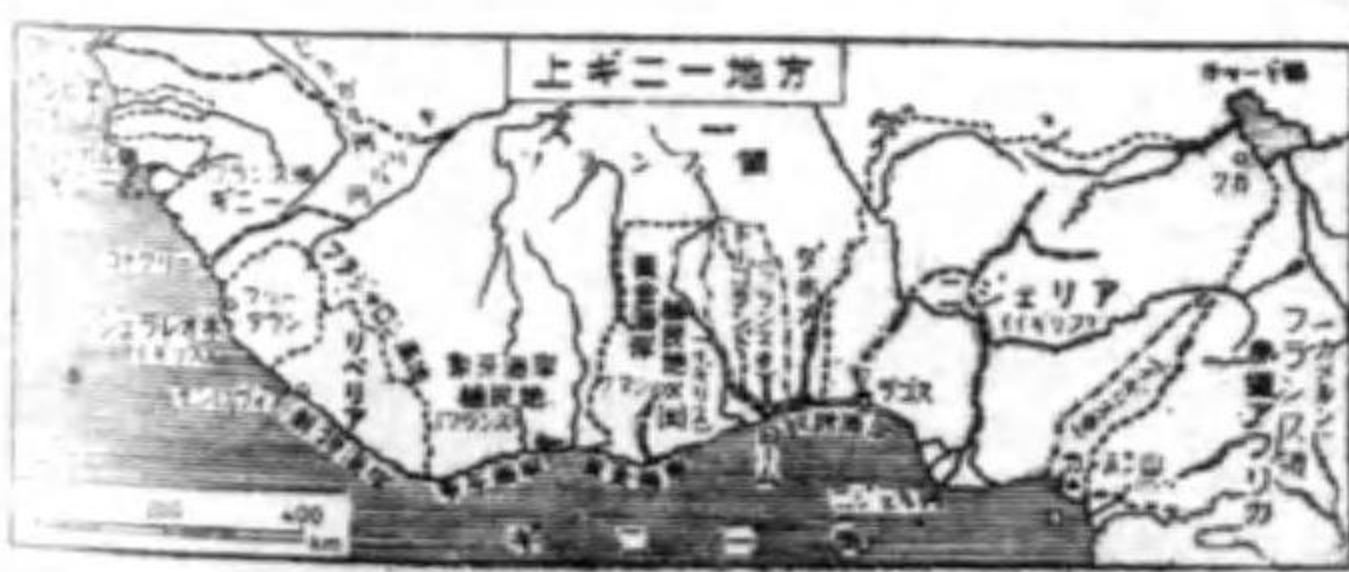
エジプトの西に連るリビアは大部分沙漠であるが海岸にはイタリーの領地があり、今次の大戦ではこゝに英國と獨・伊との間に戦闘が繰返された。

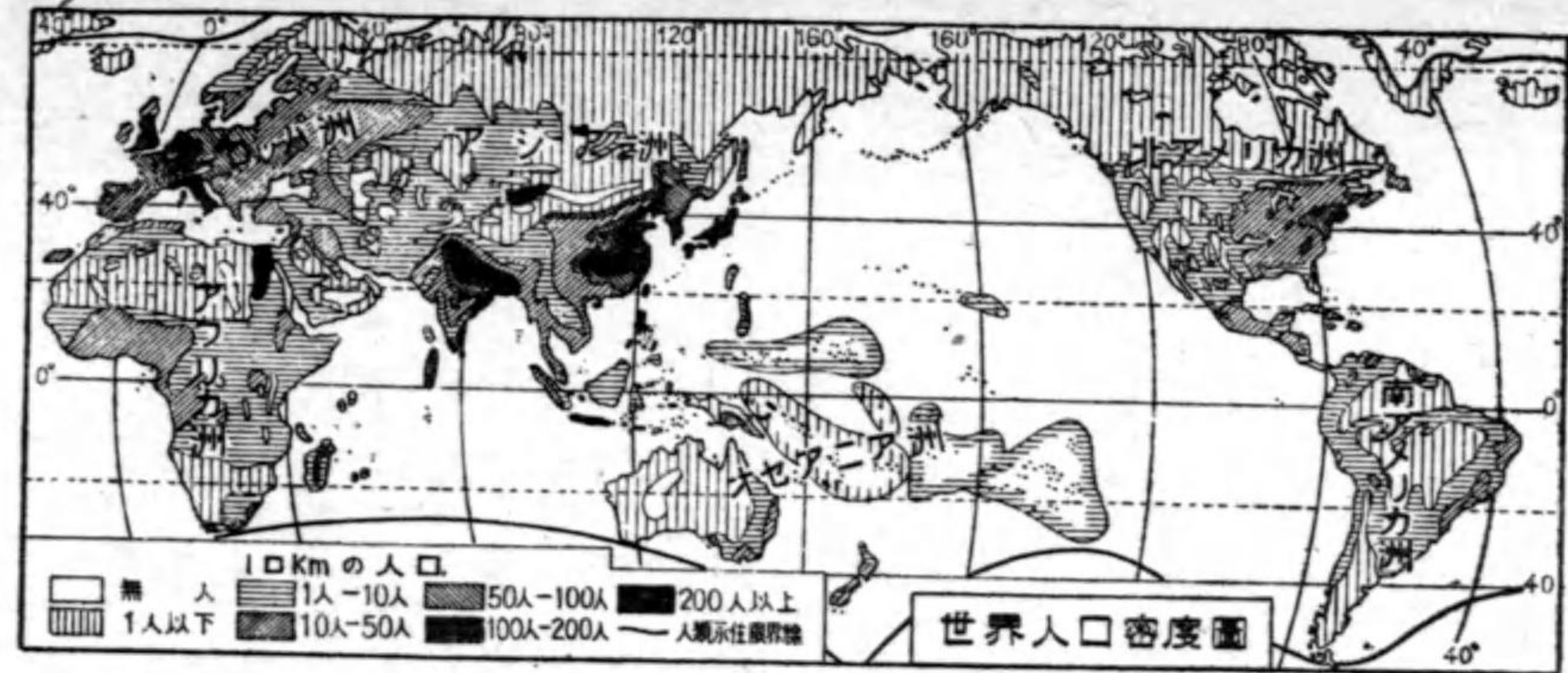
エチオピア及びソマリランド地方は紅海の出口を抱する要地であるので、英・佛・伊三國は競つてこゝに領土を作つた。中にもイタリーはこの地方の經路に熱中し、イタリー領ソマリランド及びエリトリアの他、一九三五年エチオピアを併せてこゝに東阿のイタリー帝國を建設するに至つた。併し今次の大戦でエチオピア及びソマリランドを失つてゐる。南阿聯邦はもとオランダの植民地でオランダ人の子孫たるボーア人は久しくこゝを所有してゐたが、第十九世紀末こゝに金と金剛石とが發見されたため英國の不法な侵略を蒙り、ボーア人は善戦これ力めたが一九〇〇年に至つて遂に征服された。この地方はアフリカ洲中最も氣候が良く小麦・果實・玉蜀黍の栽培に適し、羊毛の産額は世界第六位にある。金剛石はいふまでもなく世界第一位にあり、南半球の寶庫の一と稱することが出来る。

西北岸のアトラス山脈地方は地中海の西端に臨むので歐洲列國の關心が深く、今日まで佛・西二國がその支配權を握つてゐたが、一九四二年佛領は米・英兩軍の侵略する所となり、獨・伊はこれと戦つた。サハラ沙漠は主としてフランスに屬してゐた。

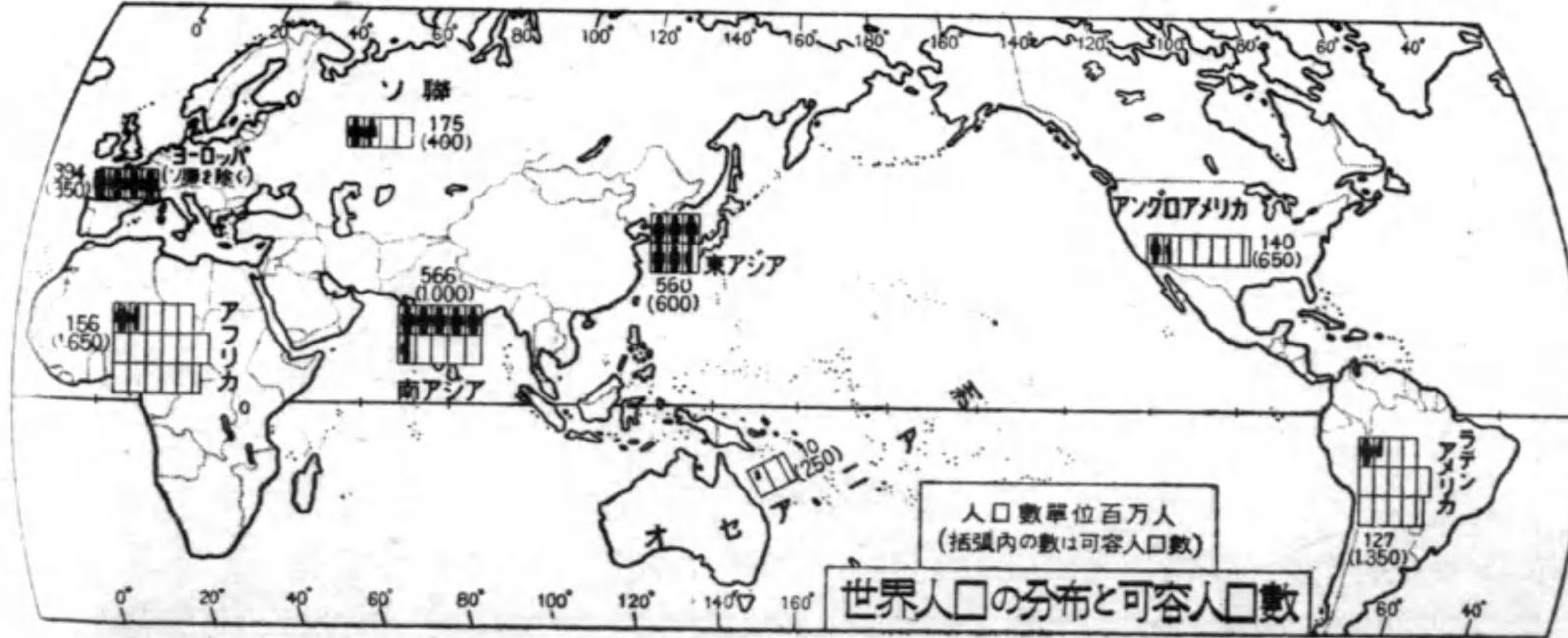
上ギニー地方は列國の所領が犬牙錯綜し、近時海・空軍の根據地として注目せられ、米國すらその把握を望んでゐる。西端のダカールは今日の大戦に敗れたフランス領であるが、英・米國は相謀りこれを攻略した。

アフリカ洲の諸重點



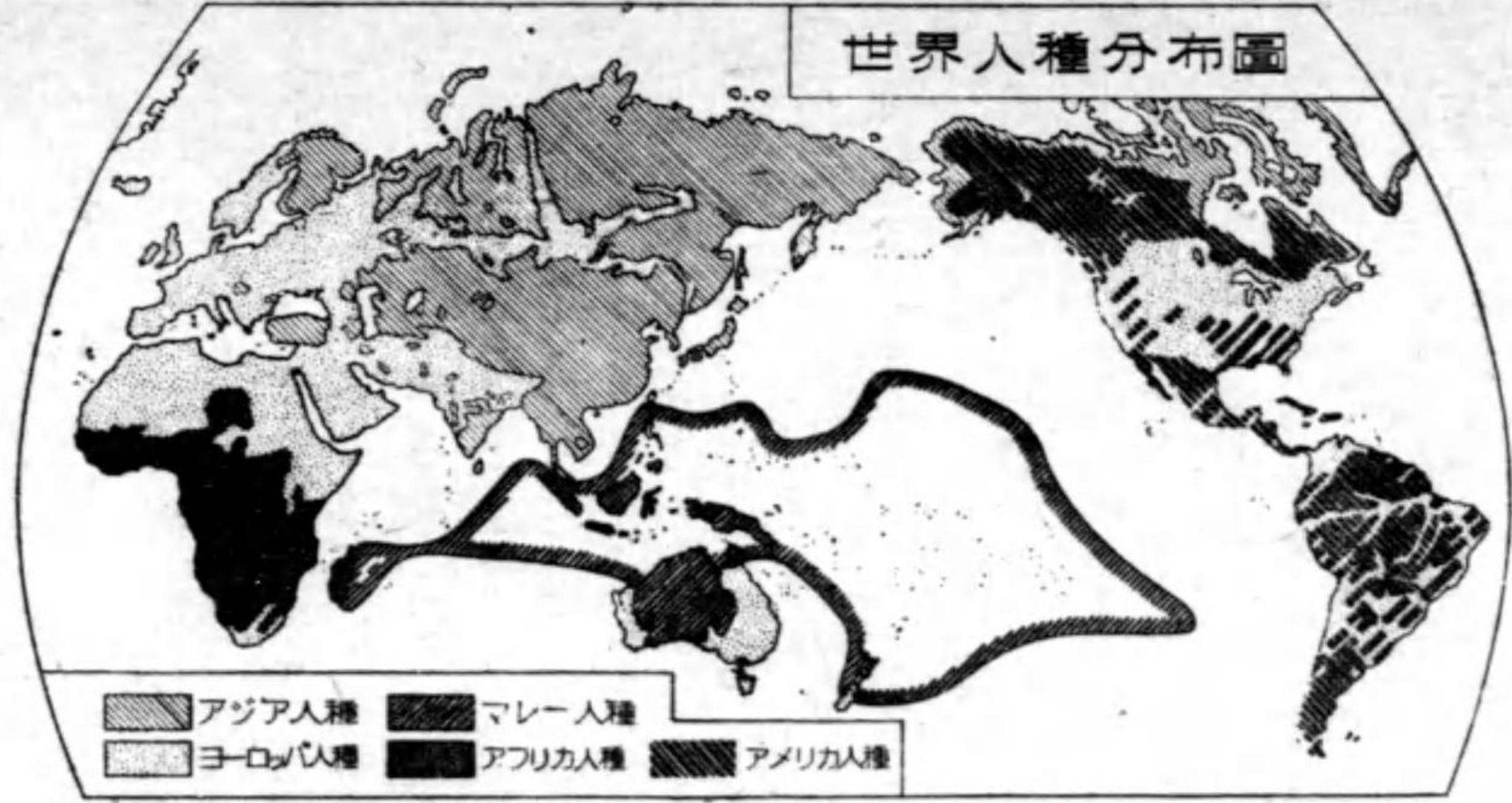


世界の人口密度と可容人口数



人類の地表上に於ける居住地域を地理學上エクメネと稱する。これは人類居住可能の地域を指すのではなく、現實に人類の占居する部分をいふ。而してこのエクメネは世界史の進展と人類の増加に伴つて漸次その廣さを増し、殊に地理的發見時代以後世界に於けるエクメネは急激に増大した。ラツツェルが「地理的發見の歴史はエクメネの歴史である」といつたのはこれである。而してこれに伴ひ嘗ては非居住地域(アンエクメネ)に屬した沙漠・森林・極地・高山地方も漸次エクメネとなり、更にその分布も大ならんとしてゐる。併しかくの如き人類居住區域の擴張に拘らず人口疎密の上から觀れば地方により甚しい懸隔を示してゐる。今日地球上の人口は二十一億を越えるが、その三分の二は全陸地の七分の一の地方に集中し、東アジア・南アジア・歐洲のみで十七億の人口を收めてゐる。他の地域は人類の住せざる空閑地が未だ廣く、南半球の温帶地方は面積歐洲の一倍半であるのに人口はその十分の一に満たない。北アメリカ・アフリカ等にも未だ處女地が多分に残されてゐる。中部アジアは嘗ては人口稠密であつたが、氣候不良となり今日の減少を來した。兎に角現在に於ける地球上の人類の分布は甚だ不平均であつて、密度一方糶一人に充たぬ地方から數百千人以上に及んでゐる。この不平均の原因は地形・氣候の適不適のほかその地域に於ける歴史の新舊が最も大なる要因となつてゐる。

次に地球人口の將來について考へてみるに、今日まで世界の人口は地域的に減少を示す所はあつても、大局から觀れば次第に増加したのであつて、歐洲は西曆紀元當時と今日とは十二倍の増加である。特にかゝる増加は近世に著しく、マルサスを俟つまでもなく人口が幾何級数的に増大してゐる地域が少くない。世界の人口は今日までの増加率を以てすれば、今世紀の終りには四十億西曆二〇七〇年には八十億を超えることとなる。然るに他方これを收容する地球の面積に限りがあり、またこの上に産する食料にも一定の極限があるから自ら人口増加の飽和點が存する。これが可容人口である。世界の可容人口についてはドイツのベンクを初め多くの學者が各地方につき夫々數値を計算して、これを總計して六十億乃至八十億といつてゐる。併し若しこれが眞理とすると、我々の世界人類は上述の増加率の計算よりして一千餘年にして飽和點に達し生存不能となる理である。併しこれは神の攝理として到底信せられない。吾人の見解を以てすれば上記の各種の計算は過去及び現在の事情の下になされたものであつて、將來は一方には戦争・疾病等により若しくは人口増殖率の減退によりてその増加率が鈍化することもあるべく、他方未開地方の開發や農法の進歩・人類生活方法の改善等により可容人類の増大を來し、かくして地球はなほ數千年間人類を養ひ得ると信するのである。



世界の 人種 分布

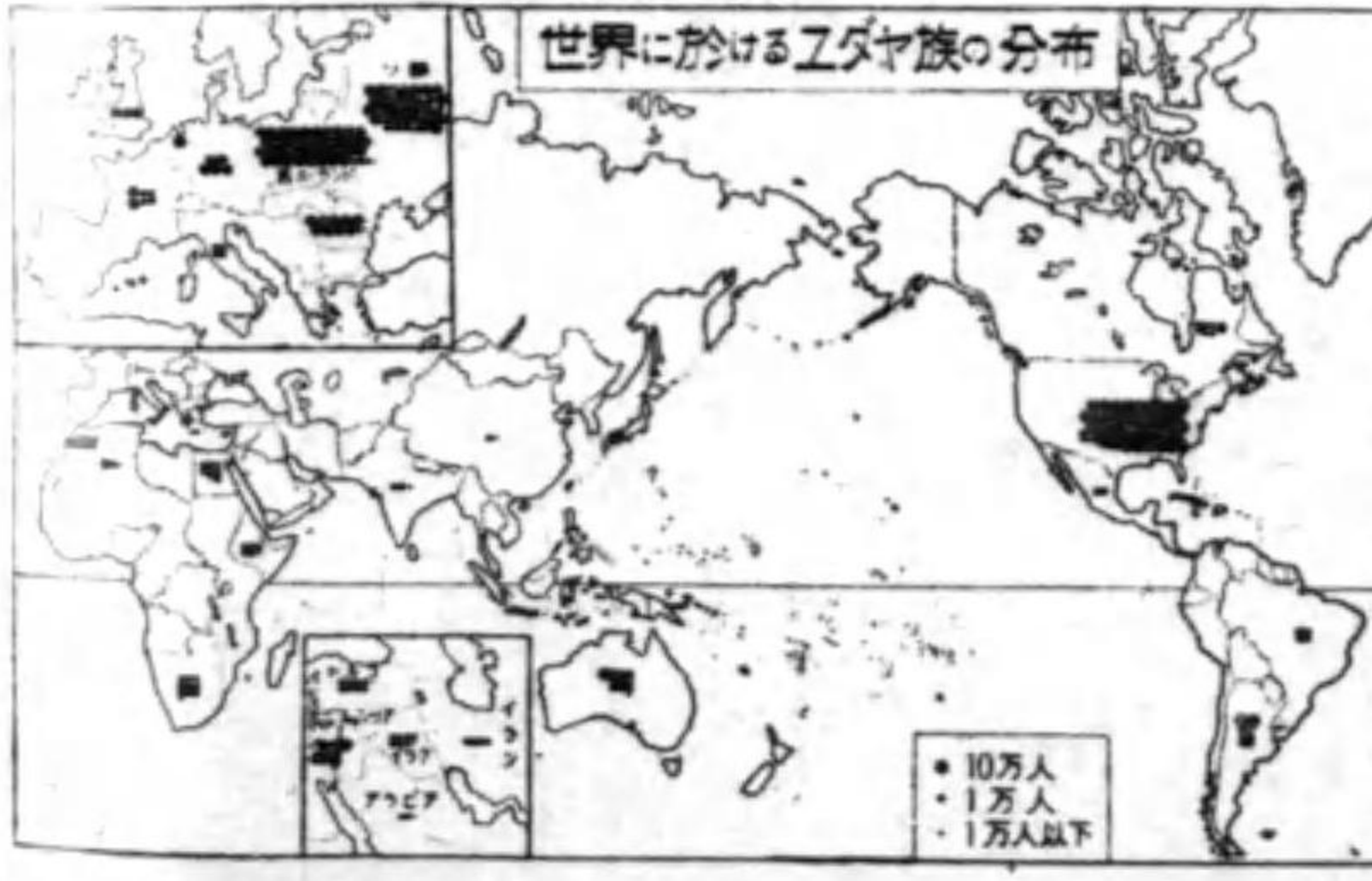
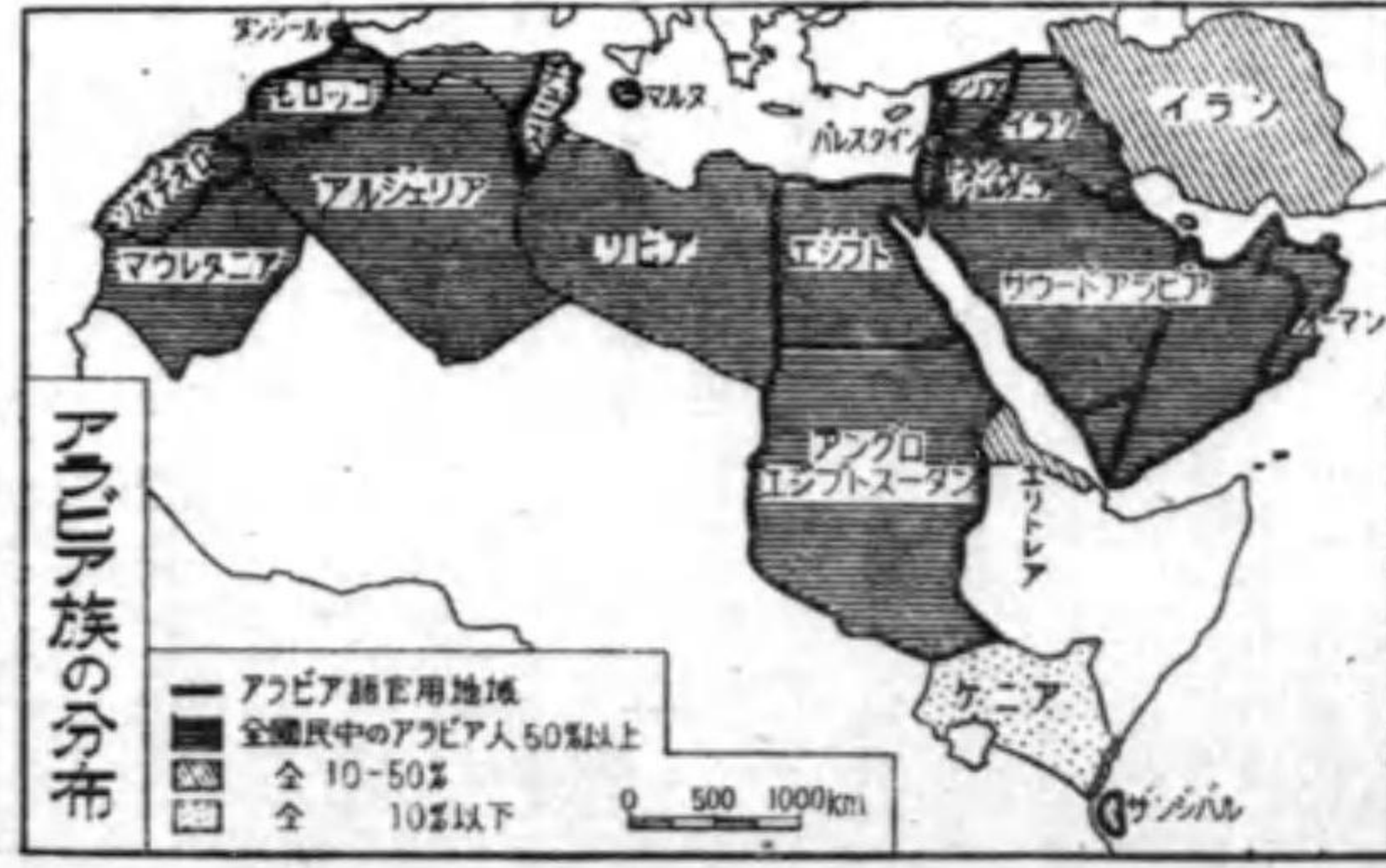
世界人種の分類には従来種々の試みがあり、その最も古きものは、聖書にあるノアの三子の名に因み世界の人類をハム・セミ・ヤベスの三種に分つたが、これは宗教的なものに過ぎない。學問的のものとしては一七七五年にブルームンバツハが(一)コーカシアン(二)モンゴリアン(三)エチオピアン(四)アメリカインディアン(五)マレー人の五つに分けた。

抑々「人種」なるものは厳密には純生物學的條件の下に區別されるべきもので、若し人間の文化的要素を含まして區別するときは、人種或は種族に非ずして「民族」となる。人類を生物學的基礎によつて分類すると、或は皮膚の色・毛髪の状態・骨格殊に顔面の差異を參酌するものあり、或は頭蓋骨を標準とする區別等がある。前者は最も普通に用ゐらるゝもので、後者は近時頭蓋の形が人種區別上不動の要素として取上げられたもので、長頭・短頭・中頭を標準とする。併しその何れに従ふとしても人種の特徴は決して千古不變のものでなく、その種族が住地を變ずることによりまた變化するものなることは種々の事例によりて證明せられてゐる。こゝに於て世界人類の分類は結局ブルームンバツハ法の如くその人種の居住地により分類するのが最も安全で且つ合理的ともいへよう。但し地方により必ずしもその地域に合せざることあり、例へば南西アジアにヨーロッパ人種がありヨーロッパの一部にアジア人種が住む如きがそれである。これはその名稱の人種が比較的近代にその原住地より移つたことを示すものである。

ユダヤ族とアラビア族

この兩族は共に種族と宗教的要素とを兼ねた民族である。ユダヤ族は元來西アジアを郷土としセミチック種に他の種族の血が交つて形成されたものである。その民族の起源は四千年前にも第二世紀頃よりは全く國家を形成せず、千八百年間放浪的生活を送つてゐる。第十九世紀末以來シオニズムの大旗を掲げて國家形成の民族運動を起し、その甲斐ありて一九一七年以來英國の統治下にパレスタイン國が作られたが、四方より歸還せしユダヤ族の直面せし問題は國家を得たる喜びではなく、先住者アラビア人との葛藤に過ぎなかつた。今次の大戦により彼等はヨーロッパを逐はれ、我が國にまで放浪し來つた。現大戦前世界に於ける彼等の總數は約一千六百萬人で、うち一千萬人は歐洲に、四百五十萬人は米國に住んでゐた。

アラビア族もまたセミチックの一種であるがアフリカの要素と回教の信仰とが混じて成した民族である。智能高く殊に計算に長じ、これが中世アラビア文化の盛時に數學・天文學を發達させ、また彼等をして東西の貿易に成功せしめた一大原因である。嘗ては西歐までその翼を伸し、今日でも西アジアと北アフリカに牢固たる地歩を占めてゐる。



我が國民は世界列強中最も遅く海外發展の舞臺に登場した。而して徳川時代の鎖國政策から明治時代の開國主義に移り國民が自由に海外渡航をなし得るに至つた時、邦人の先づ着目したのは米國とハワイとであつてその移民は明治初頭より行はれ、一八七〇年米國には既に五十五人の邦人が住んでゐた。同様にハワイの移民も古い歴史を持つ。併しこれ等の移住邦人は概ね個人的勞働移民であつたため、經濟上・政治上の勢力を築き上げるに至らず、ハワイの如きは前世紀末全島民の過半は我が邦人であつたにも拘らず、遂に米國の有となつた。米本國に於ても大正九年以來我が移民は殆ど禁止せられてゐる。こゝに於てこれが代地として選ばれたのがブラジル・ペルー等の南米諸國であつて、殊に前者にありてはその數も多く成功を収めてゐるものも少くない。併しこれ等南・北米を通じ遠隔地方への移民はともすれば故國との關係が疎となり、殊に彼地に生れた所謂第二世邦人の將來は大いに考慮を要する。これに反して我が本國に近き東亞諸國への移住は常に本國との連繫が保たれ發展の基礎は堅い。今後我が國の移民は遠隔の地を目指すよりは東亞共榮圈内の諸地方へ嚮ふべきであらう。

昭和十三年十月現在の狀態を以て觀察するに、海外在留人の數は百四十二萬人ありその中アジア洲に約六割三分南米に一割六分で、他は大洋洲・北米・歐洲・アフリカ洲等である。アジア洲のうち滿洲國が最大の邦人を擁することは當然であるが、最も注意すべきは支那であつて、昭和十三年我が權益が極度に壓迫せられた頃在支邦人の數は僅かに約十萬を數ふるに過ぎなかつた。然るに同年起つた支那事變を契機として、我が政治上・經濟上に於ける勢力の伸張と共に居留民の數も忽ち増大し、昭和十七年四月には既に五十萬を突破してゐる。併し我が國と近接せる廣大なる支那に對してこの數は決して多いとはいへぬ。將來は更に今日の數倍となる可能性がある。滿洲國に倍々増加すべきは勿論である。

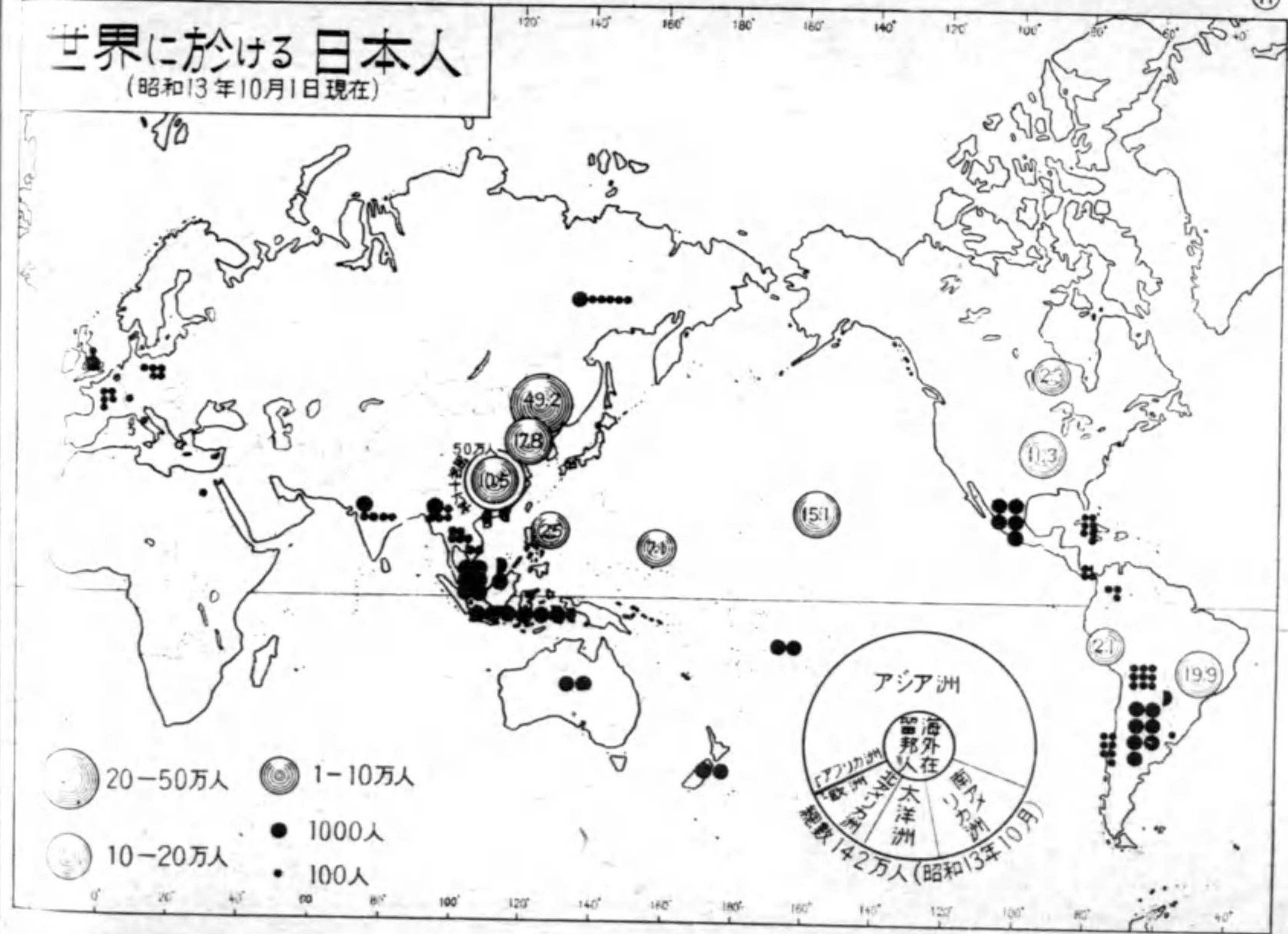
更に我が海外在住者の職業別を觀るに左の通りの百分率を示してゐた。

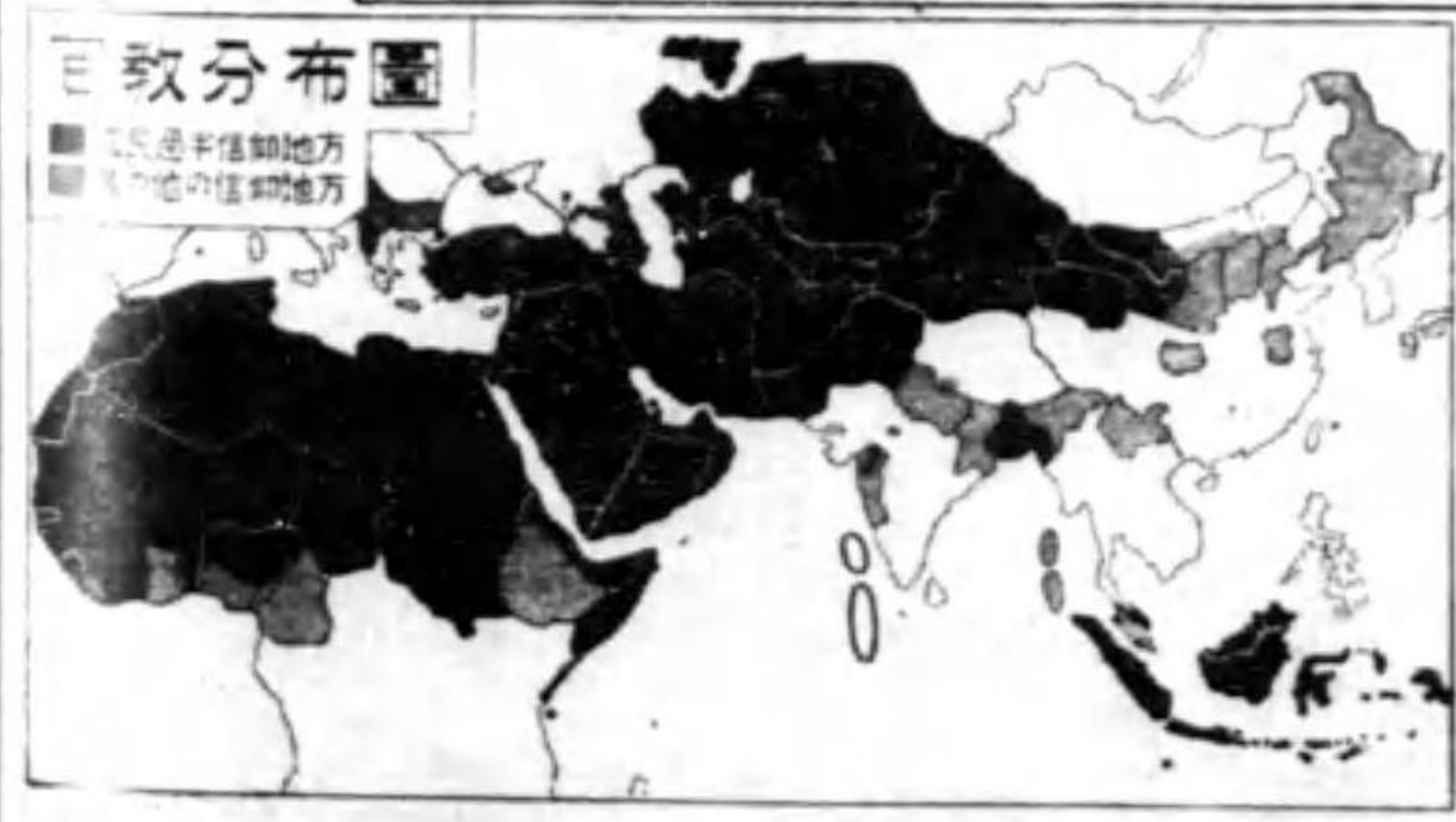
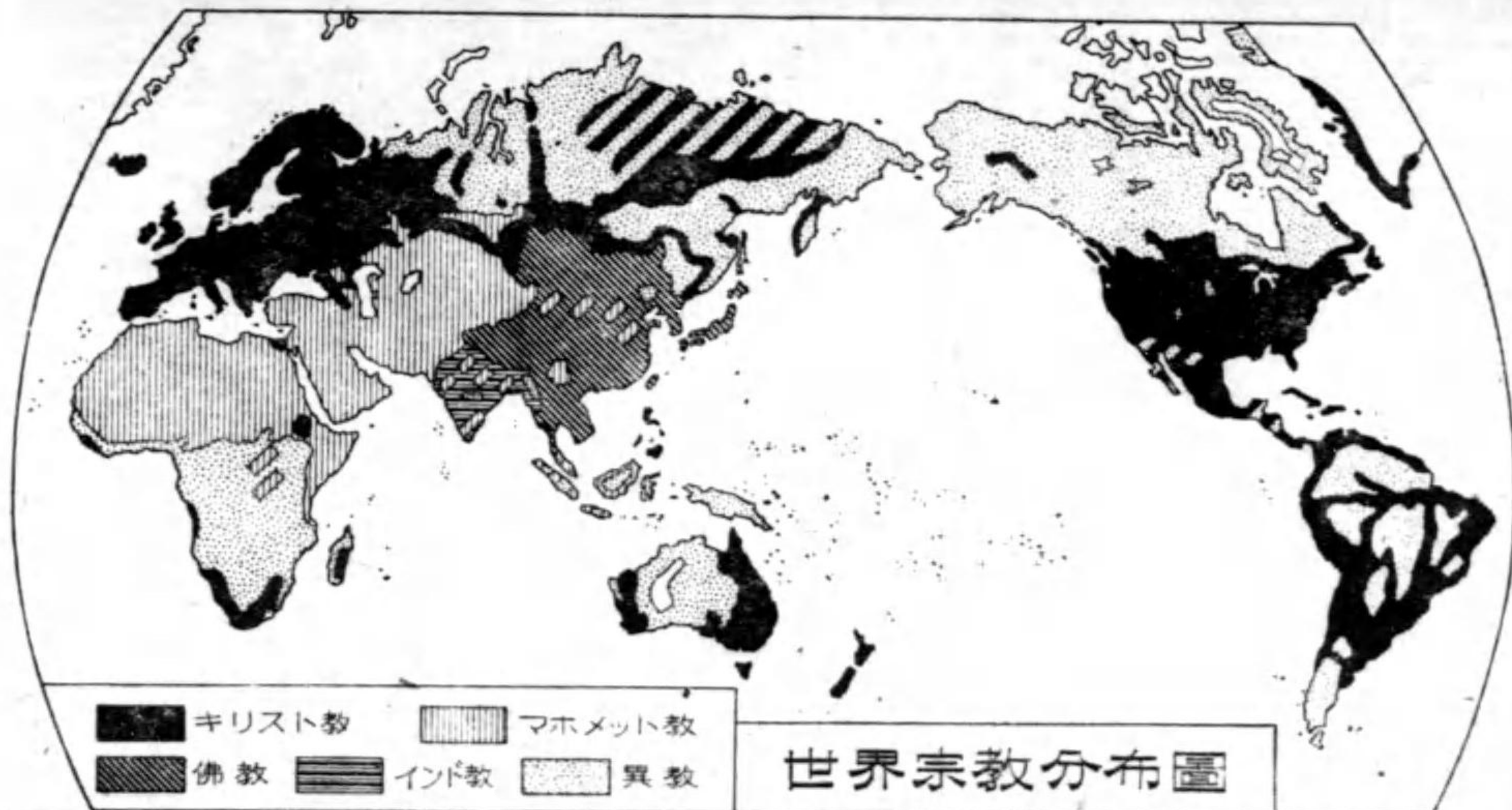
農耕・畜産勞働者一八、同業經營者一七、會社・銀行・商店員一四、物品販賣及他の商業八・四、通信・運輸・交通從業者四・六、その他三八

即ち我が海外在住者の多數は農・商・運輸等の經營者或は事務員であつて純粹の勞働者は比較的少い。この點支那人の華僑とは大いにその趣を異にしてゐる。

今や大東亞戰爭も皇軍の完勝に終りまた東亞共榮圏の建設成る時は、我が邦人の南方移住は一層の増加を見るであらう。また職業の分野も從來の勤勞生活より移住先に於ける土着民の指導方面に轉じ、或は栽培植民的色彩を帯びるに至るであらう。

世界に於ける日本人





宗教は人類の精神的糧の最大なるものである。如何なる時代にも如何なる地方にも宗教なき所はない。而して世界各地に存する宗教は多くはその傳統的历史によりて今日の分布を來したものであるが、その發達と分布には自然の影響を受けることも大である。エルンスト・レナウによれば活動的な回教（マホメット教）は沙漠的自然の所産であり、世界に於けるその分布も雨量二百五十耗以下の乾燥地とほぼ一致してゐると。更に一般にアジア西部では一神教が盛であるが、これは地形の單調が神をも單一化したと考へられ、これに對し熱帯地方で萬有神教が行はれてゐる所以は、その自然が多種多様なことに負ふ所が大である。またベルシアの拜火教はその豊富な石油の存在と密接な關係があり、太陽の位置により定期的に恵に浴するエジプトや日光の暖かさを欲求する中部アンデスの高原では太陽崇拜が行はれてゐる。

世界に於ける主要な宗教の分布を観察すると、我が國固有の神道は別として東アジア・インドを支配するものは佛教である。佛教の起源はインドにあつたが今日は僅かにその北部のみに行はれ、現在佛教の中心は我が國にあるといへよう。支那では佛教の勢力は寧ろ少く、北部は儒教南部は道教の如き道德教の勢力に支配されてゐる。また佛印・タイ國方面では我が國の大乗佛教とは異り小乗佛教が信せられてゐる。

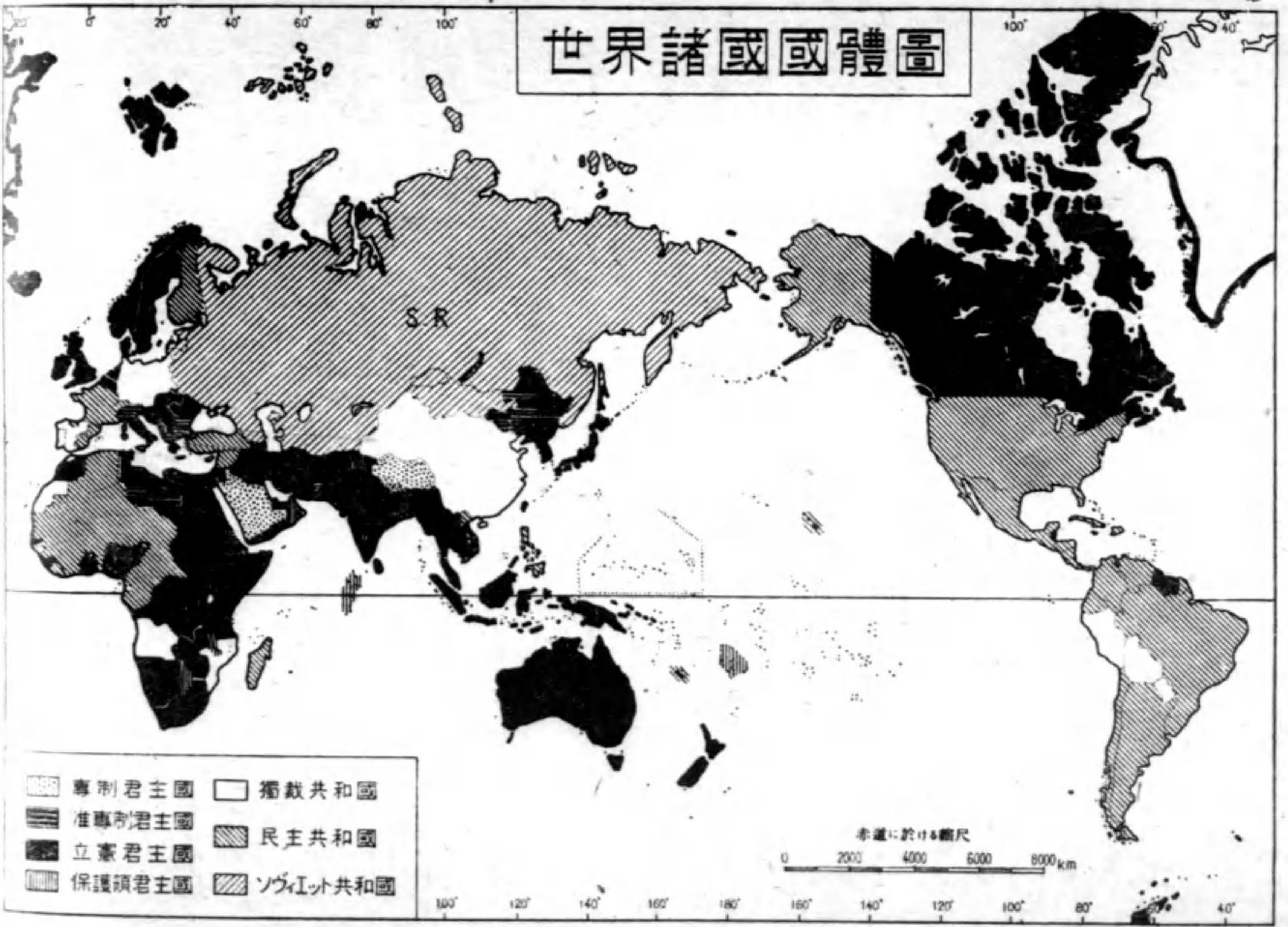
回教は前述の如くアフリカ・アジアの乾燥地方を中樞とするが、その餘勢は東に延びてインドに九千萬の教徒を擁し、更に舊蘭印にては七千萬の土民の殆ど全部がこれを奉じてゐる。比較的短時間の間に於ける勢力を有するに至つたのは、その「劍かコーランか」の激しい教義によることが大であらう。

インドには二億五千萬のインド教徒がある。インドの今日の社會は全くこの宗教の上に成立してゐるものといふべく、これがインドの發展を阻害する大きな癌である。

キリスト教ももとは西アジアに發したが、ローマ時代に歐洲に傳はり爾來白人國家の發展とその軌道を一にして來た。而かも近世の白人の世界劫掠に當つてはその道具として利用された觀がある。キリスト教の中でも更に三つの派があり、新教は英・獨・米を中心に勢力を有し、舊教（カトリック教）はイタリー・フランス・スペイン・中南米等ラテン系民族の居住地に壓倒的支配力を持つ。別にギリシア正教はスラヴ民族の居住地に根を下して強固な力を持つてゐる。

このほか世界各地には夫々の民族が自己の環境に應じて信じてゐる諸種の所謂異教がある。

世界諸國國體圖



世界諸國の國體

現大戦前地球上には六十六の大小國家が存在してゐたが、その國體もしくは政體は種々雑多である。先づ政體について觀察すると、世界諸國の政體は大別して君主國と共和國とに分れる。君主政體中最も古きものは專制君主制であるが、今日現實に存するはサウードアラビアとネパールのみであつて、グアチカンは教權と結び付いてゐる。次に准專制君主制はアフガニスタンがその代表的のものであつて、滿洲國もこの政體に近いものである。イタリイも首相の專制に委せ實質上にはこの種政體に屬する。戦前のギリシアやブルガリアもこの範疇に入る。第三は立憲君主制でその國數甚だ多く我が國並に歐洲の諸君主國がそれである。次に保護領君主制があり他國の保護を受けてゐる君主國で、英國のイエーメン國・舊マレー諸王國、フランスのアンナン王國に對する關係が代表的といへよう。

共和政體中にもまた種々の別があり、純粹の民主共和國は議會が全權を握り大統領は行政上の實權なきものでフランスはこれを代表する。然るに米國は民主國でありながら大統領領即ち行政の首腦であつて、南米諸國も大概これを模倣してゐる。而して民主國中極端に奔れるものはソヴィエツト共和國であつて、ソ聯邦はその先驅者であるが今日のソ聯邦は全くその實を失ひ、蔣政權の支那やベルギーの如く獨裁共和國たらんとしてゐる。

次にこれ等諸國の政體につき近代の變化を一瞥するに、諸外國殊に歐洲諸國は政體の變化甚だ頻繁であつて、僅々百年間に五・六回の變化をなせし國すらある。而して第一次歐洲大戰當時には歐洲には獨・露・奧・土の四帝國と英・蘭・白・西・伊・勃・塞・羅・丁・諾・瑞等の十一王國とその他の民主國があつたが、戦後は或は民族自決主義による小君主國や小民主國が生れ、また新たに思想的根據の上に立つナチス・ファシスト・コミニニスト等の國家の出現を見た。現大戦による變化は逆睹し難い。

各國の政體がかくの如き變動を重ねてゐる間に、我が國は肇國以來嚴として搖ぎなき萬世一系の天皇を戴く國體を堅持してゐて、現在立憲君主政體であるがその國體は西洋諸國とは全く異つてゐる。即ち西洋諸外國にありては國民の離合集散常なく、元首は當時の國民に便宜なるものが擁立せられ、外國の君主の子孫を迎へることも珍らしくなく、元首は常に國土と人民とから遊離してゐるのに、我が國では常に皇室と國土國民とが不可離の關係に立ち、所謂「普天之下莫非王土、率土之濱莫非王臣」で、皇室の繁榮は即ち日本の富強であり國民の幸福となつてゐる。されば世界諸國の國體は多く國民の自由を歌ひ神の榮光を讃へるのが主であるのに、我が國の國體は「君が代」の長久を祝するにありて、我が國獨得の思想が現はれてゐるのである。

「小國は沿海を支配し大國は大洋を制す」とはラッツェルの語であるが、吾人は寧ろその逆説を眞理とする。即ち沿海の交通に甘する國は小國として止り、大洋を制するものは大國となるといふのである。歐洲諸國が地中海や北海を活動舞臺とせし間はその發展は局限せられ、最大國家たるローマ帝國と雖も今日の英帝國の十分の一以下であつた。近世に至り列國が大洋に乗り出すに至り、海外に領土を得て發展せしのみならず本國自身の膨脹ともなつた。我が國も鎖國主義を棄て海洋へ雄飛するに至つて國力は急に伸張した。何故に海洋への進出が國土の擴張となるかといふに、近世國家の膨脹は天然資源の利用と植民地の獲得によりてなされるのに、海洋は前者に對しては最良の運搬路であり、後者に對してはその創建保持に必須の條件を供へるからである。

而してこの大洋制覇には常に海軍が伴ひ、海軍なき海運國は假令その商船數が多くても大洋を制し得ざること、現大戰前のノルウェーがよくこれを證明してゐる。

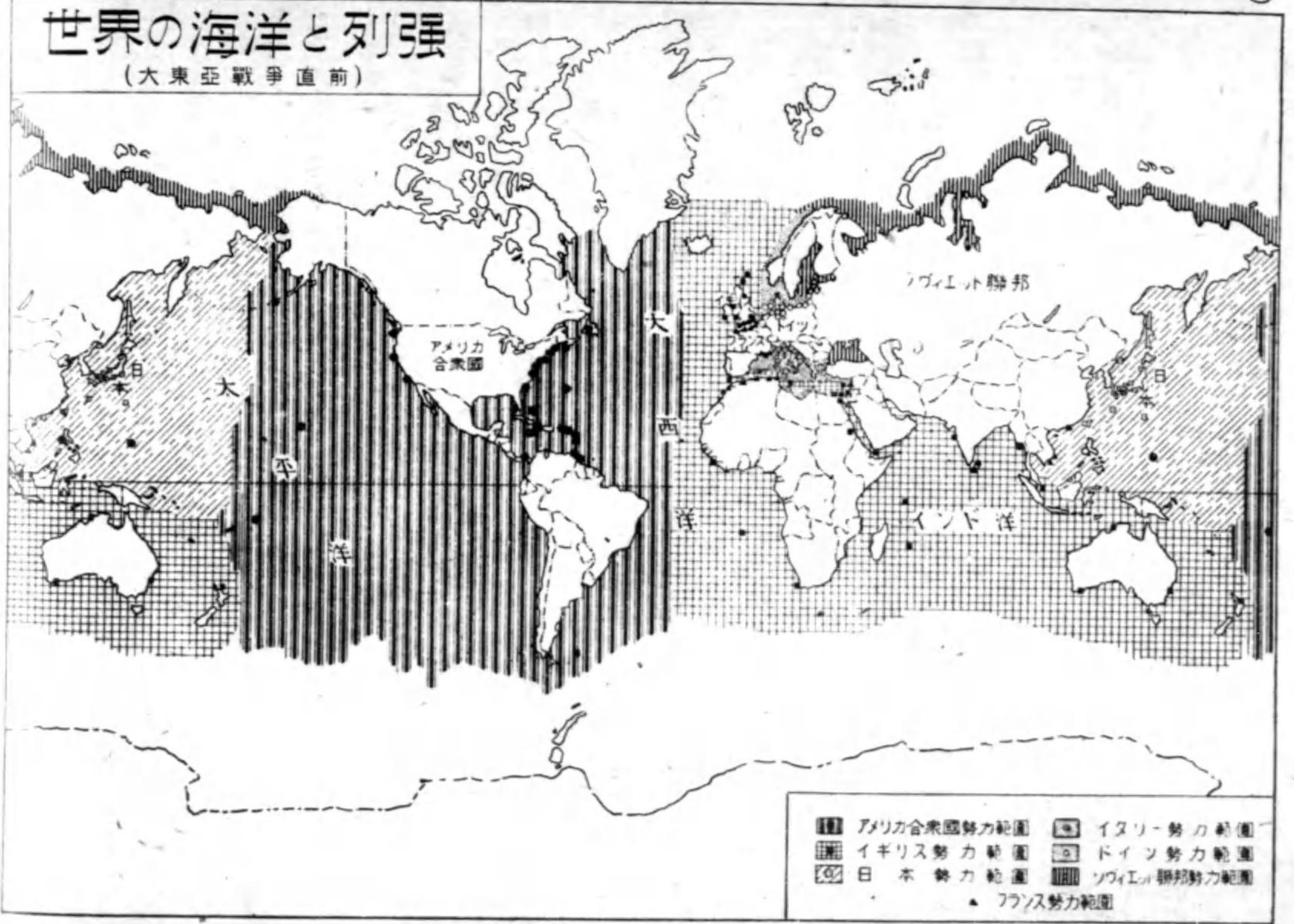
現在世界の海洋は日・英・米・獨・伊・ソの各勢力範圍に分割せられてゐる。最大の範圍を擁するものは英國であつて大西洋の東半部とインド洋の一部とを含んでゐる。次に米國は從來大西洋ではその西部を勢力範圍とするに過ぎなかつたが、今次の大戦によりその警戒水域は西緯二十度の線に達し、大西洋の五分の四は米國の勢力範圍となつた。太平洋に於ては最近までその勢力範圍を東西緯度百八十度を以て限界としてゐて現に、本書第八十圖版は米國ミシガン大學のマックファデン氏の地圖を特に擇んだものであるが、明かに米國制海權を百八十度としてゐる。それにも拘らず近時米國は西太平洋までその制海權を握らんとしたので、こゝに我が國との衝突を來したのである。

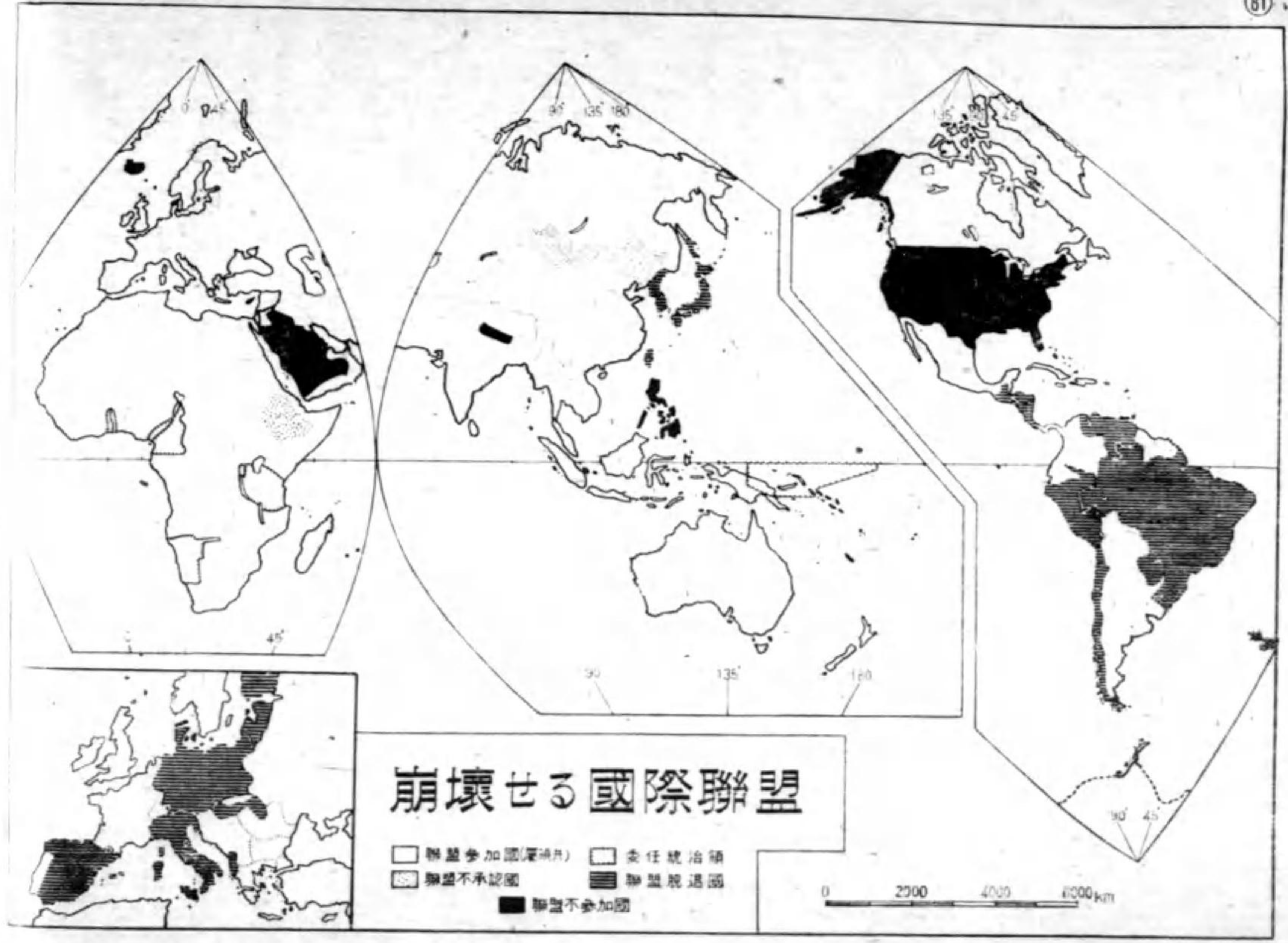
我が國の制海權は久しく本圖に示す如く太平洋西部に止つてゐたが、近年新南群島の併合と我が國軍の佛印及びタイ進駐とによりて、南支那海は我が國の生命線中に加へられ、更に大東亞戰爭に於ける我が海軍のハワイ空襲以來我が國の制海權は遠く東太平洋に及び、今は北太平洋の三分の二とインド洋の東部はその活躍の舞臺となつた。

以上三大海軍國の勢力範圍のほか、イタリーは地中海に、ドイツは北海に活躍してゐるのに對し、ロシアは既にバルト海の、フランスは地中海の制海權を失ひつゝある。

今次の世界大戰の結果海洋に對する列強制海權の變化は逆睹し得ないが、英國制海權の縮少は確かである。英國は現大戰に於て既に數十萬噸の艦艇と一千萬噸に上る商船を失つた。「波濤を支配す」と誇稱した英國の制海權は將に没落せんとしてゐる。而してこれに代るものは我が國であつて、我が國の制海權は近き將來に於て少くとも全太平洋とインド洋に及ぶであらう。米國の海上權の如きは徹底的に粉碎すべきである。

世界の海洋と列強





崩壊せる国際聯盟

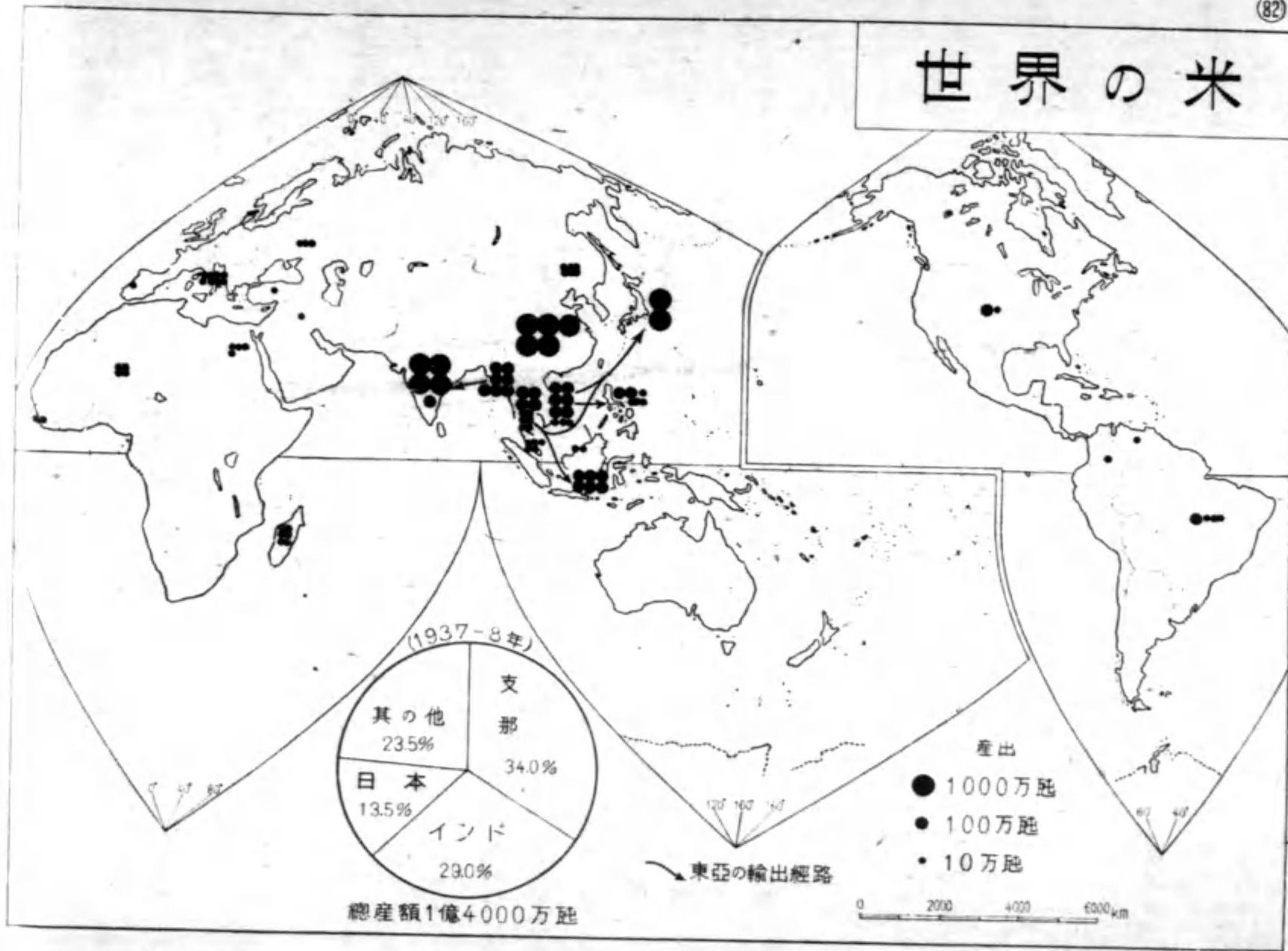
滿四ヶ年餘に亙つた慘憺たる第一次世界大戰が一九一八年終了するや、講和會議のためヴェルサイユに集つた各國代表は、米國大統領ウィルソンの提議に基き、國際間の平和確立と各國民の協力とを目的として、茲に一九二〇年國際聯盟を組織するに至つた。當時これに加入した國及び領土は我が國を初めとして聯合國三十三ヶ國を算へたが、その後一方に参加するものあり他方に脱退せるものあり、脱退の初をなしたものは一九二六年のブラジルであつて、スペインこれに次ぎ我が國は一九三〇年滿洲事變を契機として脱退した。それにも拘らず聯盟は一九三六年には加入國數五十八の多きに及んだが、それより脱退する國が續出し一九四一年三月末は四十九ヶ國となつた。而かもこの中にはドイツ占領下にある佛・白等十ヶ國がありそのほか唯名義上の加入國もあり、聯盟の實質的參加國は三十餘國に過ぎずその權威は失墜し聯盟は方に崩壊せんとしてゐる。

聯盟は何故にかくの如く失敗せしか、ウィルソンの理想としては、この聯盟により將來の戰爭を絶滅せんとし、世界諸國の協同により先づ軍備を縮少し、紛争を調停し、少數民族の保護に當り委任統治領を監視し、併せて世界の文化・社會問題に貢獻せんとしたのであつたが、これは一種の空想であつて、實際問題としては何等の軍備も警察力も有せざる聯盟が、政治上にその威力を發揮し得る筈がない。而かも聯盟はその主唱者ウィルソンの代表する米國が先づその加入を拒み、日・獨・伊三大國が脱退したので、殘餘の小國は英佛及びその黒幕なる米國の囑使する所となり、聯盟は英・佛・米等の權益保持の機關に過ぎなかつた。

一九四一年七月廿二日米國國務長官ウエルズは世界の新組織につき演説を行ひ、その中に聯盟に論及し、國際聯盟が失敗に終つたのは米國やその他諸國の一部の人士が盲目的な利己主義を固執したことの一つの原因であるが、二・三の強國が聯盟を自己の政治的・經濟的野心を伸長せんがために利用し、さらに理事會を牛耳つてゐる特定國が現状維持の道具としてこれを使つたがためである。ある一つの國民や政府が世界各國の國民が必要とする自然的資源や原料を獨占してゐる限り、正義と平和を基調とする世界新秩序を築きあげることは出来ない。

誠にその通りである。併しその中にある聯盟を自己の野心に利用した二・三の強國といふは明かに英・佛及び米國を指せるものであり、その結果が今日の時局を生んだのである。さはれ今日聯盟は既にその機能を喪失し、却つて聯盟がその成立を承認しなかつた滿洲國の如きは十年にして非常な生長を遂げてゐる。聯盟は現大戰勃發當初に於ても何等の働も出來ず、今日と雖も唯手を拱いて各地の砲焰を眺めてゐるに過ぎず、全く現實の世界政治から遊離した哀れむべき傀儡に過ぎなくなつた。

世界の米



世界の米

米は南東アジア人の主食物であるが元來熱帯の代表的産物であつて、インドを原産地とし我が國語のウルチ、歐洲語のリス・ライスは共にその根源をインド語に發してゐるといはれてゐる。氣候馴化力の強い植物であるため温帯地方にも栽培せられ、太古既に我が國にも傳はり米食は我が國の歴史と共に始つてゐる。支那人は更に遠き昔に米を移植したであらう。滿洲ではその栽培は最近盛となり、北緯五十度線を越えた黒河附近まで作られてゐる。西方に對しても古代アレキサンダー大帝の遠征の頃既にメソポタミアに栽培されて居り、次いでエチオプト及び歐洲に入り第十七世紀には北米に傳はり、最近では南米にも移植されて次第にその栽培範圍が廣くなつた。

稻の生育には氣温の高いほどよい。それは稻が本質的には熱帯植物で熱の積算量三千度以上にならないと成熟しないからである。成長期間中の平均氣温が攝氏二十三度以下に下らない地方では年二回以上の收穫が可能であつて、我が臺灣以南の各地では米の多毛作は普通である。而してこの熱量のほか稻の生育には豊富な水が必要であつて、このこと、南東アジアが主たる米産地であること、は因果的關係に立つてゐる。これはこの地方が夏の季節風によりて多量の雨を持來すからである。さればこの季節風の生じない西アジアやアジアの内部では米作は少い。歐洲では米は氣温的關係から南歐に作られるも、乾燥せる地中海氣候はその普通の分布を許さず、主にイタリーのポー河沿岸やイベリアの海岸等に作られる。北米の米作地はメキシコ灣の北岸やカリフォルニアに我が篤農の手により始められたが、雨量が少ないので凡て灌漑によつてゐる。

これ等の自然條件に對し人文條件として稻はその栽培に多大の勞力を要するから、人口稠密の地方でなければ耕作が困難である。或は逆に米作地には人口の稠密を來すともいひ得る。これは米作が他の穀物に比し收穫率が甚だ大であるから、比較的小面積の耕地も多くを人口を養ひ得るのである。我が國や支那本部の人口の稠密なるは一はこのためである。次に米作の世界分布を觀るに世界に於ける米作可能地域は大體北緯四十五度、南緯三十八度邊まで、あるが、世界生産の九割三分までがアジアの季節風地帯に限られてゐる。併しこの地帯内にも需給の關係は區々であつて我が國・滿洲國・支那・インド等大部分は供給不足の國々で、餘剰のあるのは佛印・タイ國・ビルマ等である。これ等の諸國間に需給を圓滿にするだけでも東亞共榮圏の必要が存するのである。

アジア以外の米産地は局所的でその量もいふに足らないが、そこに米を産することは我が國人の發展にとりて重大な要因であるから、仔細にこれを研究しておく必要がある。

これ等の産出額は国内の需給を満しなほ餘れる國ありまた不足する國あり、これ等の調節は概ね海を遠く隔てた國々との間に大規模に行はれるので、平時に於ても小麦は世界の商業並に海運を左右し、戦時に於ては交戦國の勝敗を決する一要素ともなるのである。而して現大戰前世界諸國中小麥を最も多く輸出せる國はカナダ・オーストラリア・米國・アルゼンチン・ソ聯邦等であつて、主なる輸入國は英・獨・ベルギー等であつた。

要するに小麦は世界に於て最も分布廣き穀物で、これは歐洲人移住の結果であると共にまた歐洲人の世界的發展を扶けた一つの要因である。

ソ聯邦一五・三 米國一四・八 支那九・八 インド六・四 カナダ五・五 フランス五・五
アルゼンチン五・一 イタリア四・七 ドイツ三・五 ルーマニア二・八

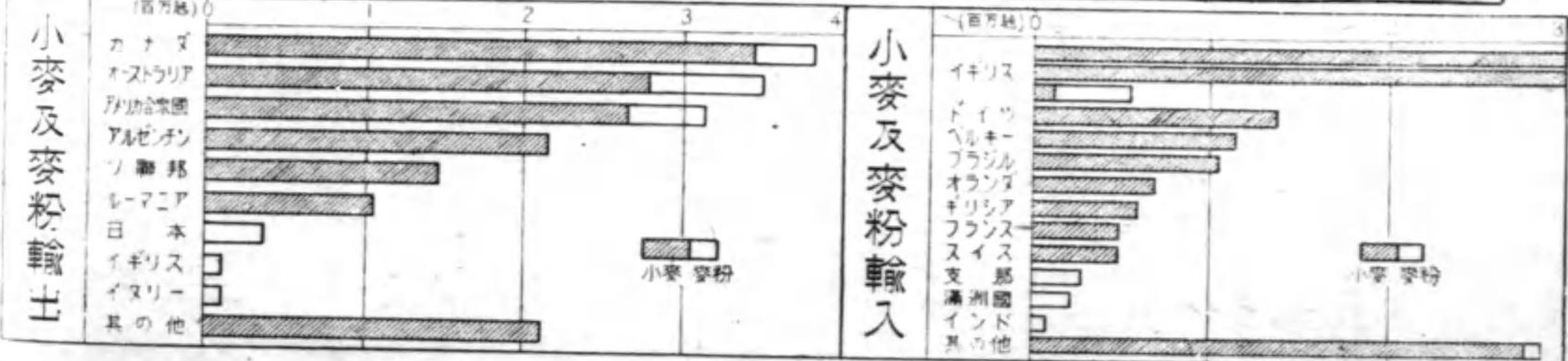
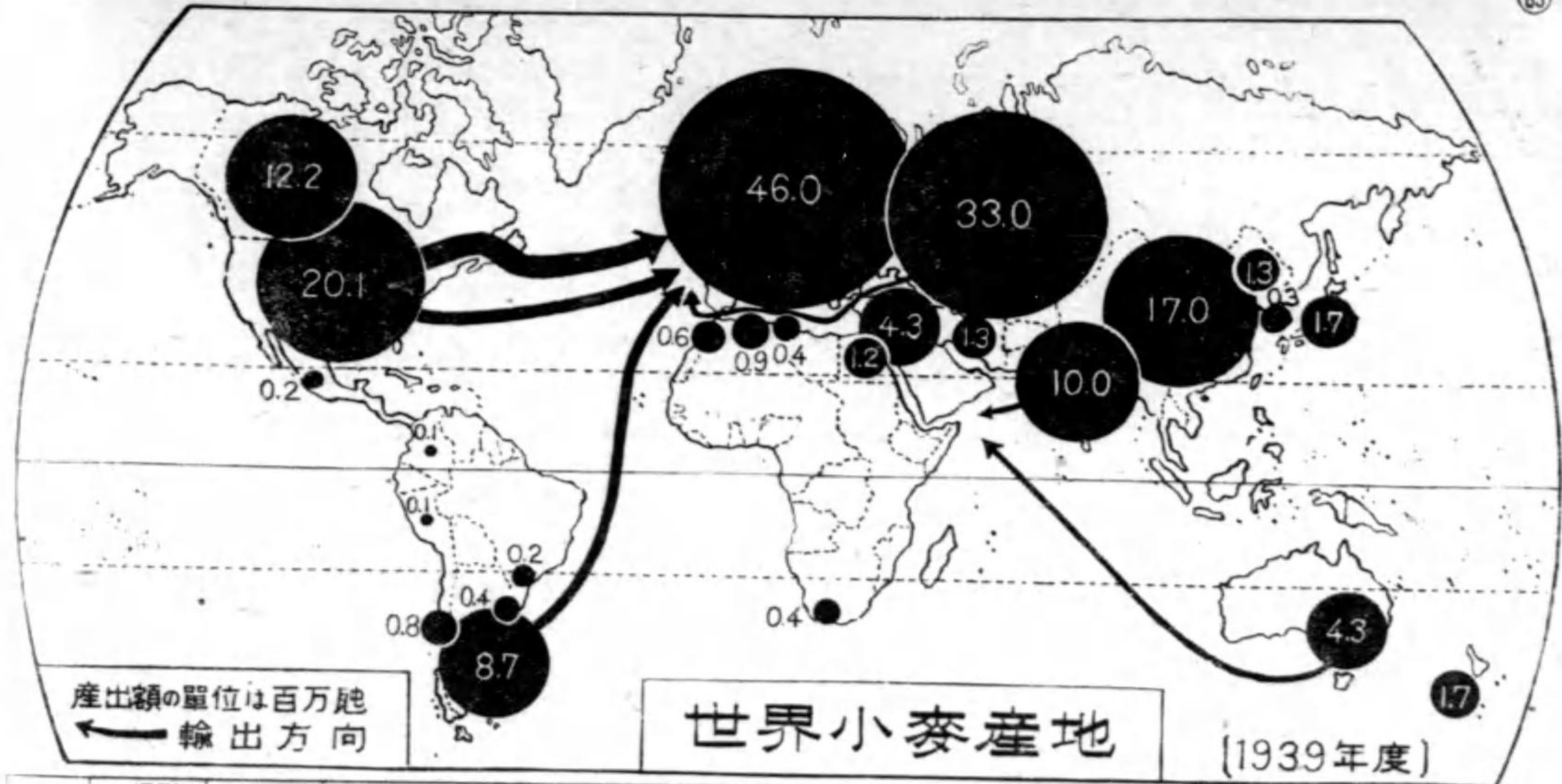
現在の世界の生産を觀るに世界總産額は一億七千萬噸（一九三八年）であつて、主なる生産國の百分率は割合左の通りである。

小麦は種類により收穫期を異にし殆ど一年中世界の何所かでとれるが、大體春小麦と冬小麦の二種になる、土壤についてはこの穀物は地力をかなり消耗させるから、能ふ限り肥沃なことを要し黒土・黄土は好都合である。更に小麦栽培には稻ほどの勞力は要しないが收穫期には相當の人力が必要である。併し前述の如く各地の收穫期が異つてゐるため、勞力の融通が可能であり季節移民を惹起せしめる。南米に向ふイタリア人の「ゴロンドリーナス」は従來その著名なものであつた。また小麦は世界各地非常に收穫率を異にし「エーカー」の收穫八乃至四十四ブッシュル（我が一反歩當り約四斗乃至二石二斗）であつて、粗放的農業の行はれるロシア或は新大陸と集約的農耕地方とを比較すると殆ど五倍餘の差がある。これは或る意味に於て人類の將來の食料の増加率を暗示すると共に、既述の世界可容人口を左右する原因ともならう。

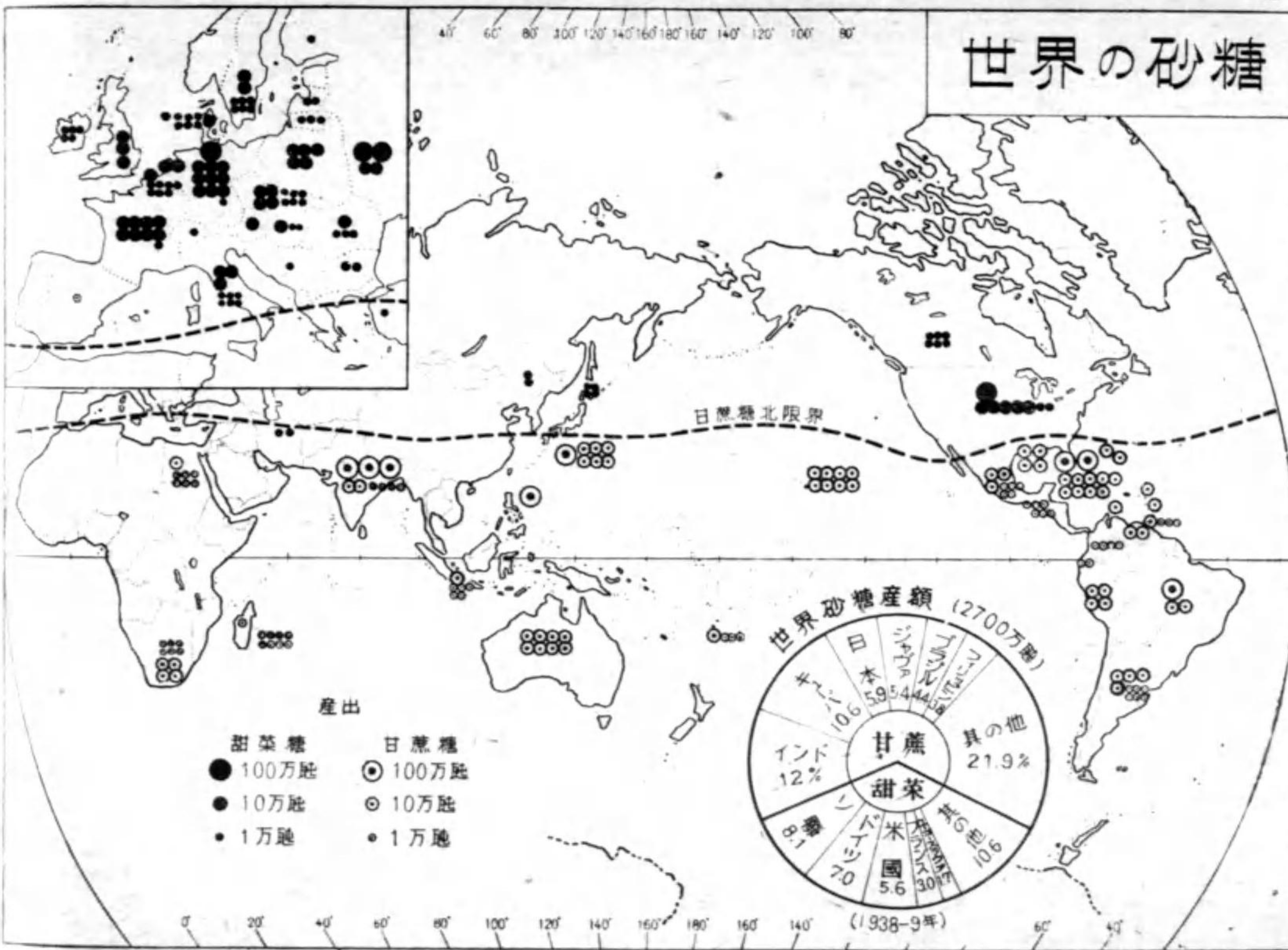
米がアジア人の主食たるに對し小麦は歐・米人の主食である。その原産地はヒマラヤの北西といはれ、米が原産地から暖濕の南東地方に弘まつたのに對し、小麦は溫和寒雨の西アジアから歐・米に延び、こゝに東・西主食の差を生じたのである。

小麦は米に比すればその要する熱量は少いが、その成熟には最低溫度攝氏五度の地方を必要とし、有利な栽培をなし得る地は生育期間三ヶ月の平均氣温十四度以上である。現在の生育限界は、ノルウェーでは北緯六十四度シベリアでは六十二度に達してゐる。併し最も普遍的な栽培地は北半球で二十五度乃至五十五度、南半球ではこれよりやゝ北に偏する。熱帯・亞熱帯は本質的な栽培地ではない。

世界の小麦



世界の砂糖



世界の砂糖

砂糖の原料植物は熱帯と温帯とに産し、熱帯産のものは甘蔗であつて温帯では甜菜から製せられる。甘蔗の原産地はインドであり、今日甘味或は砂糖を示す語サッカロンは元來インド語より發したといはれてゐる。歴山大帝時代既にギリシアに知られ、その後十字軍の時代に地中海沿岸への移植に成功し、更にスペイン人によつて西インドや南米に移され次第に栽培範圍が廣まつた。日本には豊臣時代に初めて九州に傳はつた。

甘蔗栽培に必要な條件としては年平均氣温攝氏十七・五度以上のこと、殊に夏は出来るだけ高温を要し多湿と乾燥の週期的變化あるをよしとする。土壤の點から觀れば、石灰分に富み排水がよく且つ深層をなしてゐるものが最も選ばれ、熔岩の露爛したものは地味最もこれに適する。ハワイ・キューバ・ジャワの如き火山地方が、悉く甘蔗産地たる理由の一はこゝにある。次に人文的條件としては安價で大量の勞働力を得ることが先決問題であるが、産地が生活の低い熱帯であるのでその條件は容易に充されてゐる。

現在甘蔗糖の生産地は先づインドとキューバを双壁とする。前者は國內の消費大なるため輸出力はなく、後者は米國の資本により經營され米國への供給を主としてゐる。この二國に次ぎで我が臺灣やジャワ・ブラジル等があり、我が臺灣の糖業は領臺以後發展したものであるが、ジャワの糖業は近時大いに減退した。甘蔗はその苗種の良否によりて著しくその收穫量を異にするので、何れの地方もその適性の良種を得ることに苦心してゐる。我が臺灣の成功はハワイ産の蔗苗の移植が最大原因であつた。

次に甜菜を觀るに甜菜はもと地中海岸の野生植物であつたが、大ナポレオン時代に初めてこれからの砂糖製造が實際的となつた。而して甜菜は氣候馴化力が強いため次第に中歐から北歐までも栽培さるゝに至つた。併しその自然條件としては生育期には平均氣温が攝氏二十度に達せねばならぬので餘り寒冷な地方には作られない。今日ではソ聯邦とドイツとの産出が最も多く、米國・フランス等がこれに次ぐ、生産費の上から甘蔗糖と甜菜糖とを比較すると、前者の方が甚だ有利であるから甜菜糖は今世紀の初まで巨額の保護金により、また今日では特別の保護の下に産出されてゐる。併しその産額は甘蔗糖には到底及ばない。我が國で甜菜は北海道に作られるがその量は多くなく、朝鮮の甜菜糖は近時大いに衰微した。唯北滿平野は栽培適地とせられてゐるから、他の作物と比較し有利の場合には發達する可能性はある。

砂糖は今日文化國民の必需品であるのでその供給は政治上の一要素となり、米國の比島保持は砂糖供給の必要に負ふ所が少くなかつた。キューバに對する米國の制限も同一理由の下に行はれてゐる。

棉花は亞熱帯の代表的農作物の一つである。その原産地はイラン高原からメソポタミアに亙る地方で、それより東西に傳はり我が國には遠く延暦年間天竺船が來航して棉種を齎した。第十八世紀の末紡績機の發明以來世界各地で大規模な栽培が行はれ、今日は穀物に次ぐ生活必需品として國際貿易上に於ても極めて重要な地位を占めてゐる。

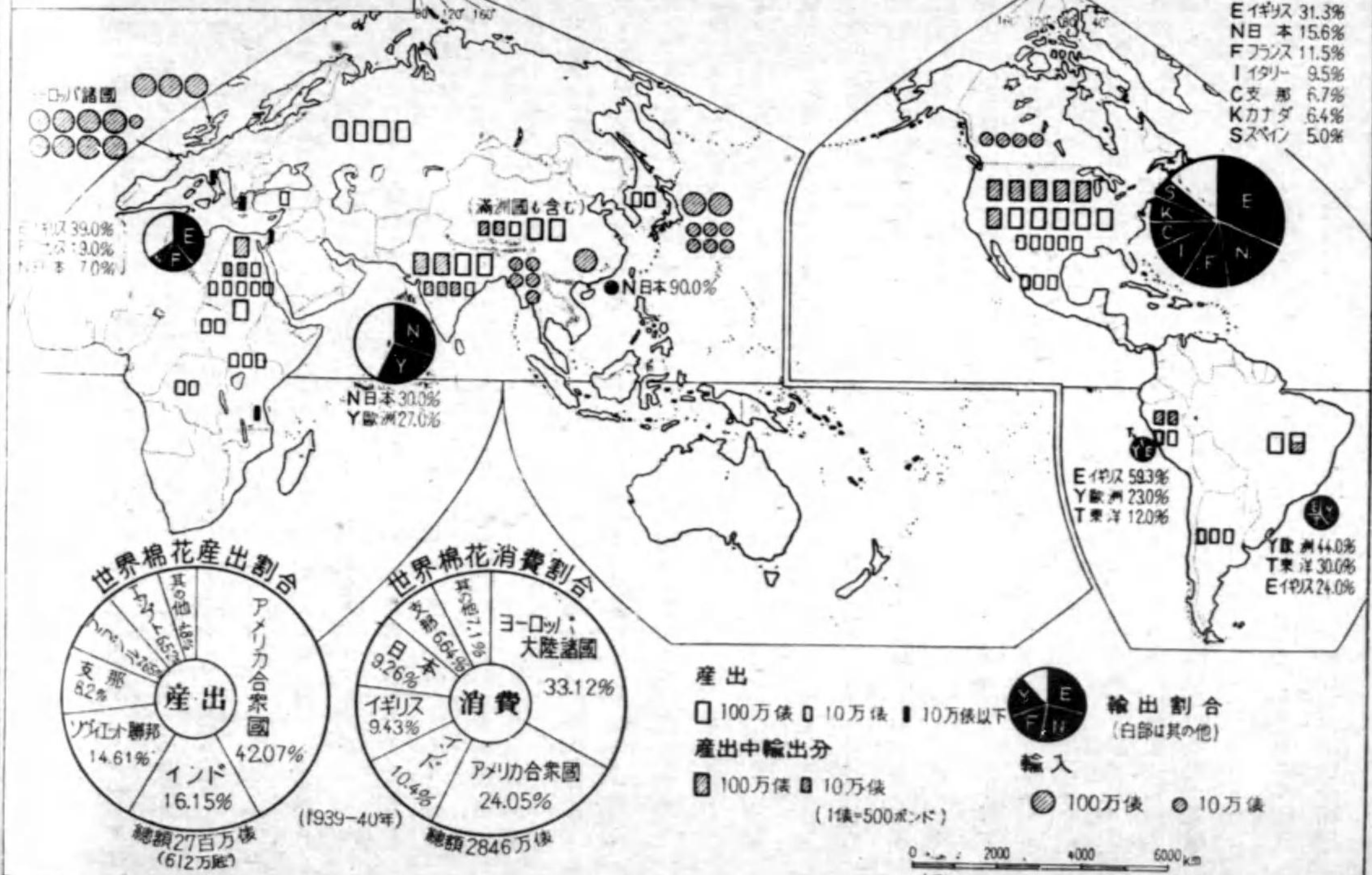
棉花栽培の自然條件としては、先づその成長期間六ヶ月は平均氣温が攝氏十八度乃至二十六度にあつて降霜なきことである。故にこの點からすれば赤道の南北各々三十八度邊が栽培の限界である。また温度の急激な變化なき地方を良しとし、米國西岸の海島棉の良種なるはこれがためである。棉花はまた原産地が乾燥せる亞熱帯であるため、我が國の如き濕潤な地方では良質が得難い。支那もほゞ同様であつて、エジプト棉花はその反對の理由により良種を得るのである。更に棉作は地力を甚しく消耗させるから肥沃な土壤を栽培適地とし、インド棉はデカン高原の熔岩の霉爛せるレグール土の上に作られるのである。

以上の自然環境に對する人文的條件として棉花はその耕作並に摘取りに多大の廉價なる勞力を要するので、米國の如き地方には低賃銀の労働者を多數輸入する必要があり、これが今日米國南部に多數のネグロ族がある原因である。

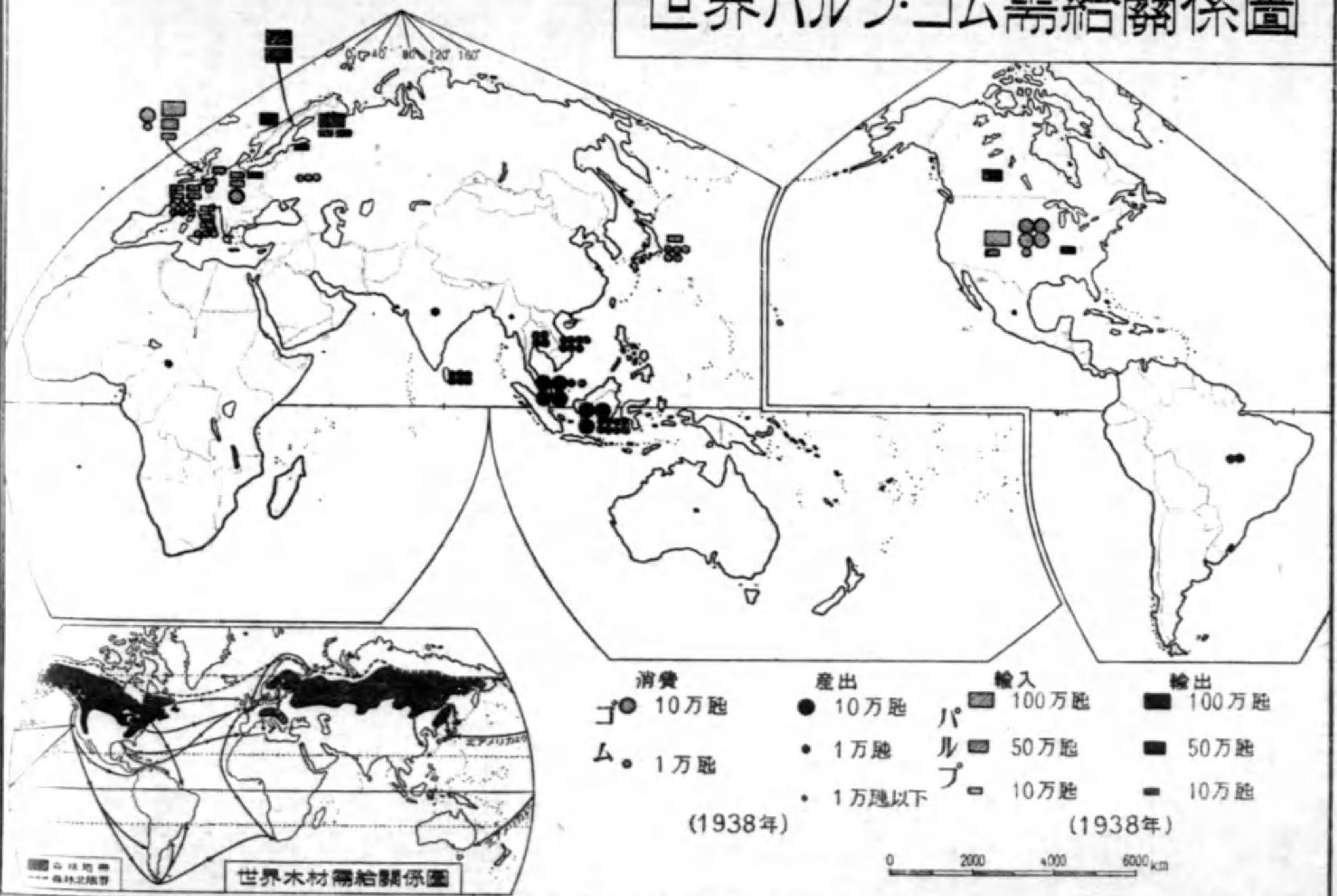
世界に於ける棉花の産出は米國がその中心で世界全額の四割二分を産し、インド・ソ聯邦これに次ぐ。インドの耕作はアメリカの南北戦争の際、米國から棉花の輸入杜絶に苦んだ英國がこれを奨励した結果である。ソ聯邦の棉花は最近の發達にかゝり主として産業五ヶ年計畫によつて急速に勃興した。支那の棉花耕作は歴史が古いがその量も多からず質もよくない。滿洲國の棉花は今や漸く發達の端緒を得たのみである。

而してこれ等棉花の生産地には棉工業も發達してゐるが多くの餘剰があるので、歐洲諸國や我が國はこれを輸入して紡績の原料としてゐる。世界最大の輸入國は英國であつて、英國は機械紡績業發祥の地であり、ミュール機が多く、氣候濕潤なため細絲紡績が行はれその原料はエジプト・米國より輸入せられる。我が國は英國と反對にリング機が多く太絲の紡績が盛で、原料は米國のほかインド及び支那からも輸入した。近時棉花生産地に於ける消費増加の傾向が顯著であるが、現大戰による輸出の杜絶からこの自己消費の率が倍々多くならう。若しこの趨勢にして大戰後も持續せらるゝならば、附近に供給地を有しない西歐純消費國では漸次綿業が衰微するであらう。これに對し我が國は大東亞共榮圈内に於て棉花耕作を興して原料自給をなし得るから、我が綿工業は決して悲觀するに及ぶまい。

世界の棉花



世界パルプ・ゴム需給関係圖



世界のゴム

ゴムは第十八世紀の初頭にその利用が發明されたが、爾來僅々百年の間に近代交通機關・器械類の異常な發達に伴ひ、一躍して重要な國際貿易品となつた。ゴムはもとアマゾン河流域の野生ゴム樹を主原料としてゐたが、今はその生産の中心が南東アジアに移つた。

ゴム樹生育の自然條件は年平均二十一度に及ぶ高温と二千耗以上の豊富な雨量と、低平な地形深い土壤及び風の弱いこと等である。アマゾン流域はこの條件について理想的な土地であつたので自然に繁殖し、その生産物は輸出港の名に因みてパラゴムとして著名となつた。併しゴムの生産には棉花と同じく大量で安價な勞働力を要するが、アマゾン地方はこの點で全く缺けてゐたから、第十九世紀末以來大規模な栽培は自然・人文兩條件を満足せしめる南東アジアのマライ・舊蘭印方面に行はれるに至つた。この所謂栽培ゴムの生産は一九一一年以後野生ゴムを壓して、今日は世界ゴムの生産約百萬噸の九割以上は南東アジアの占むる所である。而してそのゴムの半は米國がこれを需要するので、大東亞戰爭により皇軍がこれ等ゴム産地を全部占領したことは米・英に致命的打撃を與へた。

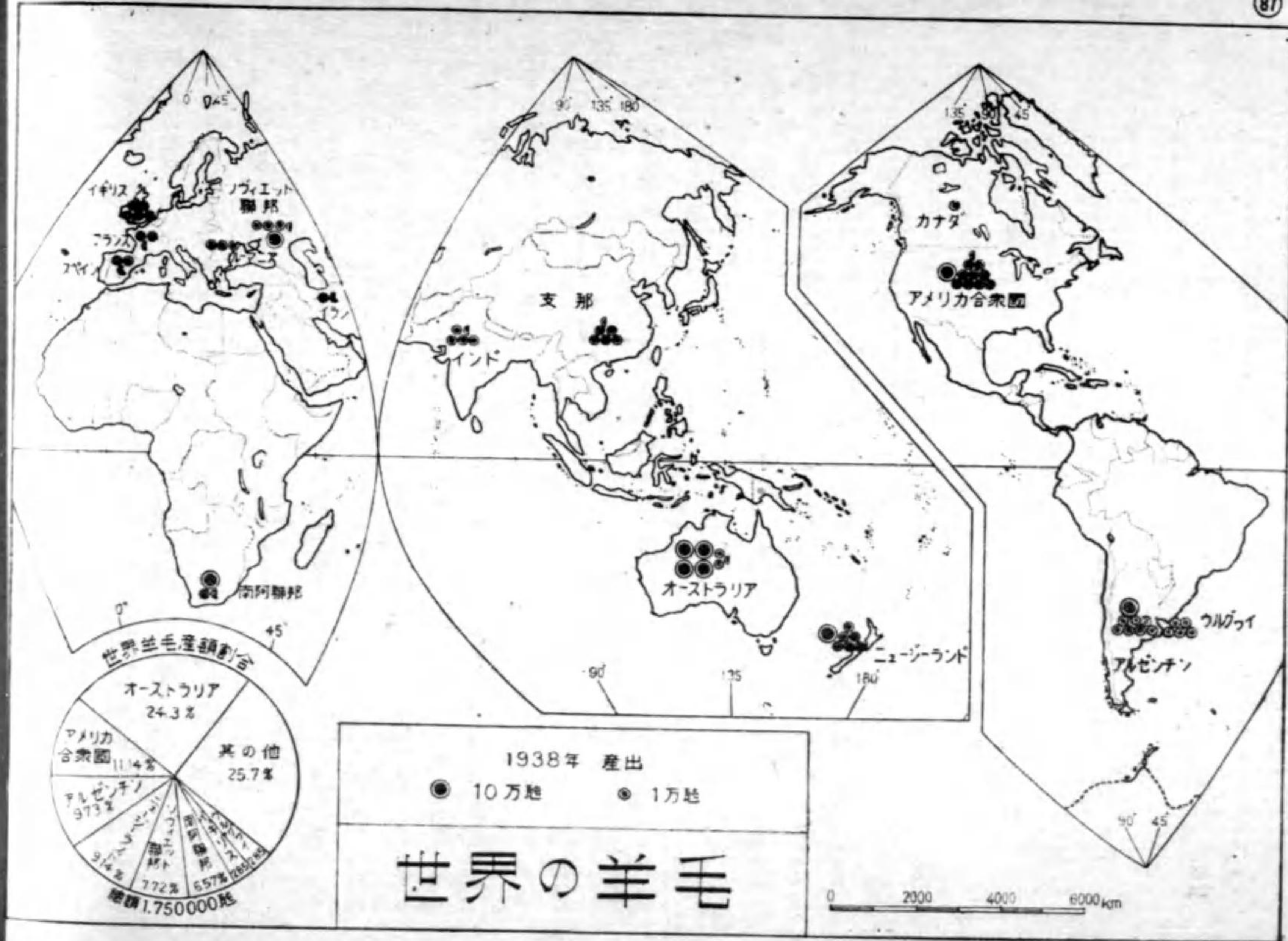
世界の木材及パルプ

世界の森林面積は約二千八百萬方呎と稱せられ、一般に北半球に多く特に北米の西部及びユーラシア大陸の北部には連続した一大森林を見る。これと南方熱帯森林地帯との間には温帯の疎林地帯が介在する。

樹木の生育を左右する自然條件としては氣候が最も重要であるが、熱帯では高温多雨のため植物の同化力が旺盛でジャングルをなして密生し、チーク・マホガニーの如き硬木となり、また樹木の色を濃厚ならしめ、紫檀・黒檀等の特殊な貴重木を生せしむることゝなる。これに對して寒帯の樹木は抵抗力が強く粘着力が大きい針葉樹となり、これ等はマツチ・パルプ等の原料として最も良好である。温帯樹は主に建築用材となる。現在世界木材の生産は約八億三千萬立方米でソ聯邦・米國・カナダ・日本等が重要産出國である。

パルプは現在世界の總生産額二千四百萬噸であつて、米國・カナダ・スウェーデン・ドイツ・フィンランド・ノルウェー等を主産地とするが、その中國内の需要を充し國際市場に出るパルプは約四百五十萬噸である。主要輸出國はスウェーデン・フィンランドであつて、主要輸入國は英・米・伊・佛・日等の諸國である。

今やパルプは製紙・人絹・スフ原料として需要は益々増大する一方である。我が國は従來多量のパルプをスウェーデンやカナダから輸入してゐたが、東亞自給圏の擴大に伴ひ能ふ限りその供給を國內に需めねばならぬ。このために政府は夙にパルプ増産五ヶ年計畫を樹立し國內の生産増加を圖ると共に、滿洲の原始林を利用することが盛となつた。



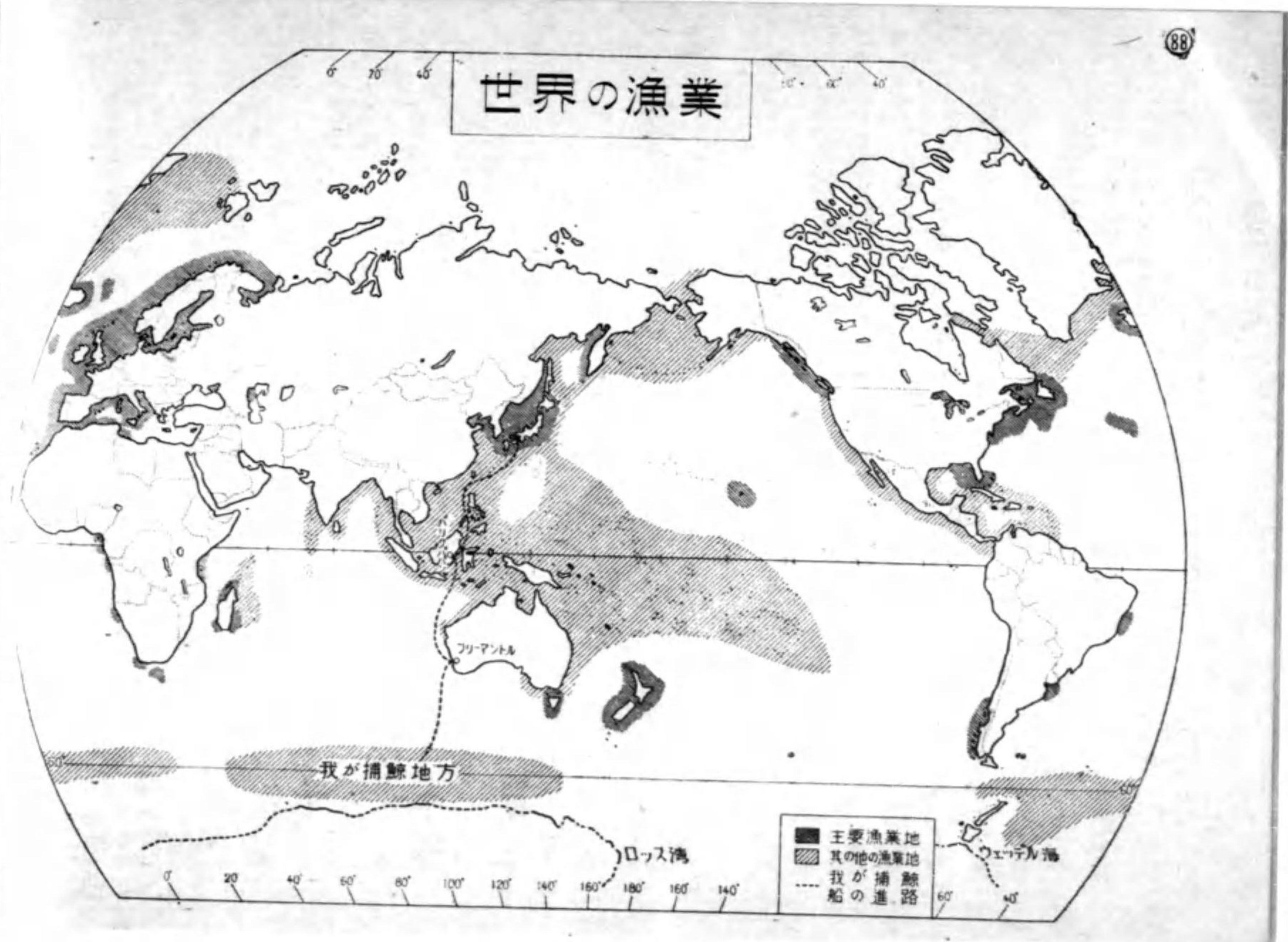
世界の羊毛

羊が人間に飼はれたのは食料と衣料を同時に供給するからであつて、その飼養は文化の初期からである。舊譯聖書の創世紀にもアブラハムと羊の記事があり、支那の古文獻にも羊は凡ゆる家畜の代表とされた。今日でも羊の飼養は世界到る所に行はれ、總頭數約七億頭でその分布は牛・馬よりも遙かに廣い。これは羊が牛馬の食せざる短草によつて養はれるからである。羊は雨量の少い乾燥地域を特に好むので、スペインの高原はローマ時代から羊の産地として著れ、最良の毛用種メリノもまたこの原産である。これに反し雨量が多く濕潤な土地に牧羊は盛とならぬが、肉用種ならば飼養せられる。南米のコリドー種はその代表のものである。

世界の羊毛は年産百七十五萬噸を算し第一の生産地は濠洲であつて、世界の四分の一を占める。こゝには第十八世紀末スペインから初めてメリノ種數十頭が輸入され、海岸山脈西斜面のダウンズ地方の風土がこれに適したため發達したのであつて、今日羊の頭數は一億一千萬頭に及んでゐる。米國これに次ぎロッキーマウンテン東麓のプレーリーが主要飼養地である。アルゼンチンはパンパスを中心として羊毛・羊肉を共に産し、ニュージーランドも同様の状態にある。ソ聯邦も中央アジアの平原に近年相當の産出を示すに至つて居り、南阿聯邦は氣候的關係が良好であつて歐人の占據當時から牧羊が行はれてゐた。東亞では北支・蒙疆に羊毛の産も少くないがその質が未だ不良なのが缺點である。將來は滿洲のホルンバイル高原の牧羊と共に、科學的な品種改良を行はねばならぬ。

これ等各地に産する羊毛は自國の需要を充たし世界總産額の半以上は輸出に向けられ、主なる輸出國は濠洲・アルゼンチン・南阿聯邦・ニュージーランド・ウルグワイ等で、主なる輸入國は英・佛・獨・日等である。我が國への輸入は昭和十二年に十二萬噸、同十三年に五萬三千噸であつた。

而して現在世界の羊毛生産の四分の三が英國の支配下にある。これは前述の濠洲を初め英領各地の産出と、事實上英國の手中にあるアルゼンチン・ウルグワイ等の羊毛を合したものである。今次の世界大戰勃發と共に英國は直ちに羊毛管理を行つてこれがドイツ側に渡ることを防ぎ、日本の濠洲輸入に際してもこれを第三國に轉賣せざることを求むる等、軍需品としての羊毛資源の確保に力めて來た。併しながらドイツの科學は遂に人造羊毛(フナ)の成功を齎し、今次の大戦に羊毛が自給せられたのみならず、將來に於ける羊毛生産に對し大なる脅威となるであらう。



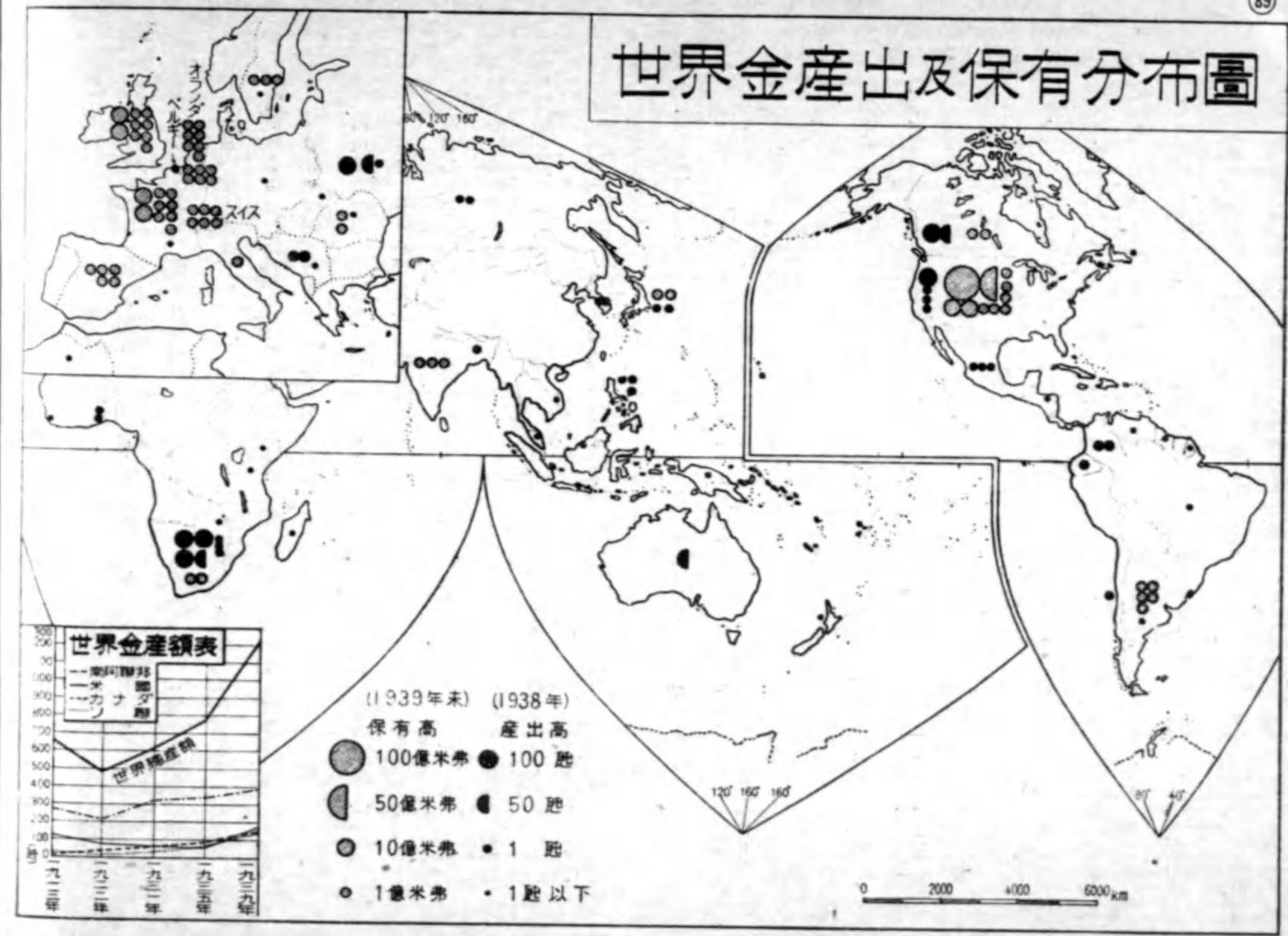
世界の漁業

漁業は諸種の産業中最も原始的であつて未だ奪取經濟に屬し、自然が優越的に作用する。自然的條件の第一は漁業が大陸に近き淺海即ち地理學上の所謂大陸棚の上に行はれることで、これは主として魚類の餌料がこゝに得らるゝからである。殊に魚礁と稱する淺瀬には魚類が最も多く蚰集する。第二は海流であつてその溫度が魚族の生活條件であるほか、その海流によりまた餌料が運ばれるからである。第三は沿岸の地形・植物等による影響であつて、地形の如何は産卵上の便否となり森林の繁茂はまた豊富なる餌料を與へる。

世界に於ける主なる漁場は所謂三大漁場であつて我が近海・北歐・北米東海岸である。このほか各地に小漁場がある。我が近海は黒潮と親潮の交錯する所で世界最良漁區の一をなし、古來吾人の祖先は魚類を「海の幸」と呼び、漁撈は神代史に記されてゐる。現在内地沿岸や朝鮮沿岸等所に行はれ年産額約五百三十萬噸、世界總産額千四百萬噸の四割弱を占め世界第一の漁業國である。近時南極洋の捕鯨業が急激に發達し、北極洋にも試みられつゝある。北歐の漁區は北の方白海からノルウェー・英國を経てビスケー湾までの海面を包含し、ドゥッガーバンクの如き淺瀬に恵まれてゐる。獲物は鱈・鯨・鱈・鰻である。この漁區の年産額も三百萬噸以上である。第三の北米東海岸はラブラドル寒流とメキシコ灣流の衝突する所で、カナダ東岸・ニューファンドランドを中心とし米國中部まで及んでゐる。この漁區では鱈・鯖・鯨が主要な獲物である。この三大漁場は大體北方の寒冷な海洋に限られるが、これは寒冷な海が海藻に富み他の餌料も多いためである。右三大漁場のほか世界の主なる漁場として北米西岸の鮭・蝦・赤道附近の眞珠貝がある。

次に政治上より漁業を観察すると、漁業は無限の資源を持ちまた大部分公海に行はれ各國の漁船が互に競争するので、海洋に關し屢々政治上の問題を惹起する。例へば第十七世紀に北海漁業權を繞つて英・蘭兩國が争つた時、オランダの有名なグロチウスが「海洋自由」を宣言し、英國ではこれに對し「海洋閉鎖」を唱へ、こゝに初めて領海が問題とされたのであつた。領海は今日の國際法上海岸から三哩とされてゐるが、これは過去の密獵船を砲撃すべき大砲の着弾距離から割出されたことは周知の事實である。また嘗てニューファンドランド附近では英・佛が漁業權を争ひ、今でもフランスはこの地方にサンピエール・ミクロンの二島を漁業基地として所有してゐる。わが國に關してはソ聯邦の間に常に問題となる北洋漁業條約や最近廢棄となつた臘納歐保護條約の如きものがある。

世界金産出及保有分布圖



世界金産出及保有高

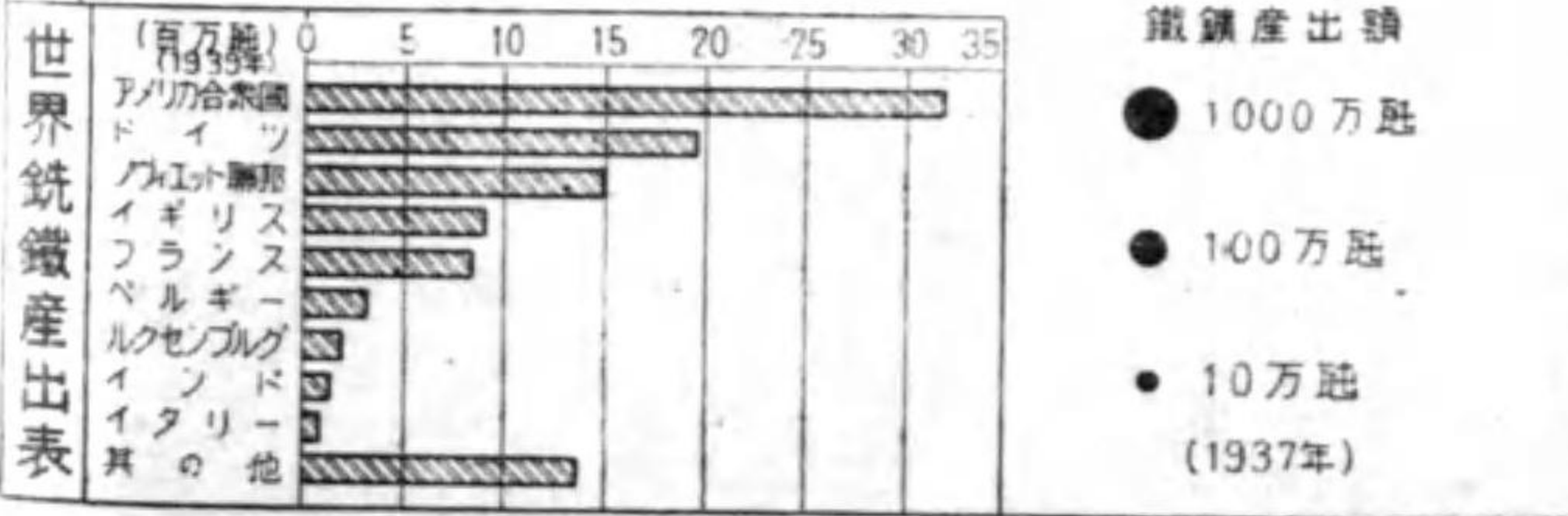
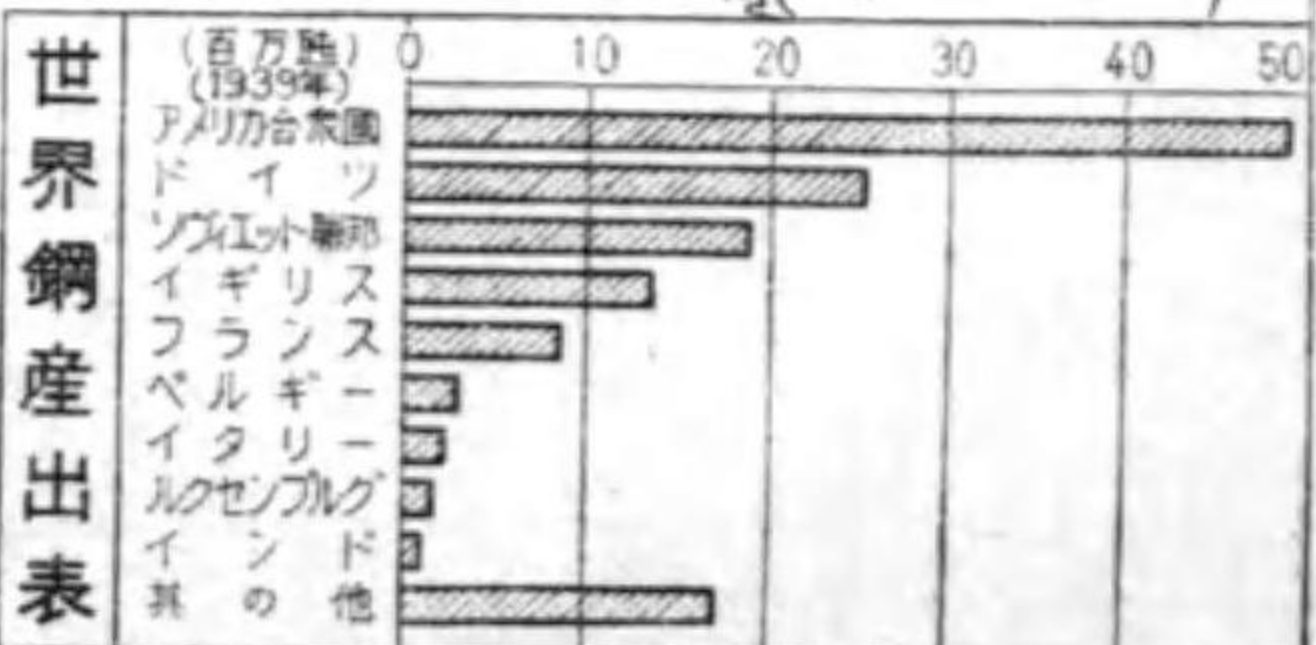
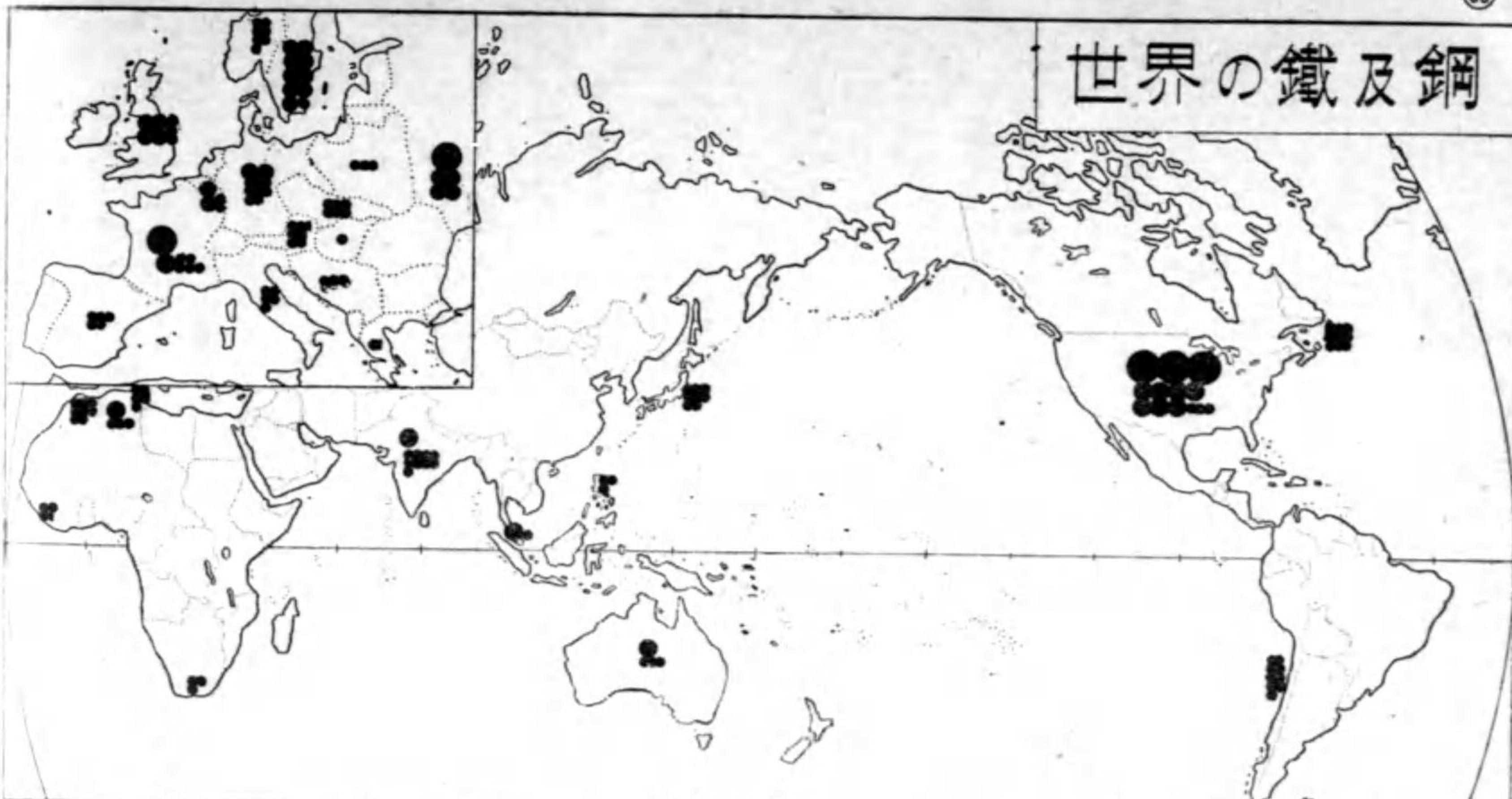
燦然たる山吹色の光、撃てば鏘然たる音を發する金は、凡ての場所と文野とを超越して古來人類の欲求の對象であつた。それにも拘らずその産出が甚だ少いので更に稀少價値を加へ倍々珍貴のものとなつた。端的にいへば世界人類の經濟生活はこの金の所有を目標として營まれ、その偏在は所謂金が譬の世の中となり屢々戦争をも惹起した。金は實に人類を毒する魔物である。

何故金は少いか、フランスの地質學者ローネーは嘗て言つた。地球上に於ける金屬生産の多少はその金屬の比重に反比例すと。この説は若干の例外ありと雖も大體に於て眞理である。殊に比重の最も大なる白金・金の産出の稀少なるはこの説によつて解釋が出来る。

世界人類の金の使用は既に有史以前からであるがその産出地は極めて局限せられ、概して西方文明の光被した地方は金の産出が甚だ少かつた。然るに我が國は古來産金國として知られ、これがマルコポーロによりて西洋に喧傳されたことは周知のことである。新大陸發見後銀は各所に見出されたが金はなほ少なかつたので、歐洲人の我が國への金の憧れは止まず、或は金の島・銀の島の探検となり或は徳川初期の金の流出となつた。然るに第十九世紀に至り北米のカリフォルニア・カナダ及び濠洲に金鑛が発見せられ、また南阿は青化法の發明により莫大の金を採取し得るに至り世界の金産額は俄然として増加した。現在世界の金産額は約一千二百萬噸でその六割までが英帝國內より出る。これにソ聯邦・米國等が加はれば世界産金の約九割はこの三國に握られてゐる譯である。

他方金の用途を觀るに今日は勿論大部分は通貨用であつて、多くは正貨準備として各國に於て保留せられる。今次大戦勃發前から世界各國の金保有高は著しい偏在を示してゐたが、開戦後歐洲より米國への金の逃避が盛となり、一九四〇年五月末の調査によれば米國の保有高は實に百九十二億弗となり、世界の金保有高總計に對して約七割四分に及ぶのである。而してフランスは二十億弗を有して第二位にあり、英國もフランスと伯仲の間にある。これ等の金の保管は列國の惱みの種で、米國はケンタッキー州の山中に一大貯金堡壘を作つて、百六十餘億弗の金を貯蔵してゐる。フランスもマルチニク島にこれを隠匿してゐると傳へられる。若し今日の如き金の偏在が戦後も續き、世界の各國が金によらざる交換經濟を樹立する如きことあらば、これ等の巨額の金は永久に地下へ還元するであらう。我が國の貨幣制度は最近金本位制から離脱した。

世界の鐵及鋼



世界の鐵及鋼

鐵は地球上に最も廣く分布する礦物の一で、人類は極めて古くから之を使用し鐵器は青銅器と共に、石器時代の次の文化時代を形成してゐる。併し歐洲の古代文明は鐵の少き南歐に發達したのでその利用は振はなかつたが、文明の中心が西・北歐に移るに及びその豊富なる鐵礦の存在は石炭の利用と相俟つて忽ち製鐵業の進歩となり、重工業が發達しその文明を倍々盛大ならしめた。東洋に於ては鐵礦の産少くまたその開發も後れてゐたので、これが東洋の物質文明を西洋に比し劣らしめた一原因となつてゐる。

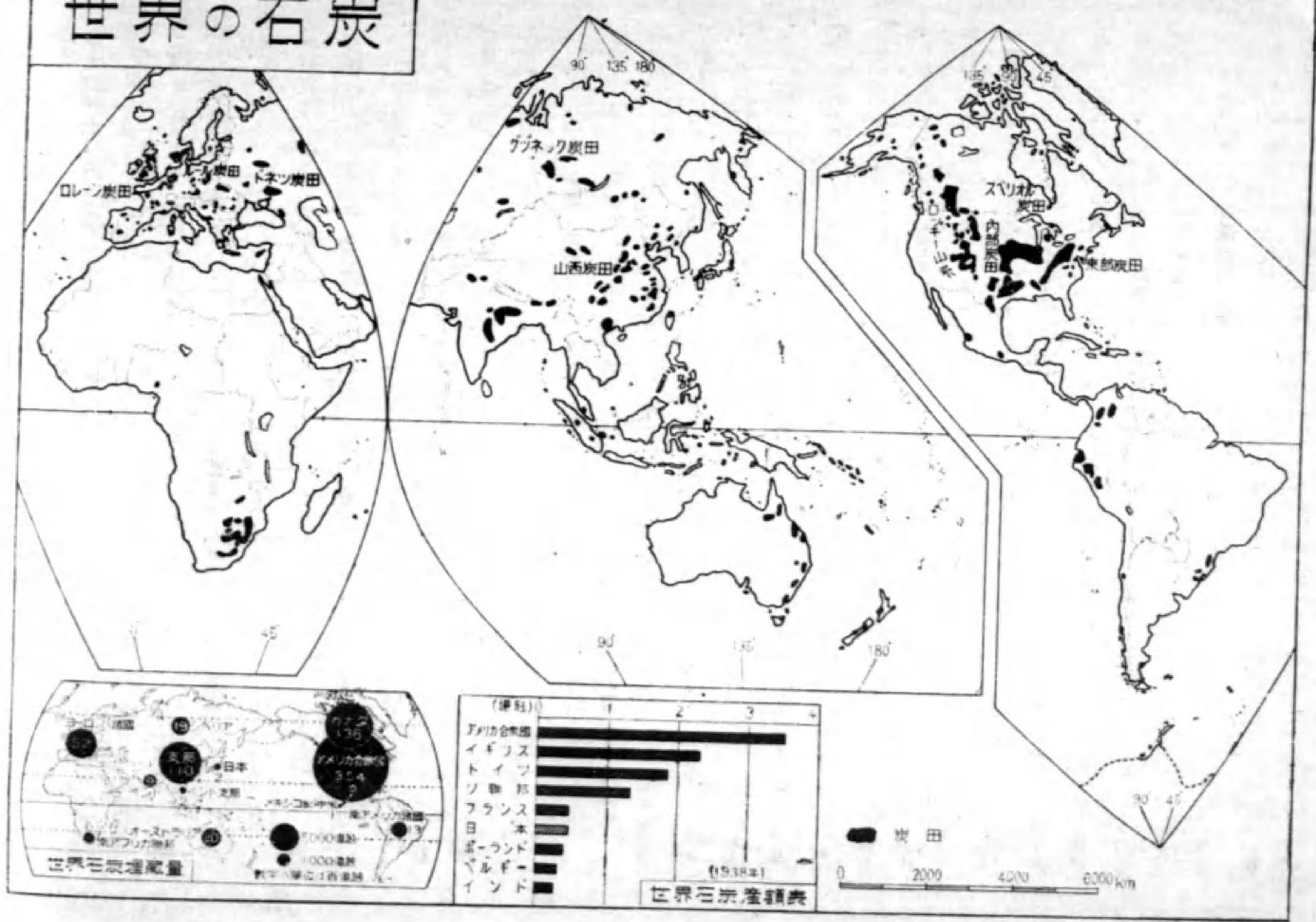
鐵礦の中では磁鐵礦・赤鐵礦・褐鐵礦或は菱鐵礦が重要なもので、含鐵量六割五分以上のもは所謂富鐵で磁鐵礦はその先頭に立つ。従來は富鐵のみが製鐵の原料となつたが、近年ドイツにて鐵分四割内外の貧鐵をも處理する方法を考案し、これにより同國の製鐵は急激な飛躍を遂げた。滿洲の我が製鐵業も最近貧鐵處理に成功し、その新方法は先進國ドイツをして反つてこれを學ばしむるに至つた。

世界に於ける鐵礦の産地は北半球の温帶地方に多く、殊に北米と北歐に集中してゐる觀がある。併し鐵礦のある所必しも製鐵業は興らない。スウェーデンの如きはその適例である。これは製鐵業には他の必要な材料即ち石炭・石灰石等を要するからである。英國が製鐵業に先鞭をつけたのは英國が鐵礦と石炭と併せ有したためであつたが、その鐵礦も餘り優良ならず且つその量も少いので、鉄・鋼共に今日では世界の第四位に落ちた。米國は現在世界第一の鐵の産地で鐵礦と石炭とは交通の便により結ばれ、鉄は世界總産額の三割餘、鋼は約三割五分を占めてゐる。米國に次いで鉄も鋼も世界第二位を占めるのはドイツであつて、第一次大戦でザール・ロレンその他の鐵産地を一時失つたが、その後スウェーデン・スペイン等より鐵礦を輸入して著しく産額を増した。今次の北歐戦線でドイツが先づ占領したのはスウェーデン鐵の輸出港たるノルウェーのナルヴィクであつた。

我が國は元來鐵礦の産が少く内地では釜石、朝鮮には載寧・般栗・利原・茂山等の鐵山があるが、その産額は少く、従來マライ半島・比島・支那等の鐵礦を輸入し製鐵業の原料としてゐた。また米國よりの屑鐵輸入も多く昭和十一年度では世界第一位の買入額を示してゐた。近時滿洲國に優良豊富なる鐵礦が発見され、また大東亞圏内のアウタルキが確立すれば、我が製鐵業は獨自の地歩を占めるであらう。

なほ世界に於ける最近の鉄産額は八千三百萬噸・鋼産額は一億三千五百萬噸である。鋼の生産がその原料たる鉄に比し額の多いのは、鋼は鉄に若干の炭素を加ふるほか、主として更に屑鐵を多く利用するためである。

世界の石炭



世界の石炭

石炭は近代産業革命の原動力であった。石炭利用の歴史は既にローマ時代英國に始まるといはれてゐるが、炭坑としての開發は第十二世紀にベルギーで行はれたものを嚆矢とする。第十八世紀に蒸氣の應用が發明されるや、石炭は木炭燃料に代つて世界各地で大規模な採掘が始まり、以て今日の盛況を來した。近年石油の進出によつてその燃料界に於ける價値はかなり侵蝕されたけれども、なほ重要性は失はない。

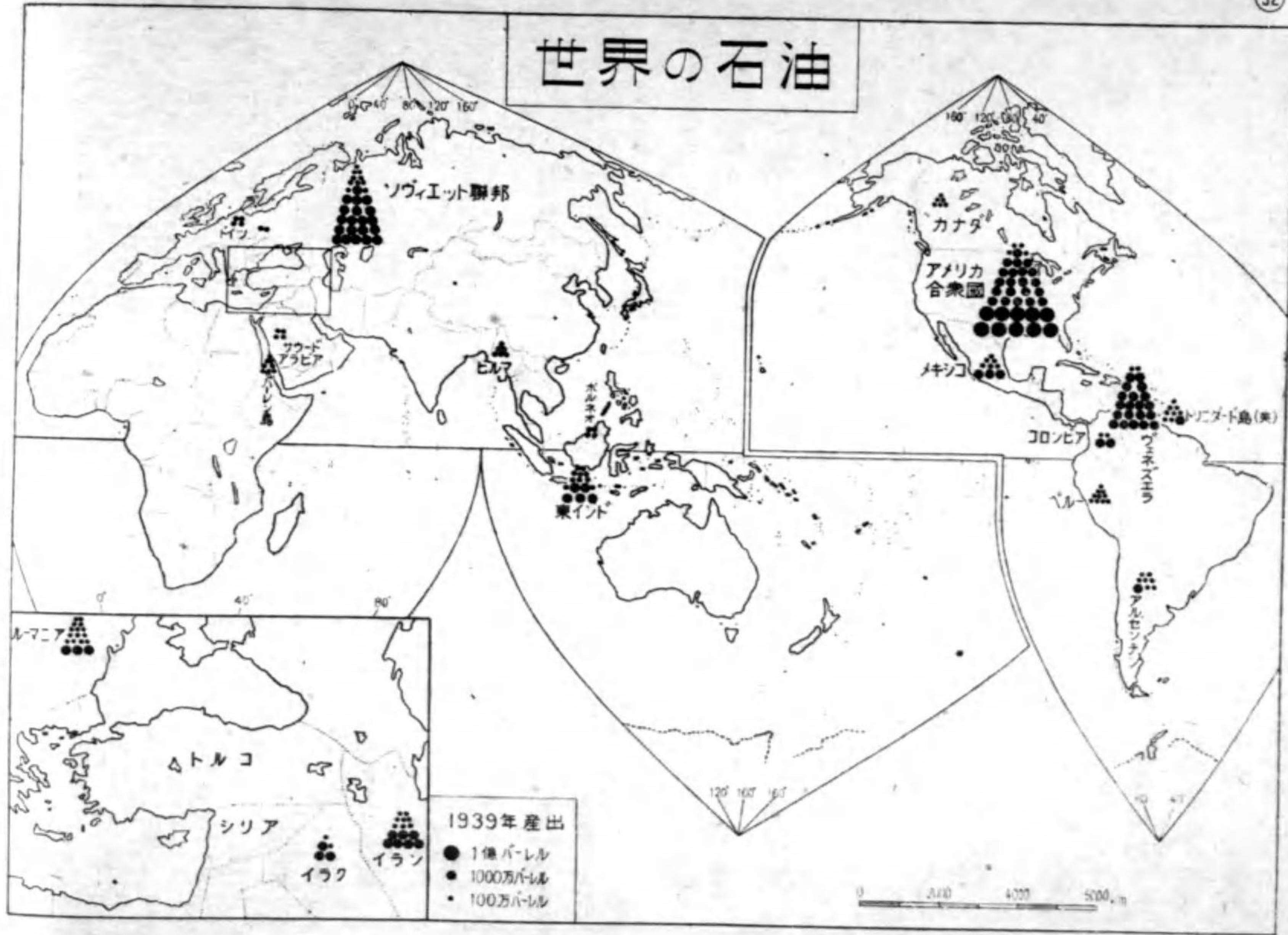
石炭は地質時代に地中に埋もれた植物の炭化せるもので、炭素含有量の多少によつて無煙炭・瀝青炭・褐炭・泥炭等に分けられる。生成時代の古きものは炭素含有量が多い。

世界の石炭の分布を観るに、大部分は地質時代の石炭紀の生成であるが、南米や濠洲にはこれより新しき中世代のものもあり、北米西岸・日本・ドイツ等ものは更に新しき第三紀層中にある。また一般に**頁岩な石炭**の産地は殆ど北緯三十度以北の温帯にあり、赤道を中心として南北三十度の間の熱帯・亞熱帯では、分量も少く質も粗悪である。これは石炭の作られた地質時代の氣候によつて影響せられた結果である。兎に角今日は石炭の所在地は多く温帯であるがため、また温帯國に文明を進歩せしめたのである。

現今世界に於ける**石炭埋藏量**は約十一億噸ともいはれてゐる。世界炭田の主要なるものは北米と北歐と北アジアに存するが、**北米の炭田**は米國とカナダにあり、前者の年産額は世界全産額(約十二億噸)の約三割を占め、カナダは未だ甚だ少い。北歐炭田中最も産額の多きは英國であつて嘗ては世界第一位を誇つてゐたが、今は米國に一籌を輸し世界産額の二割弱を産する。英國の石炭は良質にして且つ海岸近くに産する以てを輸出も少くない。これに反して第三のドイツは炭田は多く内地にあるので主として工業用に仕向けられる。ドイツはまた褐炭の産に知られてゐる。ソ聯邦は歐露にドネツ炭田あり最近非常に産額を増しこれに伴ひて重工業の發達を促した。

北アジアに於ては**日本**が現大戰前四千六百萬噸を出して、フランス等とは同位にあつた。滿洲・支那及び佛印も相當額を出してゐた。併しながら石炭の開發は文化の進歩・産業の發展階程に左右されるものであつて、この點で東亞諸國の産額の未だ少いのは當然である。例へば北支山西炭田中の大同炭田の如き無煙炭四百億噸の埋藏が確認せられてゐながら、交通不便のため今日僅かに年産數十萬噸に過ぎない如きはその著例である。西シベリアのクズネツク炭田もソ聯最大のものであるが、僻遠の位置にあるため未だ産額が大きくない。併し東亞共榮圈が確立され我が國が指導的立場を確保すれば、東亞に於ける石炭の増産や期して俟つべきであらう。

世界の石油



世界の石油

石油は現代の驕兒である。世に生れ出でてから未だ幾何の歳月を経ざるに、水・陸兩交通に於て石炭の地位を奪ひ航空はその獨占下にある。ルイス・フィッシャーは曰く、「石炭は既にその王座から落され、鐵と共に一九一四年の夏以後砲煙の中に最後の勤めを了へた、今日は石油時代であり石油帝國主義は馬上豊かに君臨する」と。實に今日石油なくしては戦争は絶対に勝利なく、従つて石油は軍事・政治・經濟上に絶大の權力を振つてゐる。

石油の成因には種々の異説はあるが水中生物の炭化せるものと考へられる。今日の油田は概して海岸・湖沼附近、或は嘗て湖海であつた平野に存する。而して世界の油田は各地方にあるもその分布は限定されてゐるから、こゝにホフマンの所謂空間經濟の對立が各國家間に於て一層激化し行くのは當然である。

石油需給の點から世界の諸國を觀察すると明らかに三つの國家群が對立してゐる。即ち(一)アングロサクソンの二大生産國英・米(二)その他の純生産國(三)純消費國である。

第一の英・米兩國はその廣大なる領土内に多くの油田を蔵し、殊に米國は自國內に年額約十三億バレルの産出があり、世界總産額約二十一億バレル(約三億噸)の約六割を占める。英國は自國內の産油地トリニダド島・ビルマ・カナダ・舊北ボルネオ等のほか、その勢力範圍たる産油國の油田に投資し世界生産の約三分の一を握つてゐた。

次に英・米以外の生産國としてはヴェネズエラとソ聯邦がその先頭に立ち、その産額は各々世界に對し約一割である。その他の産出國としては左の如くであつた。(括弧内は世界總産額に對する百分割合)

- イラン(三・九) 舊領東インド(三・〇) ルーマニア(二・三) メキシコ(一・八) イラク(一・六) コロンビア(一・一) アルゼンチン(〇・九)

而してこれ等諸國の大部分は弱小國か或はその領土であるので、巨大の資本を擁する英・米が夙にその魔手はこれ等の諸國に延ばし、英國はロイヤル・ダッチ・シェル、米國はスタンダード等の會社等により各國の利權をその手中に收めてゐた。

更に純消費國を考ふるにフランス・日本・ドイツ・イタリー等がこれに屬する。これ等の國々は一方には外國よりこれを輸入し、他方自國內に何とかしてその生産を圖らねばならぬ。而して輸入に就きては、英・米の如き既存勢力に對抗し石油産出國を傘下に收める必要上干戈に訴へることがあり、現在の歐洲大戰や最近の日・英・米戰にはこの要素が多分に含まれてゐる。國內生産に對しては國內に油田あるものはこれを開發するほか、油母頁岩乾溜・石炭低温乾溜・合成法石炭液化法等により人造石油の製出に苦心してゐる。

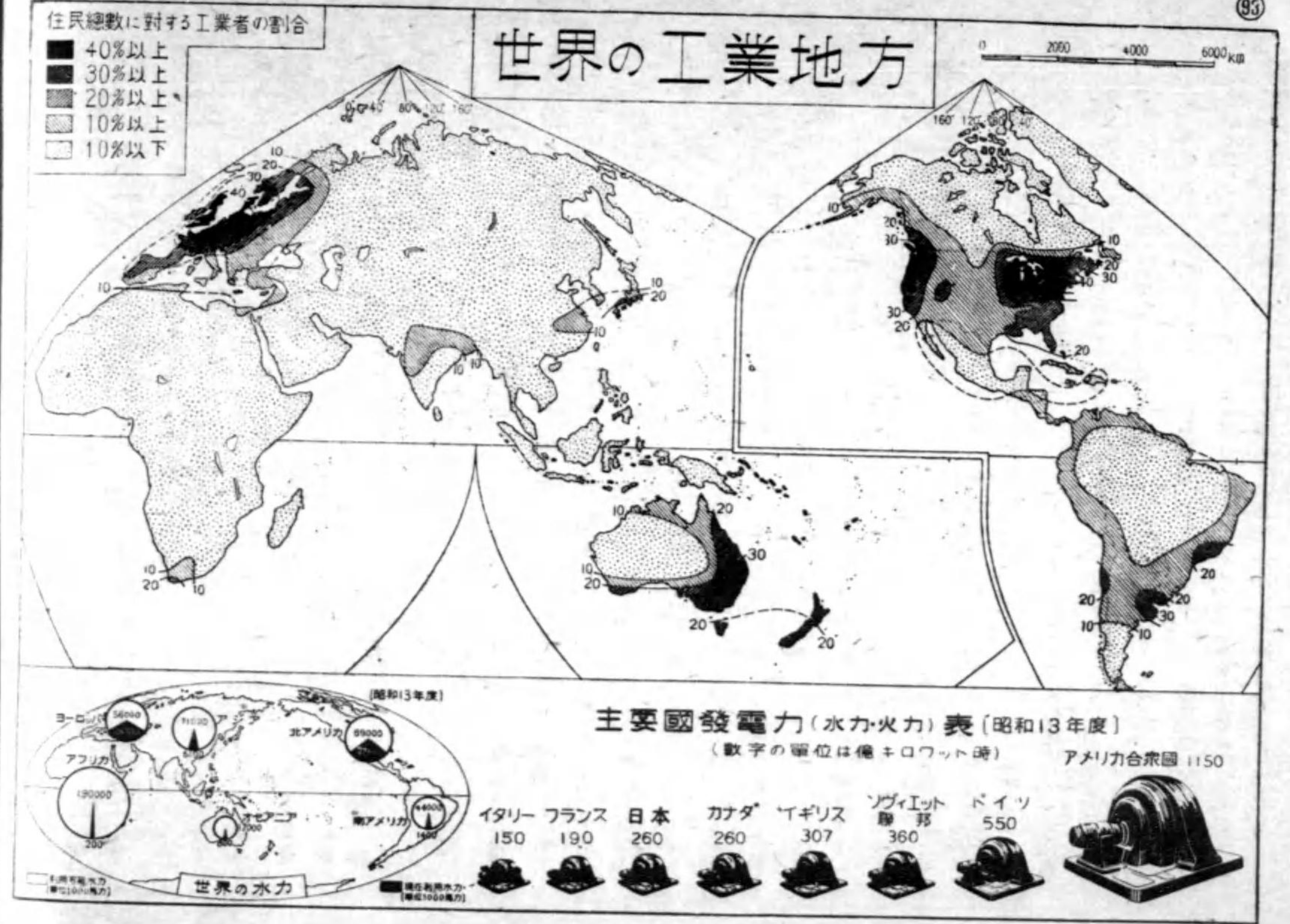
第十九世紀の初頭に發明せられた電氣モーターは第十八世紀の蒸氣機關と共に現代物質文明の父母である。電氣は初め石炭による火力發電であつたが、次第に水力發電に變じつゝある。現今世界に於ける發電量は水力・火力を併せ總計四千二百億キロワット時であつて、世界的に觀れば未だ火力によるものが多い。即ち英國やオランダは殆ど全部火力によりドイツは全電力の六分の五が火力、米國は水力一に對し火力一・五に當る。これに對し我が國は約六分の一が火力で他は水力である。スイス・スウェーデン・ノルウェー・スペイン・イタリー等は殆ど全動力が水力である。水力は永久的生命を有し一名白炭として將來全く石炭に代るであらう。世界に於ける利用可能水力は總計約四億五千萬馬力(一馬力＝〇・七四六キロワット時)と計算されてゐる。火力發電地方は石炭の存在に伴ふのは勿論である。世界に於て水力發電に適する地方としては先づ赤道を中心として南北緯七度の間の世界最多雨地方であつて、現在最も文化の後れてゐるアフリカ洲が世界最大の水力を有することはこれがためである。また大陸の縁邊にある島は年中雨量が多いから、日本やニュージーランドの如きは高峻な地形と相俟つて有数の水力資源を持つ。そのほかスカンディナヴィアの如く雨量は多くはないが落差の大なる地方も有望である。このほかナイアガラ瀑布や宇治川の如く河川の上流に湖水を有する場合は水量が一定してゐて都合がよく、また滿洲の大豊滿ダムの如く大規模な人造湖を作つて發電せしむる場合も同様である。

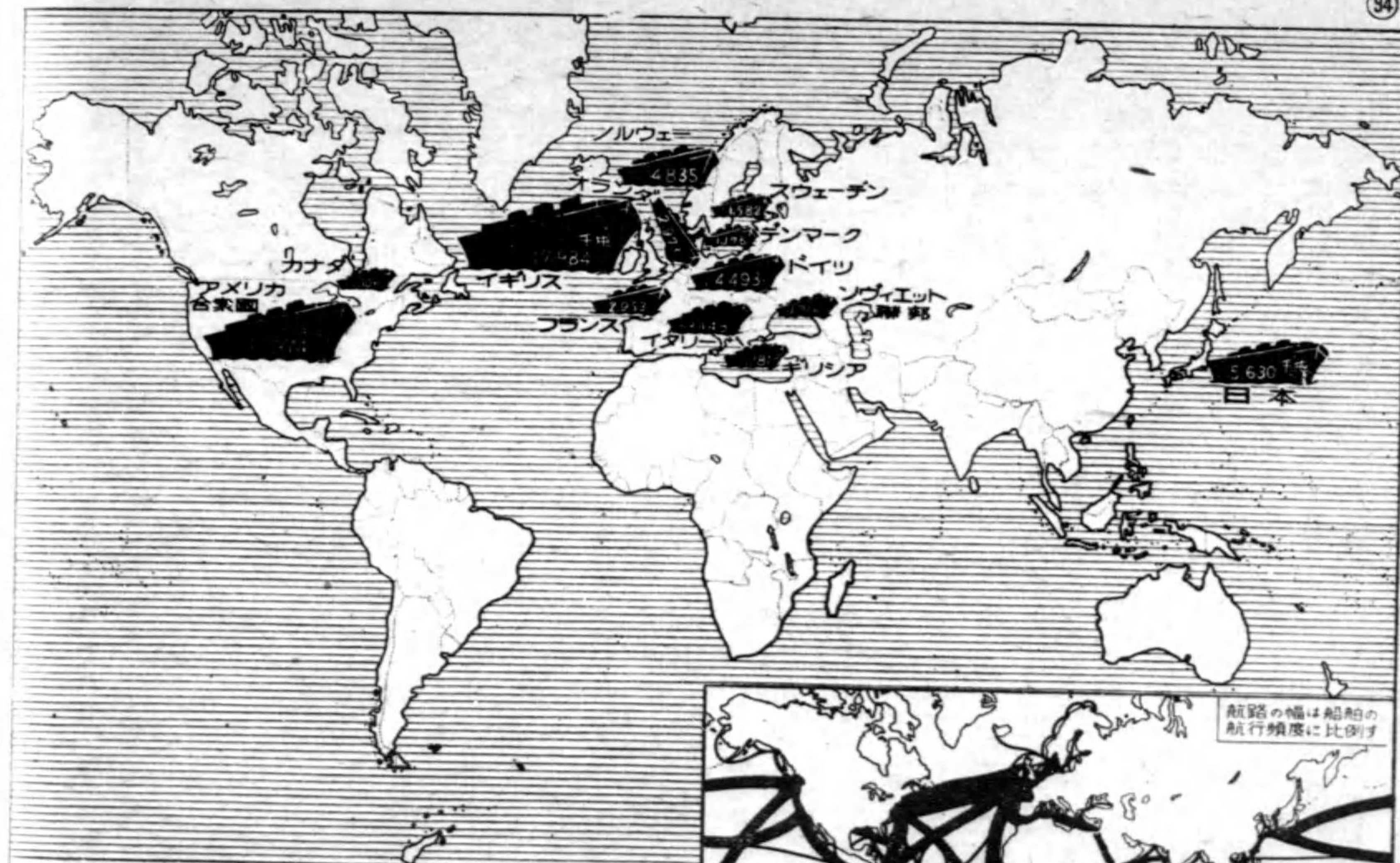
要するに電氣は現代世界人類の生活必需資源であつて、初めは専ら通信源及び光源であつたが次に動力源となり、最近は一轉して熱源としてアルミニウム・鐵鑛等の冶金精鍊に缺くべからざるものとなり、また肥料製造の如き化學工業に於ける利用が盛となつた。

世界の發電力

工業殊に近代工業たる大工業は高度文化の發達と因果關係に立つ。故に世界に於ける今日の工業の分布はまた少數の文化國か或は文化の交流ある地方である。而して大工業は常に大量生産を目標とし大量生産はまた多數の工務者を必要とする。こゝに於て國民總數に對する工務者の割合はその國に於ける工業の進否を卜する標準となる。世界諸國の國民中工務者の割合の最も多き地方は北西歐洲諸國と米國であつて、何れも三割以上を占めてゐる。米國は全體としては約三割であるが東部地方は四割以上に及ぶ。國民の二割以上が工務者である國は中南歐諸國・ブラジル・チリ・南阿等の一部と我が國であつて、我が國は全體としては二割以上なれども近畿・關東地區の如く三割以上に達する地域が少くない。

世界の工業





世界海運地圖

(1939年各國汽船總噸數)

世界主要航路圖

世界の海運

地表の三分の二は海洋である。陸上に住む人類はその相互間の交通に於て初めは陸運のみによつたが、人類の文化が更に進み交通が大規模になると、陸運よりは海運の方が便となる。これは陸運が平面及び立體的地形に阻害せらるゝことの多きに對して、海運は常に水平面に行はれ且つ地形上の支障が遙かに少いからである。

現在は世界に於て所謂七つの海と稱せらるゝ航路がある。その王座を占めるものは大西洋航路であつてリネットゲンスによれば世界海上交通の七割七分はこゝで行はれ、年に一千萬噸以上の貨物集散の行はれる世界の大港三十一の中、二十四まではこの沿岸にある。これは大西洋が兩岸に現代最高の文化地域を有してゐるからであつて、時には大西洋に「第二十世紀の地中海」の名すら與へてゐる。就中西歐と北米東部とを結ぶ北大西洋航路のみで世界海上交通量の五割以上を占め、こゝに世界最大最速の汽船が走つてゐる。

この北大西洋航路に對し歐洲と中・南米とを連絡するのに南大西洋航路がある。兩地方の産物を交換し移民を輸送する重大な役割を果してゐる。大西洋の交通に比してその量は遙に劣るが亞・歐連絡の幹線をなすがスエズルートであつて、西歐の諸港からスエズ運河・インド洋を経て東亞または濠洲の港に至るものである。太平洋は世界の大洋の中で現在最も交通量が少い。それは太平洋が廣大であるのに周圍の諸國家間の關係が未だ經濟的に十分發達してゐないことによる。太平洋の航路中、最も重要なのは東亞と北米西岸とを結ぶ北太平洋航路で、我が國が常にその先頭に立つてゐる。このほか北米・濠洲間の南太平洋航路、東亞・濠洲間を結ぶもの等がある。

各海洋に於ける交通量の多寡は直ちに夫々の海洋に接する國々の船舶數に聯關する。この兩者は互に因となり果となるものである。現今(一九三九年)世界に於ける大汽船の數は二萬九千八百隻、六千八百五十一萬噸である。その中三百萬噸以上を有する大海運國は英・米・日・諾・獨・伊の六ヶ國であるが、これ等諸國の船舶につき第一次世界大戦前と今日の大戦前の噸數増減比較並に世界に於ける割合の變化を示せば左の如くである。

| 一九一四年乃至一九三九年比較 (百單位増減率) | 英國 | 米國 | 日本 | ノルウェー | ドイツ | イタリア |
|----------------------------|--------|-------------|-------|--------|--------|--------|
| 世界の百分割合 | 四一・六 | 四・五海上三・八 | 四・三 | 一一・三 | 三・一 | 三・一 |
| 一九一四年 | 二六・一 | 一三・〇(海上)八・二 | 七・一 | 六・五 | 四・三 | 三・一 |
| 一九三九年 | (一)五・三 | (十二)五 | (十二)九 | (十一)四七 | (一)二・七 | (十一)三九 |

これによれば近年の増加率の最も大なるは我が國なれども、米國の船舶中湖上を除ける海上のみの船舶を觀ればその増加率は三三・九であつて、これに今次の戦争により他國船の攝收を加へればその増加率は非常に大となる。これに反して英國は平時さへ既に船舶減少に傾きしに、今次の大戦に於てその所有船舶は少くとも半減したと考へられる。